

として寺觀宏大であつたが、菊池氏滅亡して大友氏の代となるや、屢々兵燹に罹り衰頽した。墓域に開山大方恢墓並に菊池武光の墓があり、寺の南側には同武政墓がある。また寺の南方築地井戸には菊池能運墓が存する。尙寺の東南三〇米互には菊池五山の一なる東福寺あり、門前に菊池武重墓がある。

【菊池則隆墓】隈府町の南、菊池村深川にある。菊池氏の祖藤原則隆の墓で巨椀の下にある。則隆が延久二年この地に下向して以來の居館址で、後の菊池十八外城の一なる菊池址はこの東にある。この東半軒に北宮阿蘇神社あり、凍瓶玉命を祀る。菊池武朝の創建で、後の征西將軍宮良成親王御使用と云ふ軍配扇等の寶物がある。

【水島臺古戰場】隈府町の西四軒、砦村砦にある。菊池城西面の天險で天授元年、今川貞世了俊大軍を以て來攻したが、菊池武朝年齒僅に十數歳、この城に據りて邀へ打ちてこれを撃破し、了俊をして肥前方面に退却せしめた古戰場である。

熊本城歌

四面皆賊簇如雲
滿目今日眞火國
破裂丸飛烈焰迸
忽令萬雷發自地
六十日間無虛日
軍糧如山亦盡
雖力未殫色欲榮
都督大兵知在近
城兵募地出擊賊
嗚呼日本國中已無城
守城者誰谷干城

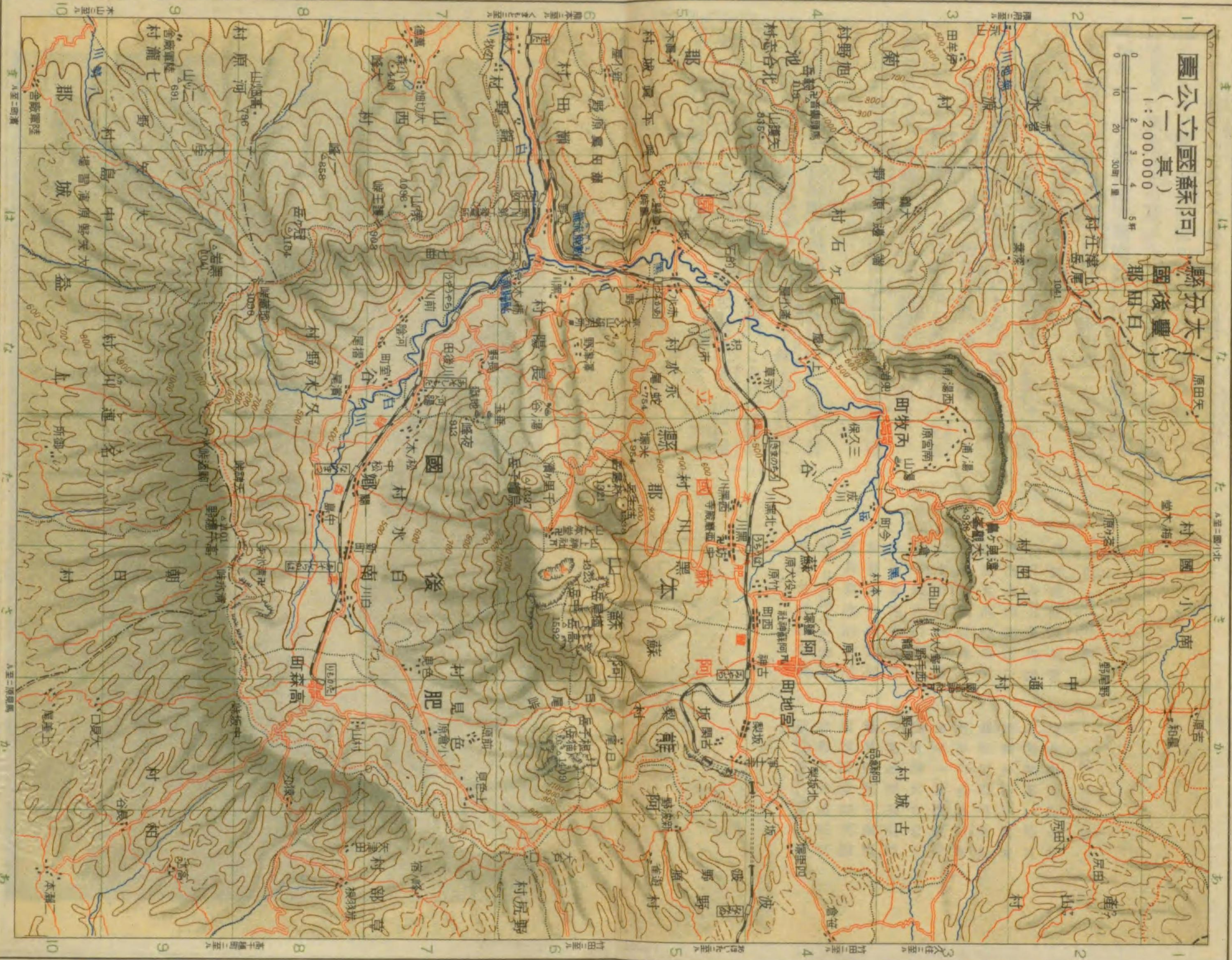
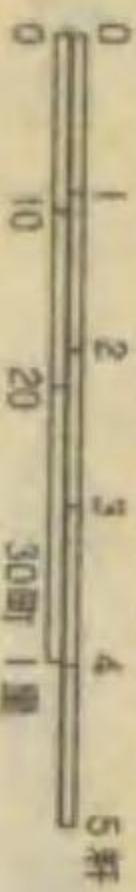
僧五岳

城在雲中紛々分
市廓村落一時焚
賊將心居泰山安
雲梯笑渠學魯般
火牛何必待田單
攻守一日幾艱難
頼有我兵力未殫
千竈絕煙兵氣酸
吶喊聲隔一山聞
賊軍敗走如倒瀾
唯有此城遮賊氛
築城者是當年鬼將軍

阿蘇國立公園

(其一)

1:200,000



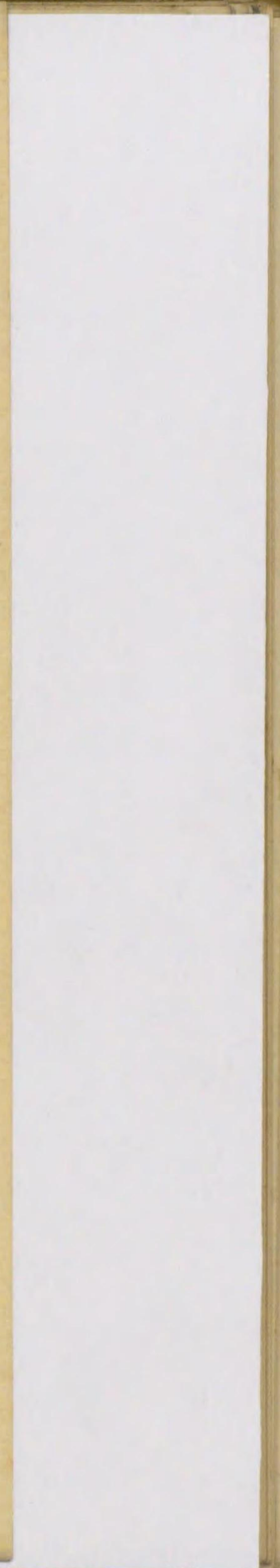
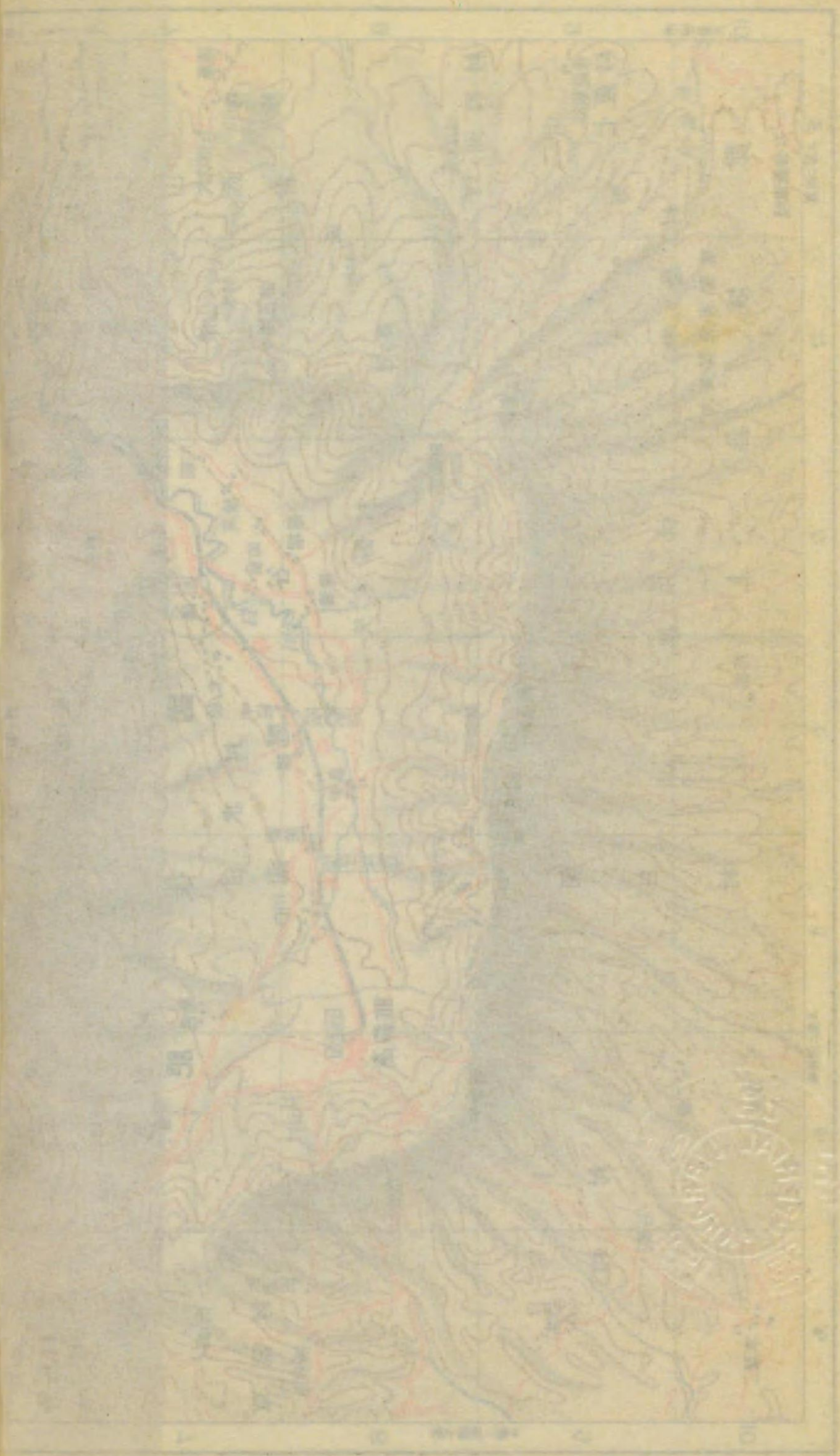
Vertical coordinates (top): 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10

Horizontal coordinates (right): 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10

Vertical coordinates (bottom): 10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1

Horizontal coordinates (left): 10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1

阿 蘇 山



大觀峯之牧温泉

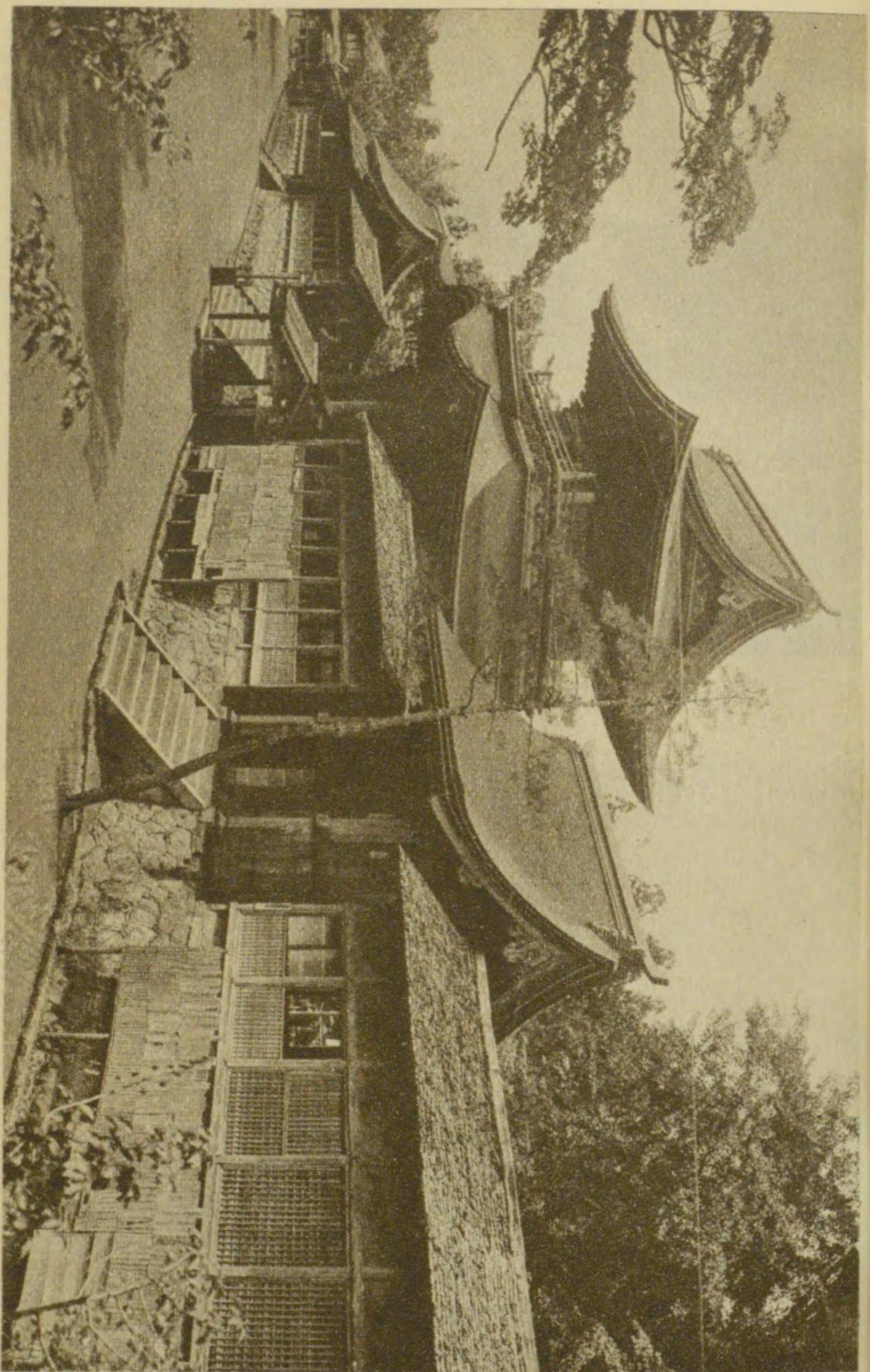


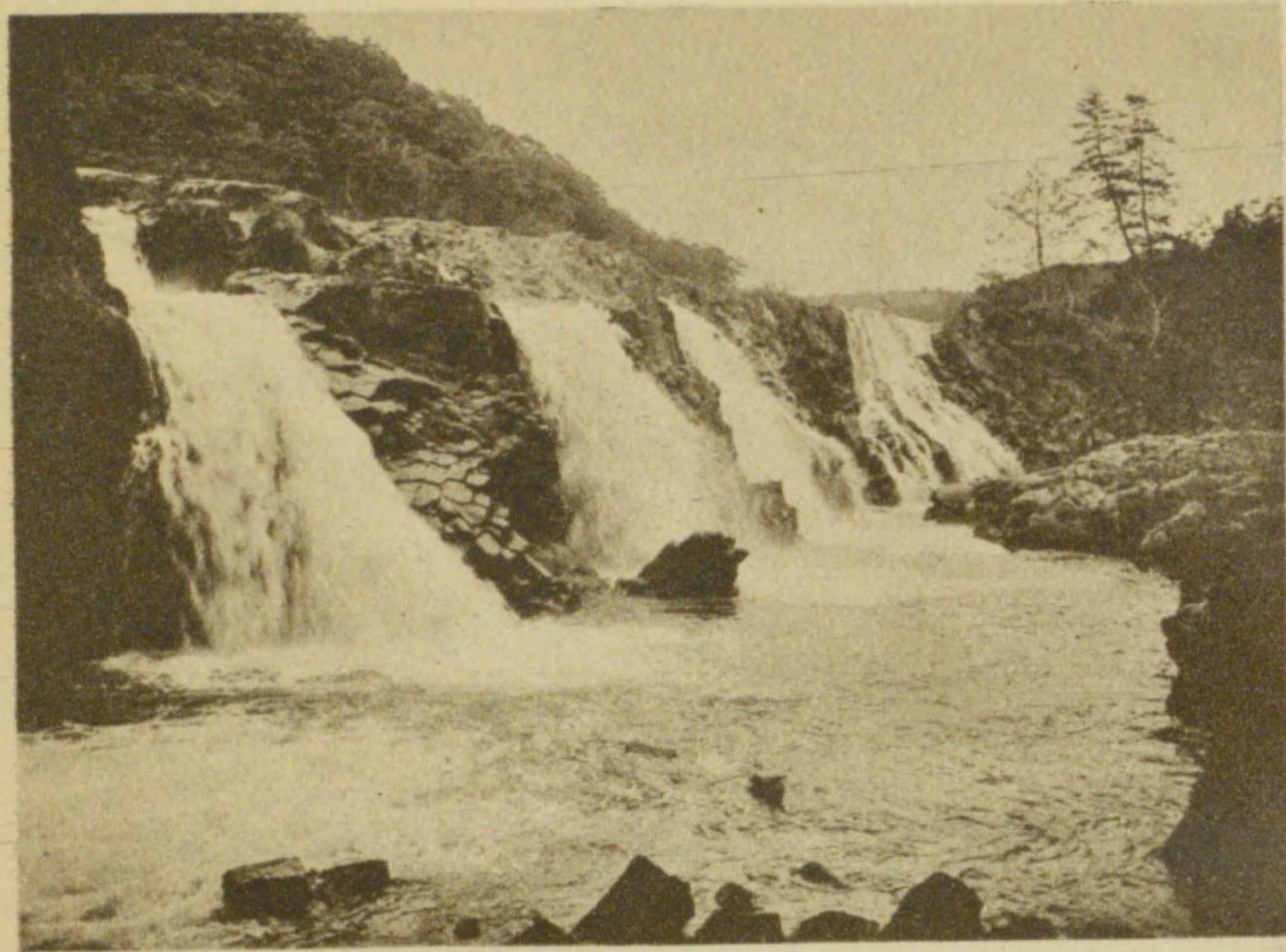


泉 温 立 杖

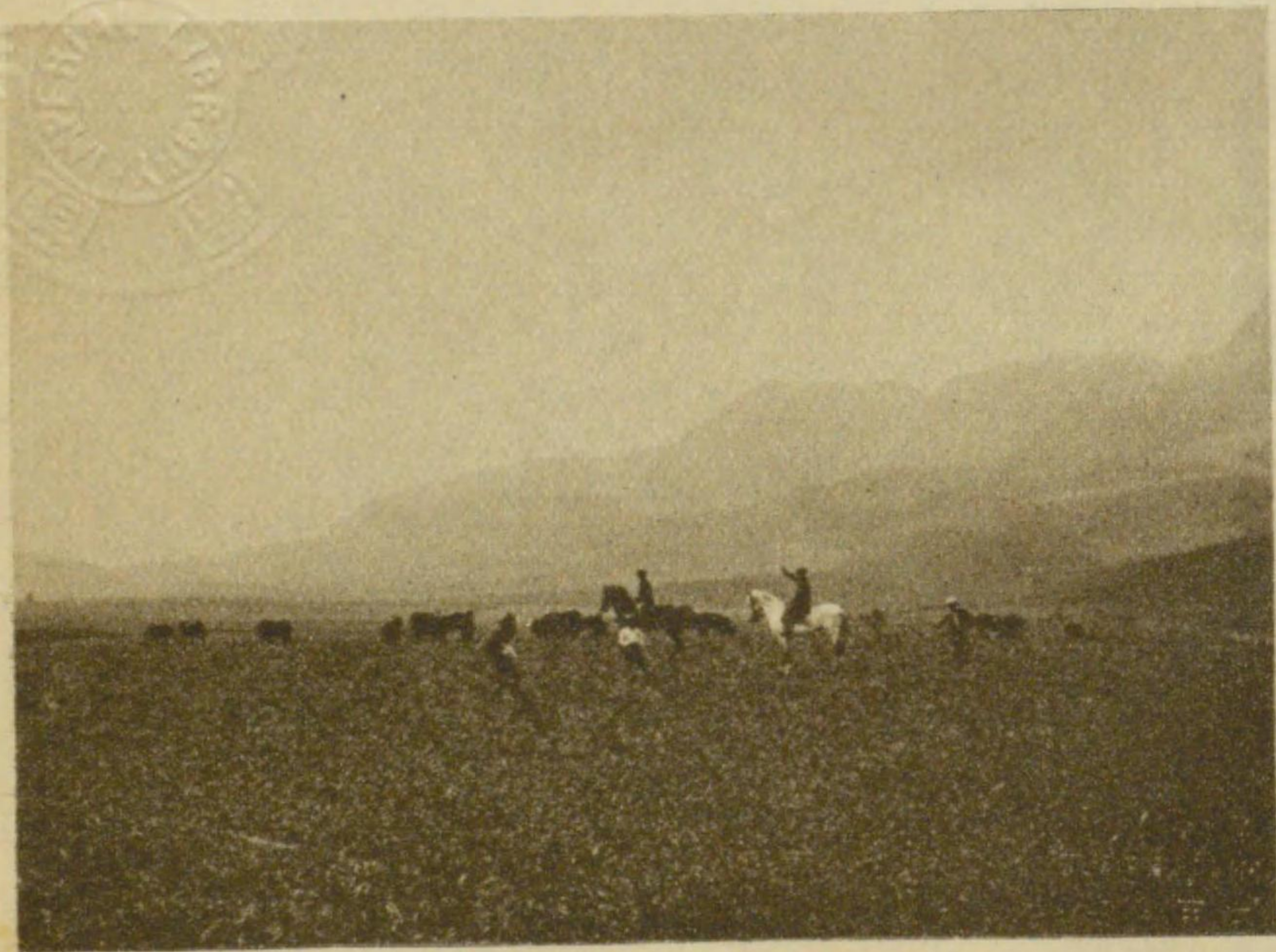


阿蘇神社

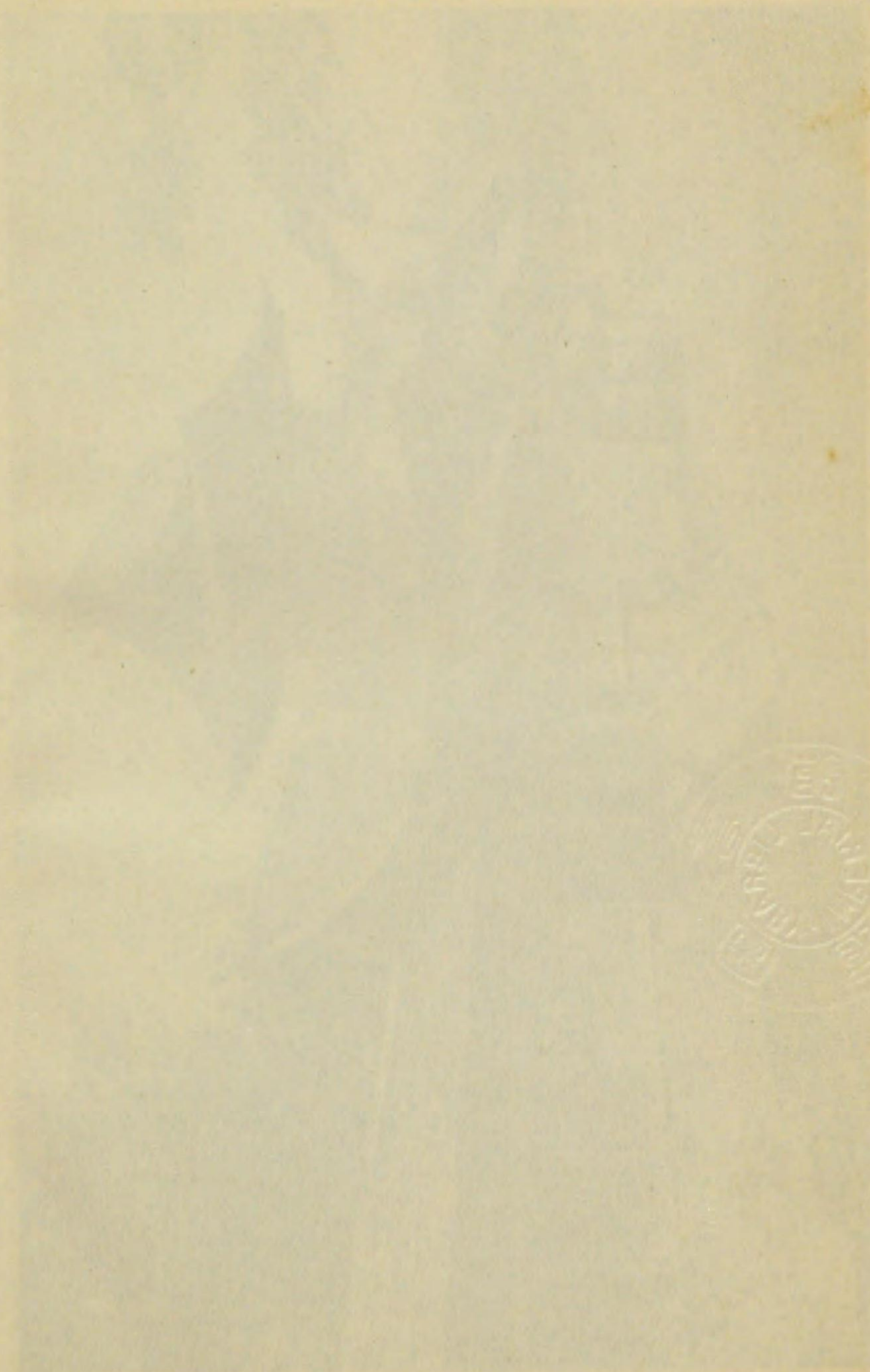




魚住雄流



久住山



熊本 大分間

九州横断の第二線熊本大分間の豊肥線は熊本を出て間もなく東北に向ひ熊延鐵道(春竹甲佐間)接續驛春竹三軒六、水前寺二軒二、龍田口三軒一等を經、白川の流域に沿うて東進し三里木六軒九、原水三軒一、肥後大津三軒七、瀬田四軒六を過ぎ立野五軒一でスイッチチバツクして阿蘇火口壁を乗越え、阿蘇谷の大平原を横断して東進する。

【足手荒神】春竹驛乗換、熊延鐵道六嘉驛の北約一軒半、上益城郡六嘉村下六嘉にある。舊御船城主甲斐宗運並にその嫡子宗玄を祀り、手足の神と稱して毎月朔日、十五日には參詣者が多い。

【井寺古墳】〔指定史蹟〕 同熊延鐵道六嘉驛の北三軒、上益城郡六嘉村井寺にある。井寺村落東方の低い丘陵の端に造られた圓墳で、石室は千金甲乙號に似たる大いさで高三米三〇糎(約十一尺)ある。阿蘇熔岩の大小の切石を巧妙に組んで構築せられ、底面は正方形で

上部に到るに従ひて持送り、整然たる穹窿を構成し、頂部には内面を楕圓形に削り抜いた天井石を置いて居る。また壁面は全面を朱塗にして石の間隙には漆喰を填充して居る。壁の四周には灰熔岩の板石を以て造られた高さ八四糎の槲壁を繞らし、奥、左、右の槲壁面には朱、青緑、白三色を以て彩つた直弧紋を主體とする紋様が線彫されて居る。而して各々の直弧紋の間に、は豎に二箇連續する車輪形紋が刻され、境に梯子形の紋様が刻されて居るが、直弧紋は白色を地色として朱色を帶狀に彩出し、主要の刻線は青綠色を以て填めて居る。車輪紋は車輪以外の地を朱塗とし、上下の輪を連ねる縦線の帯を白色で彩り、車輪周囲のダンダラと梯子形とは、三色を交互に彩り別けて居る。槲壁の地紋以外の部分は朱塗として居る。この槲壁圖象は幔幕を張り廻らした狀を摸したものと稱せられて居る。また槲壁は羨道の兩側にも存し、この面にも直弧紋及梯子紋が刻されて居る。朱塗は石室及通路の全面に互り、營造當時は三色の配彩室内を照したるものあつたと思

はれる。墳丘の外部から埴輪圓筒破片が採集され、また玄室内からは曾て古く劍、鏡等が出土したことが傳へられて居る。

【麻生原の金木犀】 「指定天然記念物」 熊延鐵道下早川驛の西南約二軒、上益城郡乙女村麻生原宇居屋敷觀音堂境内にある。目通幹圍約二米八、地上約三米半の高さに於て三支幹に分れ、枝條四方に擴り、樹勢が盛で、金木犀の巨樹として有數のものである。

【通潤橋】 同熊延鐵道御船驛の東三〇軒、上益城郡白絲村にある。笹原川の上流聖瀧附近から分水し白絲村に引く用水路の途中で、轟川を渡る爲に架した水路橋で、布田保之助が嘉永五年に起工し、安政元年竣工したもので、その灌漑面積九〇ヘクタールに及び、その完成により飲料水にも事缺いた矢部郷民は大いに恩恵を被つた。用水不要の期には兩側の栓を抜いて轟川へ排水する爲二條の飛瀑となり、甚だ壯觀である。

【妙見谷】 同熊延鐵道邊田見驛の西南約二〇米、御船町南口の縣道に吉野櫻が植ゑられ、長さ約五〇〇米に互

る。附近一帶は行樂の地であるのみならず、西南役の戰場で、薩軍死者の墓がある。

【七瀧】 同邊田見驛の東南八軒、上益城郡七瀧村にあり、自動車の便がある。落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段になつて居るから七級瀧とも云ふ。瀑上に辨財天を祀る小祠がある。

【水越鍾乳洞】 同熊延鐵道淺井驛の東約一二軒、上益城郡水越村五ヶ瀬にある。甲佐岳の東麓水越川の上流五ヶ所川と合流するところに位し、洞内延長約八軒、その本幹をなすものは約三三米に及び、三米以上の石筍が隨所に密垂して居る。洞内に口之院、百萬塔、佛石、親子地藏、靈妙院之名筒、靈妙門、中の院の逆針、御替門、風神旗、萬丈山仙人の杖、萬丈山天狗岩等の名がある。

【甲佐築場】 同熊延鐵道甲佐驛の東南約二軒、緑川にあり、自動車の便がある。慶長十二年加藤清正河川改修の際これを設備した。この川筋第一の幽邃境と稱され、夏季は鮎が漁獲される。

【小松神社】 同甲佐驛の東北約二〇軒、上益城郡白絲村内大臣山の八合目にあり、營林署のトロに便乗の便がある。元暦元年平家の一門と共に遁れ來つたと傳ふる平維盛を祀り、紅葉の名所である。

【拂川鍾乳洞】 熊延鐵道佐保驛の西南約四軒、下益城郡年禰村椿にある。長さ約二〇米、支洞が多く、洞上に不動を祀る小祠がある。

【靈臺橋】 熊延鐵道砥用驛の東二〇軒、東砥用、西砥用兩村界の緑川に架する石橋で、長さ二四米半、幅五米半、高さ二八米半、嘉永元年の竣工、この附近に多い石造拱橋中最大のものである。當時稀有の大工事で現今の架橋技術より見るも、その技巧に驚くべきものがある。

【横井小楠墓】 水前寺驛の東約六軒、上益城郡秋津村沼山津木山街道の側にあり、自動車の便がある。小楠は文化六年熊本に生れ沼山津に私塾を開き、實學を唱へ實踐躬行の學風を起した。維新後新政府に入つたが明治二年東京に暗殺された。昭和三年正三位を贈らる。

【宮本武藏墓】 龍田口驛の東北三軒半、龍田村弓削にあり、舊參觀街道の杉並木の並ぶ大津街道の傍に、玉石垣を廻らした裡に新免武藏居士之墓と題する墓碑がそれである。藩公江戸參觀の盛儀を草葉蔭から拜しよるとの武藏生前の希望によつてこゝに葬つたと云ふ。武藏、姓は新免、宮本は母方の姓で播磨の産、劍術二天流(二刀流)創始者で、寛永十七年熊本に來り、細川忠利の眷遇を受けたが、正保二年五月歿した。武藏また畫を海北友雪に學び一家を成した。

【黒石原ゴルフコース】 三里木驛の西北約二軒、合志村黒石原にあり、九ホール三〇七〇ヤード、フラットコースである。

立野驛 熊本縣菊池郡瀨田町立野

▽高森線 立野高森間 一七軒七

【月下溫泉】 (二三圖は6) 立野驛の東三軒半、自動車の便がある。白川と緑川の合流點で、溪流に臨む猫額地であるが閑寂の境である、白河對岸の北向山の大密林は原生林で、野猿の蕃殖を保護する爲禁獵區となつ

て居る。温泉は石膏泉で、上流の栃木から曳湯して居る。胃腸病、リウマチス、婦人病、酒精中毒等に効くと云ふ。旅館 碧翠樓。

【栃木温泉】(一三圖は6) 立野驛の東五軒、高森線長陽驛からは北二軒、共に自動車の便がある。白川に臨んだ翠巒四周の猫額地、客舎崖によつて建てられ、溪聲を枕下に聞く幽境である。附近に鮎歸りの瀧と目覺の瀧の勝がある。温泉は觀音湯は含鐵明礬泉、平湯は石膏泉、熱湯は鹽類泉、新湯は石膏泉で、リウマチス、濕疹、神経痛、婦人病等に効き、熱湯はことに腦病に効くと云ふ。旅館 小山、荒牧。

【垂玉温泉】(一三圖は7) 高森線長陽驛の東北六軒、自動車の便がある。阿蘇登山道栃木口の中途にあたり、海拔六七米、眼界濶く、栃木、戸下を俯瞰し、後には夜の峯が聳えて居る。含鐵酸性泉の新湯と、石膏泉の油湯とあり、神経痛、リウマチス、胃腸病、神経衰弱、腦病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 山口。

【地獄温泉】(一三圖は7) 夜峯の中腹にあり、垂玉温泉住、右窓に祖母の雄姿が眼近に望まれる。これより尙東進し豊後萩六軒、玉來九軒七を通れば東北に折れて間もなく豊後竹田三軒一に至る。

【火山研究所】(一三圖は6) 赤水驛の東南五軒、阿蘇郡長陽村黒川にある。阿蘇山上觀測所と共に、京都帝國大學理學部に屬して居る。

【湯の谷温泉】(一三圖は6) 赤水驛の東南七軒、栃木温泉からは約五軒、阿蘇五岳の一なる烏帽子岳の中腹海拔七〇米の高處にあり、肥後肥前の山河一眸の下に萃る。温泉は酸性明礬綠礬泉で雀地獄から引いた熱泉である。リウマチス、貧血症、胃腸病、腦病などに効くと云ふ。地獄附近には大小の噴氣孔、蜂の巢の如く散在して居る。夏期は温泉講堂が設けられ、講習會が開かれる。京都帝國大學の火山研究所も近くにある。旅館 長生館。

から坂一つ越えたところである。海拔七〇米、展望更に潤く、白川の流が飽託の平野を縫うて有明海に入る様も見え、更に海を隔て、雲仙岳の雲表に聳ゆる姿が望まれる。温泉は含鐵酸性泉の本湯と明礬泉の新湯とあり、共に熱泉で皮膚病、腦病に特効あり、婦人病、貧血症、胃腸病などに効くと云ふ。旅館 清風莊。

【數鹿流瀧】(一三圖は6) 立野驛の東北四軒、阿蘇谷の水を集めて下る黒川が外輪山を破るところに懸つて居る。高さ六〇米、幅約二七米、肥後第一の瀑布と稱され、老樹鬱蒼、怪岩削立、水煙濺として昇り、萬雷一時に轟くかと疑はれた。今は源流を水力電氣に利用され、往年の名残を留めるに過ぎない。

立野を出て東進すれば阿蘇山火口原に入り、赤水七軒九、内之牧六軒二、坊中三軒五、宮地三軒五の諸驛を過ぐる間絶えず阿蘇の雄姿を望み、坂の上トンネル(三三三米)を潜つて阿蘇外輪山を超える。波野一〇軒七、瀧水四軒九を経て熊本縣から大分縣に進めば左窓に久校になつて居る。元和年間毀たれたが、細川氏參觀交替の際第一日の宿泊所であつた。構内に杉並木の一部が存し、大手門は校門になつて居る。二の丸、三の丸址も存し、濠址が残つて居る。

【内牧温泉】(一三圖は3) 内牧町にあり、内牧及坊中驛から自動車の便がある。雄大なる阿蘇五岳及屏風なす外輪山一帯が望まれる。温泉は炭酸含有アルカリ泉で、町營浴場もあり、胃腸病、腺病、リウマチス、婦人病などに効くと云ふ。五岳觀望の勝地として近年喧傳せらるゝ大觀峯―遠見ヶ鼻はこゝから近い。旅館 阿蘇ホテル、西帯屋、龜ノ井、米屋外十數軒。

【遠見ヶ鼻(大觀峯)】(一三圖は3) 内牧驛の北一五軒途中まで自動車の便がある。阿蘇外輪山の一峯で、火口原と中央火口、高岳、根子岳を大觀するに最もよき地點で、一面久住山の連峯も望まれ、眺觀雄大なる展望臺である。

【満願寺】「眞言宗」内牧驛の北三四軒、南小國村字満願寺にあり、途中まで自動車の便がある、北條時頼の

弟時定の孫修理之亮定宗が龜山天皇の勅宣を奉じて文永十一年建立したものである。開山は山城醍醐寺の僧正經果和尚。後村上天皇の正平十一年には永世の祈願寺たる繪旨を賜はり、貴重な寶物が多い。

【満願寺温泉】 (二四圖ま4) 同南小國村満願寺にあり、久住山の裾野にあたつて居る。温泉は筑後川の水源志賀瀬川の支流志津川の沿岸に湧出し、大湯、上等湯、河端湯、寺の湯に分れて居る。大湯、上等湯はアルカリ泉、河端湯、寺の湯は硫黄泉で、胃腸病、腺病、皮膚病などに効くと云ふ。附近金比羅山の金比羅杉は根廻り二五米、樹高二八米の巨樹である。旅館 あらた屋、大平屋外數軒。

【田の原温泉】 (二四圖は3) 同南小國村田の原にあり、鹽類泉でリウマチス、濕疹、婦人病などに効くと云ふ。附近に夫婦瀧、男瀧、七瀧の勝がある。旅館 鶴屋、高光屋外數軒。

【黒川温泉】 (一四圖は4) 同南小國村にあり、自動車下車後徒歩八軒、海拔約三〇〇米、九重山麓にある高山にて携へて居た竹杖を立てたところ、その節々から倒に枝葉を生じたと云ふ傳説から杖立の名を負うたと傳へて居る。

今もその弘法大師の入湯したと云ふ薬師湯があり、舊藩時代には細川家の御前湯の設もあつた。温泉は食鹽泉で温度六三度乃至九〇度、リウマチス、貧血症、花柳病、腺病、創傷などに効くと云ひ、蒸湯は腦病に特效があると云ふ。附近には白糸の瀧、湯見岳の八間岩、觀音岩などの勝がある。旅館 肥前屋本支店、千代館、田代屋、若松屋、泉屋、かねいし外數軒。

坊中驛 熊本縣阿蘇郡黒川村黒川
▽乗合自動車 阿蘇山上行
【西巖殿寺】 (天台宗) 坊中驛の南約五〇〇米、阿蘇郡黒川村坊中にある。

當寺の創建は詳かでないが、古く十一面觀音像を阿蘇大神の本地佛として阿蘇山上に創建されたのであるが、天正年間戰亂のため殆んど絶滅した。後に加藤肥後守入國して山麓の今の地に移して再興したのが現存

温泉で薬師湯、穴湯、うたせ湯、蒸湯などがある。鹽類性硫黄泉で骨膜炎に特效ありと云ひ、創傷、胃腸病などにも効くと云ふ。旅館 新明館、御客屋外數軒。
【下の城の公孫樹】 (指定天然記念物) 同北小國村下の城字坂の下にある。目通幹圍約九米六、幹の基部から多數の蘗が發生し、枝條四方に擴がり、公孫樹の巨樹として有數のものである。

【阿彌陀杉】 (指定天然記念物) 同北小國村黒淵字本村にある。目通幹圍約一〇米七、地上約三米六の高處から西方に一大横枝を出だし、樹高約三八米、枝張外縁の全周圍約二〇米に及び、樹勢旺盛、杉の巨樹として代表的のものである。

【杖立温泉】 (二四圖や1) 内牧驛の北約四二軒、久大線日田驛からは二四軒、共に自動車の便がある。筑後川の上流、肥後豊後の國境近く、杖立川の深い溪谷の峽地を占めた幽邃境で、光仁天皇の御代弘法大師がこの地を巡錫の折この温泉の靈驗をたゞへ、薬師如來の尊像を刻みて雲泉寺を建て、安置し、弘誓の標とし

西巖殿寺の起原である。

現存の本殿はもと山上に残つて居たのを、明治四年山上からこの地に移したもので、本尊十一面觀音像を安置して居る。三間九面四注造妻入、朱塗の建築で、木割頗る雄大、桃山時代の特徴を存して居る。

寶物

- 一 懷良親王御筆佛舍利御奉納添狀 (國寶) 一卷
- 一 紙本墨書、見返には金粉散地に松樹草花の水墨畫がある。この文書には天授元年十一月の日附と花押があり、その文によると親王は正平十四年九月八日に京都泉涌寺長老景雲から奉納獻せられた佛舍利分散一粒を阿蘇社に奉納されたものと思はれる。
- 一 後奈良天皇宸筆般若心經 (國寶) 一卷
- 一 紺紙金泥、卷末に「肥後國」とある。尙從三位惟豐添狀が一通附屬して居る。
- 一 經箱 一個
- 一 木製、金銅板張、鍍金々具嵌裝、室町時代

【阿蘇國立公園】 (二三圖・二四圖) 熊本、大分の二縣に跨り、主要部は阿蘇山で、その東北にある久住山、九重山、大船山、黒岳、平治岳、三俣山、黒岩山、泉水山、獵師岳、一目山、涌蓋山等の地方を含み、西南部は大

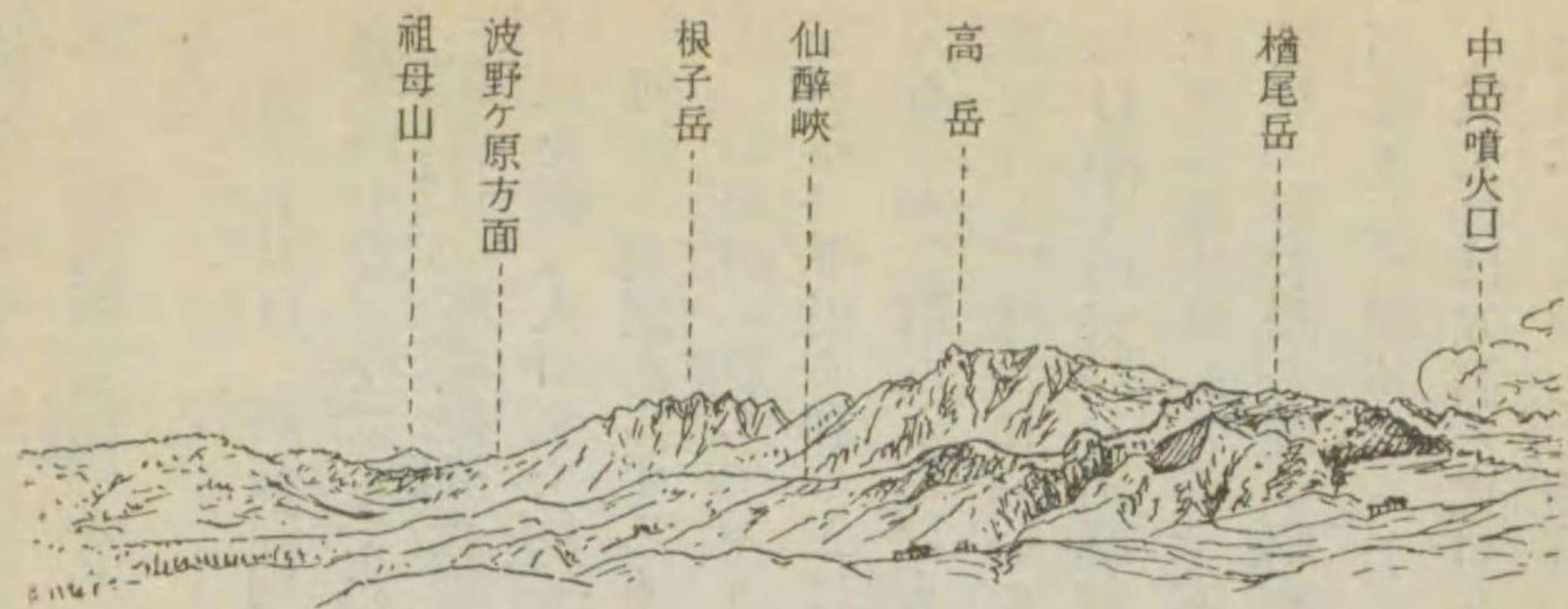
鞍岳



(一)(む望を面方口火噴らか所望展一第)山蘇阿

大きく、東北部は小さく、これを連ねる部分は極めて狭い。この公園は湖沼の大きなものなく、海に遠い欠点はあるが、九州島の最高峰もあり、世界に名高い大噴火口もあり、諸處に温泉が湧出して幸ある將來を有つて居る。交通は西南部に便利で、東北部はこれに劣つて居る。
【阿蘇山の火口】火口は山の頂にあつて南北に稍長楕圓形をなし、内牧附近

及根子岳噴起の局部は特に彎入して不規則を呈して居る。立野から坂梨の南方に達する東西直徑凡そ一六料、また大矢峠から遠見鼻に至る南北直徑二三料で、世界第一の大火口と稱するも過言ではないと稱され、面積實に二、五方料に及び、箱根火山の火口の五倍に近い。参考のため世界の有名な火口の直徑を左に列挙する。
グマング、テンゲル(ジャワ) 二〇料
ラギ、ヂ、ボルセナ(イタリヤ) 一六料
キラウエア(ハワイ) 一五料
マウナ、ロア(同) 一二料
グマング、ロアン(ジャワ) 一〇料
【阿蘇山】(二三圖さ6) 阿蘇山は雲仙岳と共に既に國立公園として指定された名勝地である。我が國に於ける活火山中特に著名なものでその規模の大きな點に於て世界に知られて居る。舊噴火口は南北長徑二三料に及んで居た。現在では大火口原となつて宮地坊中附近の平原は沃野になつて居るが、その外壁は外輪山と



(二)(む望を面方口火噴らか所望展一第)山蘇阿

なつてこれを圍繞して居る。
現在の阿蘇山は高岳(二五九三米)最も高く、中岳、烏帽子岳、杵島岳、往生岳等が聳え、その東に稍離れて根子岳(二、四九米)が孤立して居る。これ等の諸峯を圍繞して周圍六〇料に及び、外輪山が大阿蘇火山の往時の大規模を偲ばせて居る。
普通阿蘇登山は中岳西側にある阿蘇噴火口を見て引返すので中岳頂上や高岳に

登頂するのは特殊な人に限られ、極めて稀である。登山路は數口あるが最も便利なのは豊肥線坊中驛から省線連絡のバスが噴火口下の本堂まで一五料の間通じて居り、約五十分で美しい裾野を迂迴し乍ら展望を樂しみつゝ登つて仕舞ふので、阿蘇登山者の約九割はこのコースに依つて居る。交通の至便は全くこの坊中登山口に登山者を集中して仕舞つた。自動車路の開通後登山者は激増して以前は一年數萬人に過ぎなかつたが、近年は二十萬人に達すると云ふ。
宮地口 豊肥線宮地驛から噴火口まで約一〇料徒歩に依る、谷徳坊、タラタラ水、石室を経て行く、二時間半乃至三時間行程、宮地には官幣大社阿蘇神社があり、以前はこゝは表登山口として賑つた處である。
立野口 豊肥線立野驛から戸下温泉を経て栃木温泉まで自動車、戸下から直接湯の谷温泉を経て登るもよく、この間徒歩または馬にて約二時間半、湯の谷は阿蘇山中腹の山の湯で展望の優れた處である。湯の谷から約一時間で草千里に達する。そこから本堂まで四十

分程度である。栃木温泉からも同様湯の谷温泉を経て登る。高森線長陽驛からは栃木まで二軒自動車五分である。

阿蘇下田口 高森線阿蘇下田驛から地獄温泉まで自動車四十分、垂玉温泉を経て本堂まで約二時間半行程。高森口 高森線高森驛から色見、クリカラ不動、砂

千里を経て火口まで約一五軒、三時間行程である。

何れの登路からするも山麓帯から草千里附近までは美しい裾野の緑のスロープの連続で、概ね放牧地であるから、牛馬の和やかに草を追ふ牧歌的風景に富んで居る。本堂附近からは火山灰と熔岩礫の灰褐色の山肌を表して僅かに「いたどり」を見る位である。本堂は自動車の終點で阿蘇神社の本堂と數軒の休憩小屋、土産品賣店等がある。本堂からは火口まで約二十分の登り、熔岩礫の間に昭和八年二月大噴火の際の火山彈が點々して居る。

噴火口は五箇の火口からなつて居るが、大體二つの火口が最も著しく物凄しい火口壁を聳立して居る。舟形

なつて居る。西には熊本の平野から遠く島原半島の雲仙、多良等の山々が望まれる。

【根子岳(二、三三米)】根子岳は阿蘇山群の中最も東に雄大な山姿を聳え、特異な相を現す雄峰である。優美な裾野を曳くに反して、山頂は百二十餘の岩のピークが鋸齒狀に亂立して岩峰を峙て、居るのは壯觀であり、登高心をそよつて居る。九州の山岳の中で岩登りの興味を求めようとするには、この根子岳を除いては他に求むることが出来ない。岩質は熔岩であるから相當注意を要し、全山の縦走には試練と經驗が必要である。

根子岳は阿蘇五岳の中烏帽子岳に次ぎ第二番目に最東端に於て外輪山の障壁を破つて噴出し、その後の浸蝕作用に依つて、現在の如く錯雜せる山形をなしたものである。

噴火口は原型を止めず、僅かに鋭き瘡尾根となつて居る。その構成する岩質は、集塊岩及熔岩の累層である。

登路は豊肥本線宮地驛から山頂まで約八軒、宮地か

に長く南北二、三〇〇米、東西四五米、深さ二〇米、周廻四軒に及び、標高一、三三米である。目下第一、第二が旺に活動して居る、第一火口は直徑六〇米、深さ二、三〇米の圓形で熱泥が沸騰して居る。第二火口には瓦斯と水蒸氣を數孔から噴出し、火山灰をも噴いて居る。時

に猛烈な活動に依り壯觀を呈することもあるが、平常は比較的靜穩で案外噴煙の少い時もあり、黒煙天を蔽ふ壯觀を見ることは常に期待することは出来ない。第三の火口は鍋狀をなして淺く休止して居る。第四第五も數年前まで噴煙を上げて居たが、現在は休止して仕舞つて、第四には青緑色の温湯を湛へて居る。

これ等の噴火口を抱く中岳の頂上は、東方絶壁の上

に三角錐に聳える。標高一、五〇〇米の岩尾根である。これに登り、更に高岳へ登れば眞の阿蘇登山である。山頂からは東に根子岳の奇峯を近く望み、やゝ東南に祖母山、傾山を望み、東北には九州第一の高峯である久住連峯が雄大な山容を聳ゆる。北には宮地、坊中附近の火口原の沃野を瞰下して外輪山が指呼の間に連

ら高森へ通ずる日尾峠を南へ、高岳と根子岳との間にある峠路を辿る、この間はどこまでも緑草の美しい裾野で一帯が放牧地である。驛から曲松まで約四軒、尙一軒でケンタン小屋がある。この間は肥後特有の堀割道で、馬の足跡で階段狀をなして居る美しい高原であるのに展望が思ふ様に出来ない。ケンタン小屋から潤澤を渡ると櫻茶屋がある。この附近から阿蘇谷と高岳の展望が勝れて根子岳の岩のピークは間近に迫つて来る。櫻茶屋から約半軒に百ヶ小屋跡があり、附近に

清冽な天然井戸が二つある。展望の良いキヤムブサイドである。尙石道を登ると高岳の岩壁が草尾根の間に鋭く覗いて居る。巨大な石のある處が追分で、そこから左根子岳登山道となつて居る。この附近から次第に登りは急になつて鏡岩を経てブツシユや灌木林、石河の小徑を登る。天狗岳直下に鐵鎖があり斷崖絶壁が赤褐色に、或は紫暗色に奇を競うて壯觀である。不動の岩小屋を経て東側の急崖を鎖で登ると天狗の東北頂上で、灌木の茂る中央に根子岳神社の石祠がある。

頂上は極めて狭く、僅か十數方米に過ぎない。東へ走る尾根はその南側と北側とを削り落して瘠尾根をなし、西へ走る尾根は全く個々獨立した岩峯を聳立し、嫁の平から地藏岩まで亂立の岩峯は物凄く奇觀を呈して居る。

この天狗から西尾根の峯傳ひは、相當經驗あるクライマーの道場であり、天狗の西壁では必ずザイルが必要である。

山頂からの展望は高岳と大差はない。根子岳の景觀は、展望よりも山自體の姿態とその特異性にあると云へる。

植物は阿蘇の他の山が草原と熔岩とのみであるのに根子岳は美しき衣をまとひ稍々その種類も多い、「ななかまど」、「おほやまれんげ」、「楓類」、「のりの木」、「つゝじ」、特に「ひかげつゝじ」の頃には美しい、また、「さんかよう」の群落があり、「いはかがみ」、「まひづる草」、「きりしまがりやす」等の珍種も見られる。

田植神事がある。

寶物

- 一 絲卷太刀 銘初代長光 〔國寶〕 一口
- 鞘金梨地に九曜文及鶴文金蔴繪。
- 社傳細川忠利奉納
- 一 牡丹造短刀 無銘 〔國寶〕 一口
- 銀造、全長一尺八寸二分、身平造直刃、柄、鞘口、鞘尻を金銅
- 牡丹唐草の浮彫を以て精巧な裝飾を施して居る。
- 社傳菊池武光寄進
- 一 登玉太刀 〔國寶〕 〔宮司阿蘇男爵家藏〕 一口
- 長約三尺五寸、柄に「永仁五年三月一日來國俊」の銘がある。
- 南朝の忠臣阿蘇惟澄その子惟武の用ゐるものと云ふ。
- 一 蜀紅錦 〔宮司阿蘇男爵家藏〕 一枚
- 整約六尺幅約四尺五寸、大なる松樹の下に壽老人及白鹿を織
- 出して居る。明太祖より懷良親王に贈りしものと云ふ。

【中通村古墳群】 阿蘇神社より西北三料の水田中に累累と存する。前方後圓形及圓形等の封土で鞍掛塚、長目塚、勝負塚、手塚、車塚等主要のもの九個を算へ、他に陪塚の如きものもある。長目塚は頗る長大な柄鏡型古墳で、葺石、埴輪圓筒破片あり、規模雄大森嚴である。この古墳群から更に東北三料の古城村手野にあ

【阿蘇神社】 〔官幣大社〕 (一三圖さ4) 宮地驛の北約一料阿蘇郡宮地町にあり、自動車の便がある。

當社の祭神健甞龍命は神武天皇の皇孫に當り、九州中部鎮護の思召を以て阿蘇の地を開拓し、草部吉見神の女阿蘇都比咩命を娶つてこの地に住み給ひ、孝靈天皇の御代に祭神の御子速瓶玉命に敕して大神を祀らせ給うた。これ當社創立の起原である。爾來歷朝の崇敬厚く、肥後國の一宮にして延喜の制に於ては名神大社に列して居る。尙當社には主神阿蘇大明神健甞龍命の外に阿蘇都比咩命及國造速瓶玉命以下十二神を奉祀して居るので、古來これを「十二の宮」と總稱して居る。

當社の祭祀は古來祭神の裔孫阿蘇氏の掌る所にして今日に及んで居る。

現今の社殿は天保より嘉永に亘り肥後藩の造營にかかるもので、第一第二及諸神社の三神殿、祓殿及樓門等を具備して居る。

例祭は七月二十八日、官祭後引續き壯嚴な古式の御

る縣社國造神社(北宮)は式内社で境内に指定天然記念物の杉老樹存し、神社の西上御倉には石室の開口したる古墳あり、内部二室連續し、奥室には刳拔石棺が安置せられて居る。阿蘇神社々務所には、長目塚から出た埴登高坏、手野出土の直刀、轡、車塚出土の管玉等がある。

【手野の大杉】 〔指定天然記念物〕 宮地驛の北約四料、阿蘇郡古城村手野、縣社國造神社境内にあり、社殿前面の廣場の東隅に立つて居る。根廻り約一四米、目通り約一米、高さ約四七米、樹勢壯大である。

古來手野の神杉と稱し、陰陽二株の大杉があつたが、一は文政年間火災の爲に枯れた。本樹より二五米ばかり隔てた北方にその舊株の痕を存し、その近くに目通り約二米半の杉があり、その傍に天保二年に建てた植杉碑がある。碑面には「神杉」と題し、裏に「御郡大目付中村莊右衛門植之」とあり、舊株から生じた蘂を植ゑたものだと云ふ。

【中川神社】 玉來驛下車、直入郡玉來町にある。竹田

城主中川清秀及秀成を合祀して居る。社寶の鐘は純西洋式のもので、高さ約八一糎、口径六六糎あり、胴部に十字架を、口縁に近く HOSPITAL SANTIAGO 1613 の文字を鑄出して居る。恐らく當時長崎に建てられた耶蘇教病院に使用されたもので、それが中川氏の手を経て當社に奉納されたものと思はれる。今、國寶に指定されて居る。

豊後竹田驛

大分縣直入郡豊岡村會々

▽乗合自動車 長湯行、久住行

竹田町

(二圖なり)

豊後竹田驛所在地岡豊村と隣接す、中川氏の舊城下で、山川風光に富み、避暑地として知られて居る。畫家田能村竹田、直入、軍人廣瀨武夫はこの地に生れた。人口五千。

【廣瀨中佐の銅像】 豊後竹田驛の西南約一軒、竹田町山下公園にある。廣瀨中佐名は武夫、竹田町に生れ、明治三十七年三月旅順港封鎖の際、壯烈な戦死を遂げ軍神と稱された。同町竹田字向丁の地に中佐を祭神とする縣社廣瀨神社が創建せられる豫定で造営工事中である。

清涼窟と呼ばれ、咫尺の間に雌瀑が落下して居る。

【久住山諸温泉】 久住山の山麓、久住、飯田兩高原地方には温泉及鑛泉が諸處に湧出して居る。久住方面には肥後阿蘇郡の満願寺、田の原、黒川、奴留湯、岐の湯があり、豊後直入郡の法華院、七里田、長湯等があり、飯田方面には筋湯、星生、笠の口、寶泉寺湯、寒の地獄などがあり、國立公園施設の發展につれて幸ある將來を有して居る。

【長湯温泉】 (二圖なり) 豊後竹田驛の北一六軒、久大線小野屋驛からは西南二〇軒、共に自動車の便がある。久住山の東麓、久住高原の裾野に位し、高原氣分の漲るところ、久住、阿蘇、祖母三山鼎立の壯觀が望まれる。温泉は含鐵炭酸泉で御前湯、藥師湯、長生湯、不老湯、天滿湯などあり、長湯川の川筋一面至るところ温泉の湧出を見る。胃腸病、神經系諸病、リウマチス、腺病などに効くと云ふ。小野屋への途中には蛇生瀨の溪谷の奇勝がある。旅館 大丸、丸善、萬屋、紺屋、泉屋外十數軒。

ある。

公園は一名常盤公園と稱し、元祿十一年藩主中川久道の開いた別墅で、舊時は山下茶屋と云つた。

【岡城址(竹田城址)】 豊後竹田驛の東二軒、直入郡竹田町の東郊にある。大野川に圍繞せられた頗る要害の丘阜でその形狀から臥牛城とも呼ばれ、石壘が遺存して居る。古く文治元年緒方三郎惟榮こゝに堡を築きたることあり、建武中大友氏の一族志賀貞朝、故壘を修めて居城したが、文祿二年十一月中川修理太夫秀成播磨三木より移封し、翌三年三月入城して修理を加へ、明治維新に至つた。明治十年役に薩軍がこゝに據つた事がある。城址からは阿蘇、久住、祖母、三山鼎立の様が望見せられ、眺觀雄大である。

【魚住の瀧】 豊後竹田驛の南約一軒半、竹田町を流れる大野川にあり、自動車の便がある。瀧は雌雄二瀑相連つて高さ一八米以上、幅一四米に及び、頗る壯觀である。魚住橋から望むのは雄瀑である。橋を渡り、流れに沿うて溯ると、清水の湧出する一大岩窟があつて

久住山

(二四圖)

久住山は大分縣の西南、熊本縣境

近くに聳ゆる九州本土第一の高峯で、所謂久住山群にある久住山(二七六米)、大船山(二七七米)を始めとして九重山(二七四米)、三俣山(二七五米)、平治岳(二六三米)、黒岳(二五五米)等多くの群峯からなり、由布岳や鶴見岳などと同様に塊狀火山であるが、岩質は遙かに礫基性で複輝石安山岩である。

山頂には二個の火山湖があり、その他地獄や舊火口を存し、また硫黄山の大硫氣孔は、その孔口に硫黄の大きな鑛床を形成して、久住硫黄鑛山の採掘場となつて居る。

山頂附近には高山植物も相當豊富で「こけもゝ」等は近畿以西ではこの山に見るのみであり。山頂から千里濱一帶に群落がある、深山きりしま甚だ多く、九州の高山特に火山性の山岳に多く見られるが、久住山、大船山に最も多く、その美觀は雲仙岳より遙かに優れて居る。また十二月から一月にかけての霧氷は頗る壯觀であり、山腹帯も紅葉美に富んで居る。

熊本大分間

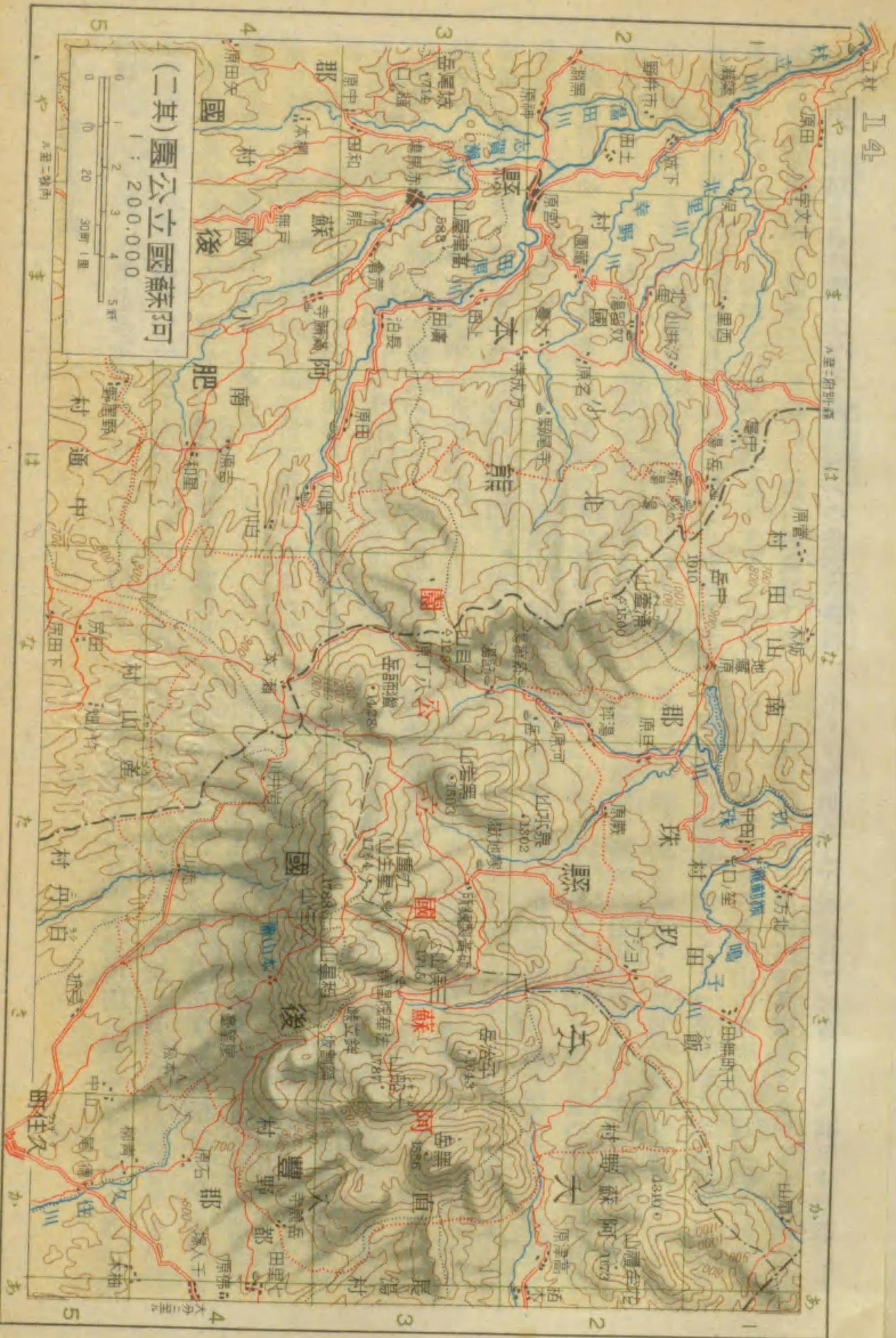
山麓は雄大な裾野帯をなして、久住高原や飯田高原は九州に於ける高原として最も著名である。その他山麓帯や山頂に多くの温泉が散在して居るし、到る處キヤムピングに適し、冬期は十二月から二月下旬までスキーに適して居る。山頂附近は九州に於ける積雪期の最も長い處である。登山路は豊肥本線や久大線側から登れるが大體豊肥本線豊後竹田驛から久住町を経て登るが最も便利である。

豊後竹田驛から久住町まで一二料、自動車がある。久住町には久住郵便局長工藤氏方に九州山岳會の事務所があり、便宜を圖つて居る。久住町を發足地として凡そ三つの登山路がある。即ち東登山道、本山登山道、南登山道である、何れよりするも大體同様であるが、最近は南登山道に依るものは僅少である。

本山登山道は最も普通に選ばれる登山路で、久住町から種畜場までは自動車がある。こゝから頂上まで約七料、百米毎に指導標がある。種畜場から右へ大きな道を下り、導標を目當てに清流を渡り、東北に草原の

小徑を本山の森林を仰いで進む。この附近から所謂久住高原で放牧の牛が草を追ふ大陸的な氣分が溢れて居る。刈込んだ様な短い小笹と草原の丘を登ると六角堂の展望臺に出る、久住高原の草原が盡きるあたりに本山麓がある。こゝまで約二時間尙そこから森林帯の急坂となり、ぶなや水楡などの森林が美しく、木蔭道で他の登山路より日光の直射を避けられる。本山登山道入口から約三料で森林が盡きて、霧島つゝじの群落を過ぎ、「いはかがみ」やその他の高山植物の草本帯となつて稻星山と久住山の鞍部に出る、そこから賽の河原の石室に出て、石室から御池、空池を廻つて頂上に達する。久住町から約四時間乃至五時間行程である。

東登山口は山頂附近にある井華院温泉への道に依るもので久住町から約一二料である。久住町から長湯街道に沿うて途中まで長湯温泉への自動車に依ることが出来る、また貸切なら久住町から約三料納ヶ池公園まで行ける。納ヶ池公園からしばらく松林を行くと久住高原に出る。久住高原を凡そ三料程西北へ横斷すれば



七里田、石原からの道と合して鍋割峠への急坂の森林帯を登る。峠へ登り切ると一寸降つた處に佐渡窪の平地がある。こゝから尙鉾立の峠へ急なジツクザツクを登る。この附近から「つゝじ」が多い。この峠から凡そ一軒半降ると法華院温泉である。温泉までは久住町から馬も行くので、足弱な入湯客は多く駄馬に依る。法華院温泉から久住頂上までは温泉の裏の谷を三十分計りで北千里に登り、スガモリを右に硫黄山の噴出を見て急坂を登り切ると、空池の西側に出て、頂上に達する。温泉から約一時間半行程である。

別途久大線湯平驛から法華院へのコースは湯平驛から湯平温泉を経て、雪深峠から千町無田に降り、鳴子川に沿うて登るので約二四軒であるが、全部駄馬に依ることも出来る。飯田高原を馬の背に依つて高原の展望を味ひ乍ら登るのは興味が深い。

湯平温泉からしばらく登ると、飯田高原の一端に出る。廣い緑の丘陵が続き、一帯は放牧地で、西北に小田野池、山下池、立不池等がある。附近は積雪期はス

キーの適地として知られて居る。この高原を横断して雪深峠に出ると千町無田の高原にある村落と田圃が擴がる。この附近から久住山の全容が間近に望まれる。千町無田の畔道を過ぎてまた高原帯に入るとよしぶの淋しい一軒、二軒點在する部落、こゝで道を右にとれば寒の地獄を経て久住山に登る道が岐れる。法華院へはそこから、平治岳と三俣山との谷合の鳴子川に沿うて森林帯を登る。南平治岳から流れ出る二三の溪流を渡つて三俣岳、平治岳、大船山、久住山を廻らす湯原の平地坊ヶつるに出る。これを縦断すると山の湯法華院温泉である。

久住山頂からの展望は雄大で、南は眼下に久住高原を俯瞰して、祖母山と相對し、稍西南に根子岳から阿蘇山の噴煙を望み、西遙かに雲仙岳が望まれる、北は飯田高原から日田方面の山地を望み、東北に由布岳や鶴見岳を望み、東には大分市や、別府灣が一眸に入る。久住山は久住町から大抵一日で往復出来る。また湯平方面からも一日で久住方面へ降ることも出来るが少

し忙しい。法華院温泉へ一泊するが良い。

法華院温泉は海拔二、三〇三米、久住山と大船山、三俣山等を繞らした坊ヶつるの高原帯にあつて、九州第一の高所にある温泉として一仙郷を劃して居る。久住連山を探るに最も良い根據地で、連峯何の峯へも大抵二三時間で山頂に達することが出来る。山中で不便であるから設備は充分でないが、山の湯として静寂郷で盛夏尙鶯の聲を聞く處、露天風呂から大船山が眺められる。

こゝから久住第二の高峯大船山頂上まで三軒半、約一時間半行程である。山頂附近には標式的な舊火口があり、山頂直下に大船の御池がある。この一帯六月中旬「つゝじ」の開花期には甚だ美觀を呈し、なだらかな斜面全體が紫紅色の衣をまとうて美觀を呈する。その間に放牧の牛が閑に草を追ふ有様は、牧歌的な風趣である。

法華院を中心として附近一帯は九州に於ける最も好キヤムブ地に恵まれた處で、春から秋にかけてキヤム

山岳に見ることの出来ない特色を持つて居る。九州に於ては比較的登山者の少い取残された山であるが、近年漸くこの方向にも興味をそゝがれて居る。石楠花等の群落を見るのもこの山の特色である。

登山路として豊肥本線豊後竹田驛からと、高森線高森驛から五ヶ所に出て登る二途が最も普通である。

豊後竹田驛から出合まで自動車がある。出合から神原を経て頂上まで約一二軒、約五時間行程である。神原から道は稍急峻であるが、近來道路も改修されて、迷路はない。途中所どころ清冽な溪流があるが、三合目から八合目までは最も急坂で甘露水まで水がない。八合目を國見峠と云ひ展望が展けて居る。津留方面からの登山路や、宮砥からの登山路は何れもこの國見峠で合ふ。こゝから頂上までは灌木地帯で頂上近くに御手洗の水がある。頂上は三〇方米許りの平地をなし、三つの大きな石祠があり、一等三角標がある。

高森驛からの登山路は高森から津留を経て五ヶ所まで二四軒の間自動車がある。五ヶ所から嶽部落、木材

パーの訪れも非常に多い。また冬季は積雪多く時に八〇厘に達し、一月から三月初旬までスキーに適し、積雪量の多いのとその期間の長いことゝ、附近到る處好斜面が多いので、九州唯一の好スキー地であるが、比較的交通が不便な爲に、特殊な愛好者以外未だ訪れるものは少いが將來ある處である。

【祖母山】(二圖な8) 祖母山は豊肥國境に互る雄峯で九州山脈に於ける主部をなすもので、東西に延び、東には尾平越から本谷山を経て傾山に連り、北に久住山、西に阿蘇山が聳え、共に九州山脈の王座を占むるものである。祖母山は標高一、七五米で、山容は他の火山性の山岳に比してその趣を異にして居る。九州の古い骨格である古生層地から突出した花崗岩質斑岩から成る純然たる褶曲山脈で、その特長を表し、山容複雑にして多分に原始的景觀を秘めて居る。

久住町方面や、久住山、阿蘇方面から望見すると、長い斜線を曳きその山頂は稍尖峯を見せ、一見平凡な山勢であるが、鬱蒼たる原始林に蔽はれ、九州の他の伐採所、國見峠を経て頂上まで一〇軒、約四時間行程である。神原及五ヶ所には各々旅館がある。五ヶ所からの登山路には餘り急峻はないが長い尾根道で、附近一帯は猪の獵場として知られて居る。秋は紅葉美の優れた處である。

頂上は標高一、七五米で、展望は流石に日、豊、肥の三國に跨る九州山脈の王座だけに、雄大な景觀をなして居る。阿蘇山の全貌や久住連山の展望は云ふまでもなく、日向側の大森林や溪谷、東九州から、中央九州、四國の山々まで望見することが出来る。山容頗る膨大で長大なる尾根を曳き、黒々とした鬱蒼たる原始林と五葉松や石楠花等の巨木のあるのは、九州としては最も大きな特色である。比較的登山者は少いが、將來人氣を集むる處であらう。これから傾山への縦走は、原始味豊かな興味ある山旅が味へる。

豊後竹田から尙東すれば朝地五軒九を経て、南に折れ緒方六軒四、牧口五軒一、三重町六軒五を通つて北に

向ふ。三重町から東方臼杵まで省営自動車白三線がある。菅尾五軒四を経て大野川を渡りその左岸に沿うて進み、犬飼七軒九、竹中五軒六、中判田五軒五、瀧尾六軒六を通ればやがて大分五軒一に入りて日豊本線に接する。

【神角寺】〔古義真言宗高野派〕 朝地驛の東北八軒、大野郡西大野村島田神角山頂上であり、途中まで自動車の便がある。欽明天皇の朝に新羅の一僧、神角山に堂宇を建てたと傳へ、聖寶阿闍梨中興し、寺境を拓いた。今の堂宇は應安年中大友氏の再興である。

本堂 〔國寶〕 方三間、單層、屋根寶形造、椽瓦葺で寺傳に應安二年境内の大樹を伐りて建造したと云ひ、構造様式よりもその頃の建立と思はれる。屋蓋四方の隅棟は何れも起りを有し、軒端に於ては寧ろ下方に向つて彎曲し、その形状恰かも洋傘を披いた様な形態を呈して居る。これは支那近代元明以降に見る手法で、我が國では廣く行はれなかつた様式をこの堂に留めて居るもので珍とするに足る。

られた五體は中央に藥師、阿彌陀二如來を置き、向つて右に十一面觀音、右端に多聞天を配し、左に千手觀音を作つて居る。多聞天を除く他の四像は方形の臺座上に坐し、何れも高さ約六尺である。四坐像共に光背に施された赤色顔料は近代に塗り直されたものと思はれるが、今その上に緑色の苔が美しく被覆して居る。多聞天立像は高浮彫を以て表はされ、高さ四尺六寸諸尊に比して小形で右手に反ある刀を持つて居る。彩色は殆んど見られない。この石佛は元町石佛等と同じく日羅の作と稱せられる。日羅は肥後葦北國造の子で百濟國に住し、敏達天皇十二年我が國に招致されたが、伴うて來た百濟人の爲めに殺害せられた人であると云ふ。實際の造像年代は日羅より遙か後代の平安中期の作品である。

【犬飼石佛】〔指定史蹟〕 犬飼驛の南四軒、大野郡犬飼町大字田原渡無瀬にある。大野川の西岸丘陵の中腹に凝灰岩の岩壁に不動明王坐像及脇侍の立像を半肉彫したもので、もと覆堂が設けられて居たため、柱受け

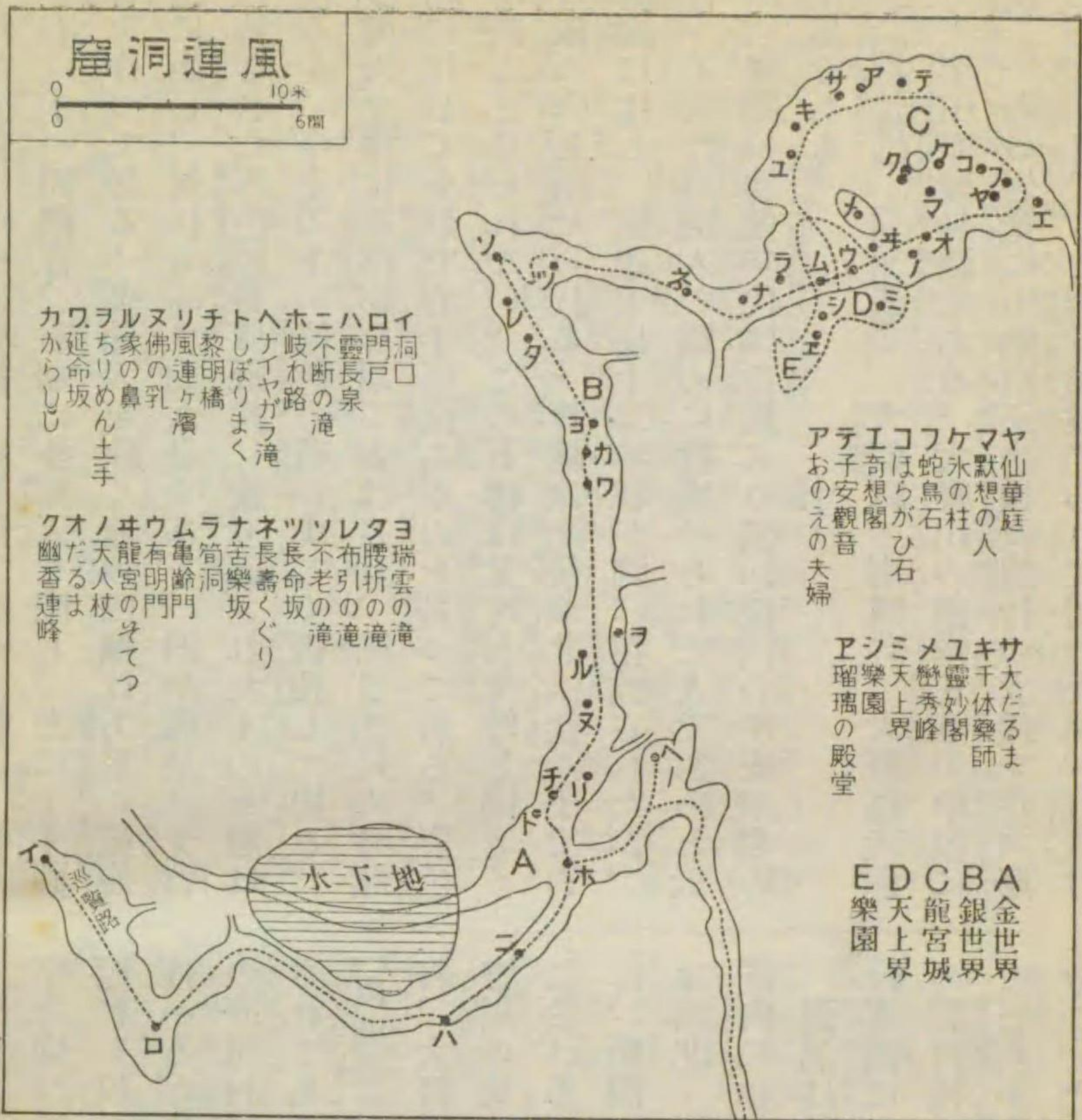
【南緒方宮迫石佛】〔指定史蹟〕 緒方驛の南約六軒、大野郡緒方村新、宮迫にある。緒方川に臨んだ宮迫臺地の南側にあり、凝灰岩の岩壁に佛、菩薩像を半肉彫したもので、東方の石佛群は大日如來坐像を中心し不動明王及菩薩並に仁王立像を左右に配し、また石壁に五輪塔形の浮彫あり、仁王及菩薩像は甚だしく破壊して居る。西方の石佛は藥師、彌陀、釋迦の三坐像を刻んだもので、よく保存せられ、傳彩を施した痕が残つて居る。何れも恐らく平安時代の作にかゝるものであらう。

【沈瀆瀑布】 牧口驛の北五軒餘、大野町を流れる大野川にある。雌雄二瀑に分かれ、一は高さ三〇米餘、幅約三米、一は高さ二七米餘、濶三〇米を超え、一大偉觀を呈する。

【菅尾石佛】〔指定史蹟〕 菅尾驛の北二軒、大野郡菅尾村淺瀨乙黒と呼ぶ大野川の東岸に臨んだ高い丘陵の中腹に西面し、前方に五間二面の椽瓦葺の覆堂あり、俗に岩權現と稱せられて居る。凝灰岩の岩壁に半肉彫せられた穴が石壁面に残つて居る。また後世遍照金剛の四文字と向つて左方に塔婆形とが線彫りされて居る。赤色顔料を以て傳彩を施した痕跡を存して居る。日羅作と傳へるが矢張り平安時代であらう。また驛の西南六軒の井田村長峯の街道傍の丘腹に大日如來の巨像が彫刻されてあるが、甚だしく破壊されて居る。

【風連鍾乳洞】〔指定天然記念物〕 犬飼驛の東南約一六軒、大野郡川登村字泊にあり、自動車の便がある。大野川の支流野津川の右岸附近國道を距る北半軒の溪谷に於ける石灰岩中に生じ、新舊二洞ある。舊洞は谷底に、新洞はそれより約二〇〇米高き山腹にあつて、兩者は西北―東南の方向に位し、その直線約二五〇米である。洞内には何れも電燈の設備がある。

舊洞は長さ四三〇米餘あつて洞底概して水平、洞内概ね廣潤にして鍾乳石、石筍、石柱その他石灰質沈澱物の發育極めて良好、また完全に保存され、この點に於て石灰洞としては稀に見るものである。洞内は三區に分つことが出来る。第一區金世界は洞窟内壁及石灰質



沈澱物淡褐色を呈し、鍾乳石多く發達し、佛の乳、象の鼻等は偉大なものである。洞の右側を縮緬土手と云ふ。第二區銀世界は洞内沈澱物の多くが白色を呈するのでこの名を與へられ、數多の石筍、鍾乳石及洞壁を被覆せる鍾乳石の群集があつて、からし、瑞雲の瀧、腰折の瀧、布引の瀧、不老の瀧と呼ばれるものがあり、瑞雲の瀧は高さ約九米、幅五米餘である。また數十箇の泥羅漢即ち泥筍がある。洞窟の急に狭くなれる處を長壽のくぐりと云ひ、その右方高さ約四米の梯子を上れば、泥筍の最もよく發達せる泥筍臺に達する。梯子を下つて左折すれば、幾多の石筍の發育せる筍門を通過し、急坂を攀ち上り、龜齡門、有明門を潜つて第三區龍宮城に到る。龍宮城は規模宏大、沈澱物の壯麗豊富なる點に於て他の追隨を許さない。洞門廣さ九メートルを超

え、高さも一五米に達し、一大殿堂に入る感がある。主な沈澱物は幽香連峰、巒秀峰、龍宮の蘇鐵、豆石、天人の杖、達磨、子安觀音、千體藥師、靈妙閣、管狀鍾乳石、御川である。

新洞は長さ約八二米にして舊洞より甚だ短く、洞内の状態は異なるものが多い。洞口には山腹にある井狀の堅穴即ちポノールにして、口径は楕圓形を呈し、長徑一米半、短徑〇・六米、深さ一〇米である。梯子によつてこの堅穴を下れば、人待地蔵、千體藥師、鶴の嘴、火取門等の鍾乳石及石筍がある。それより東方に進み、登龍門を出ると廣瀾なる洞窟に達する。こゝに地軸、銀の大柱、藝術の神、抱合えびす、龍の頭、石蛇、瑞雲の瀧、鶴の嘴、北斗七星等がある。北斗七星はポノールで、古來墜落した猪、鹿、狸等の頭骨及四肢骨の一部を残し、いはゆる鬼の岩屋に保存されて居る。

【吉野の臥龍梅】 中判田驛の南約一〇軒、大分郡吉野村天満社境内にあり、自動車の便がある。樹齡七百餘

年、附近數十本の梅樹は一株より分れたものと稱し、老幹蜿蜒としてその狀恰も臥龍の如く、花時には觀客が多い。

【西寒多神社】 〔國幣中社〕 (二圖た) 瀧尾驛の西南五軒大分郡東植田村寒田にあり、自動車の便がある。西寒多神を祀り、相殿には月讀命以下十五柱の神を祀る。式内の名神大社で豊後國一の宮である。西寒多山を後に負ひ、前に御被川の溪流を控へ、老樹鬱蒼として居る。近年梅櫻の名所としても知られて來た。

例祭四月十五日。

熊本 水俣間

熊本から鹿児島本線を南下すればやがて白川を渡りて川尻五軒三を經、緑川を渡りて宇土五軒六に至る。宇土は三角線の分岐點である。

【大慈禪寺】(曹洞宗) 川尻驛の東南約二軒半、日吉村野田にあり、弘安年中寒巖禪師の開基になる禪院である。寺寶に後奈良天皇の御綸旨その他古文書を多く藏する。寒巖禪師は後鳥羽天皇第三の皇子幼にして叡山に上つて台教を學び、後道元禪師に従つて道を開き、入宋再度の後肥後に住し、弘安元年大慈寺を建立せられた。龜山上皇禪師の徳業を稱へて綸旨を下し、紫衣及宸翰を賜ひ官寺に列せしめらる。正安二年八十四歳にて遷化、境内に御墓あり、靈根塔と云つて居る。

宇土驛 熊本縣下益城郡守富村三十丁

▽三角線 宇土三角間 二五軒六

▽乗合自動車 熊延佐俣行(省營自動車佐俣線)

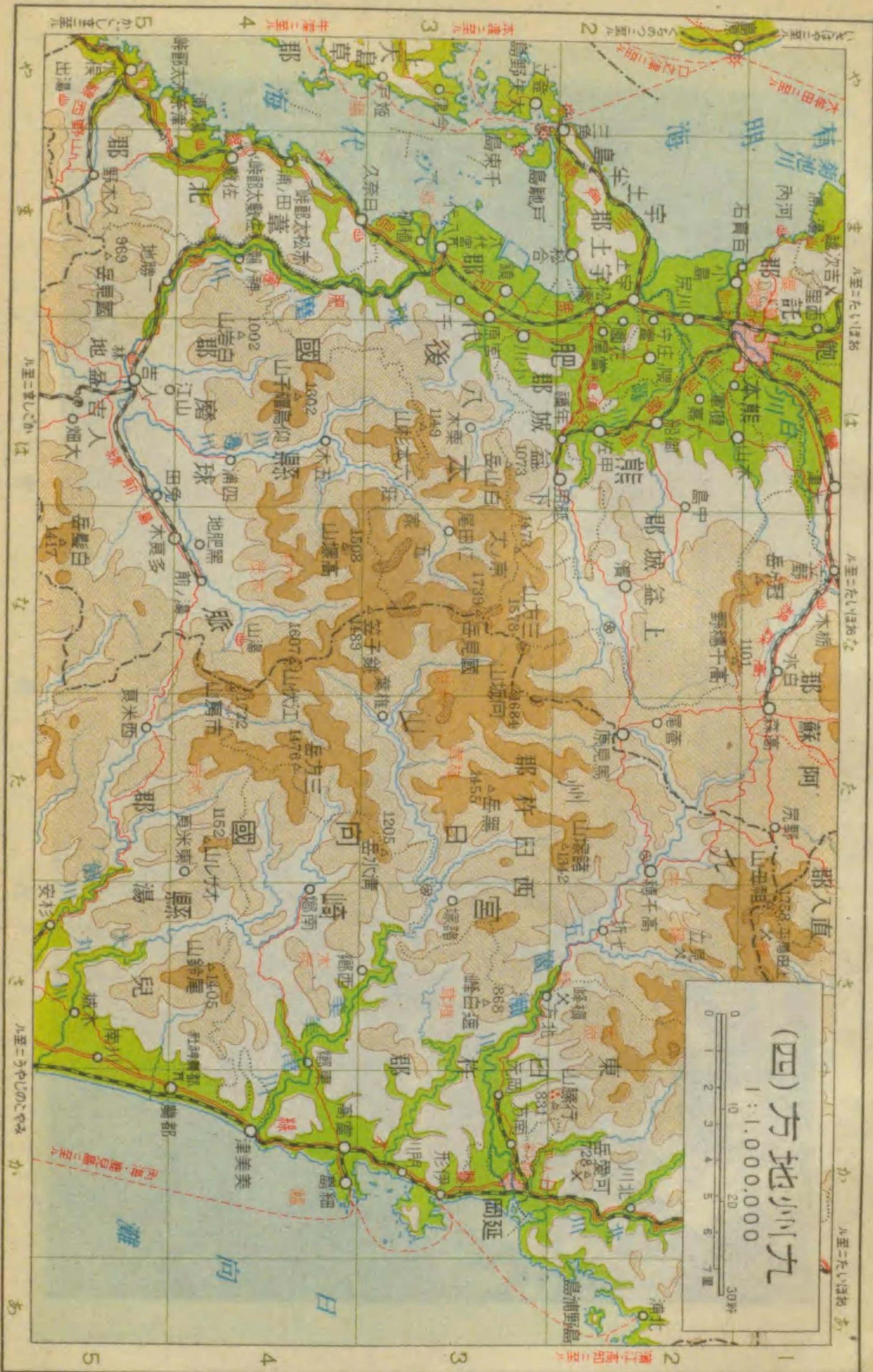
【宇土町】(一五圖まで) 宇土驛所在地。宇土半島の頸部

を占め、東西約三軒六、南北約三軒四、面積約二三ヘクタール、細川氏三萬石の分封地であつたところで、小西行長の城址を存し、熊本城の宇土櫓は、もとの地にあつた。産土神西岡神宮祭禮の獅子舞は世に名高く、舊曆七月二十四日の地藏祭に於ける造り物も見物である。人口五千。

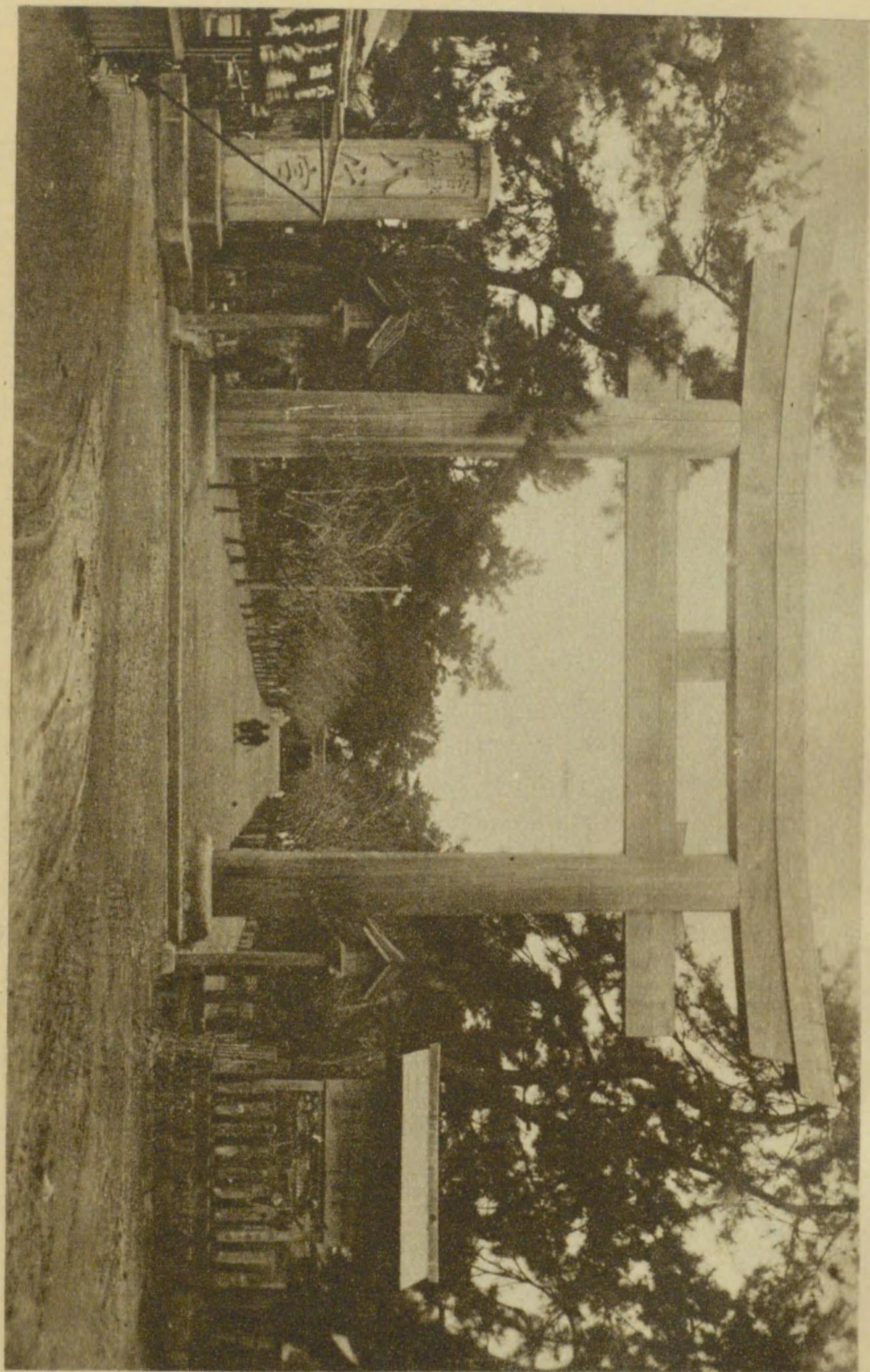
【六殿神社】 宇土驛の東北約一軒、下益城郡守富村字木原雁回山の麓にあり、自動車の便がある。

當社は治承年間小松内府重盛の創建と傳へ、祭神は健甕龍命で阿蘇宮の末社と云ふ。後建武年間には菊池武時、永正年間には宇土城主、また慶長年間には加藤清正等によつて社殿を再興された。現存本殿は江戸末期の再建で九間二面切妻造茅葺の建築であるが、樓門は天文年間の古建築である。

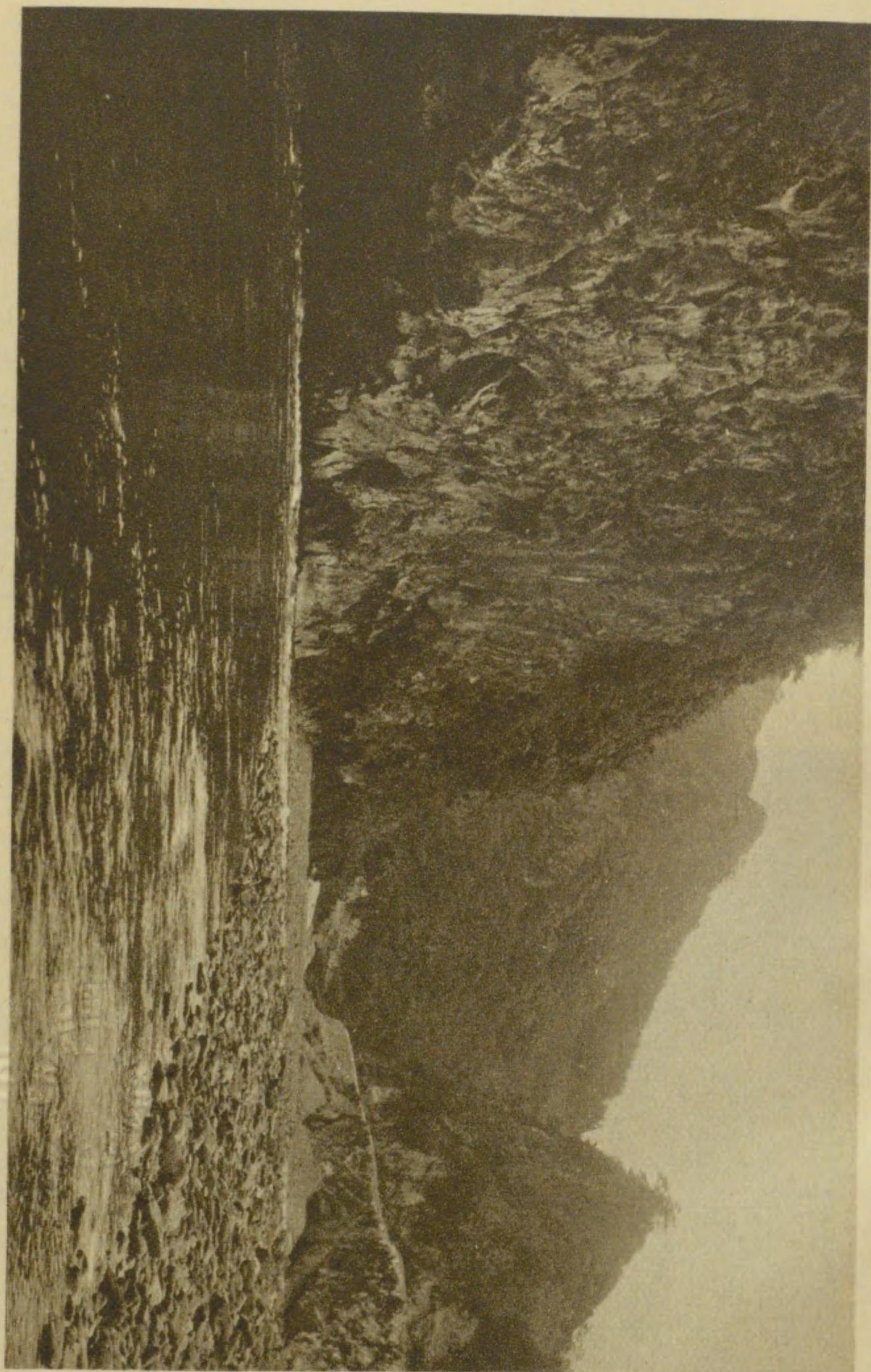
樓門 (國寶) 天文十八年の再建、三間一戸の樓門で、屋根は入母屋造、茅葺、朱塗の建築である。枳組は下層に和様二手先、上層に三手先を用ゐる、枳組の間に斗束を立て居る。天井は小細格天井にして支輪にのみ

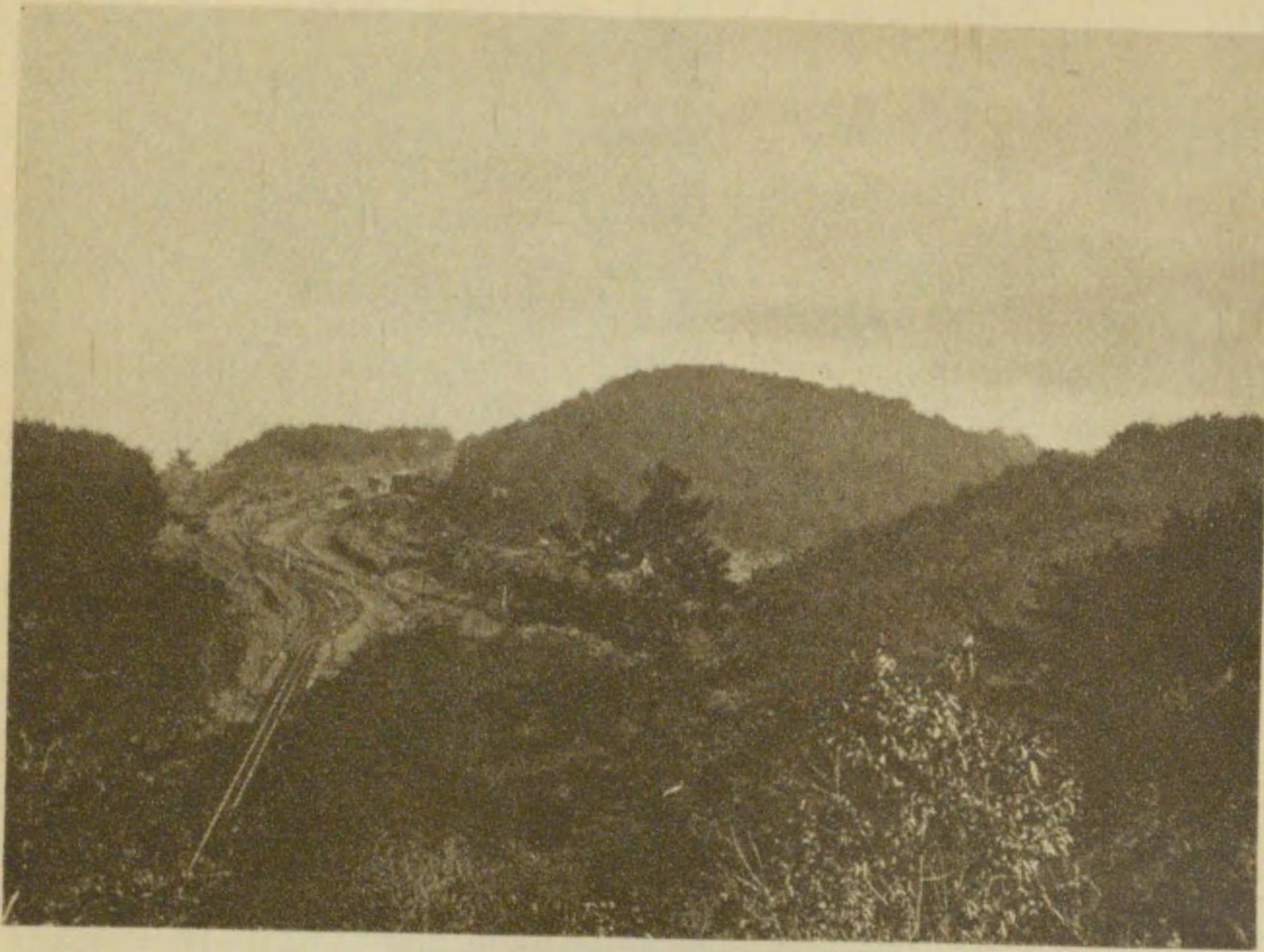


宮代八

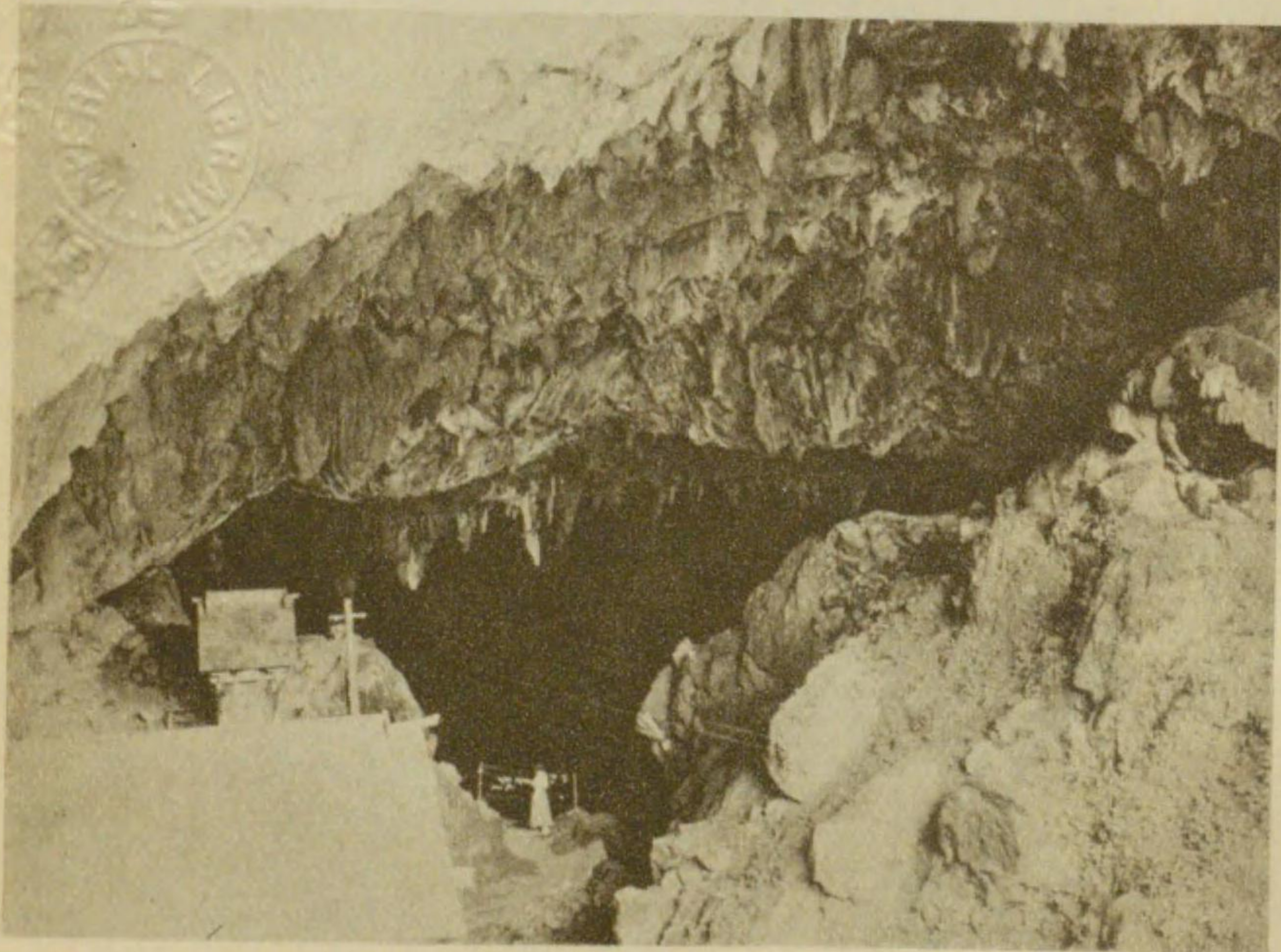


近 附 七 倒 翁 川 磨 球





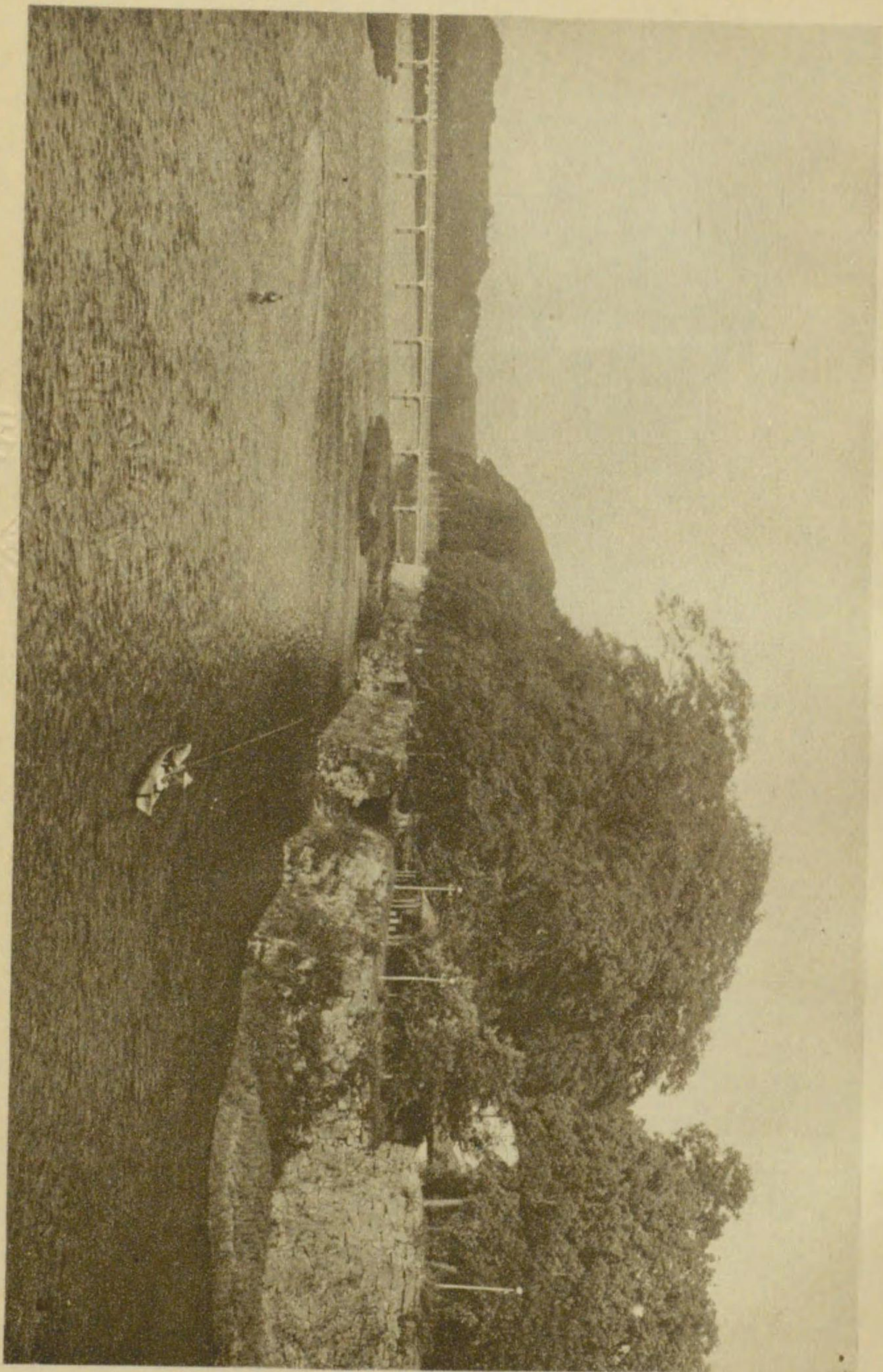
大 畑 の プール 線



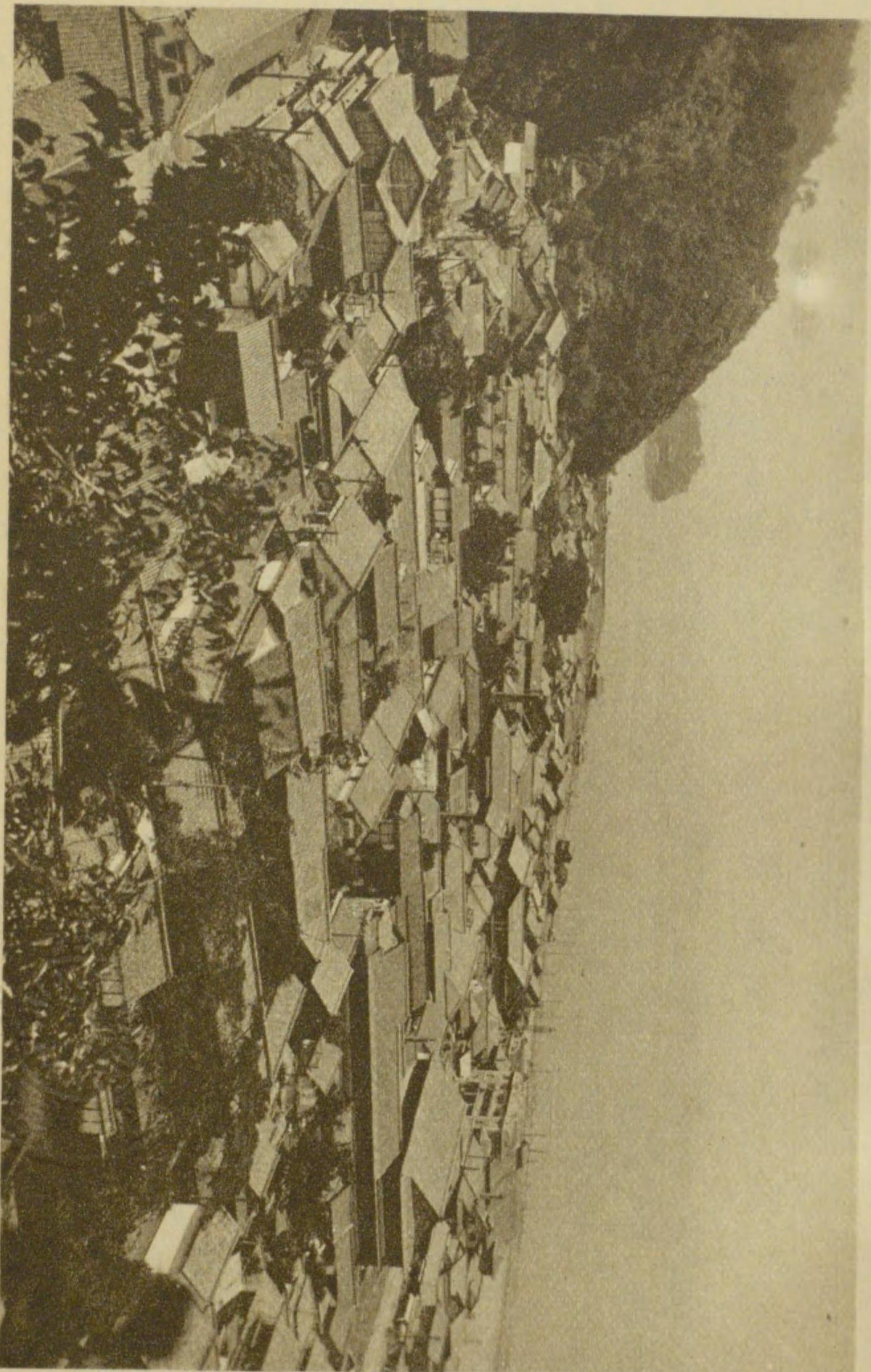
神 瀬 窟



川 磨 球 と 址 城 吉 人



泉 温 久 奈 日



黒色を施して居る。尙上層には優美な彫刻を有する墓股が一個残つて居る。規模は小さいが室町時代末期の樓門として頗る美觀を呈して居る。

【雁回山】宇土驛の東約四軒、山麓まで自動車の便がある。木原山とも云ひ源爲朝の城址である。爲朝肥後に下り阿蘇氏の女婿となつてこの山に館を設けて居た。名高い弓の達人で常に飛雁を射落して居たから、恐れて山を回行したと云ふので雁回山と稱することゝなつたと云ふ。

【阿高貝塚】宇土驛の東約六軒、下益城郡豊田村阿高にあり、自動車の便がある。雁回山の東麓、濱戸川に沿うた阿高、東阿高に互つた広い地域に貝殻が散布して居るが、大正五年貝層中から石器、土器、貝器、骨器等と共に凡そ五十體の完全な石器時代人骨を發掘し、前膊骨に二個の貝製腕輪を纏つた女性の骨格等も發見せられた。人骨は熊本醫科大學に、遺物は縣立師範學校に保管陳列して居る。

【轟貝塚】宇土驛の西南三軒、宇土郡轟村宮ノ庄村落

熊本水俣間

の東南に存し、石器時代人骨が發掘され、繩紋土器及石器類、牙製裝飾品、貝輪等が出土した。

三角線

この線は宇土から分岐して住吉七軒、肥後長濱四軒、網田三軒、赤瀬三軒九を経て三角七軒二に至る支線である。三角は熊本方面からの天草及島原への交通路となつて居る。

【住吉神社】住吉驛の北約一軒、宇土郡網津村、緑川口の一角にある小半島にあり、青嵐滴る樹林の間數十級の石階を上げれば神社である。後三條天皇の御代、菊池則隆が攝津の住吉宮を勸請したもので、有明海や雲仙岳の眺望がよい。法性寺關白の歌に「眺むれば思ひ残せることぞなき宇土の小島の秋の夜の月」とある。

【赤瀬鑛泉】赤瀬驛附近、有明海を隔て、雲仙岳を望む風光明媚の境にあり、夏期は海水浴も行はれる。一種の臭味を含む含鐵炭酸鹽類泉で加熱して居る、リウマチス、皮膚病、胃カタルなどに効くと云ふ。旅館

寶慶館、大和館、有明館外數軒。

【三角町】(一五圖や二) 三角驛所在地。宇土半島の西端にありて、土地凹凸多く、地味豊饒でない。港は町の西南端にあつて修築され、海陸の交通頗る便利であるが、外國貿易は振はない。この地は風光がよく、近年海水浴場として聲價を高めて居る。人口六千。

【金柵鑛泉】 三角驛の東三軒、自動車の便がある。小丘陵を負ひ、水田を隔て、天草灘が望まれる。多量の炭酸瓦斯を有する含鐵炭酸鹽類泉で、飲用すれば胃腸病に特效ありと云はれ、鑛泉サイダー、鑛泉ラムネとして販賣されて居る。浴用には加熱し、胃腸病、婦人病、皮膚病、神經諸病などに効くと云ふ。旅館 福原、長尾。

【天草島】(二圖さ三) 三角、口之津、茂木、阿久根等から、定期船の便がある。宇土、島原兩半島に近く、天草灘と八代海との間に横はり、下島、上島の二大島及數多の小島より成る群島で、一郡をなし、面積七〇方軒、人口約十八萬で、住民は海外に發展するものが

【天草松島】 三角港から約一二軒、天草上島合津沖合一帶の總稱である。大小無數の島々が蒼布し、白帆點々その間を縫ひ、風光陸前の松島に類似し、三角から本渡へ行く汽船客を喜ばせる。

【合津】 上島の東部にあつて、大浦と共に島の門口をなし、石材の産地である。

【本渡町】(六圖さ一) 合津から四〇軒、大浦から三二軒、下島の東岸にあつて本渡瀬戸に臨む。天草の首都で、支廳を置かれ、商家軒を列べ、旅館、料亭數十軒、カフェー、球戯場等もある。人口六千。旅館 喜久屋、苓洲館、綿屋、佐渡屋、藤屋。

【富岡町】(六圖た七) 本渡町の北二六軒、自動車の便がある。下島の西北端に位し、袋浦または巴浦と稱する内灣に臨み、曲り崎と稱する砂洲があつてこの灣を抱き、白砂青松小天橋をなし、海を隔て、雲仙岳を眺むる景色は正に一幅の畫である。巴灣内には舊五月の節句にペーロンの競漕が行はれる。轉じて西濱に出ると天草灘渺茫として水天連り、頼山陽の雲耶山耶の名

少くない。この地は小西氏、加藤氏、寺澤氏等の領地であつたことがあるが、寛永十四年の有名な一揆の後には、幕府の直轄地であつた。

内部は丘陵多く、海拔概して小にして、最高點も六〇米に達しない。氣候溫和、風光明媚、保養地に適する。生産の第一位は農産が占め、水産がこれに次ぐ島内の交通は下島の本渡を中心として、自動車が縦横に通ずる。上下兩島は幅二百餘米の本渡瀬戸を以て隔り、開閉橋で連絡されて居る。

【大矢野島】(六圖か七) 三角から出た船が第一に寄港するところで、周回二八軒、登立、上村、中村の三町村がある。南隣の千束島と共に、島原一揆を起した大矢野左衛門、千束善右衛門、森宗意軒等が居つたところである。また千束島の維和村は到るところに古墳が散在し、平家落武者の居つたところであると云ふ。

【湯島】(六圖か六) 大矢野島の西方にある一孤島で、山頂に噴火口跡がある。天草亂の初こゝで謀議を凝らしたから、談合島の別名がある。

吟を思ひ出させる。近年町内に山陽詩碑を建て、公園とした。この地は寺澤氏の舊城下、下島北部の商業地で、城址に九州帝國大學理學部の臨海實驗所がある。旅館 三文字屋、岡野屋。

【千人塚】 富岡町にある。志岐方面から富岡町に入る右手の松林の處で、劇場の裏手である。長崎の西坂、島原の愛津と共に天草亂の後、切支丹教徒一萬の首級を三分して埋めた場所供養碑が建つて居る。

【牛深町】(二圖さ三) 本渡町より自動車、三角、阿久根から汽船の便がある。天草下島の南端に位する漁港で、漁期には大小數百の船舶が輻湊する。鱒の櫻干は名高い産物である。人口一萬三千。

【崎津】 本渡町から牛深への自動車により一町田乗換釜に至り、それより發動機船による。船の行くところは羊角灣内で風景美がある。崎津は江戸時代禁教令の下に密に切支丹の信仰を續けて居た地として、また僅にいはゆる天草情調の残つて居る地として知られて居る。旅館 靜觀樓、喜屋、潮屋、心靜館。

本線に戻りて宇土から左に雁回山を見ながら松橋四
軒八を過ぐれば一面の平野、海岸は多く新地で車窓か
らは海が見えぬ。小川六軒二を經、氷川を渡れば有佐
五軒、それより龍峰山を左に見つゝ千丁四軒を過ぎて
八代四軒七に至る。八代は肥薩線の分岐點である。

【松橋町】(一五圖三二) 松橋驛所在地。宇土半島の頸部
にあつて、八代海一名不知火海に沿ひ、不知火の觀望
に適する丘陵がある。東隣の當尾村に、楠原の樟(指定
天然記念物)がある。

【竹崎季長墓】 松橋驛の東南約一〇軒、八代郡海東村
平原にあり、自動車の便がある。文永弘安役に拔群の
高名を走せた竹崎季長の墓で小さな五輪塔である。明
治二十八年發見せられ、傍に大正六年に建てた記念碑
がある。季長は大正四年、從三位を贈られた。

【福城寺】(天台宗) 松橋驛の東二〇軒、下益城郡東砥
用村甲佐平にあり、途中まで自動車の便がある。寺寶
の釋迦如來立像は木造で、寺傳惠心僧都作と云ふが、

ワード エス モース氏によりて調査せられた事があ
る。貝塚の北方半軒の高塚と呼ぶ畑地には、内面に彫
刻紋様を有する石棺があり、また南方半軒の岩屋本と
云ふ地の大杉の下にある大野窟古墳には、高大な石室
が存して居る。

【立神岩】 有佐驛の東南約四軒、氷川上流の右岸に聳
ゆる懸崖で、白岳とも稱し、絶壁高さ八五米、横二三
米、直下深淵である。磐面に白き縦線あり、恰も瀑布
の如く、また白瀧の名があり、雄偉の景觀を呈して居
る。岩上に小堂あり、熊野神を祀つてある。

【釋迦院】 有佐驛の東二六軒、八代郡柿迫村にあり、
登山口まで自動車の便がある。熊延鐵道釋迦院驛から
は南一〇軒、乗物の便がない。天台宗叡山正覺院の末
寺にして、金海山と號し、莊善大師の開基と稱する。

天正年間小西行長のため堂宇悉く破壊され、元和元年
加藤忠廣再び寺領を寄附し、萬治元年奥州の僧禪瑞來
つて禪刹を營んだ。境内に犬歸り、蟻歸り、窟不動、
釋尊湧出の水等の幽勝がある。四月八日の縁日には

鎌倉時代の製作で、國寶に指定されて居る。

【三寶禪寺】(黄檗宗) 小川驛の東約二軒、下益城郡小
野部田村南部田にある。鐵眼禪師の開基で父の歿後居
宅を寺としたものだ云ふ。鐵眼は寛永七年この地の
佐伯氏に生れ、後山城宇治の萬福寺にあり、十七年の
心血を擽つて一切經を開刻した人で、世にこれを鐵眼
版と云つて居る。

【鏡町】(一五圖三三) 有佐驛の西約一軒、自動車の便が
ある。八代海に沿ひ海運の便がある。明治三十七年舊
細川家の「御藏」を利用して始めて米券倉庫を置かれ、
今尙米穀の集散地で、牡蠣、海苔の産もある。町内に
大日本人造肥料會社の工場がある。この地方の海邊に
は人工に成つた新地が廣い。人口八千。

【吉野村大野貝塚】 有佐驛の東北三軒半、八代郡吉野
村赤迫の役場の邊に痕跡を留め、その後方の丘陵上に
は約六アールに亙りて貝層が存在して居る。從來、繩
紋土器破片、石斧、動物土偶、鹿角、猪牙、人骨等が
出土し、明治十二年、東京大森貝塚の發見者たるエド

參詣者が多い。

【五家莊】(一五圖三四) 有佐驛の東南約四〇軒、川邊川
の上流椈木川の沿岸にあり、途中柿迫まで自動車があ
る。仁田尾、椎原、椈木、葉木、久連子の五集落より
成り、平家の落武者が匿れ、世間と交通を絶つて今日
に至つたと傳へられ、九州第一の僻地である。探勝す
るには二三泊を要し、食料品を携帯せねばならない。

松橋驛からも五家莊に通ずる道路がある。
【太古踊】 五家莊の行事で、古代踊とも云ひ年に三回
即ち舊七月十四、五の二日間(盆踊)、舊八月一日(願
踊)、彼岸の終日(願ほどき)に行はれる。踊子は皆男
子で、太鼓を頭から胸に吊り、一人か二人の鐘手が音
を合せて、頭には鶏の羽で飾つた笠を被つて、白衣に
袴と云ふ清淨な扮装である。

【明言院】(眞言宗醍醐派) 千丁驛の東二軒、八代郡龍峯
村興善寺にある。寺寶の毘沙門天立像は木造で寺傳日
羅作と云ひ、高さ四尺七寸餘、藤原初期の作で國寶に
指定されて居る。

熊本水俣間

八代驛

熊本縣八代郡太田郷村萩原

▽肥薩線 八代半人間 一二四軒二

【八代町】 (二五圖ま3) 八代驛所在地たる太田郷村の

西に接し、球磨川の河口に沿ふ。古くは松江と云つた。松井氏の舊城地で、城址に八代宮、松井神社等がある。附近に製紙會社、セメント會社等があつて、工業方面も發展する。名産に鮎、朱纒、文丹漬がある。人口一萬四千。

【八代宮】 「官幣中社」 (二五圖ま3) 八代驛の西二軒、八

代郡八代町にあり、自動車の便がある。祭神は後醍醐天皇の皇子懷良親王を主神とし、後村上天皇皇子良成親王を配祀して居る。明治初年八代城址の地に社殿を創建し、同十三年に官幣中社に列し、同十九年十一月良成親王を配祀した。境内は元和六年加藤正方の築城にかゝる舊八代城の遺址で、大理石の石壘が遺存して居る。社殿は最近改築した。

例祭八月三日。

【松井神社の臥龍梅】 八代町字北の丸松井神社境内に

あり、石玉垣を繞らしてある。樹幹は地上に沿うて東方へ匍ふこと七米二、屈曲して左右に枝を出して居る。その主幹の起伏せるさま龍の雲に御するが如く、枝の屈曲せるさま四枝の玉を弄するが如く、臥龍梅の名に反かない。樹幹の根廻り一米四、樹高二米七、枝張東西八米七、南北六米二、枝端の廻り二三米半、花は淡紅重瓣乙女の袖と云ふ品種である。細川忠興(三齋)八代在住の折その庭園に手植せられた遺愛の梅だと云ふ。傍に童山名和範藏選文の臥龍梅碑が建つて居る。神社境内の東北方には今尙別業當時の假山泉石あり、多數の躑躅樹あり、花時緋氈を敷くのである。神社には八代城代松井氏の祖先を祀つて居る。

【八王社の樟】 八代町字北小路淺井神社境内にあり、根廻り二四米五、枝張り東西三二米、南北三二米、樹勢盛んである。

【八代神社(妙見宮)】 「縣社」 八代驛の東二軒、八代郡宮地村宮地にあり、今、天御中主尊を祭神として居る。創建年代は明かでないが、今の地に鎮座したのは。總高さ約二十二尺。各層四面に一個の龕を設け、佛像を半肉彫で現はして居る。また各層の隅軒に鬼面の彫刻があり、尙地輪に左の銘文が刻されて居る。

銘文

造立十三重石塔

爲滅罪生善乃至法界

平等利益造立如件

寛喜二年庚十一月日

大壇那沙彌淨心

井藤原氏

大丁兼佛師幸西

小工榮幸

行事 藤原頼忠

源 光吉

鍛冶末正

院主 金剛佛子念西

【球磨川】 (二五圖ま3) 流域は日向、薩摩及肥後の三

國に互つて、一九七〇方料に過ぎず、長さは二四料に止まるが、急流の一として知られ、球磨川三十三瀬の名がある。古は全く船を通じなかつたから、荷物の運搬、

和銅年間であると云ひ、妙見宮または白木妙見と呼ばれて一説に百濟王子琳聖を祀る所と云ひ、上中下三宮のうちその下宮で、宮殿の新築と共に八代郡の總社として崇敬せられた。小西行長の時破却の厄に遭つたが、加藤清正舊觀に復し、細川忠利入國して更に社殿を再興し、明治初年現稱に改めた。

祭典は十一月十八日で當日は古風の武者行列、神馬、輕卒に續いて支那の服装樂器を用ゐる唐獅子舞を始め、八代町民の奉納する十數の傘鉾は綺羅錦繡を飾りて美しく、賽者雲集雜沓を極むる。

【悟眞寺】 「曹洞宗」 八代驛の東南三軒、八代郡宮地村字悟眞寺の丘上にある。はじめ護神寺と稱し、妙見宮の供僧院であつたが、延元年間領主菊池武朝、懷良親王追善のため伽藍を再建し、應永十年親王の法號悟眞を以て寺名となした。寺の東麓老樹鬱蒼たるところに懷良親王御墓がある。

【十三重石塔】 「國寶」 八代驛の南約四軒、八代郡植柳村米知徳氏邸内にある。石造、今二層缺失十一層とな

熊本水俣間

旅人の往來は一に峻しい山路によるのみで、その困難筆紙に盡し難いものがあつたが、寛文五年贈從五位林正盛がこの川を開鑿して、始めて舟筏を通ずるやうになつた。現今木材の流下、鮎の漁獲が少くない。

肥薩線

この線は八代から鹿兒島本線に岐れ、隼人に至りて日豊本線に接する線で、八代を後にして球磨川に沿うて東南に向ひ、段五軒二、坂本五軒八、瀬戸石八軒六、白石一〇軒二、一勝地一〇軒、那良口二軒六、渡二軒九を經て人吉六軒五に至る間殆ど球磨川に沿うて走り、車窓の眺めがよい、特に秋季紅葉の頃の景觀云ふべからざるものがある。

【神瀬石灰洞】白石驛の對岸神瀬村にある。洞門の高さ一四米、幅三六米半、奥行七六米、鍾乳石が數多垂下して居る。

【吉尾温泉】白石驛の南約四軒、吉尾川の球磨川に合流するあたりの溪谷中にある幽邃境である。硫黄臭の

人吉町内に於て公衆浴場または旅館の内湯として掘鑿せられたるもの既に三十餘箇所を數へ、風景美を以て知られて居た人吉は更に温泉郷として發展の勢を見るに至り、林、相良、町内の昭和、極樂、地獄、織月、新堀尾、青柳、大人吉、夫婦松などの諸温泉を合せて人吉温泉と總稱して居る。

温泉は多く食鹽性アルカリ炭酸泉で、いづれも泉量豊富、胃腸病、リウマチス、皮膚病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 町内に鍋屋、吉野、翁、人吉外數軒。相良に掬水、林に翠嵐樓、大觀樓。

【球磨川下り】人吉から白石まで二八軒を三時間で下る。貸切船があり、五月から十月まで土曜、日曜には定期の乗合船もある。船は織月城址の麓、水の手橋の下から出るが、發船せんとする時、見送りの人は小石を舟近く投げて舟中の客にしぶきの水をかける、これは舟行に幸あれと祈る祝の水である。舟にはガイド・ガールが乗り込んで沿岸の勝地や急瀬に就て説明する。人吉から渡までの間に筏口、笠場、毘沙門、熊太郎の

ある鹽類泉で、胃腸病、リウマチス、創傷などに効くと云ふ。旅館 高野旅館、川原旅館。

人吉驛 熊本縣球磨郡人吉町

△湯前線 人吉湯前間 二四軒九

△乗合自動車 林温泉行、頭地行

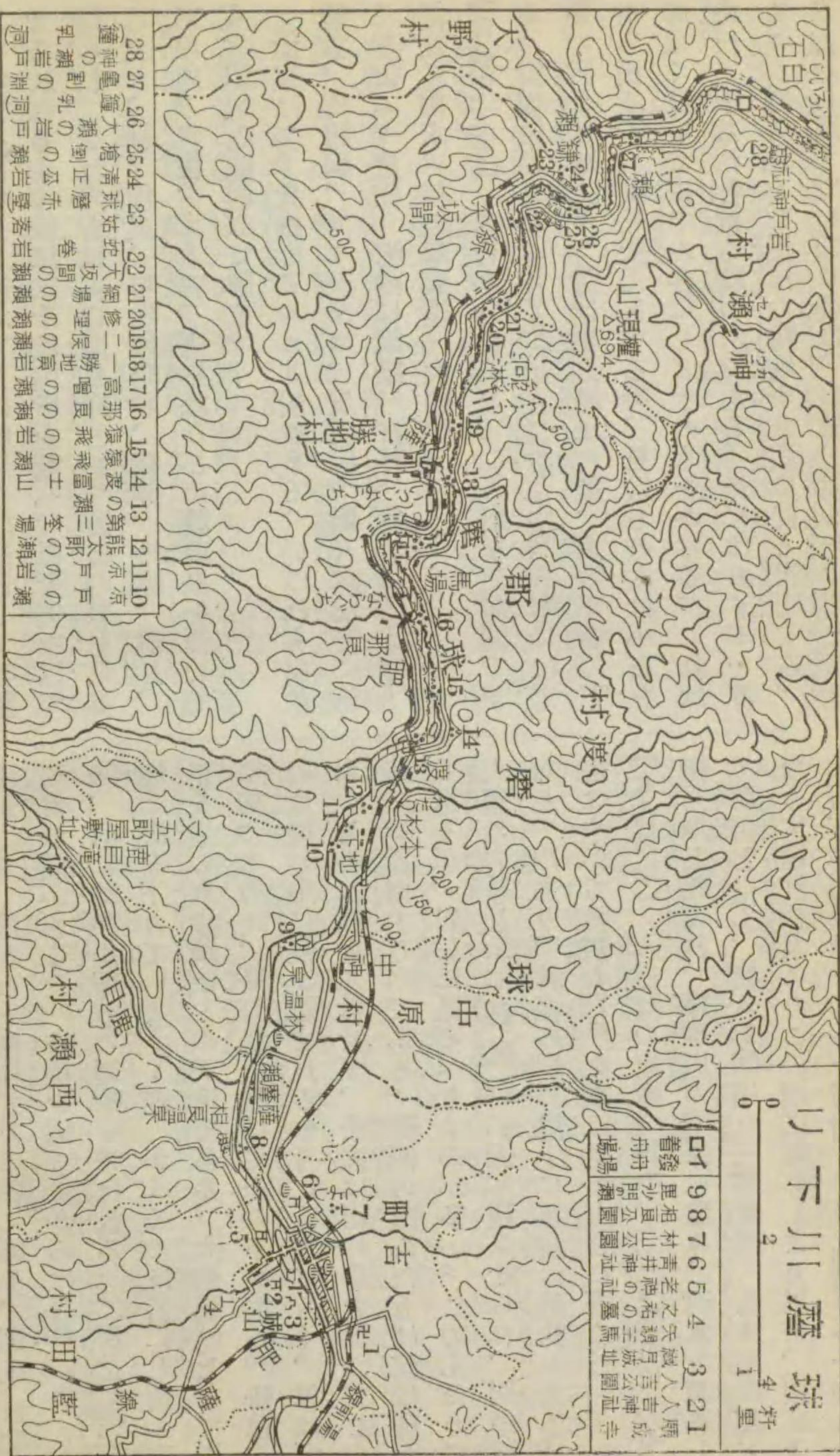
【人吉町】(一五圖は5) 人吉驛所在地。人吉盆地の西端にあつて球磨川の清流に臨む。相良氏の舊城下で、

明治十年の役薩軍が一時本營を置いたところである。昭和八年大村を編入した。球磨川下りの發船地であるのみならず、新興の温泉郷で、泉源は數十を數ふ。材木、穀物の集散が行はれ、青井神社、人吉城址、願成寺、大村の横穴等巡覽に値するものがある。名産に焼酎、柿、鮎等がある。人口一萬八千。隣村西瀬村の青年は棒踊を行ふ。

【人吉温泉】人吉附近の球磨川畔には林温泉があつて風光の美と温泉の豊富と相俟つて旅行者を喜ばせて居たが、近年舊藩主相良氏の下屋敷址に温泉を掘鑿して相良温泉の湧出を見たので、温泉熱は一層盛んとなり、

瀬があり、渡から一勝地までの間に猪鼻、那良、八關、高曾の瀬がある。一勝地を過ぎてからは舟行いよく、險、眞に球磨川下りの趣味を味はれる。二俣、修理、網場の瀬を下りていよく、差しかゝるのは名にし負ふ清正公岩の對岸鎗倒しの天險である。大岩巍然として川に向つて聳え、激瀬渦を卷いてその下を潜る。舟はその水煙の中に吸ひ込まれるやうに入つて行く、思はずあつと叫ぶ間もあらせず、舟夫は巧に舟を操つてこの難所を通過するのである。蹺割の瀬あたりは流は緩かであるが、岩石に見るべきものが多い。このあたりに大瀬の岩戸と云ふ鍾乳洞が近年發見せられ、洞中瀧あり、川あり、神瀬の岩戸以上に探勝の興味がある。舟はやがて神瀬の岩戸を右に見て白石に著く。

【人吉城址】人吉驛の東南一軒半、人吉町麓町にある。織月城と呼ばれ、球磨川の南岸に臨み、河水を利導して要害となし、建久年間相良三郎長頼人吉庄地頭職となりて遠江相良よりこの地に移りしより以來、相良氏七百年の居城址である。明治十年亂に薩軍が一時こゝ



に據つた事がある。藩祖相良氏の靈を祀つた人吉神社

があり、城址より眺めた風光がよい。

【人吉神社】 人吉城址にあり、相良家累代の靈を祀る。

境内に林藤左衛門正盛、高橋七郎兵衛政重の頌徳碑が

ある。何れも水利の功勞者で、正盛は寛文二年から四

年を費して、球磨川に舟楫の便を開いた。

【大村横穴群】 (指定史蹟) 人吉驛の背後にある凝灰

岩の丘陵南側に穿たれたもので約二十個を算へ、外壁

に靱その他各種の圖象等を浮彫して居る。このうち第

七號と稱せられる横穴入口外部の上部には屋根形の線

彫あり、向つて右側には靱が彫刻されて居る。左側に

は種々の動物の彫刻があり、左端上部に靱を置いた馬

あり、その下に牛または馬の圖象、その右方にまた馬

あり、下部には一本の線を彫り出して區劃を作り、こ

の下には左端に三角形のもの二個が垂下され、その右

に小さき兎または小馬と思はれるもの及大なる一獸恐

らく馬ならんと思はれるものを何れも浮彫して居る。

第五號と稱せられたものには三個の靱を浮彫にしたも

熊本水俣間

球磨川下二

1	人吉神社
2	人吉城址
3	文徳の廟
4	文徳の廟
5	文徳の廟
6	文徳の廟
7	文徳の廟
8	文徳の廟
9	文徳の廟
10	文徳の廟

のあり、第十一號と名付けられたものは入口の左右に

靱と靱、刀子と思はれるもの、圓形をなした恐らくは

鏡と思はれるもの等が浮彫されて居る。これ等の横穴中

からの出土品に蕨手刀、椀形土器等があり、附近の犬

童氏方に保存されて居る。尙、湯前線肥後西村驛に近

い京ヶ峯にも靱の彫刻あるものが存する。

【青井阿蘇神社】 人吉驛の西南約半料、人吉町上青井

町にある。

當社は古く阿蘇大神を勧請して創建された。現存社

殿の主要部は相良氏が朝鮮征伐凱旋の後、慶長年間造

營されたもので樓門、幣殿及本殿を存して居る。

樓門 (國寶) 慶長十五年の造營、三間二面重層、屋根

四注造茅葺の建築で、桁組は下層に唐様二手先、上層

に三手先を用ゐ、尾樑を加へて居る。下層桁組の中間

には各種の透彫を嵌装して居る。樑及桁組には朱色殘

存し、尙桁組には金箔を存する所があり、全體として

二八三

も小壁に鳥獸花卉を半肉彫で現はし極彩色を施して居る。尙各所に多くの鍍金金具を使用し、これにも各種の草花文が彫刻され、天井は黒塗格天井になつて居る。

本殿 【國寶】慶長十五年の建築で三間社流造、屋根は銅板葺、三間の向拜があり、柱は黒塗で、墓股には華麗な彫刻が嵌装されて居る。破風内には雲龍その他彫刻を加へ彩色を施して居る。その他左右の屏障にも牡丹に獅子などの彫刻があり、隨所に華麗な桃山式の裝飾を加へて居る。

【願成寺】 【眞言宗】 人吉驛の西約二軒、願成寺馬場にある。

當寺は天福元年人吉城主相良長頼の創建にかゝり、相良氏の菩提寺である。寶物館安置の阿彌陀像は國寶に指定されて居る。木造漆箔、高さ約三尺五寸、結跏趺坐の坐像で上品下生の印を結び、兩肩より衣を覆ひ、その褶襞は細く流れて美はしく藤原末期の作で、臺座及光背は新しく補はれて居る。

【老神社】 人吉驛の南約一軒半、人吉町新町にある。

して簡素であるが、鎌倉時代の特徴を示して居る。内部分は床總板敷にして入側周圍の天井は化粧屋根裏となし、内陣の天井は折上格天井で黒塗になつて居る。須彌壇上には阿彌陀三尊像が安置してある。

阿彌陀如來及兩脇侍立像 【國寶】 阿彌陀堂の本尊である。何れも木造で、中尊は高さ約三尺三寸、上品下生の印を結んで立つて居る。面貌豐滿、玉眼嵌装、衣文の刻み流麗にして木地の上に金泥の緻密な彩色模様が残つて居る。脇侍の觀音菩薩像は左脚を一步踏み出し、蓮臺を捧げて居る。その裳には卍字つなぎの織文と丸紋のあとが残つて居る。勢至菩薩像は稍腰をかゝめ、合掌して立つて居る。その姿態優美にして、その裳には花形織文があり、その足柄に「永仁三年院支作」の銘がある。

【明導寺阿彌陀堂】 湯前線湯前驛の西南約四軒、球磨郡湯前村字東方思川明導寺飛地境内にある。

この阿彌陀堂は舊城泉寺の本堂で、寺傳によると貞應年中沙彌淨心の創立と稱して居る。方三間四注造茅

本殿は三間二面入母屋造柿葺の小社殿で、覆屋の中に保存されて居る。正面に三間の向拜がある。雲龍その他の彫刻が隨所に嵌装されて居る。後面の墓股小壁等にも花卉鳥類の彫刻を嵌装し、彩色を施して居る。内部も墓股及小壁等に牡丹の透彫を嵌装し、桃山時代の華麗な裝飾を施して居る。全體の手法は青井阿蘇神社のそれと同様である。

【高寺院】 【眞言宗大覺寺派】 人吉驛の北約四軒、球磨郡山江村山田にあり、途中まで自動車の便がある。本尊毘沙門天立像は木造で高さ五尺三寸餘、この外別に毘沙門天立像がある。木造高さ五尺四寸餘、兩軀共に寄木造、内刻で彩色を施し、共に藤原時代の製作にかゝり國寶に指定されて居る。

【青蓮寺】 【眞言宗】 湯前線多良木驛の東北約四軒、球磨郡黒肥地村茂原にある。

阿彌陀堂 【國寶】 鎌倉時代永仁三年の建築で、五間五面屋根四注造茅葺、正面に後世附加された一間の向拜がある。桁組は出三斗を組み、木割は一般に雄大に葺三斗組の簡単な佛堂であるが、木割雄大にして鎌倉時代のものと認められる肘木、頭貫鼻などがあり、國寶に指定されて居る。堂内には阿彌陀三尊像を安置して居る。尙向拜に懸つて居る鰐口には「肥後州宇土縣八幡宮公用之鰐口也天授七年辛酉四月一日捨入之願主法一敬白」の刻文がある。

阿彌陀如來及兩脇侍像 【國寶】 阿彌陀堂安置の本尊である。何れも木造漆箔玉眼の像である。中尊は彌陀の定印を結んで高い蓮座の上に坐し、觀音、勢至の兩脇侍像は何れも左右の手を上下に捌いて立つて居る。尙觀音像の臺座心棒に「寛喜元年卯月日」の墨書銘があり、何れも鎌倉初期の佳作である。

九重石塔 【國寶】 阿彌陀堂の前方墓地内にある。高さ約一丈三尺、各層各面に龕を作り、その中に半肉彫の佛像を現はし、地輪に次の銘文を刻して居る。

奉造立九重石塔一基
右志者爲淨心往生極樂也
寛喜二年庚九月廿三日
大壇那沙彌淨心

大工兼佛師幸西

小工榮幸

院主念西

七重石塔 〔國寶〕 九重石塔と同一箇所にあり、もとは七重塔であつたが三層を缺き、今四重塔となつて居る。高さ約九尺、その形式は九重石塔と同様で、これにも地輪に寛喜二年の願文が刻書してある。

【猫寺の檜】 同湯前驛の東北約一料、球磨郡水上村里防生善院俗に云ふ猫寺の境内にあり、三樹相密接して生じ、根廻り合せて二〇米、三樹各基部の幹圍四米五、四米七、五米三、その傳説によつて著名なる老樹である。天正十年普門寺五代の法印盛譽無實の罪をうけて相良氏に斬殺せられた。その母悲歎に堪へず、愛猫玉垂と共に市房神社に二十一日間斷食呪咀し、猫を抱いて湯山茂間ヶ崎に身を投じて恨死した。以來猫の怨霊相良家に祟り苦しめたので、その怨霊を静めんため建立したのが生善院一名猫寺で、盛譽法印、その母玖月善女、猫の玉垂の墓標として植ゑられたのがこの三本

流に沿うて右へ右へと大きな道を行くと草原となり、二二三の農家を過ぎると、高原帯となり、尙澤を渡る。やがて鳥居があつて小祠がある。追分から凡そ五十分である。これから市房神社參詣道で、蒼蒸した四米幅の古い大道が續く、兩側には巨大な綾杉が茂つて居る。昔人吉城主相良侯の植ゑたものと云はれ、幹圍三米乃至八米に達するもの五十八株あり、樹高四〇米乃至五〇米稀に見る巨大純美の杉並木である。參詣道はその杉並木の日蔭で處々に石段等があり、市房神社に達する。社殿は結構壯麗で、九州の神社としては、他に類例を見ない特殊なものである。拜殿の右側の崖に清澄な水がある。これから山頂までは水がないのでこゝで水の準備をする。

神社裏から急なジツクザツクが頂上まで續く、途中に處々に標木があり迷路はない。大部分森林帯であるが、頂上まで千五百米の標木附近は展望臺で頂上が望まれる。心見の橋の巨巖や天窓などが奇怪に見られる。千米の標木を過ぎて、胸突坂の急坂を登ると灌木

の檜だと云ふ。

【市房山】 (一五圖た4) 市房山は宮崎、熊本の縣境に聳え、標高二、三二米に達し、久住山、祖母山に次ぐ九州第三位の高山で、西に急流と鮎の名所として知らる。球磨川が流れ、東には米良川の谷が走つて、南北にその山稜を連ね、樺、樺等の針葉樹やぶな等の潤葉樹が茂り、多分に原始的な景觀を持つて居る。山腹には市房神社があり、球磨一帯の人々は、御岳様として神仰登山が盛んである。

登山路は湯前線湯前驛から登るが順路で、この他日豊線廣瀬から岐れる妻線杉安から村所に出て登る途もある。

湯前驛から湯山まで一二料、自動車がある。湯山には温泉があるが、温度が低く、加熱して居る。元島、草野などの旅館がある。

湯山から市房神社まで四料、頂上まで七料である。湯山小學校から爪先登り、二二三の商家を過ぎると、溪流がある。そこに市房登山道の石標が建つて居る。溪

帯となり、巨大なやしほつゝじの群落があり、その開花期の美觀は知られて居る。

五百米標木を過ぐれば、道は頂上の下を巻いて居るので、稍緩い登りとなつて、九合目附近で右へ分れる小徑がある。道を左へ辿ると頂上に達する。市房神社から二時間半を要する。頂上には僅かな空地があり、石祠が淋しく建てられて居る。

展望は確かに南九州の偉觀で、特に奥日向の連山、深谷の鳥瞰が優れて居る。宮崎平原の彼方に太平洋の水平線を望み、西に有明海から雲仙岳、北には九州脊梁山脈の峯が連なり、遙かに遠く阿蘇の噴烟、九重、祖母の山々を望むことが出来る。

下山は普通往路を降る、湯山まで三時間程度である、湯山から自動車で湯前に出で、歸途人吉温泉に一泊するが理想的である。

市房横斷をするには頂上から米良谷へ降つて溪谷に沿うて村所に出るのであるが、相當經驗ある人の選ぶコースである。

頂上から東尾根のブッシュと熊笹をくゞつて草原に出る、次第に熊笹の茂る針、潤混森林に入ると樵道がある。この附近の森林帯は充分注意せぬと迷路が多い、その上「据銃」と云ふ九州特有な猪獵の鐵砲がかけてあるので危険である。當局では嚴罰に處し、禁止してあるが、山奥で警察の手が及ばない。登山者各自が注意するより外はない。土民はこれをハジキと云つて居る。

この大森林を下り一米幅の炭焼の運搬道に出ると先づ安心である。これに沿うて東へ降り、上米良川の幽境山口の部落に達する。頂上から約二時間半行程、上米良から溪谷が美しく、竹原を経て村所まで一四軒、村所には折尾旅館がある。こゝから妻線杉安驛まで自動車があり、宮崎方面へ出ることが出来る。

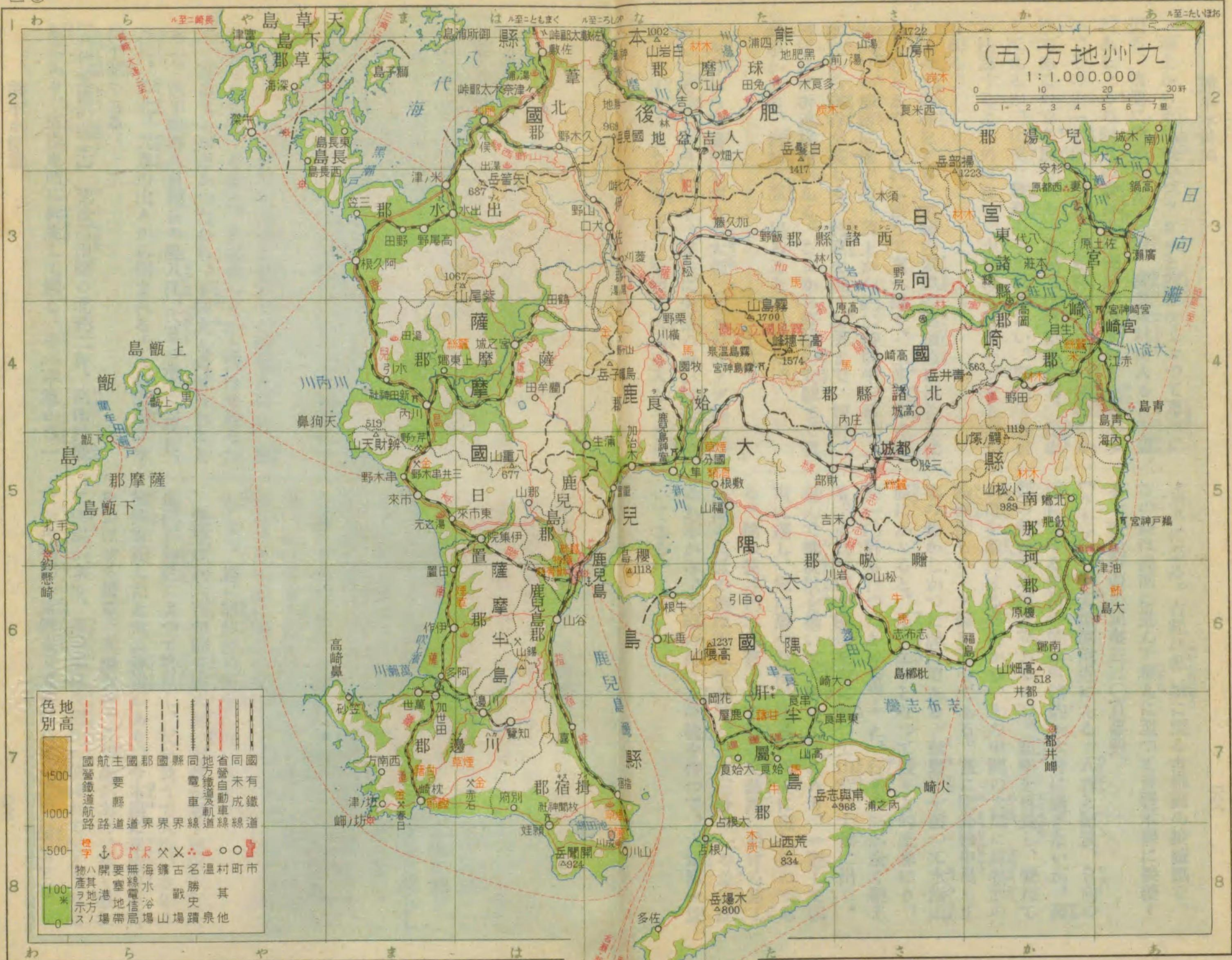
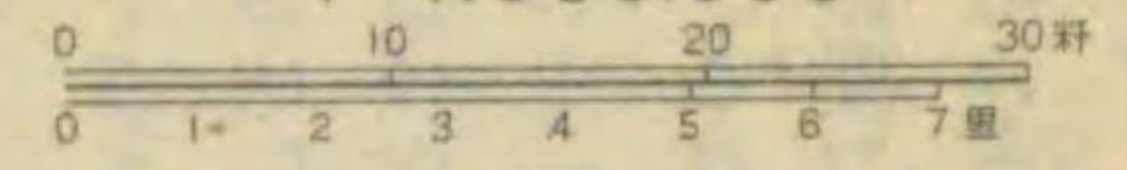
人吉から球磨川を渡りて大畑一〇軒四のループ線を迂回して矢岳九軒五に至り、直ちに矢岳の長い隧道をくゞつて日向に入り眞幸七軒三を経て大隅に入りて吉松

七軒八に至る。吉松は都城に至る吉都線の接續點で、この線は尙南に進んで隼人に至つて日豊本線に接續する。吉松以南の記事三二〇頁参照。

【ループ線】大畑驛附近にある。人吉と肥後、日向の境に聳ゆる矢岳の間は直路約一六軒に過ぎないが、高低の差四〇米以上であるので、距離を延長し、兼ねて勾配を緩にする必要から、その中間の大畑に鉢巻形の輪線即ちループ線を造つてある。實に肥薩線中最も工事の難かしかつた箇所である。球磨川を渡つて水無山脈にかゝると、爪先上りとなつて段々と勾配加はり、約一〇軒も行つたかと思ふと、行手の路が全く絶える。それで横平隧道を左に鑿つて山背の大畑に出で、進んで螺旋状を描いて大野の山腹に入り、一廻して山頂に達し、先に潜つた横平隧道の眞上に現れるのである。輪の長さ約二〇軒、上下線の交錯點に於ける施工基面の高低の差は五二米弱で、三十三分の一の急勾配であるから、本線の外に水平線を作つて、大畑驛を置いてある。

(五)方地州九

1:1,000,000



色地別高

1500	國營鐵道	航空	國道	郡道	縣道	同	地方	省	同
1000	鐵道	要	道	道	道	道	道	道	道
500	字	船	港	海	古	名	温	村	町
100	物	開	無	水	古	名	温	村	町
0	示	方	示	示	示	示	示	示	示

國營鐵道 航空 國道 郡道 縣道 同 地方 省 同
 鐵道 要 道 道 道 道 道 道 道 道
 字 船 港 海 古 名 温 村 町
 物 開 無 水 古 名 温 村 町
 示 方 示 示 示 示 示 示 示

本線に戻つて球磨川を渡れば肥後高田 四料八を経て
海岸温泉として知られた日奈久 五料三に至る。これよ
り肥後二見三料六、肥後田浦九料九、佐敷六料二、湯浦三料
九、津奈木 八料七を経て水俣 七料二に至る間、左にはい
はゆる三太郎越えとして名高き赤松太郎、佐敷太郎、
津奈木太郎の三つの峠の連山を仰ぎ、右には幾度か不
知火海の碧波を隔て、天草の島山を望み、風光掬すべ
きものがある。

【不知火】 往古景行天皇筑紫御巡幸の際靈火現れ、皇
船無事岸に着くを得た。天皇何の火かと問はせ給うた
が、知るものがなかつたから、不知火と命ぜられたと
云ふ。毎年陰曆八月朔日の曉八代、天草の海上に現れ、
八代、葦北、天草の山々から望まれる。火の原因は今
尚不明である。

【八代蜜柑の親木】 肥後高田驛の北約二料、高田村豊
原にあり、五株東西に列生して居る。その中東から一

番目の株最大きく、枝張東西九米、南北一二米、樹幹
は五株に分れてその最大のもの一米である。その始詳
ならず、傳へ云ふ、太閤秀吉征西の時大福寺の僧蜜柑
を献上したるに、秀吉その味を賞でて「天下絶品」の
名を與へたりと。その後加藤忠廣、徳川家康に獻じ、
細川氏に至りて朝廷と幕府とへ年々献上するを例とし
た。紀州蜜柑はこの地から移植したものと云ふ。
【日奈久温泉】 (二五圖ま 4) 日奈久驛の西南七〇米、
自動車の便がある。九州に於て別府に次ぐ海岸温泉郷
で、いはゆる不知火浮ぶ八代海を隔て、天草の島山を
望み、その右に連る三角岳から宇土半島の翠微を前立
として、遙に雲仙岳の秀峯が仰がれる。

温泉は約六百年前光明天皇の御代に孝子濱田六郎左
衛門が神託によつて發見し、父を負うて入浴、多年の
痼疾を癒したと云ふ傳説があり、今本湯に孝感泉の名
を負はせて居る。本湯の近くに新湯があり、やゝ離れ
て西湯があり、築地湯は洗濯用に使はれて居る。温泉
は無色透明の炭酸泉で温度四八度、極微の鹹味を有し、

腺病、リウマチス、胃腸病、肋膜炎、神經衰弱、皮膚病などに効くと云ふ。

陰曆六月土用丑の日に温泉神社で行はれる「おきんぢよがへ」の祭は、この温泉の名物として地方色の豊かなもので、遠近よりの賽者が多い。おきん女は孝子六郎左衛門の孝心にほだされて、陰日向となりてその看病を助けた女を象徴する稚拙な人形で、神前に供へたものを賞を付して賣るのである。

温泉神社は宮の山にあり、市杵島姫命を祀り、その右に温泉の發見者六郎左衛門とその父を合祀してある。その他櫛山、喜安寺、隠れ穴、君ヶ淵、水島など散策の地が多い。町の西端海濱には夏期海水浴が行はれる。名産 竹細工、高田焼、枇杷、湯煎餅。旅館 金波樓、柳屋本店及新宅、泉屋本店及支店、濱伊勢屋、鏡板屋、豊崎屋、長洲屋外數十軒。

【百濟來地藏堂】 日奈久驛の東南約一二軒、百濟來村にあり、日羅自作の地藏尊を安置してその墓標としたものだと云ふ。日羅は葦北の國造阿利斯登の子、宣化

で、胃腸病、リウマチス、腺病、肥胖病などに効くと云ふ。旅館 壽館、旭館、苓州館、吉野屋。

【湯之子温泉】 津奈木驛の西四軒、津奈木川口から渡船の便がある。不知火海に臨み、近く湯之子島が浮び、遠く天草諸島を望む景勝の地である。明礬泉で胃腸病、脚氣、皮膚病などに効くと云ふ。旅館 平野屋、天草屋支店、夏屋外數軒。

水俣驛 熊本縣葦北郡水俣町濱

▽山野西線 水俣久木野間 一四軒三

▽乗合自動車 山野驛行

【水俣町】 (二五圖や五) 水俣、袋兩驛所在地。肥薩國境に近く、八代海に沿ひ、東南から西北に流れる水俣川に跨り、東西約一六軒、南北は約一二軒ある。我が國に於ける空中窒素固定工業の發祥地で、硫酸その他製造が行はれ、城山遊園地、湯出、湯の子の二温泉、龜の首海水浴場を有する。人口二萬五千。

【窒素肥料工場】 水俣驛の西北約半軒、水俣町馬刀瀉にある。日本窒素肥料會社の經營にかゝり、我が國に

天皇の時百濟に使用して國王にその材を愛せられ、勅使再び渡りて漸く歸國を許さる。日羅朝に仕へて百濟政策に與るに及び、百濟人恩率その部下德爾を留めて難波の館に於て日羅を殺さしめた、妻子喪を持して葦北に歸り葬つたと云ふ。

地藏堂の西側山麓權現社の背後には俗にお地藏様の杉と稱する大杉がある。根廻り一八米、地上二米の幹圍九米七、樹高三七米。

【三太郎越】 (二五圖ま4) 肥後より薩摩に入る海岸の峻坂で、三ヶ所にある。肥後田浦驛の東北に於ける赤松太郎峠、佐敷驛の北に於ける佐敷太郎峠、津奈木驛の東北に於ける津奈木太郎峠がそれである。峠の上から八代海、天草諸島を俯瞰する眺觀美は馬車や自動車でこの峠道を越えた時代の旅行者を喜ばせたものであつた。

【湯浦温泉】 (二五圖ま4) 湯浦驛の西半軒、自動車の便がある。湯の浦川畔の閑寂境で佐敷太郎峠を北に望み、遙に天草島が眺められる。炭酸含有アルカリ泉

於ける空中窒素固定工業最初の工場である。明治四十三年フランク及カーロー式を採用して石灰窒素の生産を開始し、大正の末期にはカザレ式によるアンモニヤ直接合成工場を建設し、爾來同式による硫酸の製造を續けて居る。硫酸を製するには先づ空氣を壓縮冷却して液化し、これから窒素を分離する。他方水を強大な電流によつて電解し、水素を得る。この窒素と水素をカザレ式アンモニヤ合成装置に送り、極めて大なる壓力と高温の下に於て、觸媒を用ゐてアンモニヤに合成するのである。次に硫化鐵石を焼いて硫酸を製造し、上記のアンモニヤを吹き込めば、硫酸は純白の結晶として分れてくる。アンモニヤを酸化して硝酸を製造することも行はれて居る。

石灰窒素を變成してアンモニヤを得る方法は現在當工場では行はれないが、石灰窒素その儘肥料として生産することは相應に行はれ、その原料たるカーバイドからアセチレンを發生させて、これから各種の有機合成化學品を製造することは近來益々重要性を加へて居

る。醋酸の合成には既に成功し、昭和七年からその生産を見、醋酸人絹も出来る云ふ。

【湯出温泉】(一五圖や5) 水俣驛の東南一〇軒、自動車の便がある。肥薩の國境に聳ゆる矢筈岳の麓にあり、湯出川の清流に臨んだ幽邃境で、附近に大瀧、小瀧、箱瀧などの勝がある。温泉は昔傷いた鶴が川畔に浴して居たので發見せられ、鶴の湯と呼んだのが湯の鶴となり、更に湯出と轉訛したものだ云ふ。無色透明の鹽類性硫黄泉で温度四五度、神経痛、金創、火傷、リウマチス、胃腸病などに効くと云ふ。旅館 四浦屋、薩摩屋、平野屋、橋本屋。

水俣 鹿兒島間

水俣を出て南下すれば、袋五軒八を経て、熊本縣から鹿兒島縣に入り、米ノ津五軒九、出水四軒三、西出水二軒三、高尾野四軒二、野田郷三軒二、折口五軒四を通じて海岸に出で、海波の彼方に甑列島を望みつゝ南下し、阿久根五軒五、牛ノ濱六軒、西方七軒四、草道七軒七、上川内三軒を過ぎて、川内町三軒に至る。

【米ノ津町】(一六圖ま3) 米ノ津驛所在地。舊稱出水村。鹿兒島縣の北端、廣瀬川河口の右岸に位置し後に矢筈岳を負ひ、前に長島、天草島を望み、築港既に成つて地方の要津をなし、毎日肥後の三角へ汽船が往來する。農蠶業を主とし、米産額多く車蝦の名産がある。人口一萬五千。旅館 ひさこや、大正館、美好屋、軒屋。【野間關址】 米ノ津驛の北凡そ一軒、出水町下鱒淵にある。國道に近い舊道の肥後境にあつて、舊藩時代北薩第一の要關であつた。當時他藩人が關吏に拒まれ、詩歌等を残した事蹟が少くない。

八つ近きころに、遙向ふに波を離れて赤き色の火一つ見ゆ。暫くしてその火左右にわかれて、三つになるやうに見えるが、それより追々に出る程に海上わたり四五里ばかりが間に、百千の数をしらす。明らかなるあり、幽なるあり、滅ゆるあり、燃ゆるあり、低きあり、誠に甚美事にし目を見ろかせり。その火の色皆赤くして、燈籠の火を遠くのぞむが如し。たとへば大坂の天神祭りを觀、數集めて見るに異ならず。實に諸國より來り見るもいたづらならず。

(橘南谿 西遊記)

【鹿兒島縣鶴渡來地】(指定天然記念物) 米ノ津驛下車、米ノ津町、三笠村、高尾野町、野田村等である。海岸の松林に沿ひ、後に岡を控へた廣い水田と畑地で、この附近を荒崎田圃と云ふ。近年渡來する數が著しく増加して一千羽に達すると云はれる。多くは鍋鶴で、眞鶴は數十羽に過ぎない。これ等の鶴は夏季東部シベリヤ、滿洲、北部朝鮮等で蕃殖し、十月中旬に遙々日本海を渡つて、翌年三月中旬までこの地で過すのである。從來阿久根附近を塲として居つたが、近年は晝夜共にこの附近で暮し、晝は早朝から小群をなし、隨所に分散して餌を探つて居るが、夕刻にはこの荒崎田圃の中央に集つて、夜を明かすのである。今阿久根には二、三羽づつ少數のものが見られるに過ぎない。

【出水町】(一六圖ま3) 出水驛、西出水驛所在地。鹿兒島縣の北部に位し、北端は熊本縣に接し、出水城址を負ひ、廣瀬川、平良川に臨む。町の主部落は麓町で出水驛の南に接し、平良川の清流に沿うて居る。農業を主とし、葉煙草の産が多。

人口一萬六千。

【龍光寺】曹洞宗 出水驛の南二軒、出水町武本にある。龜ヶ城址の西麓にあたり、風致に富む。

【上高城墓所】出水驛の南二軒、出水町上高城にあり、島津氏の墓所である。墓地の北端高所に、山田昌巖の墓がある。昌巖は寛永の頃の出水地頭で、勤儉尙武を奨め、出水兵兒の氣質を造つた人で、傍にその頌徳碑がある。

【出水貝塚】西出水驛の北約一軒半、出水郡出水町上知識尾崎にある。臺地上に貝殻散布し、縄紋系土器の外、敲石、砥石、貝輪、人骨等が出土した。

【俊寛墓】野田郷驛の北八〇米、野田村下名にある。口碑によると、俊寛僧都は硫黄島に流されて居つたが、有王丸に救はれ、水路都に歸る途中病に犯され、莊の津で船を棄て、遂に當地の山内寺で死んだのをここに葬つたと云はれて居る。

【黒瀬戸】野田郷驛の西約一〇軒、三笠村と長島との間にある。往古より薩摩の迫戸或は隼人の瀬戸と稱さ

舟泊に適し、全島老松を以て蔽はれ、風致勝れて居る。島内には鹿を放養して居る。

【紗羅自生北限地帯】〔指定天然記念物〕阿久根驛の西南約三五軒、甌島の里村、上甌村及下甌村にあり。紗羅は紗羅科に屬する植物である。

【高城温泉】西方驛の東四軒、自動車の便がある。硫化水素泉で皮膚病、神経病、腺病、リウマチス、婦人病などに効くと云ふ。旅館 梅屋、御幸屋。

【新田神社(新田八幡宮)】〔國幣神社〕上川内驛の南一軒、薩摩郡川内町宮内可愛山頂にある。祭神邇々杵命で、天照大神及天忍穗耳命を配祀して居る。古くより可愛山御陵の前面に鎮座し、神龜二年の創立と傳へ、貞觀中再興したと云ふが、承安三年には今の石段の中腹の邊にあつたのが罹災したので、安元二年山頂に遷つた。慶長七年島津忠恒社殿を改築し、嘉永三年島津齊興の拜殿、勅使殿を除いた社殿の造營があつた。社寶に古鏡七十餘面を藏し、このうちで永仁二年三月十八日、庄左衛門尉友俊施入之の刻銘がある牡丹双鳳鏡

れ、歌枕となつた。南北約八軒、幅三〇米乃至五〇米、潮流干満の時は大河の堤を決するが如く、狂濤盤渦して、百雷の一時に轟くが如く、航海頗る困難である。近時鹿兒島縣營の渡船が設けられた。

【阿久根町】(一六圖三) 折口、阿久根、牛ノ濱三驛所在地。西の方海に沿ひ、米、煙草、燒酎及水産物等を産し、牛深、長崎、甌島と定期船が往來する。阿久根驛附近に五色濱、阿久根温泉、鶴渡來地、戸柱、小松原の二公園等があり海水浴に適する。同驛西方海上約四軒の大島に金刀毘羅神社がある。人口二萬三千。

【阿久根温泉】阿久根驛の西南一軒半、自動車の便がある。炭酸含有食鹽泉で、皮膚病、リウマチス、花柳病などに効くと云ひ、飲用すれば胃弱、便秘などに効がある云ふ。旅館 榮屋、福榮、えびす屋。

【金刀毘羅神社】阿久根驛の西方海上四軒の大島にあり、天明年間島津氏の勸請で、古來舟人の信仰厚く、四月十日の大祭には賽者船に酒肴を調へて遊覽を兼ねて參詣する。島は周圍約四軒、東側彎入して浪穩かに

は國寶に指定されて居る。例祭九月十五日。

【可愛山御陵】新田神社々殿の背後にあり、神龜山、龜山と呼ばれ、圓形で二段に築かれ、上に磐石を被ひ石玉垣を繞らして居る。明治七年太政官布告を以て天津彦彦火瓊瓊杵尊を葬り奉つた筑紫日向可愛之山陵と治定せられた。

川内町驛 鹿兒島縣薩摩郡川内町平佐

▽宮之城線 川内町薩摩鶴田間 三六軒九

▽乗合自動車 高江行

【川内町】(一六圖四) 上川内、川内町、隈之城、木場茶屋、楠元、吉野山諸驛所在地。昭和四年五月隈之城、東水引、平佐の三村を合併して町制を布いたものである。川内川の河口から約一〇軒の上流にあつてこれに跨り、東西六軒に近く、南北約一〇軒、面積七七方軒餘である。平野開けて米を始とし、小麦、甘藷、煙草等の農産多く、近來養蠶、養鶏の副業も發達した。工場には鐵工、製粉、製絲、硝子等に關するものがある。陰曆七月十六日の舟遊は壯觀を呈する。古蹟には

水俣鹿兒島間

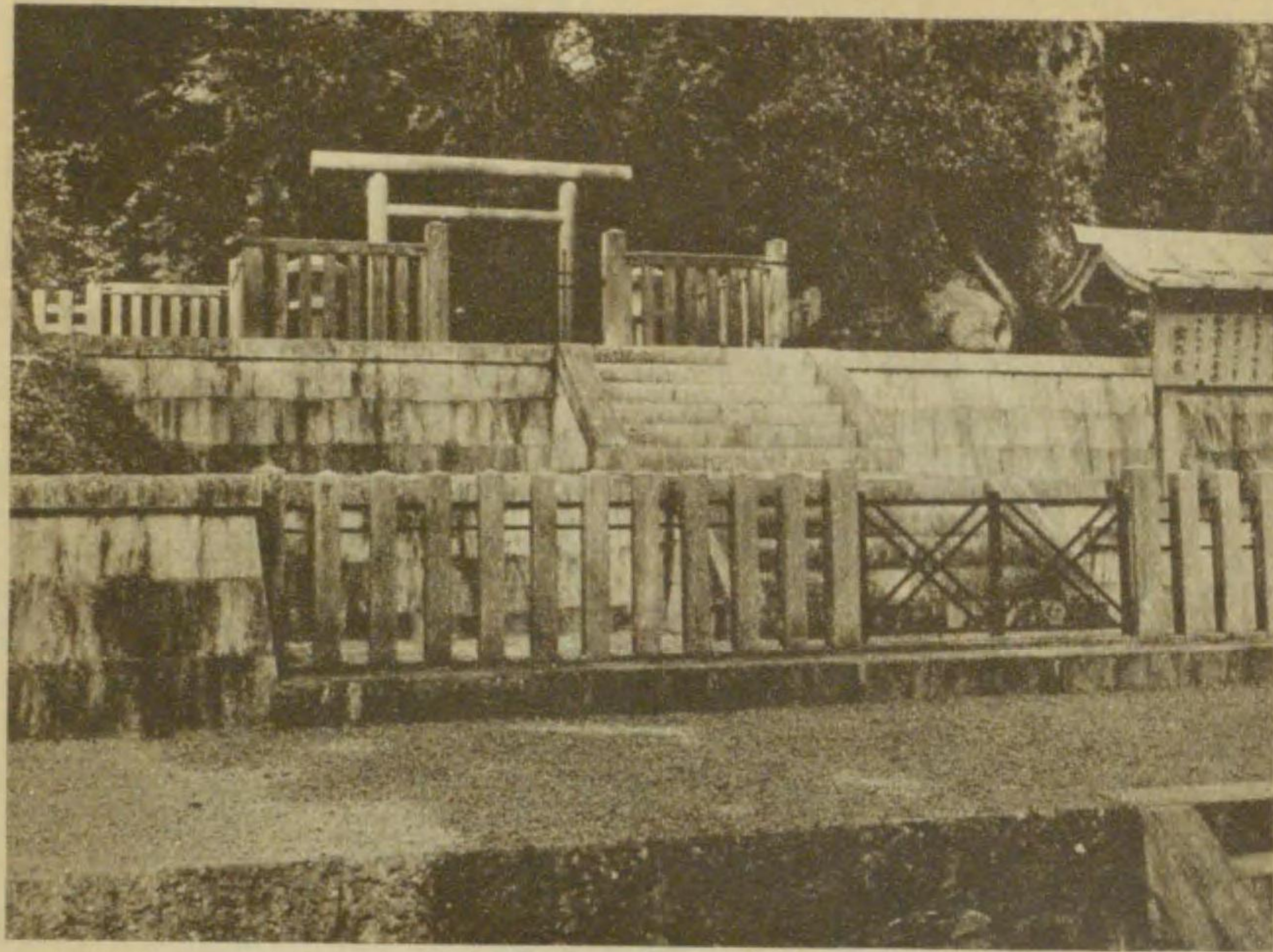
國府、國分寺の址、泰平寺、平佐城、猫岳等がある。人口三萬三千。

宮之城線

この線は川内町から鹿兒島本線に岐れ、川内川流域を大體東北に進み、楠元六軒五、吉野山三軒八、樋脇三軒一、入來五軒三、薩摩山崎四軒七、宮之城五軒九、佐志三軒一、薩摩湯田一軒九を過ぎ、薩摩鶴田二軒六に終つて居り、尙東進して山野線に接する豫定である。

【藤川天神の梅】楠元驛の北約五軒、薩摩郡上東郷村藤川天神境内にあり、臥龍幾度か起伏してその枝張り四〇アール餘に及び淡紅の花をつく。日本一の臥龍梅と稱して居る。

【樋脇温泉】樋脇驛の東南四軒、自動車の便がある。市比野温泉とも云ひ、山間の平野に位し、遙に牟田池山を望み、後に指月山を負うて居る。無色透明の單純泉でリウマチス、濕疹、神經病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 菊翠、綠屋、玉屋、飛瀑莊他數軒。

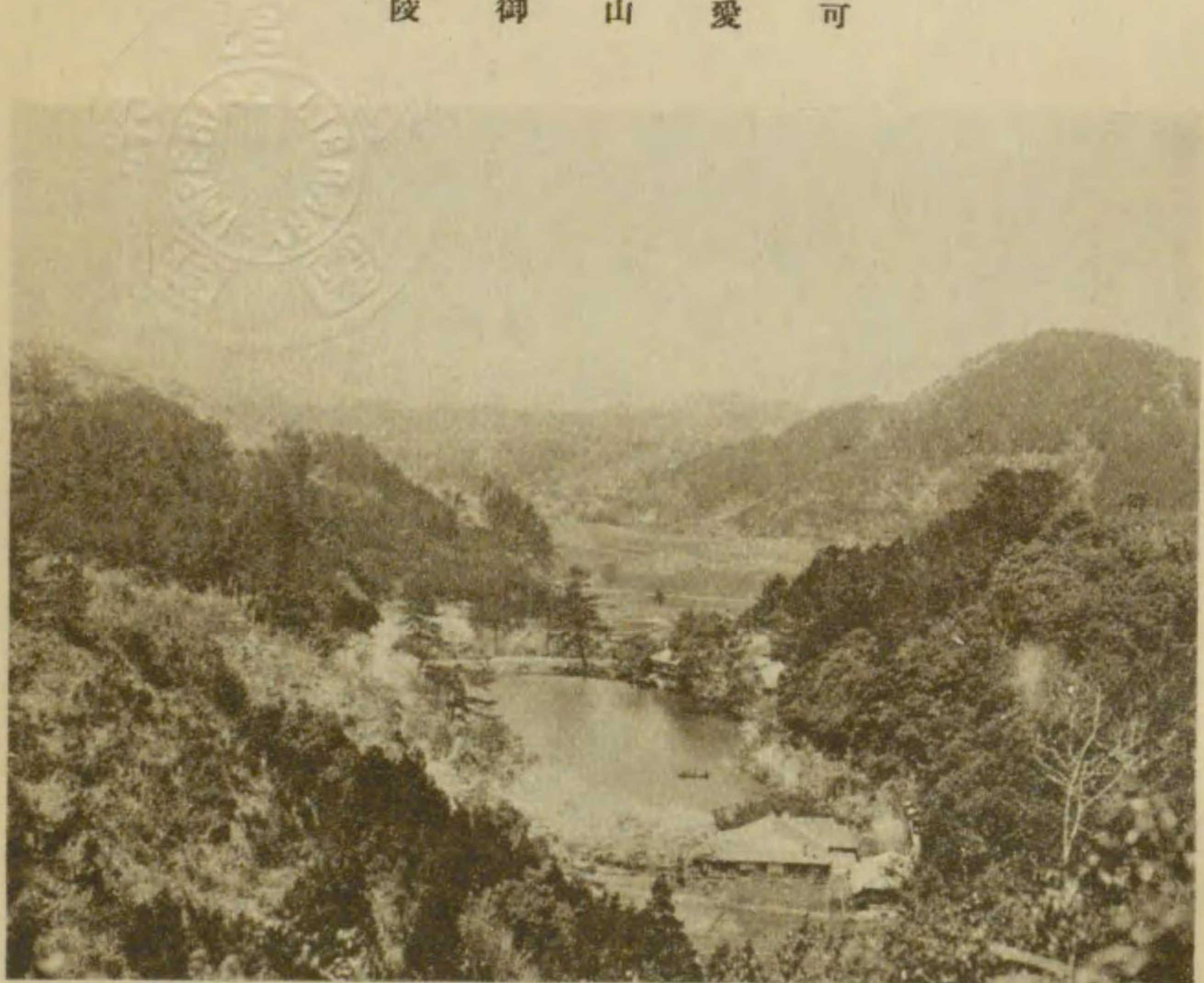


可 愛 山 御 陵

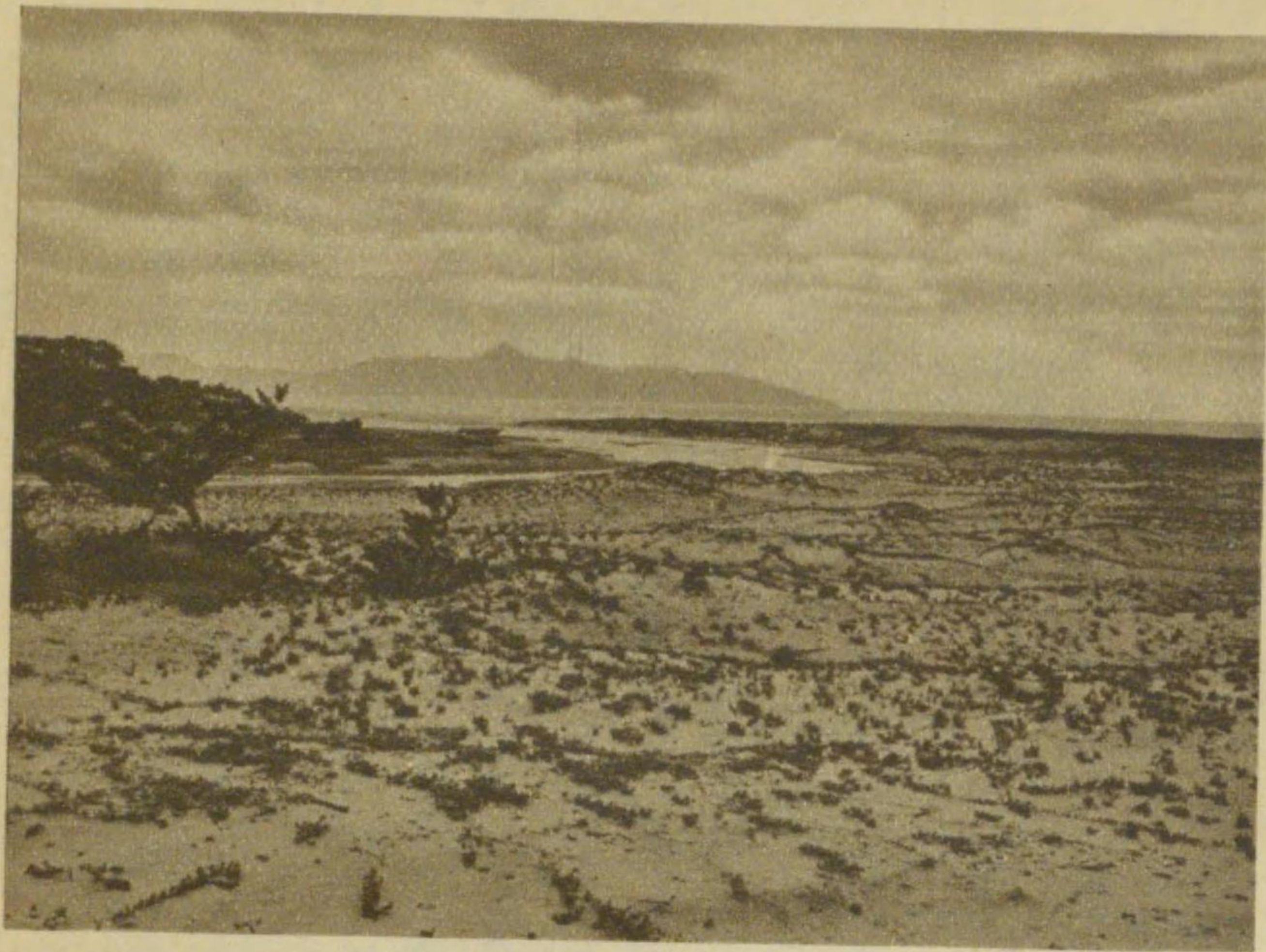
【入來温泉】入來驛から約半軒、一に副田温泉とも云ひ、牟田池山の西麓にあり、弱食鹽泉で外傷、リウマチス、濕疹、神經病などに効くと云ひ、飲用すれば胃腸病、呼吸器病に特効があると云ふ。旅館 松屋、千歳、網代屋他數軒。

【蘭牟田池の泥炭形成植物群落】〔指定天然記念物〕入來驛の東南一二軒、蘭牟田村蘭牟田にあり、途中まで自動車の便がある。池は海拔二五五米の地に位する火口湖にして、略々圓形をなし、周圍約四軒、排水口は自然的のものと人工的のものと二箇あるが、濁水時には排水を見ない。湖の高水は梅雨の節であつて、低水との差三〇厘餘に及び、最深點も二米四を出ないやうである。湖中の水生植物はひつじぐさ、じゆんさいの二種に過ぎず、西方及北方一帶の湖岸には低層濕原が發達し、よし、あんべらるゝふとる等の挺水植物が鬱生し、陸生濕地植物も少くない。

湖岸の濁水せるところ、或は湖岸に近い水中に大小種々の島嶼が散在し、里人はこれを蘭の根と呼んで居



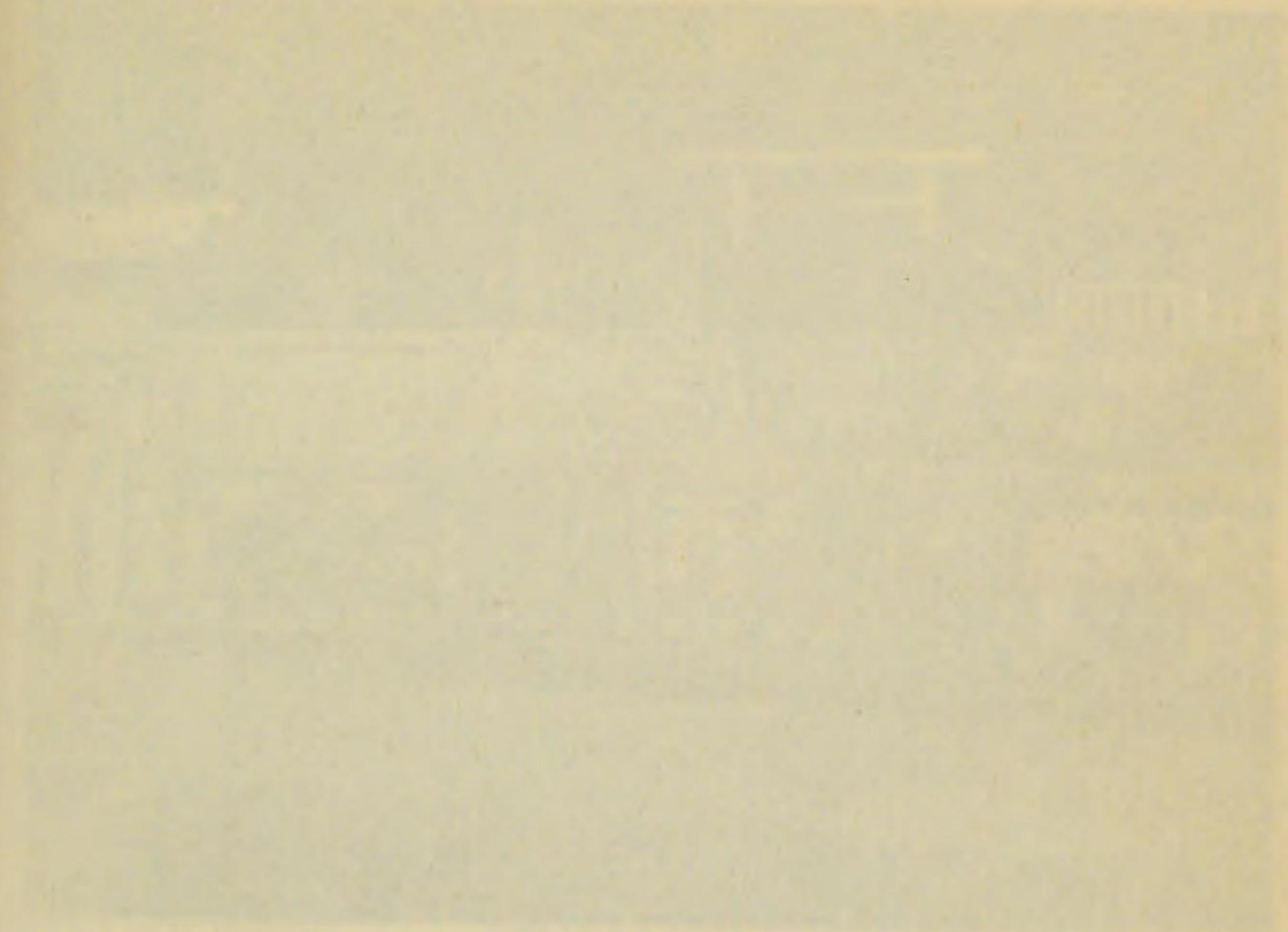
伊 作 温 泉



吹 上 の 濱



坊 の 津



る。何れも植物またはその遺體より形成され、濁水時には湖底に固着し、高水の際には浮遊して浮島をなすと云ふ。これ等泥炭質の島は長幅共に約一米二乃至一米半のもの多く、大なるものは約五五米に及ぶ。島上には種々の挺水植物、濕地植物、純陸生植物等を生じ、その主なものは、よし、あんべらゐ、あしかき、さんかくゐ、ほしやまあは、すゝき、かりまたかや、ひともとすゝき、やのねくさ、ゑぞみそはぎ、ぬまとのを、こしだ、はひごけ、こぶなぐさ及黒松である。

【宮之城町】(一六圖は4) 宮之城驛所在地。川内川に跨り、宮之城盆地を占め、養蠶が盛んで、製絲業行はるこの地は祇峯院の中樞で、往古は虎居城または下城と唱へ、北郷一雲所領の時宮之城と改め、大前氏の時初めて城を築いた。その城址は驛の西一軒屋地の地に残る。人口一萬四千。

【轟ノ瀬】 宮之城驛の北二軒、宮之城町虎居、永野金山から流下する金山川の合流點にある。奇巖怪石凸凹し、瀧津瀬狂奔して壯觀である。

【宮之城温泉】 薩摩湯田驛の西北二軒、川内川の上流に沿ひ、紫尾山を西に望む。温泉は食鹽含有硫黄泉と單純泉とあり、皮膚病、リウマチス、腺病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 林田。

本線に戻つて川内町から尙南下すれば、隈之城 二軒六、木場茶屋三軒一、串木野六軒三、それより東南に向ひ、市來 四軒六、湯之元 三軒八、東市來 二軒五を通過して伊集院 五軒九に至る。南薩鐵道の分岐點である。

【串木野港】(一六圖は5) 串木野驛所在地、西薩摩第一の漁港で、遠洋漁撈に従事する漁船の出入多く、水産年額二百萬圓に及ぶ。また三井鑛業經營の金山あり、鑛産年額二百九十萬圓、港から甌島への定期船が出る。人口二萬八千。

【市來温泉】 湯之元驛の南半軒、湯之元湯泉とも云ふ。二百數十年前、西市來の金鐘寺の僧が露天に浴槽を設けて一般に入浴せしめたのがこの温泉の起源で、坊主湯の名の起りである。明治維新前は藩の直轄經營で、

御前湯、地頭湯、坊主湯、打込湯に四分され、藩主の御假屋なども設けられて居た。近年盛に掘鑿せられ、明礬湯、福の湯、朝日湯、日之出湯、田の湯等あり、鹿兒島、川内人士の歡樂境として榮え脂粉の香が濃い。温泉は食鹽含有硫黄泉で皮膚病、リウマチス、腺病、婦人病などに効くと云ひ、明礬湯は眼疾に特效があると云はれて居る。

附近には山海の眺観を有する遠見番山、稻荷山連丘の七曲峠、湯田橋近くに懸る大瀑、鶴丸城址、來迎寺内に丹後局の墓などあり、西方海岸には海水浴に適する赤崎濱、戸崎鼻、江口蓬萊の勝あり、吹上濱の長汀がながく南に續いて居る。旅館 朝日屋、玉屋、菊屋、二葉他數軒。

【やつこさう 發生地】「指定天然記念物」湯之元驛の南八〇〇米、日置郡東市來村湯田にある。「やつこさう」は形の似たるを以て名づけられ、茶褐色にして高さ僅に三纏に過ぎない小植物である。檜の根に寄生して上端に花を開き、奇態を呈する。

西海岸吹上濱の一部伊作川の流れる地方を占め、農蠶業を主とするが、藩政時代に武士の内職として抄紙を奨励したのに始まり、今も伊作紙の産があり、また日置瓦を産する。人口一萬四千。

【千本樟】伊作驛の東八〇〇米、伊作町中原字宮内にある。數十株の老樟繁茂し、幹枝盤屈して奇觀である。【大汝牟遲神社】伊作町中原字宮内にあり、八幡神を併祀して俗に入幡社と云ふ。十月廿五日の大祭には古式流鏑馬の行事がある。

【伊作温泉】同伊作驛の東約二軒、自動車の便がある。東南に山を負ひ、北に湯の浦川の流あり、西は展けて名高い吹上濱に接して居る。泉質は食鹽含有硫黄泉で皮膚病、リウマチス、腺病、婦人病、花柳病などに効くと云ふ。旅館 緑屋、福住外數軒。

【吹上濱】(一六圖まら) 同吹上濱驛下車、薩摩半島の砂濱で、川邊郡萬世町、日置郡田布施村、伊作町、永吉村、吉利村、東市來村、日置村、市來町、串木野村に互り、長さ凡そ四〇軒、老松繁茂して悉く砂に埋れ、

伊集院驛

鹿兒島縣日置郡伊集院町徳重

▽南薩鐵道

伊集院阿多加世田枕崎間 四九軒六

▽薩南中央鐵道

加世田薩摩大崎間 二軒五
阿多知覽間 一六軒六

▽乗合自動車

郡山行

【伊集院町】(一六圖はら) 中薩地方交通の要衝で、農蠶業を主とする。町の西北苗代川部落は薩摩燒窯の發祥地と稱し、現にその一製陶地である。人口一萬一千。

【徳重神社】「縣社」伊集院驛の東北約四〇〇米、伊集院町徳重にある。往昔は法智山妙園寺と稱する禪刹で、島津氏の菩提寺であつたが、明治初年廢佛の際、島津義弘の神靈を奉祀して、闔村の總廟としたのである。

舊曆九月十四日の祭典には、鹿兒島市内の青年達が甲冑または陣羽織を着し、武器を携へて壯烈な行列を作り、約三二軒の行程を夜を徹して當社に參詣する例となつて居る。世に云ふ妙圓寺詣はこれである。義弘が關原役に於ける苦戰を記念するものであると云ふ。境内は老樹陰森として、碧瓦朱欄を圍んで居る。

【伊作町】(一六圖まら) 南薩鐵道伊作驛所在地。薩摩の

僅に梢幹を露し、殆ど稚松の密林を觀る感がある。吹上の松は眞砂に埋れて老木ながらの「小松原かな」とはよく眞景を詠んだものである。この地方は一朝西北の烈風が起れば、白砂は濃霧の漲るが如く空に吹き上げられ、遠い村落に及ぶから、近傍の民家は田圃の埋滅を慮れて各々防砂林を設けて居る。砂丘の最も高きものは蓮の峠と呼ばれて田布施村高橋に屬し、高橋の吹上の名もある。

【川邊町】(一六圖はら) 薩南中央鐵道(阿多知覽間一六軒三分)薩摩川邊驛所在地。四方連山に圍まれた盆地で農蠶業を主とし、甘藷、葉煙草、燒酎の産がある。川邊は淡灰色細文を帯びる陶器で、雅致がある。人口一萬八千。

【松ヶ嶽】薩南中央鐵道薩摩川邊驛の西三軒、廣瀬川の下流にかゝり、高さ一二米餘、下方に發電所がある。

【八瀬尾瀧】薩南中央鐵道薩摩川邊驛の東一〇軒半、八瀬川の上流密林中に懸れる大小數層の瀧より成り、

高さ各々二四米乃至二七米、その最下層のものは約二九米頗る壯觀である。粘板岩が極度に侵蝕され、頗る奇状を呈して居る。

【知覽町】(一六圖は7) 薩南中央鐵道終點知覽驛所在地。農業を主とし赤石鑛山からは金を産する。町内に農事試験場分場、知覽城址、爲朝陣址等がある。人口二萬。

【加世田町】(一六圖は6) 南薩鐵道加世田外入驛の所在地、農業を主とし、焼酎の醸造が多い。町内に南薩鐵道會社、川添瀑、島津日新墓、陰陽石などがある。人口一萬七千。

【枕崎町】(一六圖は7) 南薩鐵道終點枕崎驛所在地、薩摩半島南端海岸に位する漁港で、鰯、鰹の漁獲年産七十八萬圓、鰹節製造年額百四十萬圓に達し、豚の飼養も行はれる。町には漁業組合立の無線電信所、縣立細菌研究所、水産學校、造船所等がある。港口の立神岩は高さ四二米、港の風景を添へる。人口二萬七千。
【松の尾海岸】 同枕崎驛の西約半村、自動車の便があ

る。直に大海に望み、南濱杳然として波上渺茫、遙に南海の諸島、硫黃島、竹島、黒島等を望み、附近一帯白砂青松の景勝地である。

【坊ノ津】(一六圖は7) 同枕崎驛の西約八村半、自動車の便がある。途中の耳取岬は山海の展望がよい。坊ノ津は我が國最古の貿易港で、風光また勝れて居る。往古遣唐使の發船地たりしことがあつて、唐湊の稱があつたが、長崎港の勃興と共に次第に沈衰した。しかし勝景は依然として一幅の畫景をなして居る。

坊ノ津の小學校庭は一乘院址である。一乘院は僧日羅の開創にかゝり、西海の名刹で名僧輩出したが、明治維新の際廢滅した。こゝの校庭は坊ノ津の風景觀賞の適地である。

【蘇鐵自生地】(指定天然記念物) 同枕崎驛の西北一八村、川邊郡西南方村にあり、自動車の便がある。蘇鐵の北限地帯を保存せんとするものにして、斷崖に簇生し壯觀を極める。西北の笠砂村はへご自生北限地帯に屬し天然記念物に指定されて居る。

鹿兒島本線は伊集院から東南に向ひ、饅頭石七村七を經て、薩摩半島を横切り、北折して西鹿兒島九村六に入りて指宿線を南に岐ち、それより市内を走つて城山トンネルをくゞつて、鹿兒島三村二に著く。

西鹿兒島驛 鹿兒島市武町

▽指宿線 西鹿兒島指宿間 四八村九

鹿兒島驛 鹿兒島市濱町

▽鹿兒島市營電車 本線 鹿兒島驛前谷山間 九村五
支線 高見馬場伊敷間 三村

高見馬場西鹿兒島驛間 〇村九

朝日通柳町間 二村一

▽乗合自動車 市内行、都城市行

一日平均

乗車人員 一、六六三人 降車人員 一、六三三人

發送貨物噸數 三三三噸 到著貨物噸數 四一九噸

主要發送貨物 砂糖、肥料、木炭、人造肥料、大豆、木材

主要到著貨物 丸太、米、葉煙草、木材、人造肥料、麥

【鹿兒島市】(一七圖) 鹿兒島、西鹿兒島兩驛所在地。

水俣鹿兒島間

鹿兒島灣の西岸に位し、東西約一四村八であるが、南北はこれよりも長くて一五村二に達し、面積約七八方村である。北西南の三面には丘陵多く、東面には平地連なり、甲突川東流して海に注ぎ、市街を南北の二大部に分けて居る。

この地は雄藩島津氏の舊城下で、今は縣治の中心をなし、近年伊敷村の一部を、昭和九年中郡宇、西武田、吉野の三村を編入して市域を擴めた。生産總額は昭和七年に約一千二百萬圓で、その九割五分は工業が占め、工業に蠶絲類、肥料等がある。薩摩燐、錫製品は有名であるが、産額は多くない。港は開港になつて居るが、取引額は未だ少い。航路は對岸の垂水、古江、薩南諸島の種子島、屋久島、大島、琉球列島の沖繩島等に達する。市内で最も繁華な通は天文館通である。人口十七萬四千。

▽官公廳その他 市役所(山下町)、縣廳(同)、地方裁判所(同)

地方專賣局(榮町)、税關支署(生産町)、税務署(易居町)、歩兵第三十六旅團司令部(市外伊敷村)、歩兵第四十五聯隊(同)、聯隊區

水俣鹿兒島間

司令部(山下町)、營林署(春日町)、無線電信局(山下町)、保線事務所(濱町)、運輸事務所(同)、商工會議所(築町)、商工獎勵館(山下町)、第七高等學校造士館(同)、高等農林學校(上荒田町)、高等商業學校(長田町)、圖書館(山下町)、公會堂(同)、教育會館(同)、ジャパンプーリストビューロー案内所(山形屋内)

▽銀行 鹿兒島商銀(六日町)、農工銀行(東千石町)、第四十七銀行(金生町)、鹿兒島勸業銀行(大黒町)、鹿兒島銀行(六日町)、鹿兒島貯蓄銀行(同)、十五銀行支店(金生町)、安田銀行支店(同)、三州平和銀行支店(同)、不動貯金銀行支店(山之口町)

▽會社 工場 鹿兒島電氣會社(六日町)、日本水電會社(武町)、薩摩製絲會社(原良町)、鹿兒島南海鐵道會社(金生町)、薩摩興業會社(藥師町)、鹿兒島製水會社(武町)、林田乘合自動車會社(東千石町)、鹿兒島化學研究所(高麗町)、鹿兒島製菓會社(堀江町)、鹿兒島印刷會社(東千石町)

▽百貨店 山形屋百貨店(金生町)

▽新聞社 鹿兒島新聞社(山下町)、鹿兒島朝日新聞社(易居町)

▽旅館 一力旅館(東千石町)、右田旅館(同)、明治館(同)、小田旅館(山下町)、岩崎谷莊(同)、滿洲館(同)、常盤旅館(同)、本千歲旅館(同)、龍潛館(同)、松屋旅館(同)、薩摩屋本店(同)、薩摩屋別莊(同)、山城屋旅館(築町)

こゝから北に琉球人松がある。

【きいれつちとりもち産地】〔指定天然記念物〕鹿兒島驛の東北一軒半、市内吉野にあり、自動車の便がある。磯一帯の山林にあるとべらの根に寄生し、普通のつちとりもち(土鳥鶏)とは花部の形状を異にして居る。この植物は揖宿郡喜入村で始めて発見された。

【尙古集成館】鹿兒島驛の東北二軒半、市内吉野にあり、自動車の便がある。石造平屋建、面積九アール(二百七十三坪)を有し、堅牢な構造である。もと島津齊彬が軍備の充實と産業の振興を圖らんがため嘉永五年設立した製作所で、安政四年集成館と命名せられた。當時主として鑄砲、製鐵、機械製造、硝子、陶磁器、農具等の製作等を行つたが、文久三年七月、薩英戦争の際砲火のため一旦灰燼に歸したのを島津忠義これが再興を企て、蒸氣鐵工機械を長崎の英人より購入し、集成館内に機械所を設け、慶應元年三月竣工し、銃砲その他を製作し、爾來大正四年まで鐵工場として蒸氣機關その他の機械類の製作を繼續した。大正十二年島津

水俣鹿兒島間

▽料理店 平野(松原町)、玉むら(同)、紫明館(同)、青柳(同)、いろは屋(東千石町)、西むら(山之口町)、千鳥(山下町)、大觀樓(南林寺町)

▽娯樂場 〔劇場〕南座(南林寺町)、中座(東千石町)〔映畫館〕高島館(山之口町)、昭和館(同)、帝國館(同)、富士館(同)、大統館(武町)

▽土産物 大島綿、絹薩摩、竹製品、薩摩焼、錫器、文旦館、兵六餅、文旦漬、かるかん、薩摩漬、鹿兒島漬

廻覽順路 鹿兒島驛—私學校址—照國神社—城山公園—西郷南洲洞窟、終焉地—南洲神社、南洲墓、記念館—祇園の洲—尙古集成館—磯島津邸—天文館通—東郷元帥、大久保甲東、西郷南洲誕生地—鴨池公園—天保山—月照上人墓—西郷南洲居宅址—玉里島津邸—武岡公園—西鹿兒島驛

【祇園の洲】(一七〇かき) 鹿兒島驛の東北約五百米、市内清水町稻荷川の河口にあり、自動車の便がある。文久三年生麥事件のため、英艦が鹿兒島を砲撃した際に於ける薩藩應戰防禦の砲臺の址、その記念碑、明治十年戰役戦死者の墓があり、風光賞すべき公園である。

忠重舊館を修築して現稱に改め、齊彬、久光、忠義の事績を徴する資料を主とし、その他薩藩關係の各種資料を蒐集陳列し、昭和二年より市の經營の下に有料で公開して居る。總點數約千五百點に及び、維新史及近世文化史の資料を多數に藏し、他所で觀られないものが多い。その主要のものを擧げると左の通りである。

- 一 葡萄牙鐵砲 天文年間種子島に傳來せるもの 一挺
- 一 一種ヶ島鐵砲 八板金兵衛作 一挺
- 一 島津齊彬筆羅馬字日記 嘉永初年のもの 一帖
- 一 薩摩版及薩摩關係刊書 五八種
- 一 薩摩陶器、磁器類 四四種
- 一 文祿年間、島津義弘朝鮮陶工金海をして瓷器を製せしめ、帖佐、加治木に窯業を奨励せしに始まる。家久、齊彬、忠義亦何れも改良を加へた。
- 一 薩摩硝子 五十點
- 一 弘化年間島津齊興の時、江戸の工人四本龜次郎を招き、中村製煉所にて製造したのに始まり、齊彬の時製造所を集成館に移し、紅硝子、水晶硝子、板硝子をも製するに至つた。
- 一 舊集成館使用の旋盤及削盤 二臺
- 一 西曆千八百六十三年(文久三年)の刻銘がある。
- 一 舊紡績所使用器械の一部 數種

水俣鹿兒島間

慶應元年新納刑部五代友厚渡英の際、マンチエスターのプラツト會社から購入したもの、一部である。同三年から磯に工場が建設せられた。

館の西南三〇米に紡績所址の記念碑があり、傍に明治天皇御駐蹕趾碑、照國公製艦記念碑等が建つて居る。

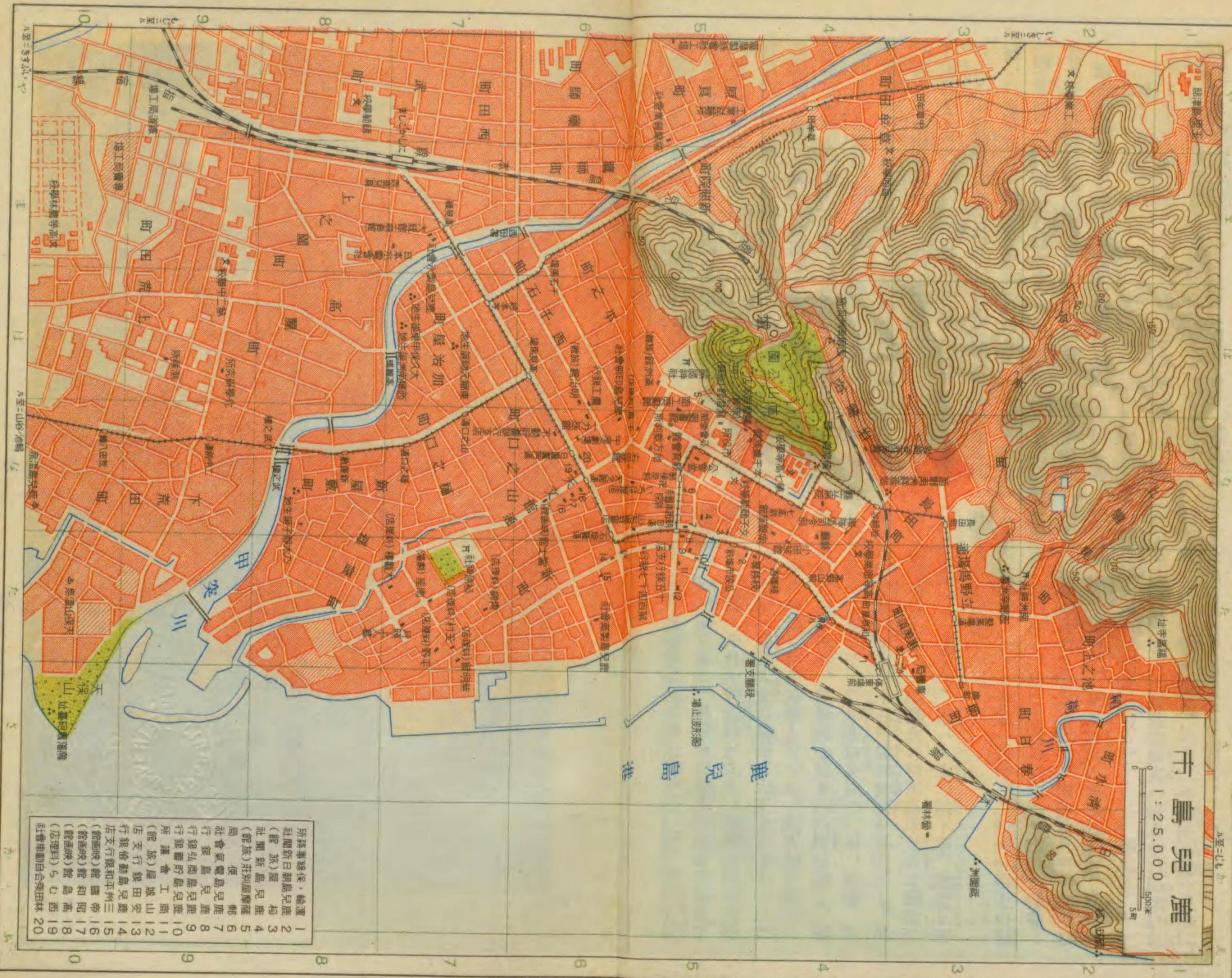
【磯島津邸】 同市内吉野にある。尙古集成館の東北に續いた島津家の別業で萬治年間島津光久が創建したものに、かゝり仙巖園と名付けられた。邸宅は清楚なる純日本建であるが、庭園は前面に錦江灣及櫻島を取入れ背面に磯山を負ひ、泉石、樹木の配置これと相和して雄大の趣をなして居る。庭内の小亭は琉球王の獻上したものと云ひ、明代の風を傳へ、王羲之筆と云ふ望嶽樓の扁額がかゝつて居る。後方にある孟宗竹林は元文元年、島津吉貴が琉球國より支那から輸入せられた孟宗竹二株を需めて移植したものが繁殖したもので、内地に擴まつて居る江南竹の元祖である。尙古集成館または南洲翁記念館の參觀者は無料參觀が出来る。

【鶴嶺神社】 「縣社」 尙古集成館の東にある。島津義久

以下歴代藩主の靈を祀り、明治二年島津忠義の創建にかゝる。社寶の太刀は備前住雲次の銘あり、島津忠重の寄進狀を添へ、國寶である。

【南洲月照入水遺址】 磯島津邸の東北約一軒、國道に沿うた海岸の花倉と呼ぶ地點に、南洲及月照を收容した漁夫の家が存し、傍に二基の記念碑が建つて居る。入水したのはこれより東北一軒半、三船神社附近の海中である云ふ。

【福昌寺址】 (一七圖た一) 市バス堂の前下車、池之上町長谷場墓地にある。寺は應永の初年島津元久の創建にかゝり、伊集院忠國の子石屋眞梁禪師を開山とし、累代島津氏の菩提寺で、堂塔宏壯を極めたが、延寶、享保兩度の火災に罹り、維新後寺堂を川内町に遷し、墓所のみをこの地に存する事となつた。元久以下歴代の墓が存するが、島津久光の墓側に大正十五年十一月勅命に依つて建てられた神道碑がある。篆額は伏見宮博恭王殿下の御筆である。島津齊彬墓及同忠義墓も並び存する。別に島津家墓地の後方の小高い所に開山石屋



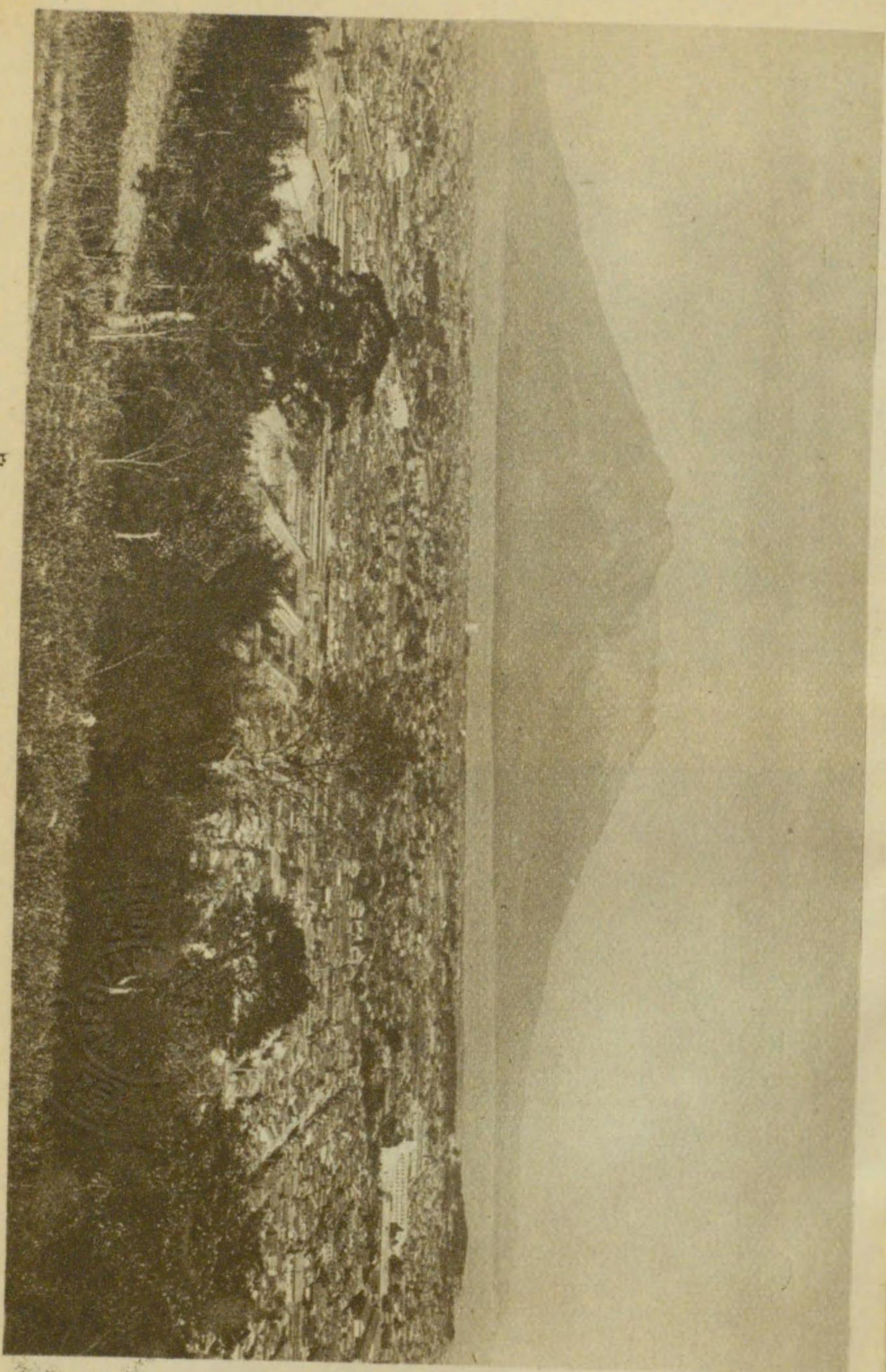
鹿兒島市

1 : 25,000

500米
500
1000

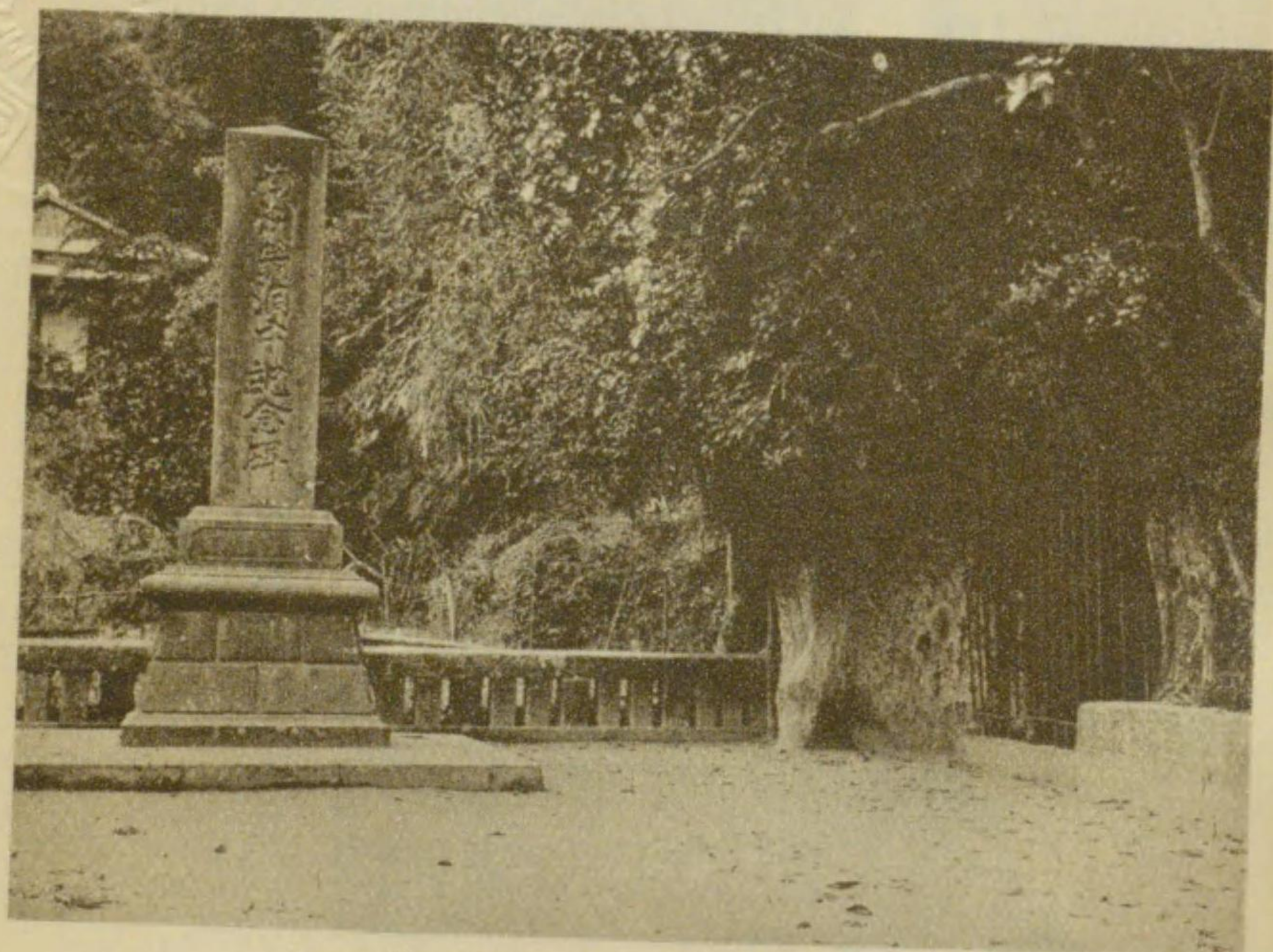
- 1 所轄事務維持、輸運
- 2 鹿兒島新日報社
- 3 (鹿兒島) 鹿兒島
- 4 (鹿兒島) 鹿兒島
- 5 (鹿兒島) 鹿兒島
- 6 (鹿兒島) 鹿兒島
- 7 (鹿兒島) 鹿兒島
- 8 (鹿兒島) 鹿兒島
- 9 (鹿兒島) 鹿兒島
- 10 (鹿兒島) 鹿兒島
- 11 (鹿兒島) 鹿兒島
- 12 (鹿兒島) 鹿兒島
- 13 (鹿兒島) 鹿兒島
- 14 (鹿兒島) 鹿兒島
- 15 (鹿兒島) 鹿兒島
- 16 (鹿兒島) 鹿兒島
- 17 (鹿兒島) 鹿兒島
- 18 (鹿兒島) 鹿兒島
- 19 (鹿兒島) 鹿兒島
- 20 (鹿兒島) 鹿兒島

鹿兒島



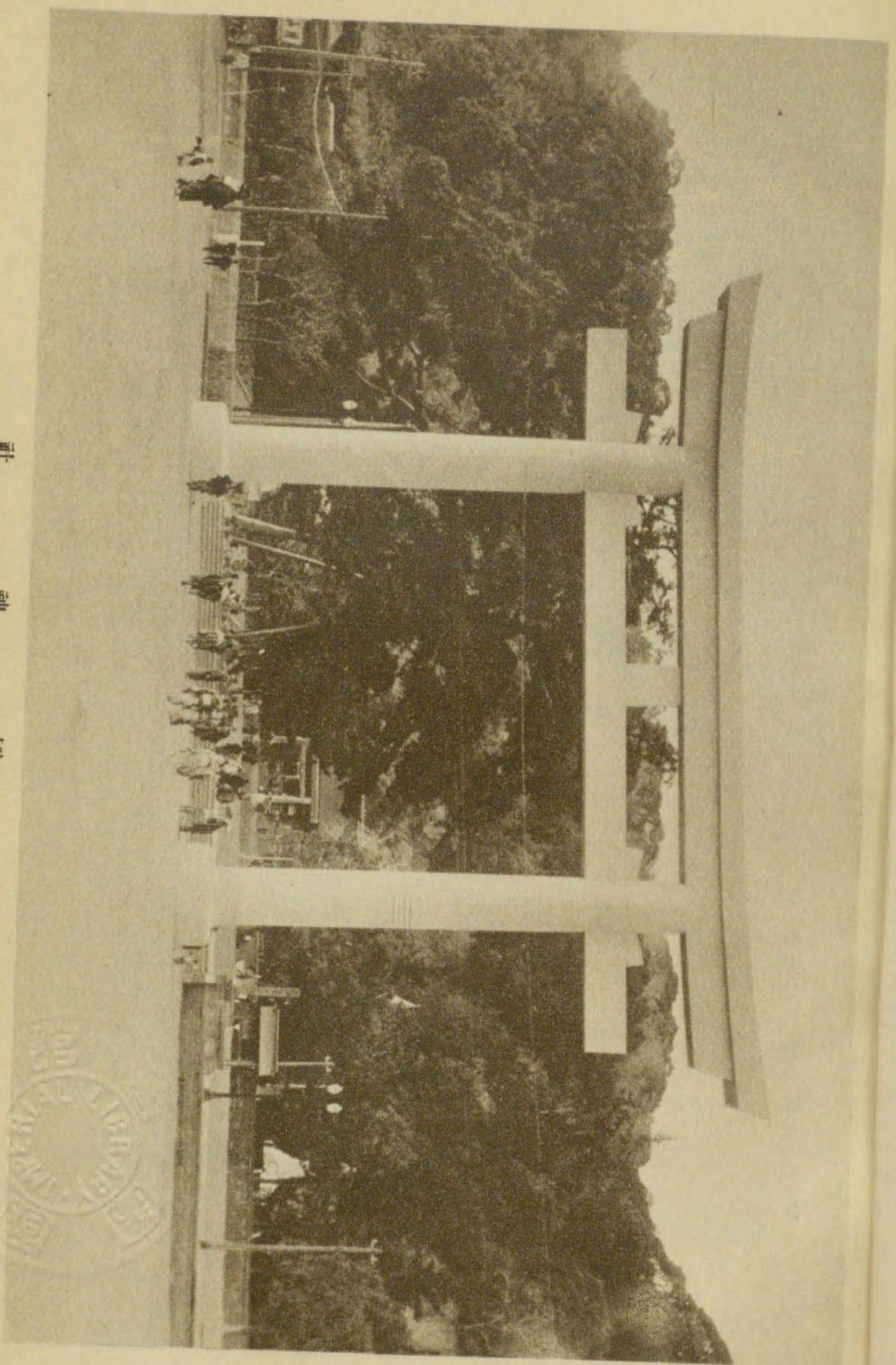


西 南 洲 墓

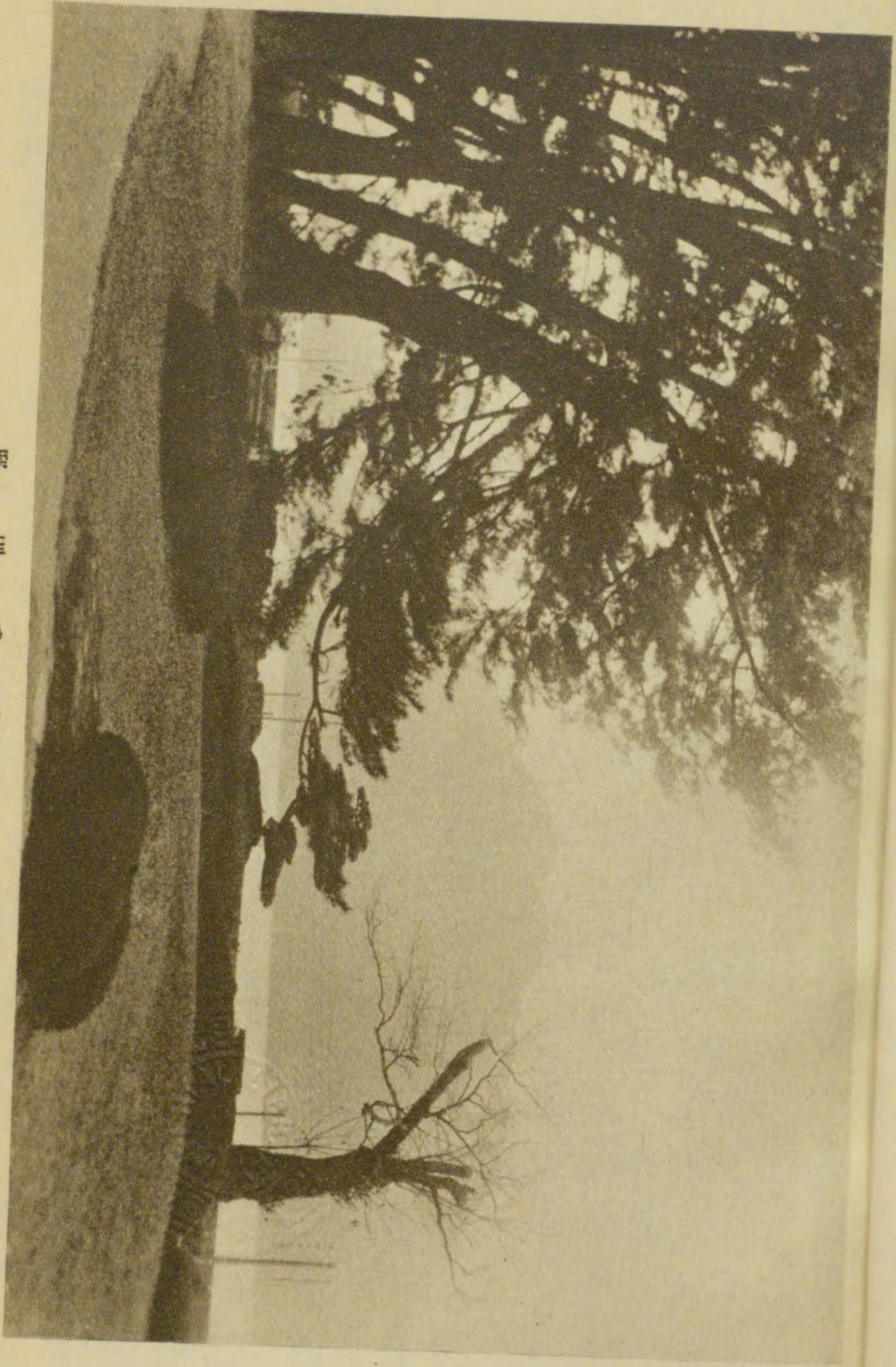


西 南 洲 洞 棺

社 神 國 照



鳥津家磯別邸



禪師の墓がある。

【西郷南洲墓】(一七圖三) 市電佐藤小路または豎馬場通下車、市内龍尾町、淨光明寺の墓地にあり、數十級の石段を上つた正面に南洲即ち隆盛の墓あり、その左右に桐野利秋、村田新八以下諸將の墓が並んで居る。石段の左側には東京上野公園銅像の原型となつた高村光雲作にかゝる南洲の木像が安置せられて居る。累々として存する墓は總數七百四十八基あり、十代二十代の幼少年者の墓が多く存する。

【南洲神社】(一七圖二) 墓地の東に隣りて建てられ、西郷隆盛を祀る。もと南洲祠堂と稱せられ、大正十一年現稱となつた。前面右側に別に小社殿あり、桐野、篠原、村田以下の將士の靈を合祠して居る。

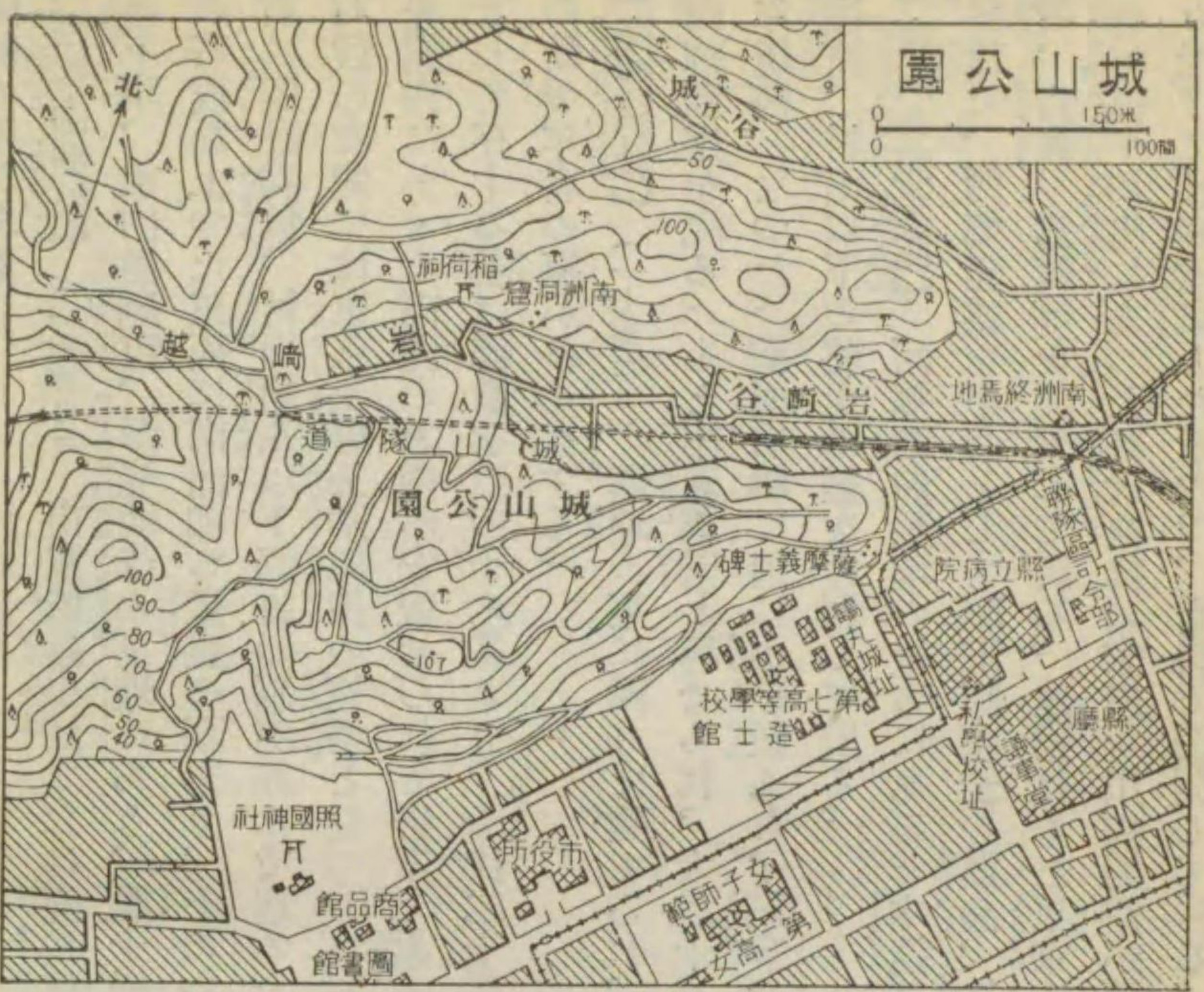
【南洲翁記念館】 西郷南洲墓地の後方にある。木造平屋建てで、西郷隆盛を中心として麾下諸將士の遺品、遺墨、肖像、寫眞等を陳列して居る。建物はもと東京市麴町區平川町にあつた高倉典侍の家屋を川崎男爵が譲り受けて移轉改築したもので、有料で公開して居る。

明治維新及十年役に關する貴重な史料が多い。

【鶴丸城址】 市電七高前下車、市内山下町第七高等學校造士館構内にあり、島津氏の居館鶴丸城の址である。以前は上山城と呼ばれ、觀應の頃上山氏の居城として知られたが、鶴丸城は慶長年間島津家久の構築にかゝり、明治初年まで十二代約二百年間の島津氏の總治所で、高い石壘、濠池、擬寶珠附石橋等が昔時の倂を留め、明治五年六月の明治天皇行幸記念の碑が建つて居る。

【縣立病院】(一七圖四) 市電七高前下車、市内山下町にある。明治七年征韓論破れて故郷に歸つた西郷南洲が薩南の子弟のために、私學校を設けたところで、石堀には今尙十年役當時の彈痕が無數に遺つて、當年を偲ばせる。

【薩摩義士碑】(一七圖五) 市電七高前下車、市内山下町、城山公園東入口にある。寶曆年間木曾川治水工事の恩人で、豫算超過の責任を以て割腹した平田靱負以下五十名の義士の弔魂碑で、大正九年の竣工である。



【西郷南洲終焉地】(一七圖は4) 市電岩崎谷下車、山下町岩崎谷の入口で、南洲墓の西南半軒に當り、明治三十二年九月建つる所の記念碑がある。明治十年九月廿四日未明官軍兵を集中して薄り、隆盛諸將士を率ゐて洞窟を出で、谷を下つたが、流弾に中りて遂に別府晋介に介錯を命じて果てた。歳五十一。桐野利秋、村田新八始め諸將士奮戦の後、悉く岩崎谷に於て討死した。隆盛の流弾に中つたのは洞窟と終焉地との途中にある現在岩崎谷莊の庭前の邊であつたと云ふ。

【西郷南洲洞窟】(一七圖は4) 南洲終焉地の西南約半軒、市内山下町城山の北麓岩崎谷の凹溪にある洞窟で、明治十年九月薩軍城山を死守し、同月十九日日本營をこの洞窟に移し、城山陥落の日まで隆盛の起臥した所で、前面に碑が建つて居る。

【城山】(指定天然記念物及史蹟) (一七圖は4) 鹿兒島驛の西南一軒半、市街の西北にある山丘で、海拔二七米。市の全景と共に櫻島、高千穂峯、開聞岳等も望まれ、市中風光第一の地である。

山の北方岩崎谷と呼ぶ一凹地あり、明治十年西郷隆盛、三州の壯士を率ゐて肥後に出で、官軍に抗したが破られ、日向の可愛岳に據つたがまた重圍せられ、乃ち麾下七百を以て奮闘して血路を開き、故山に還りてこの谷に入り、尙も據守する事二十餘日、九月廿四日を以て陥落し、隆盛股肱の將士皆戦死した。

城山は天然の森林公園で大樹鬱蒼と茂り、多数の亞熱帯常緑潤葉樹繁茂し、殊にきんもくせい(の)の自生あるによつて著しい。樹上には種々の蔓性植物纏繞し、林底には多数の草類及暖地性羊齒の群落あり、種類の多いのと、發生の盛んなことは九州南部の樹林中で代表的のものである。自生植物にばりばりの樹、しようべんの樹、ばくちの樹等もある。城山公園の面積約一六ヘクタール、頂上まで昭和七年に完成した新道が通じて居る。

【照國神社】(別格官幣社)(一七圖は5) 鹿兒島驛の西南一軒半、城山々麓にあり、自動車の便がある。島津齊彬を祭神として居る。齊彬は幕末の鹿兒島藩主で、夙に

西洋文化の研究に先鞭をつけ、反射爐を造り巨砲を鑄造し、薩摩火薬を創め、水雷、地雷、電信等の諸機械を研究したが、嘉永六年幕府に献策して大船禁制を解かしめ、翌年幕府の軍艦四艘を造りて獻じた。また勤王論を唱導したが、藩政に當る事八年、安政五年七月薨じた。文久二年從三位を追贈せられ、翌年社殿を創建した。明治二年贈從一位の宣命あり、照國の神號を賜はり、同六年縣社に、同十五年別格官幣社に加列し同三十四年五月正一位を追贈せられた。社殿は明治十五年の再建で、同四十一年の改築を経たものである。境内に齊彬、久光、忠義の銅像が建つて居る。社寶の太刀は國宗の銘あり、島津忠重の寄進狀一通を添へ、國寶に指定せられて居る。例祭十月二十八日。

【フランシスコザビエル渡來記念堂】市バス上の平目附下車、市内山下町にある。ザビエル師が天文十八年七月二十二日(西曆千五百四十九年八月十五日)鹿兒島に到着し、藩主島津貴久の許可を得て藩内に布教し、我が國に於いて最初のキリスト教傳道をなした事を記

念するため、明治四十年に建設されたものである。

【天文館通】(一七圖な6) 市電天文館通下車、市内山之口町にある。鹿兒島市第一の歡樂境にして、活動館、カフェー等不夜城の觀を呈する。

【俊寛堀記念碑】 市電天文館通下車、市内中町にある。市の中央に位し、俊寛が鬼界ヶ島に配流せられた際船出した堀の跡と傳へ、記念碑が建つて居る。

【月照上人墓】(一七圖な7) 市バス南座前下車、南林寺町南洲寺境内にあり、安政五年十一月十六日月明の夜、南洲と相共に三船沖から入水した月照の墓で、小さい五輪塔である。正面に静溪院鑿水清水比丘、裏に四十六歳と彫つてある。月照は京都清水寺の住職であつた勤王僧で、維新後正四位を贈られた。

【東郷元帥誕生地】(一七圖は7) 市電高見馬場または柿本寺通下車、市内加治屋町縣立第一高等女學校内にあり、明治三十八年十一月建設の記念石碑があり、「東郷平八郎君誕生之碑」と刻されて居る。東郷元帥は日露の海戦に大捷を獲た名將で、その誕生は弘化四年十二月二十二日である。

【武岡公園】 鹿兒島驛の西南約三軒三、西鹿兒島驛からは西一軒餘、市内武町にあり、附近まで自動車の便がある。市の西部にある一丘陵で、櫻樹が多く、櫻島は云ふに及ばず、遙に開聞岳、霧島山等の諸峯が望ま

れる。園内に十年役の砲臺の址がある。

【西郷南洲舊宅】 武岡公園の麓武町にあり、附近まで自動車の便がある。明治二年十二月から同十年まで、西郷南洲が起居したところで、當時そのまゝの松樹、縦樹、翁手製の輕石細工の達磨等を存する。

【乃木靜子誕生地】(二七圖な8) 市電新屋敷下車、産湯井、銅像、記念碑がある。乃木靜子は故乃木大將の夫人である。

【天保山】(一七圖な10) 市電二中通下車、市内下荒田町甲突川河口右岸、鹿兒島灣岸にある。天保年間甲突川の浚渫に際し、川砂にて築き立てた埋立地で、舊藩時代練兵場に用ゐられた。松樹が連り風光がよく、夏は海水浴場が開設される。

【舊薩藩砲臺址】(一七圖な10) 天保山公園内海岸にあり、切石の礎石が半圓形をなして遺つて居る。天保山の砲臺は嘉永三年の築造にかゝり、薩英戦争の際に第一の火蓋を切つた砲臺で、記念碑が建つて居る。

【鴨池公園】 市電鴨池下車、市内鴨池町にある。昭和

月二十二日である。

【大久保甲東誕生地】(一七圖は7) 市電柿本寺通下車、加治屋町字猫藥小路の西端、甲突川畔である。「大久保利通君誕生之地」と題する巨大な石碑が建つて居る。重野安釋の撰文で、明治二十二年三月大山巖以下八十名の共建にかゝる。大久保甲東は維新の元勳で、その誕生は天保元年庚寅八月十日である。

【西郷南洲誕生地】(二七圖は7) 市電柿本寺通下車、加治屋町甲突川畔にあり、「西郷隆盛君誕生之地」なる石碑あり、大久保甲東のと規模同じく、重野安釋の撰文で明治二十二年三月の建設にかゝる。面積九三〇平方米に及ぶ域内に樟の老樹がある。西郷南洲は大久保、木戸と並稱される維新の人傑で、その誕生は文政十年丁亥十二月七日である。

【武岡公園】 鹿兒島驛の西南約三軒三、西鹿兒島驛からは西一軒餘、市内武町にあり、附近まで自動車の便がある。市の西部にある一丘陵で、櫻樹が多く、櫻島は云ふに及ばず、遙に開聞岳、霧島山等の諸峯が望ま

れる。園内に十年役の砲臺の址がある。

【西郷南洲舊宅】 武岡公園の麓武町にあり、附近まで自動車の便がある。明治二年十二月から同十年まで、西郷南洲が起居したところで、當時そのまゝの松樹、縦樹、翁手製の輕石細工の達磨等を存する。

【乃木靜子誕生地】(二七圖な8) 市電新屋敷下車、産湯井、銅像、記念碑がある。乃木靜子は故乃木大將の夫人である。

【天保山】(一七圖な10) 市電二中通下車、市内下荒田町甲突川河口右岸、鹿兒島灣岸にある。天保年間甲突川の浚渫に際し、川砂にて築き立てた埋立地で、舊藩時代練兵場に用ゐられた。松樹が連り風光がよく、夏は海水浴場が開設される。

【舊薩藩砲臺址】(一七圖な10) 天保山公園内海岸にあり、切石の礎石が半圓形をなして遺つて居る。天保山の砲臺は嘉永三年の築造にかゝり、薩英戦争の際に第一の火蓋を切つた砲臺で、記念碑が建つて居る。

【鴨池公園】 市電鴨池下車、市内鴨池町にある。昭和

五月八月以來市の經營にかゝり、遠く霧島山、開聞岳、近く櫻島を望む白砂青松の地で、大グラウンド、テニスコート、動物園、ボートを浮べ得る池、劇場、海水浴等の設備がある。面積は一六ヘクタールに近い。

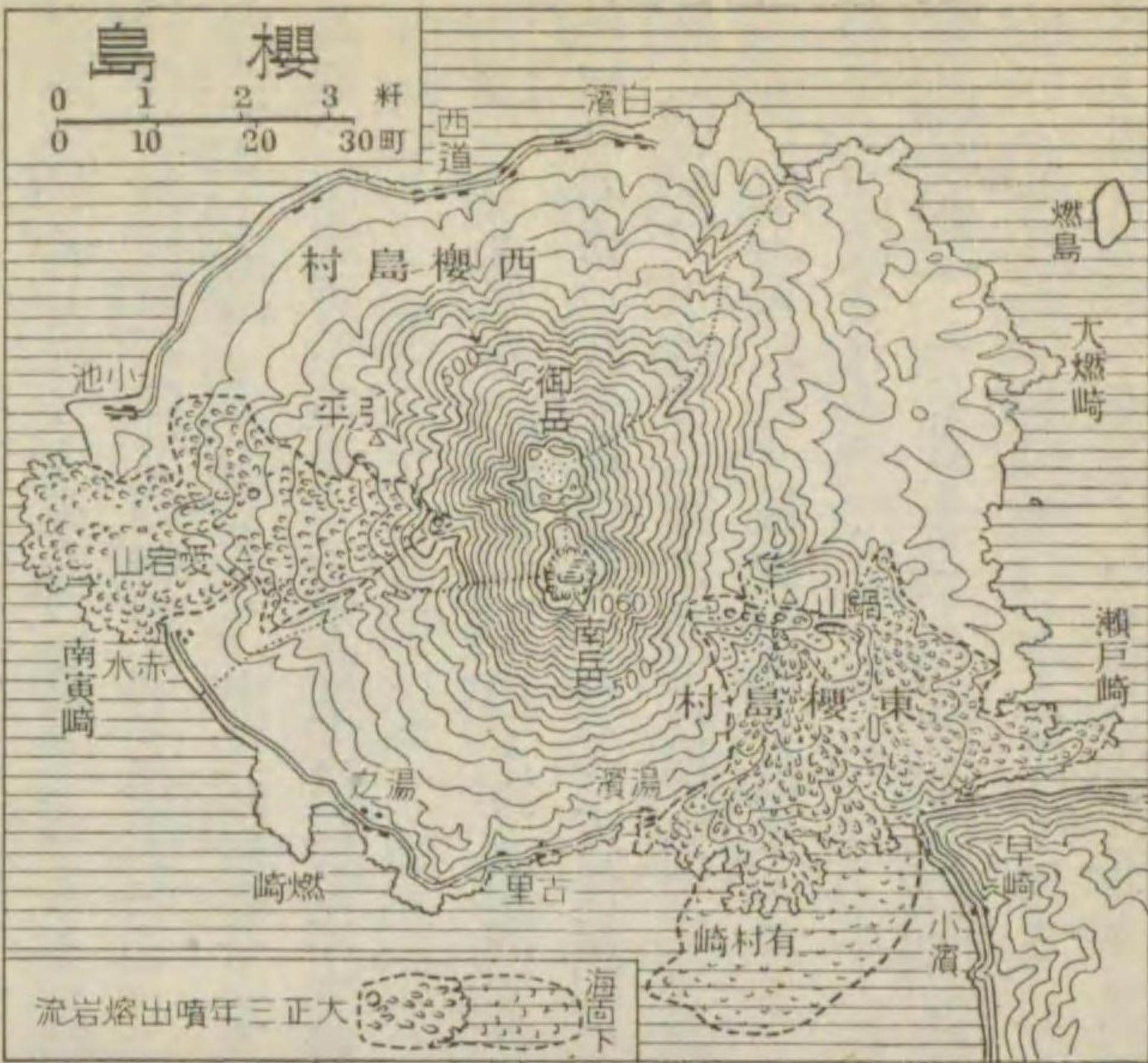
【鴨池公園附近温泉】 鴨池公園附近の海岸には近年温泉の掘鑿あり、天保山温泉、鹿兒島温泉、竹迫温泉、鶴ヶ崎温泉など旅館、料亭の設あり、鹿兒島人士の遊樂地となつて居る。泉質は概ね鹽類泉に屬する。

【玉里島津邸】(二七圖な1) 市電玉里道下車、市内玉里町にある。島津久光の別業であつたところで、庭園は前庭と下庭との二段に分れ、閑靜幽邃、假山、泉石の美がある。邸内の梅林、盆梅は藩侯の遺愛で、著名なものが多い。

【桂菴禪師舊址】 市バス伊敷終點下車、甲突川畔にあり、玉里島津邸から近い。我が國に宋學を傳へた桂菴禪師が晩年住した東飯菴の舊址で墓が存し、佐藤一齋撰文の碑銘がある。桂菴は山口の人で、應仁元年明國に渡り、朱子學を學びて文明五年歸朝した。同十年島

水俣鹿兒島間

津忠昌、桂樹院を建て、居らしめた。桂菴諸所に轉住し、晩年この地に隱棲し、永正五年八十二歳で歿した。



【河頭温泉】 鹿兒島驛の西北約八軒、甲突川上流の峽間にあり、市内より自動車の便がある。無色透明の單

枇杷、蜜柑、水蜜桃等の果物がある。

【古里温泉】 櫻島の南海岸にあり、發動機船便がある、左に大隅の連山、右に遙に開聞岳が望まれる。鹽類泉

で胃腸病、リウマチス、婦人病などに効くと云ふ。

【垂水町】 (二六圖な6) 鹿兒島市から海上約一八軒、汽船便がある。大隅半島の西岸に位し、鹿兒島灣内交通の要地である。附近は柑橘の栽培に適し、近來垂水温州の聲價が高まる。人口二萬二千。

【垂水温泉】 垂水町の海灣にあり、高隈山を背景として錦江灣に臨み、櫻島、江の島、沖小島等の眺がよい温泉はアルカリ性泉で皮膚病、リウマチス、婦人病、腺病などに効くと云ふ。

指宿線

この線は西鹿兒島から鹿兒島本線に分れ、鹿兒島灣の西岸を南進して、櫻島に遠ざかり、開聞岳に近づくので、谷山七軒四、五位野六軒七、平川三軒二、瀬々串三軒三、中名三軒四、喜入二軒六の諸驛を過ぎ、更に前

水俣鹿兒島間

純泉で外傷、リウマチス、神経病、婦人病などに効くと云ふ。

【船形臺場】 (指定史蹟) (一七圖さ5) 鹿兒島驛の南半軒、鹿兒島港沖合の新波止場にある。明治五年六月明治天皇西國御巡幸の際、同月二十四日海陸攻防演習天覽のため御臨幸あつた所である。

【鹿兒島灣】 (二六圖な6) 薩摩、大隈の兩半島に抱かれる九州南部の大灣にして、一に錦江灣と稱へ、南北の長さ約七四軒、平均幅約一九軒、水深が頗る深い。灣首から約一九軒に櫻島が横つて、灣内を二部に分ち、これと相對する西岸の鹿兒島は灣内唯一の大形船錨地である。

【櫻島】 (二六圖な5) 鹿兒島から東海上約三軒七、汽船では二十分、和船では約一時間の航程である。鹿兒島灣内に横はり、鹿兒島の風光はこの櫻島が生命で、もと周圍約四〇軒の島であつたが、島中の櫻島岳(海拔二三八米)が大正三年活動した時、噴出物が海を埋めたので、東岸の一半島と化した。名産に名高い櫻島大根、

の濱三軒八、生見四軒六、薩摩今和泉二軒九を經、指宿温泉郷に入りて宮ヶ濱二軒八、二月田二軒七、指宿二軒三を連ねる。近く山川港まで延長の豫定である。

【谷山町】 (二六圖は6) 谷山、五位野、平川三驛所在地。鹿兒島市から市營電車がこゝまで延びて居る。農業を主とし、骨粉肥料、葉煙草、温州密柑、枇杷等の産が多い。町の南西部岩屋に錫山鑛山がある。人口三萬一千。

【谷山神社】 (縣社) 谷山町慈眼寺公園の頂上にあり、征西將軍懷良親王を奉祀してある。土地高燥にして眺望よく、飛泉、梅、櫻、高雄より移植せる紅葉等がある。

【烏帽子岳神社】 平川驛の西約四軒、烏帽子岳の頂上にあり、祭神は建速須佐之男命並に天之手力男神で、軍神としてまた和平守護の神として崇敬せられ、春秋の大祭には參詣者が多い。山は海拔四〇米、錦江灣一帶より大隅の連山の眺望がよい。

【宮坂神社】 喜入驛の西北半軒、揖宿郡喜入村中名宮地にあり、天照大神を祀る。社寶中に主馬首一平安

代敬白云云の銘ある刀があり、作者寄進の鞘書を有する白鞘と共に國寶に指定されて居る。

【喜入村琉球筭産地】〔指定天然記念物〕喜入驛の東南六

料、喜入村生見の米倉川、岩崎川兩河口の中間地で、自動車の便がある。琉球筭は「めひるぎ」とも云ひ、紅樹科に屬して、半鹹水中に繁生する特性を有し、高潮時には莖幹並に支柱根が海水中に林立する奇觀を呈する。種子は母體上に於て發芽し、所謂苔生現象を表すを以て名高い。

指宿驛 鹿兒島縣指宿郡指宿町十二町

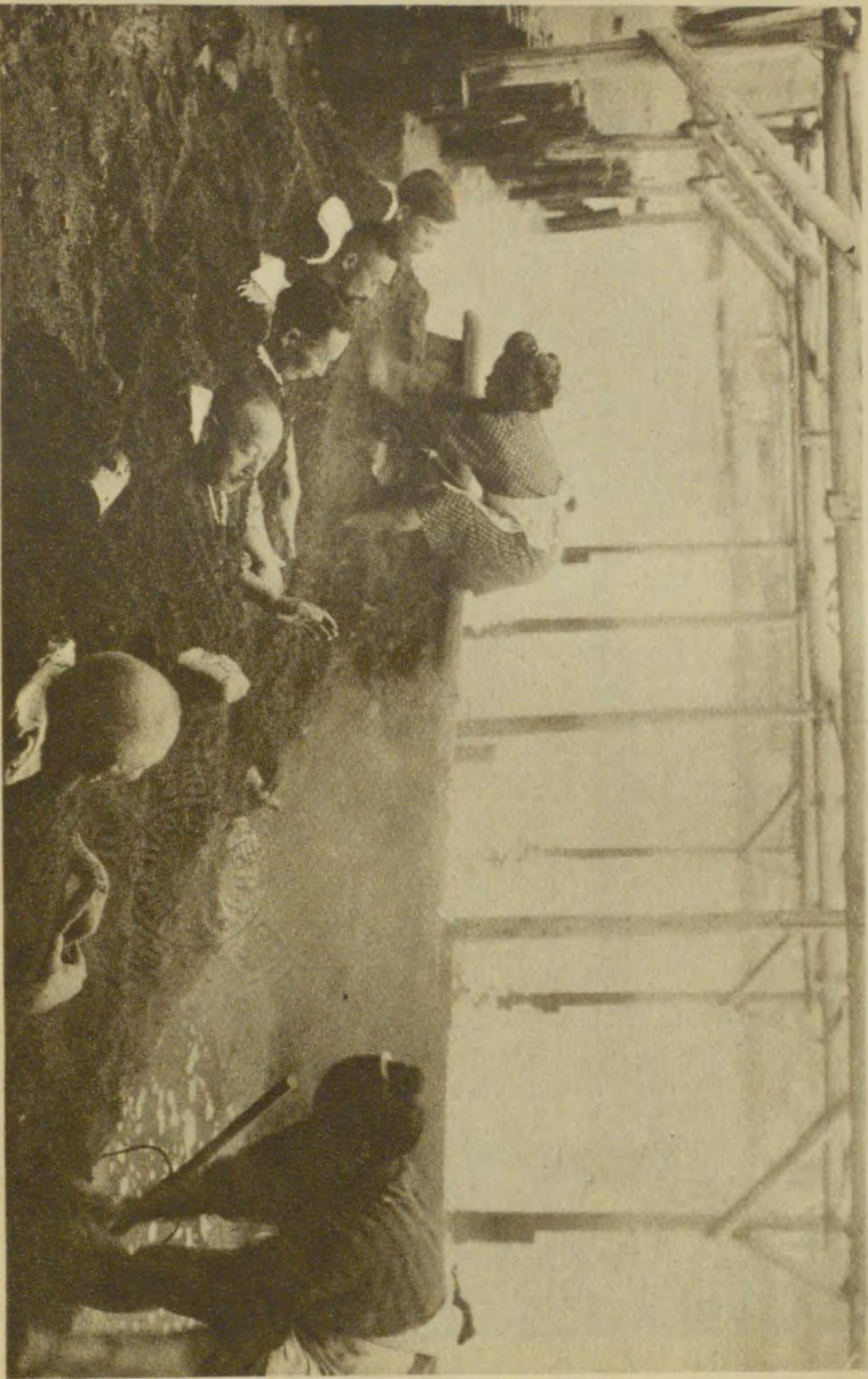
▽乗合自動車 枕崎行、池田湖山川廻遊

【指宿町】(一六圖ナ7) 宮ヶ濱、二月田、指宿三驛所在地。東は鹿兒島灣に面して、大隅連山と相對し、風光明媚の温泉郷である。往昔は湯豊宿と呼んだ、名葉指宿煙草の産があり。促成栽培の蔬菜が多く出る。人口二萬一千。

【指宿温泉】温泉地帯は極めて廣範圍に亘り、東は魚見岳南麓の多良から西は池田湖に、北は宮ヶ濱の西方

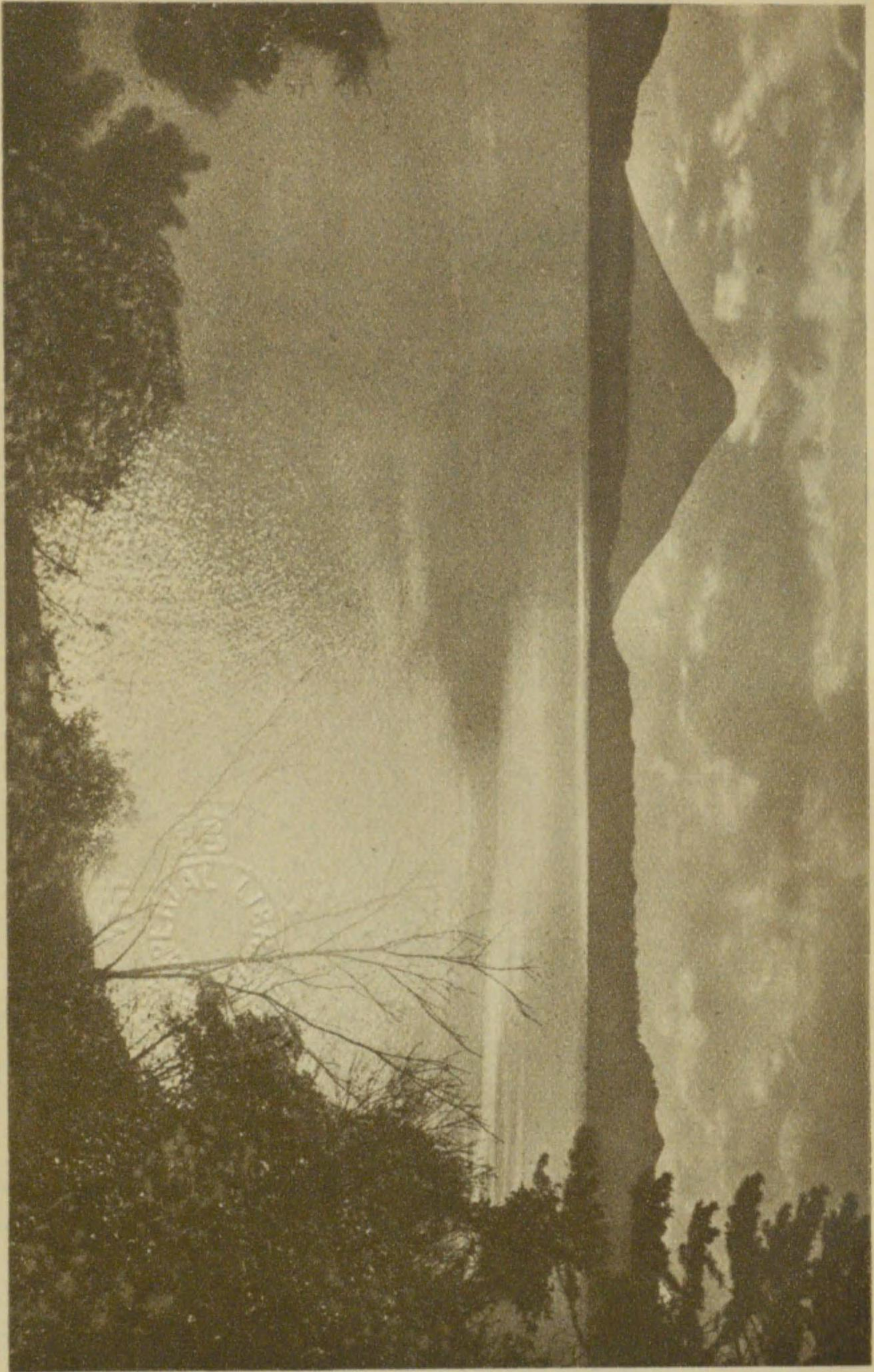
柴立から南は山川町に及び、その涌泉地域の廣きことと、温泉涌出量の豊富なること、摺之濱海岸一帯の砂湯場を有することなど、別府と並稱すべき大温泉郷である。

普通に指宿温泉と云ふは、指宿町に屬するものを云ひ、瀉口、湊、摺之濱の外柴立、二月田、村の湯、彌次ヶ湯、朝日湯など、近きは數百米、遠きは三軒あまりを隔て、散在して居る。この地の特色は地下三尺を掘れば温泉の涌出を見ること、温泉の温度高き爲に數箇の冷却槽を設け、適度に冷えた湯を浴槽に引入れてあること、高温にして豊富な温泉を利用し、或は温床を設けて蔬菜の促成栽培の盛に行はれて居ること、海水を引いて温泉熱によつて製鹽して居ることなどで、中學校の寄宿舎にも温泉浴場があり、牛馬浴用の湯の池なども設けられて居る。泉質は多く鹽類泉で、含鐵のものもあり、ラヂウム含有のものもあり、胃腸病、リウマチス、神經痛、腺病などに効くと云ふ。摺之濱の砂風呂は海濱に丸太の支柱を建て、その上に苫屋根

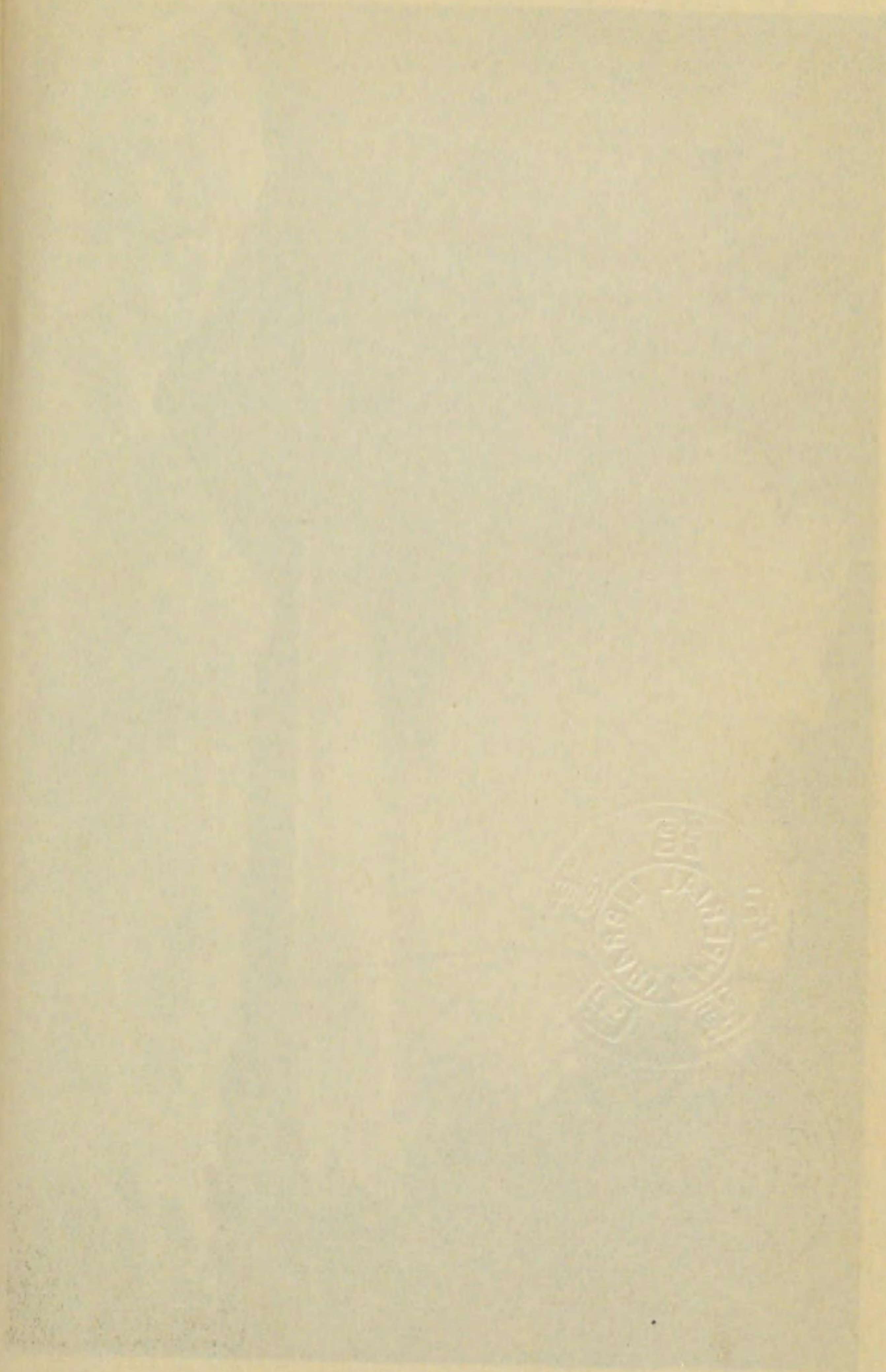
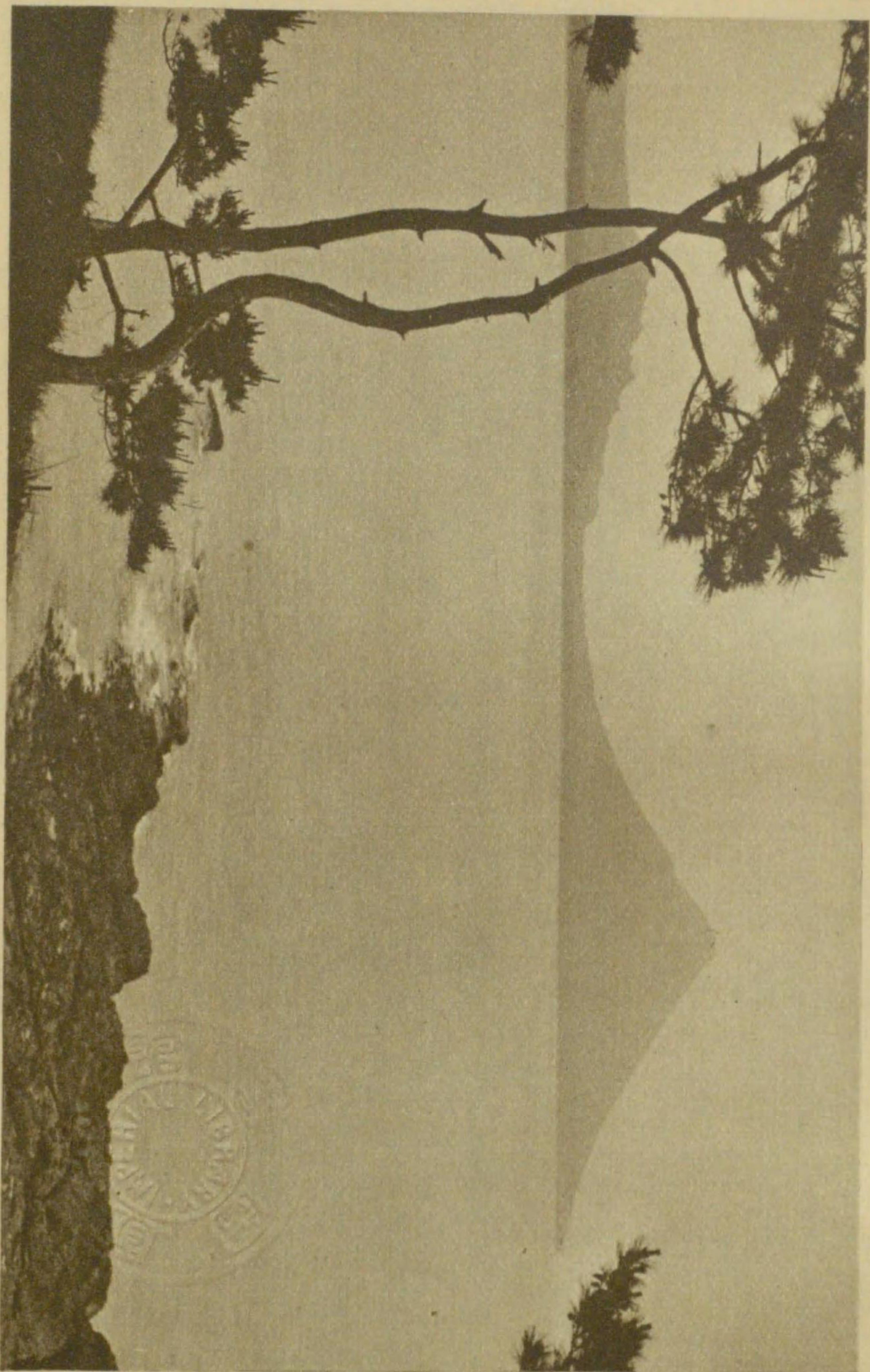


泉 温 宿 指

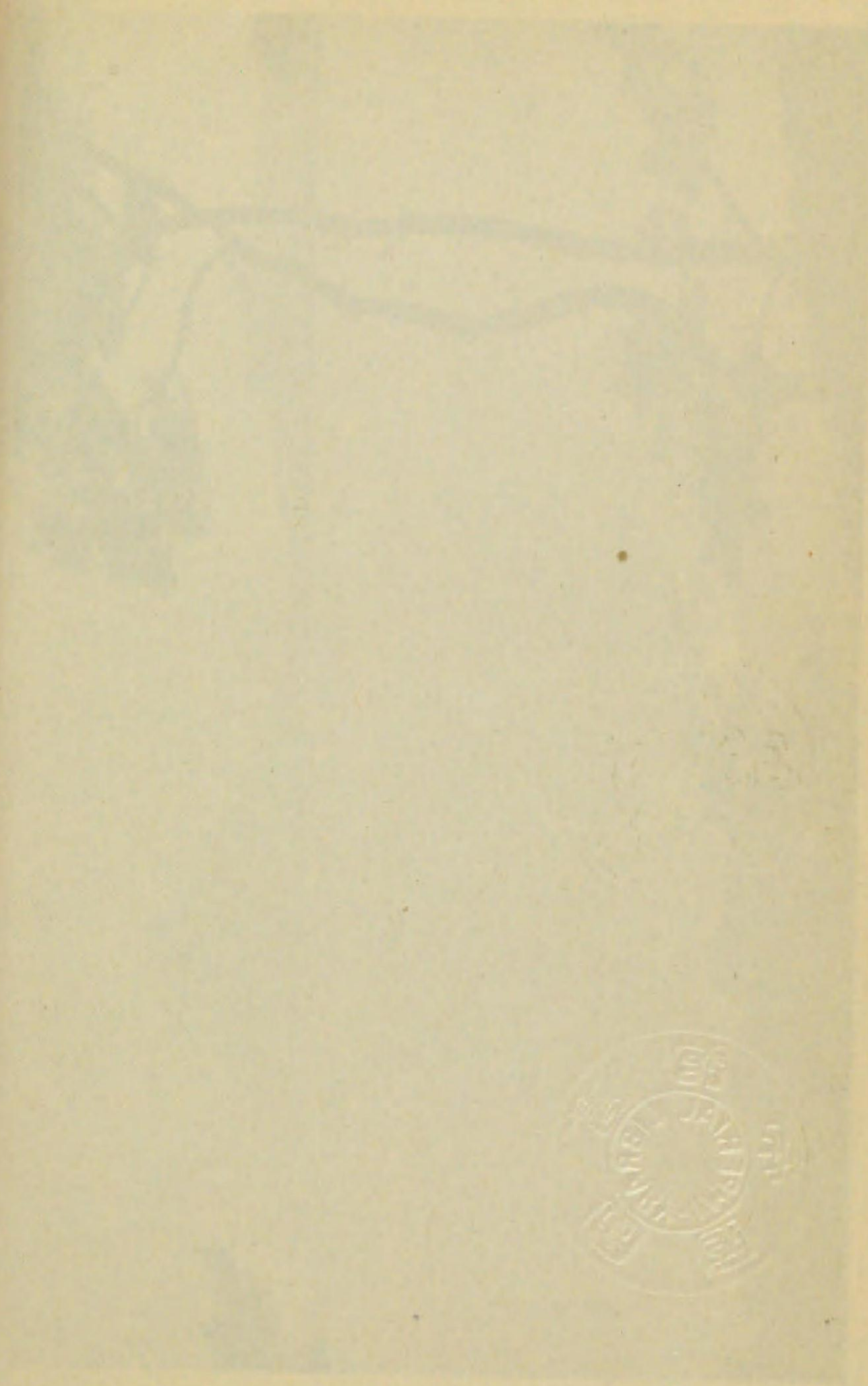
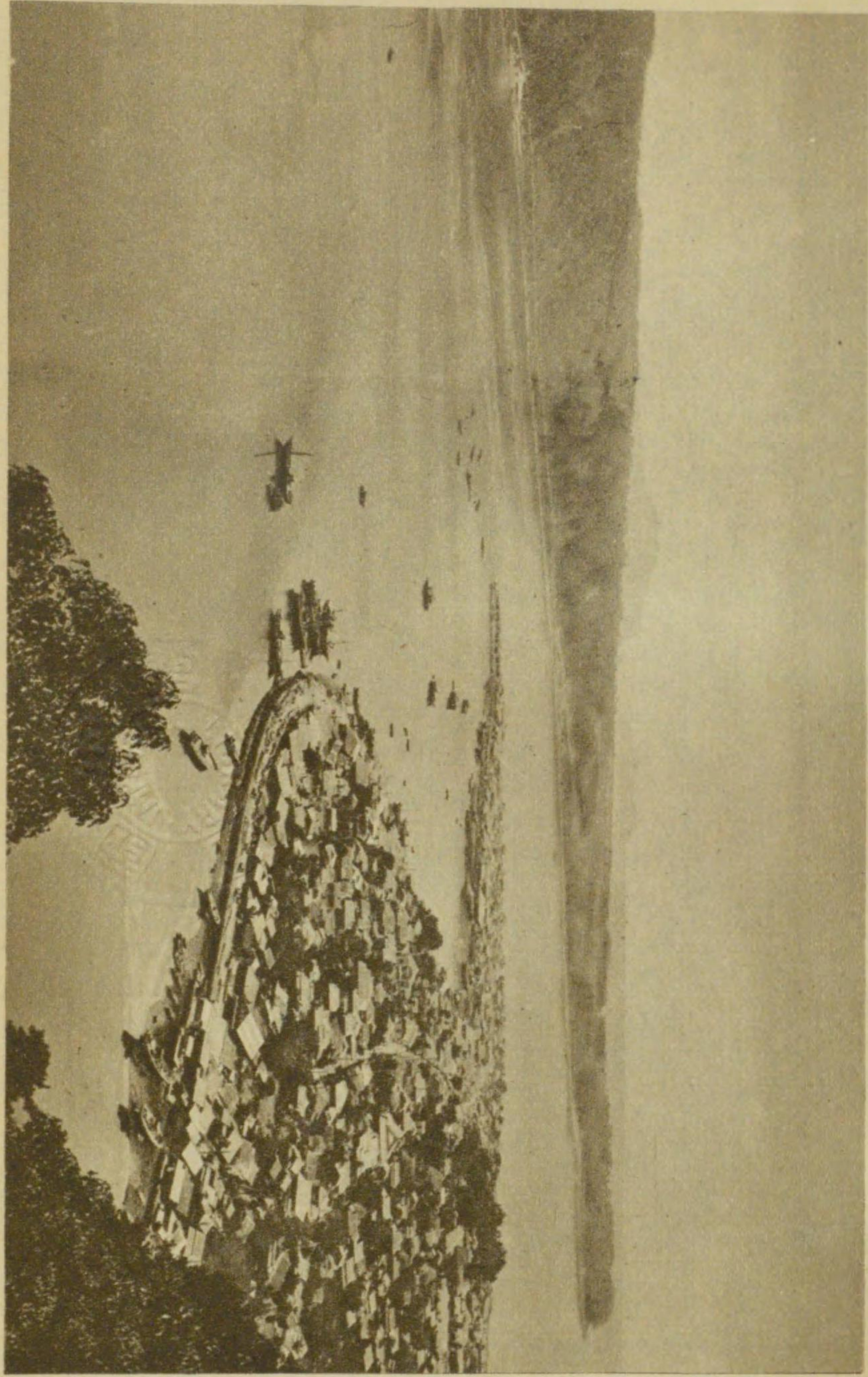
湖
田
池

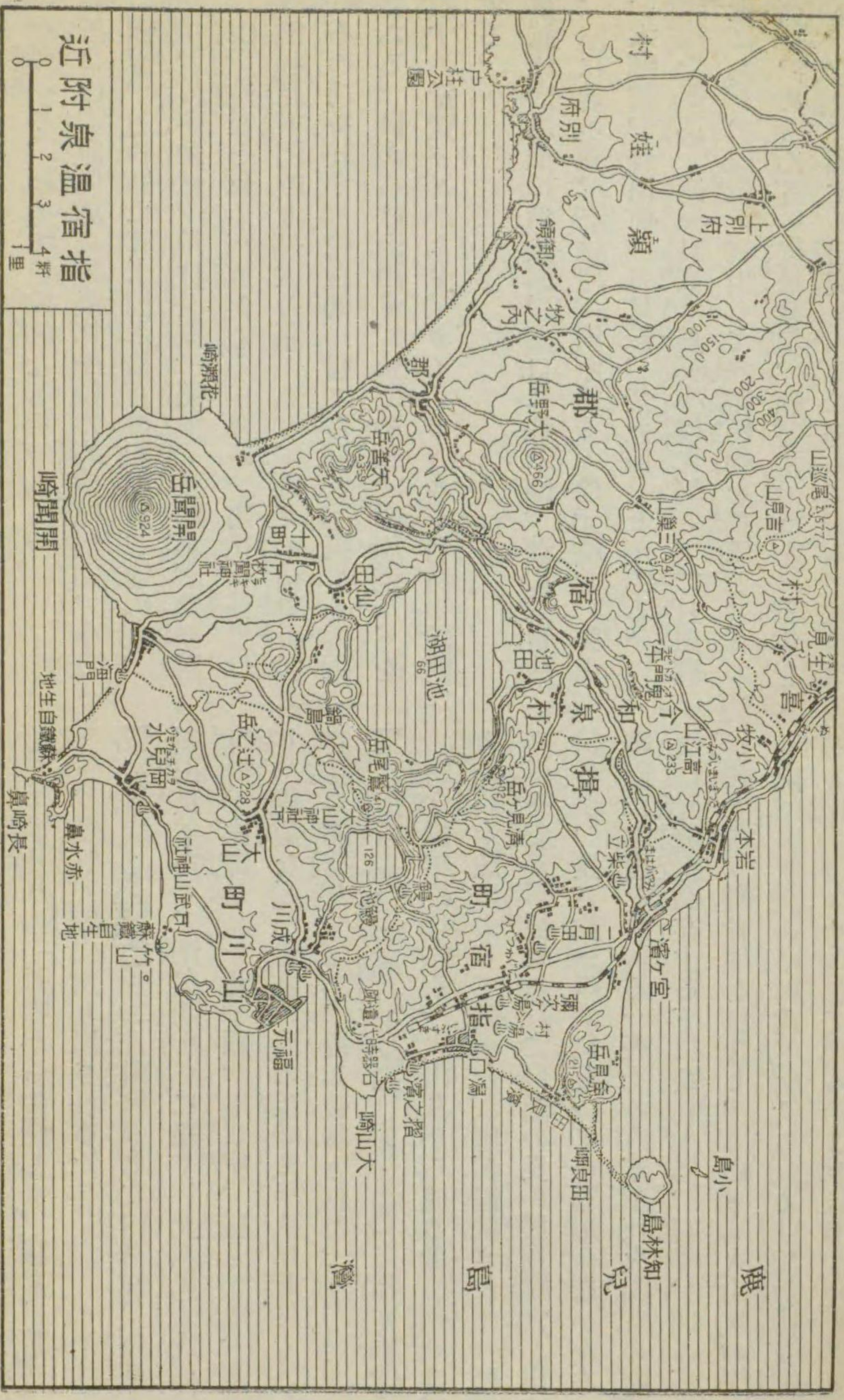


景 閣 閣



港
川
山





指宿温泉附近

0 1 2 3 4 里

鹿島兒侯水

を葺いただけのもの、浴客は各自に砂を堀つてそれへ身を横へる、極めて原始的なものである。

附近には、鹿兒島高等農林學校の熱帯植物園、多良崎の海岸、その沖に浮ぶ樹木鬱蒼の知林島、池田湖、開聞岳、枚聞神社、戸柱公園、鰻池、長崎鼻、徳光神社、山川港など見るべきところが多い。町内の湊には海外密貿易家濱崎太平次の墓があり、近く稻荷神社境内にその功を頌する記念碑が建てられた、墓もその近くにある。驛からは池田湖、枚聞神社、山川港などを周遊する遊覽バスがあり、ガイドガールが名所の説明をする。

旅館は摺之濱に偕樂園、瀉口に海翠園、濱田、更生館、湊に前の園、高松屋、田原迫その他元祿館、野上屋、本郷館、鎌田館、月見館、柴立館などがある。

【指宿試験場】鹿兒島高等農林學校に屬し、二月田驛附近にあり、温泉を利用して熱帯植物を栽培し、その他茄子、めろん等の促成栽培、鯉、すっぽんの養成を試み、農藝に關する研究と指導に努めて居る。試験場

附近一帯はその促成栽培が盛んで茄子、胡瓜、めろんなど季節外れの一月頃から生産して、關東、關西、北九州、朝鮮方面に送り出される。

【黒岩氏の屋敷址】二月田驛の東北約三軒、魚見岳の麓田良にあり、濱田氏所有に屬す。元の黒岩氏の屋敷址で、密貿易品を隠す爲、地下室、隠し二階、隠し天井、拔道などがある。湊の濱崎太平次屋敷址もこれと同様の構造だつたが、近年破却された。

【指宿橋牟禮川遺物包含地】〔指定史蹟〕指宿驛附近十二町字橋牟禮にある。火山灰から成る低い臺地は、雨水等の水流によりて軟弱な灰層が浸蝕されて一種の細長い溪谷が形成せられて自然の長い發掘縦穴が出来て居るが、長さ約二〇〇米に互つて土器包含層が左右の縦斷面に露出して居る。表土の直ぐ下は火山灰の層で、次に泥流礫が存する下に齋瓮土器、石斧、凹み石、彌生式土器、獸骨片を包含し、この下に火山灰の厚き層を隔て、所謂あいぬ式と稱せられる曲線紋様及繩紋土器破片が包含せられて居る。これは有史以前に起つた

火の火口湖で、三面の丘陵は火口壁である。人口一萬二千。

【山川温泉】山川港の西岸成川にあり、風光明媚の境である。温泉は田村湯、大村湯、みのる湯、濱の湯などあり、いづれも鹽類泉で創傷、リウマチス、濕疹、婦人病などに効くと云ひ、田村湯は飲用に適して居る。旅館 田村、大村。

【鰻池】指宿驛の西南約三軒、山川町成川にあり。火口湖で、水面の標高二六米、形扁平にして東西稍長、長徑一軒三、短徑一軒一、周圍四軒、平均深度三七米、周圍は絶壁を繞らし、人工隧道によつて排水する。池中に鰻、鮒、鰻等が棲息する。

【鰻温泉】鰻池の東北岸にあり、一帯の地熱湯噴出、白煙濛々と立ち昇つて居る。温泉は硫化水素泉で皮膚病、リウマチス、腺病、婦人病、花柳病などに効くと云ふ。西郷南洲が明治七年挂冠の後來浴中、江藤新平竊に來訪した家も残つて居る。

【蘇鐵自生地】〔指定天然記念物〕指宿驛の南約一〇軒、

火山の爆發によりて先づ繩紋土器使用民の聚落が火山灰を以て埋没された後、相當の歲月を経て、同じ場所に彌生式土器使用民が住したが、かれ等もまた災厄の襲ふ所となり、噴出する熱泥流によりて埋没せられた事を物語つて居るもので、最も上層の火山灰は恐らく有史時代に成つてからのもので、三代實録には貞觀十六年開聞岳の噴火を記載して居る。かくの如く火山噴出物が層狀をなして推積して、古代民族文化變遷の跡を明確に示した遺跡は類例に乏しく、考古學上貴重な遺跡である。遺物はこの丘陵の他に摺之濱部落の南方海濱に近い丘陵からも彌生式土器等が出土して居る。

【山川町】(二六圖ナス) 指宿驛の南約六軒、自動車の便がある。鹿兒島灣の咽喉を扼し、指宿の南に隣接して居る。本邦著名の鰻漁場として大小の漁船輻湊し、街衢殷盛である。昔時は琉球、支那方面との交易港として、異國船番所が置かれた。碧水深く波靜かな山川灣を擁し、三面山に圍まれて風景美あり、地形鶴の翼を擴げた様だと云ふので鶴湊の名がある。灣は太古噴

山川町福元竹山にあり、蘇鐵自生北限地の一である。

【武山神社】 指宿驛の南約一〇料、山川町竹山、突元

として聳ゆる竹山の麓にあり、素戔鳴命を祀る。軍神として崇敬せられ、武山詣と稱して參詣者が多い。

【徳光神社】 指宿驛の西南約九料、山川町岡兒水にあり、寶永二年琉球から甘藷を得て歸り、國中に蔓衍せしめた甘藷翁前田利右衛門を祀る。境内翁の頌徳碑がある。

【長崎鼻】 同山川町岡兒水の南端、海中に突出する岬である。西には秀麗なる薩摩富士の開聞岳、南は渺茫たる太平洋に竹島、屋久島、硫黄島、黒島を望み、東は大隅半島の南に延びて佐田岬となりて海に落つるあり、四邊の眺觀云ふべからざるものがある。浦島太郎の傳説を傳へて龍宮神社を祀り、祠邊蘇鐵が自生して居る。

【開聞温泉】 同山川町岡兒水、白沙青松の海岸にあり、開聞岳が眺められる。鹽類泉で飲用に適し、胃腸病、リウマチス、婦人病、神經諸症などに効くと云ふ。旅

を去る事遠くない頃であらう。附屬品、目錄と共に國寶に指定せられて居る。例祭十月十五日。

【開聞岳】 (一六圖は8) 指宿驛下車、西の登山口入野まで約一五料、自動車の便があるが、途中大山から東の登山口川尻まで約五料徒歩によるもよく、山頂まで何れも約三料である。

開聞岳は海門山とも云ひ、薩摩富士の名もある。薩摩半島の南端に聳え、海拔五西米に達するコニーデ式の火山で、美しい圓錐形をなし、裾野は直に太平洋に洗はれ、景觀の秀絶なること何々富士と云はれる諸山の首位に推すべきものである。樹木は潤葉樹が多く、針葉樹は山麓に見られるのみである。

開聞岳の噴火は、貞觀十六年七月二日地震ありてこの山頂噴火し、焦煙天に滿ち、灰砂雨の如く降り、鳴動の聲百里に聞ゆと三代實録に見え、屢々枚聞神に位階を進められたことがある。山頂に石祠あり、彦火彥出見尊、豐玉姬を祀る。この他山中には鹽土翁修練所と云ふ天の岩屋、智通和尚の仙人洞、木花咲耶姬及大

館 海門館。

【池田湖】 (一六圖は8) 指宿驛の西約八料、今和泉村にある。火口湖にして海拔六六米、周圍約一四料、面積約一方料、最大水深三三米、鹿兒島縣内第一の大湖、本邦屈指の深湖である。指顧の中に開聞岳と相對し、湖邊風趣に富み、近時遊覽船を浮べて觀光に便して居る。目下鯉、鰻、鮎、公魚の養殖が行はれる。旅館池月。

【枚聞神社】 (國幣小社) (一六圖は7) 指宿驛の西南約一五料、揖宿郡額娃村十町にあり、自動車の便がある。開聞岳の麓に鎮座し枚聞神(開聞神)を祀る。創始の年月は詳でないが、既に三代實録に屢々神位昇叙の記載見え、延喜式内の小社で、中世薩摩國一宮として崇敬せられ、島津氏入國の後には殊に崇敬厚く、屢々社殿の改築修理等あり、今の社殿は天明七年島津重豪の時に改築したものである。社寶の松梅蒔繪の櫛笥は附屬品が一通り揃つて居る點で珍らしく、目錄も添へられて居るが、目錄中に大永三年と記載せられ、製作もこれ

宮姫の誕生地と傳ふる址や、池田湖覗きと云ふ展望の勝地などがある。

【戸柱公園】 指宿驛の西約二八料、額娃村御領の海岸石垣浦の丘陵である。岩礁羅列して奇景を呈し、長松林立の間小祠があり、東方海波に裾を洗はせて聳立せる開聞の秀容が仰がれる。長崎鼻と共に開聞岳の展望臺と稱すべきものである。

鹿兒島 宮崎間

鹿兒島から日豊本線によりて宮崎に向ふ。驛を後にすれば直に錦江灣岸に出で右窓に櫻島の秀容を望み、左窓近く尙古集成館、島津家磯邸などを見て走る。龍ヶ水六軒九、重富七軒を経て東に折れ、帖佐三軒二、加治木三軒九を過ぎて隼人六軒九に至る間、櫻島の秀容は絶えず車窓に名残を惜しませる。隼人は八代より来る肥薩線の接續點である。

【蒲生町】 帖佐驛の西北約八軒、自動車の便がある。始良郡の西部に位し、人口一萬二千。往昔蒲生氏の居城地たり、正保元年宮之城領主島津久通が國老となつて銳意殖産振興を計り、この地に松の造林を行つたので松林の勝れたものがある。

【八幡神社】 〔縣社〕 蒲生町上久徳にあり、久徳八幡宮とも云ひ、蒲生上總介藤原舜清が保安四年宇佐八幡宮をこの地に勧請したと傳へる。蒲生氏滅亡後島津義弘新に社殿を再興した。社寶のうち草花飛雀鏡はこの種

類品中の優品で鎌倉時代後期の製作にかゝり、國寶に指定されて居る。この他に扇面模様のあるもの一面、建治三年施入の銘ある草花雙雀鏡、嘉元三年十一月施入の銘ある松竹雙雀鏡や康永二年施入の銘に竹に雀の文様のあるもの等各一面がある。

【蒲生の樟】 〔指定天然記念物〕 八幡神社境内にある。地上約一米半の周圍二三米弱、高さ三〇米餘、九州に於ける代表的巨樹と稱される。幹の一部空洞となれるところは石を填充してある。

【加治木町】 〔一六圖なす〕 加治木驛所在地。鹿兒島灣の北岸に位し、網掛川に跨り、東北に藏王岳が聳えて居る。東西七軒二、南北約一一軒二、面積約三一方軒、農産物よりは工産物を出だすこと多く、最要の工産物は焼酎で、大日本酒類醸造會社工場、田中酒造場などがある。人口一萬五千。

隼人驛 鹿兒島縣始良郡隼人町見次

▽肥薩線 隼人八代間 一二四軒二

▽乗合自動車 霧島温泉行、國分町行、福山行、妙見、安樂温

泉行

【隼人町】 〔一六圖なす〕 隼人驛所在地。嘗て西國分村と云つたことがある。鹿兒島灣の北岸に位し、新川に沿ひ、煙草、澤庵漬等を産する。人口一萬四千。

【隼人塚】 〔指定史蹟〕 隼人驛の西南約三〇米、鐵道線路の東側の田圃中に存し、車窓からも望見せられる。現状は略々方形を呈する封土上に三基の石造多重塔及四天王石像が置かれて居る。多重塔は中央のもの最も大で二層を存するが、現存部高さ約十尺で破損して居る。一基は臺石のみを存し、一基は二層で高さ約八尺

を有し、また四天王像は二軀は封土上に建ち、二軀は封土の裾に存する。和銅元年七月能襲の死靈を慰めんがためにこゝに五重塔三基及四天王石像を建設して供養を行ひ、更に元正天皇養老四年隼人の叛亂あり、朝廷これを平定するや、また隼人の死靈をこゝに併せ祀り、放生會を行つたと云ひ、もと菩提寺の塚と稱し、鹿兒島神宮の神官これを能襲塚と命名したが、何時しか現稱となつたと云ふ。他地方で類例の乏しい一種の

鹿兒島宮崎間

供養塚である。

【鹿兒島神宮】 〔官幣大社〕 〔一六圖なす〕 隼人驛の北約一軒半、始良郡隼人町宇宮内景勝の地にあり、自動車の便がある。

當神宮の創建は神代にありとも、また神武天皇の御代なりとも傳へ詳かでないが、古來天津日高彥火火出見尊を奉祀し、延喜の制に於て大社に列し、大隅國の一宮として上下の崇敬甚だ厚く、社殿營繕の費は常に日薩隅三國の正税を以て充てられ、江戸時代の末に至るまで多くの社領を有して居た。

現存社殿は江戸時代寶曆年間の造營にかゝり、勅使殿、拜殿及本殿を具備して居る。

勅使殿 三間一面、朱塗の建築で床は黒塗になつて居る。通路を距て、拜殿に接し、左右に朱塗の袖を出して居る。

拜殿 三間五面妻入の建築にして本殿と丁字に交はり、朱塗の柱を立て、床も朱塗となし、天井は格天井で草花を描き極彩色を施して居る。

鹿兒島宮崎間

本殿 七間四面八母屋造、檜皮葺、朱塗の圓柱を建て、居る。正面三間には唐戸を立て、その左右一間には腰長押下に唐獅子を描き、その他兩側面及後面の羽目にも金地に梅、櫻などを描き、華麗な裝飾を施して居る。

例祭 八月十五日、舊曆五月五日に催される御田植祭の特殊神事には參拜者多く大いに賑ふ。

寶物

一刀〔國寶〕無銘傳則重
拵白柄蠟色鞘脇指、鐔、縁、頭、桂永、壽作島津齊興寄進

【日當山温泉】 隼人驛の東北二軒、自動車の便がある。新川の西岸にありて前面櫻島の秀容が望まれる。鹿兒島人士の行樂地である。アルカリ泉で胃腸病、呼吸器病、貧血症などに効くと云ふ。旅館 大正館、加藤、龜屋、福屋外數軒。

肥 薩 線

肥薩線は隼人から北に向ひ、霧島山西麓の山間を走

りて表木山七軒四、嘉例川四軒五、牧園五軒八、大隅横川五軒七を經栗野六軒五に至りて山野東線を西に岐ち、吉松七軒五に至りて吉都線に接し、矢岳の隧道を潜つて肥後に入るのである。吉松以北の記事前出。

【高屋山上御陵】 嘉例川驛の西約四軒、始良郡溝邊村麓にある。神在岡（神割岡）と稱せられ、楕圓形をなし、石玉垣を繞らし、下方約一五〇米の所に御拜所がある。これが天津彦火々出見尊の日向高屋山上陵である。尙、こゝから數百米を隔てた宮ノ上の高屋神社はもと鷹屋神社と稱して尊を祀り、もと御陵上に鎮座したのを、應永の頃現地に遷したものである。

【鹽浸温泉】（二八圖や8） 牧園驛の南約六軒半、自動車の便がある。嘉例川驛からは東北三軒半、金山川の流の屈曲せる山峽にあり。土類炭酸泉で飲用に適し、胃腸病、皮膚病、リウマチスなどに効くと云ふ、旅館 鶴屋。

【安樂温泉】（二八圖ま8） 牧園驛の南一〇軒半、自動車の便がある。安樂川の清流に沿うた幽境で、附近には

霧島國立公園
 1:200,000
 0 1 2 3 4 5 軒
 0 10 20 30 軒 1 里

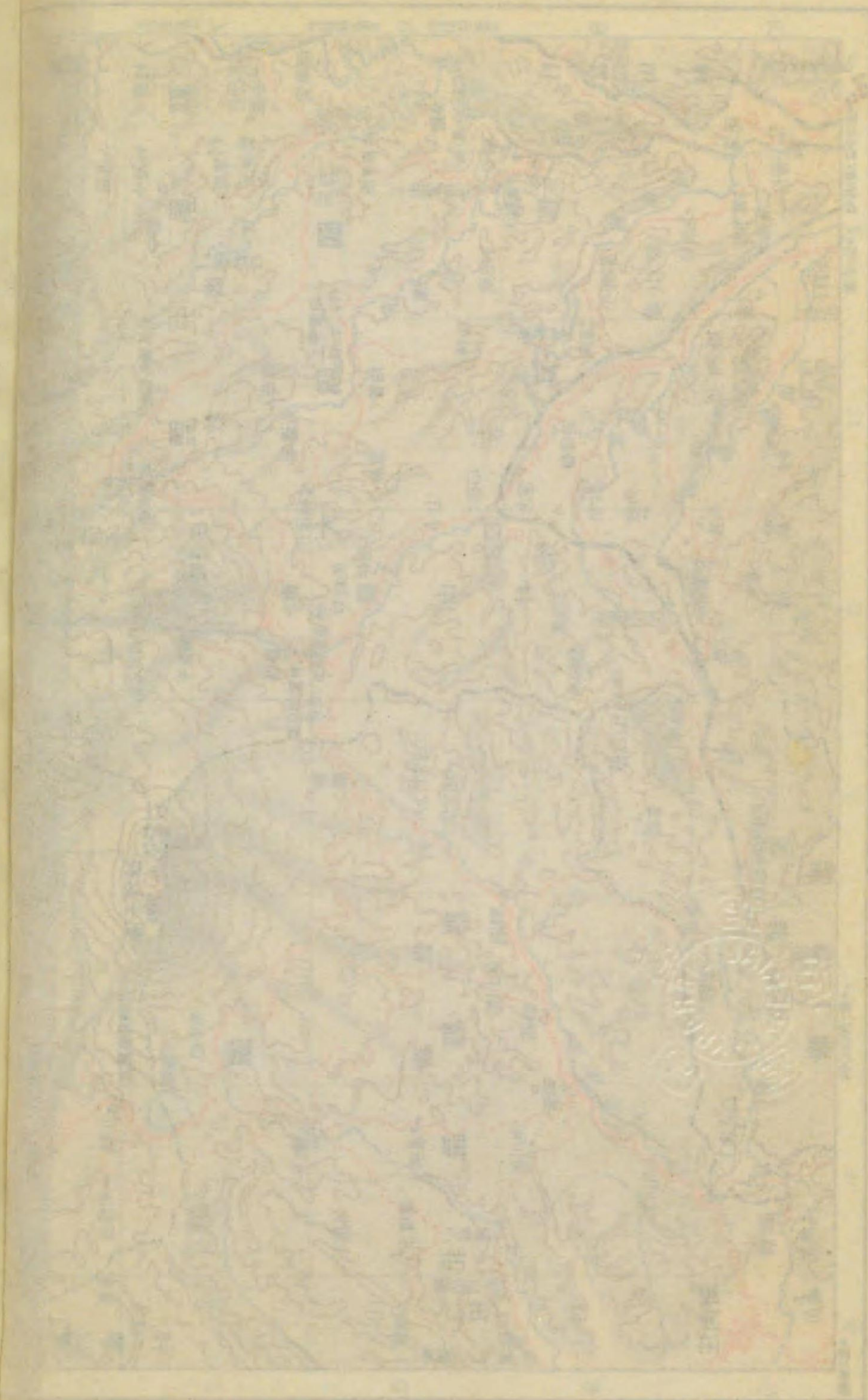




樟大の生蒲



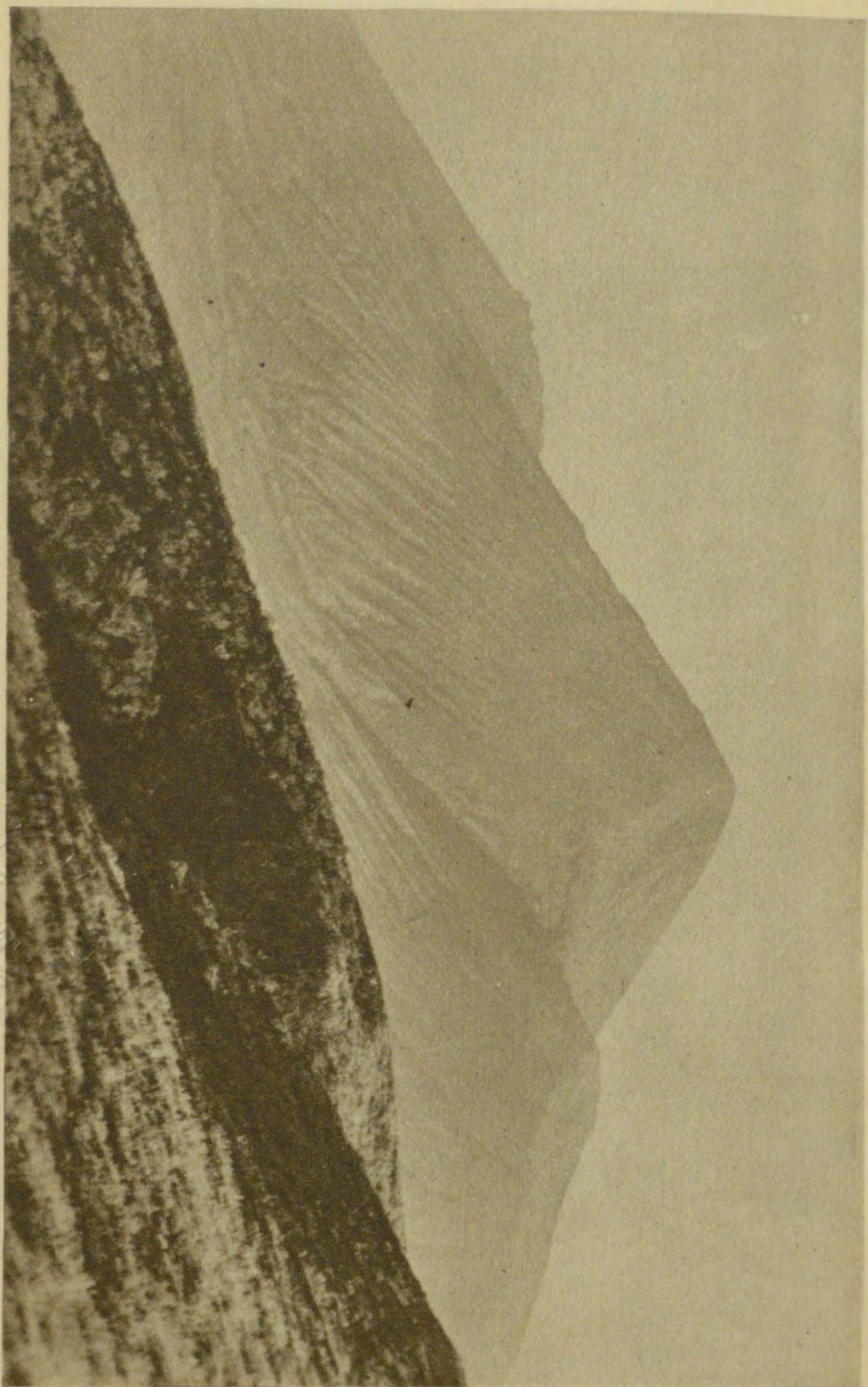
櫻の山鳥霧



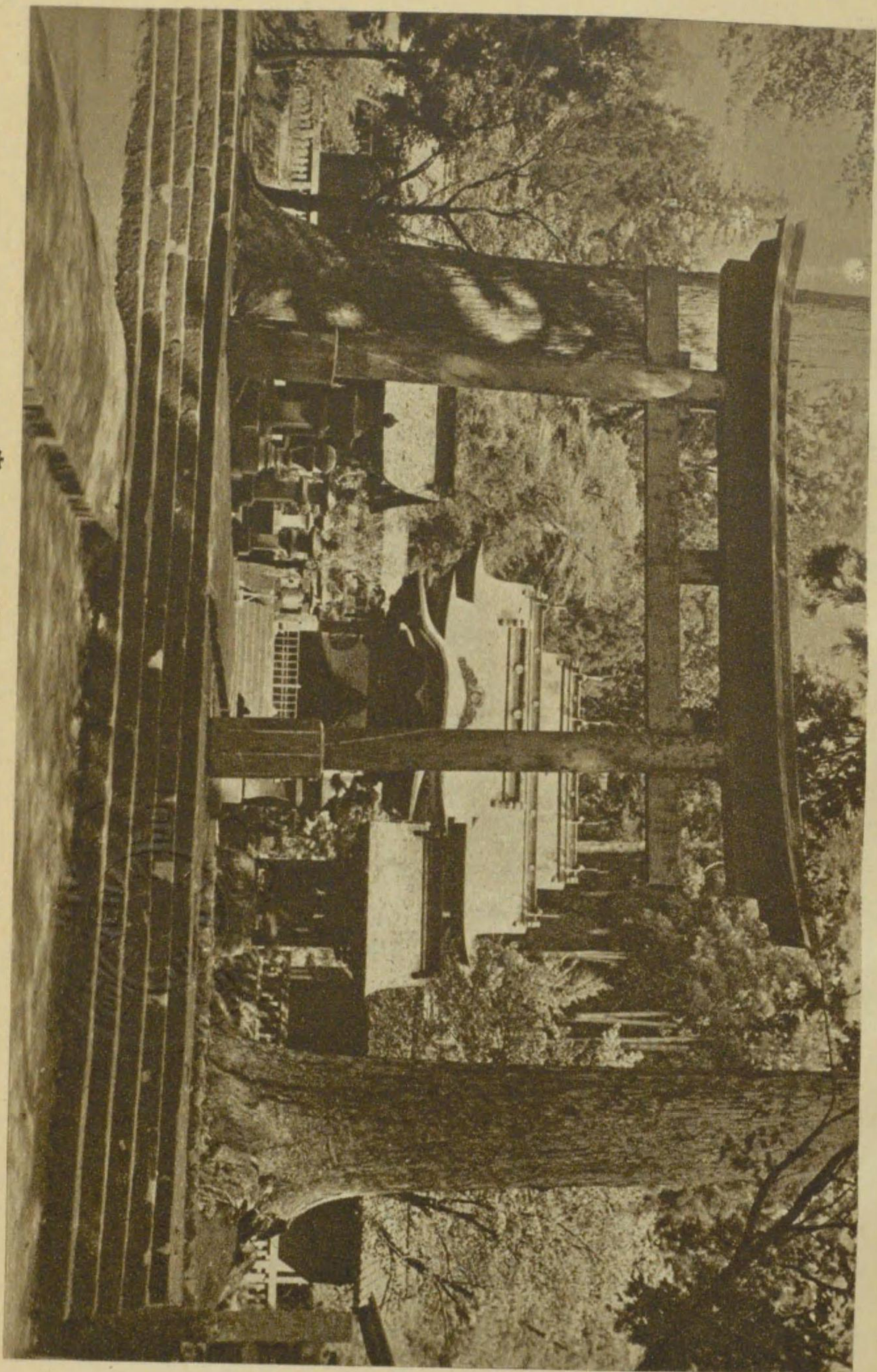
山

島

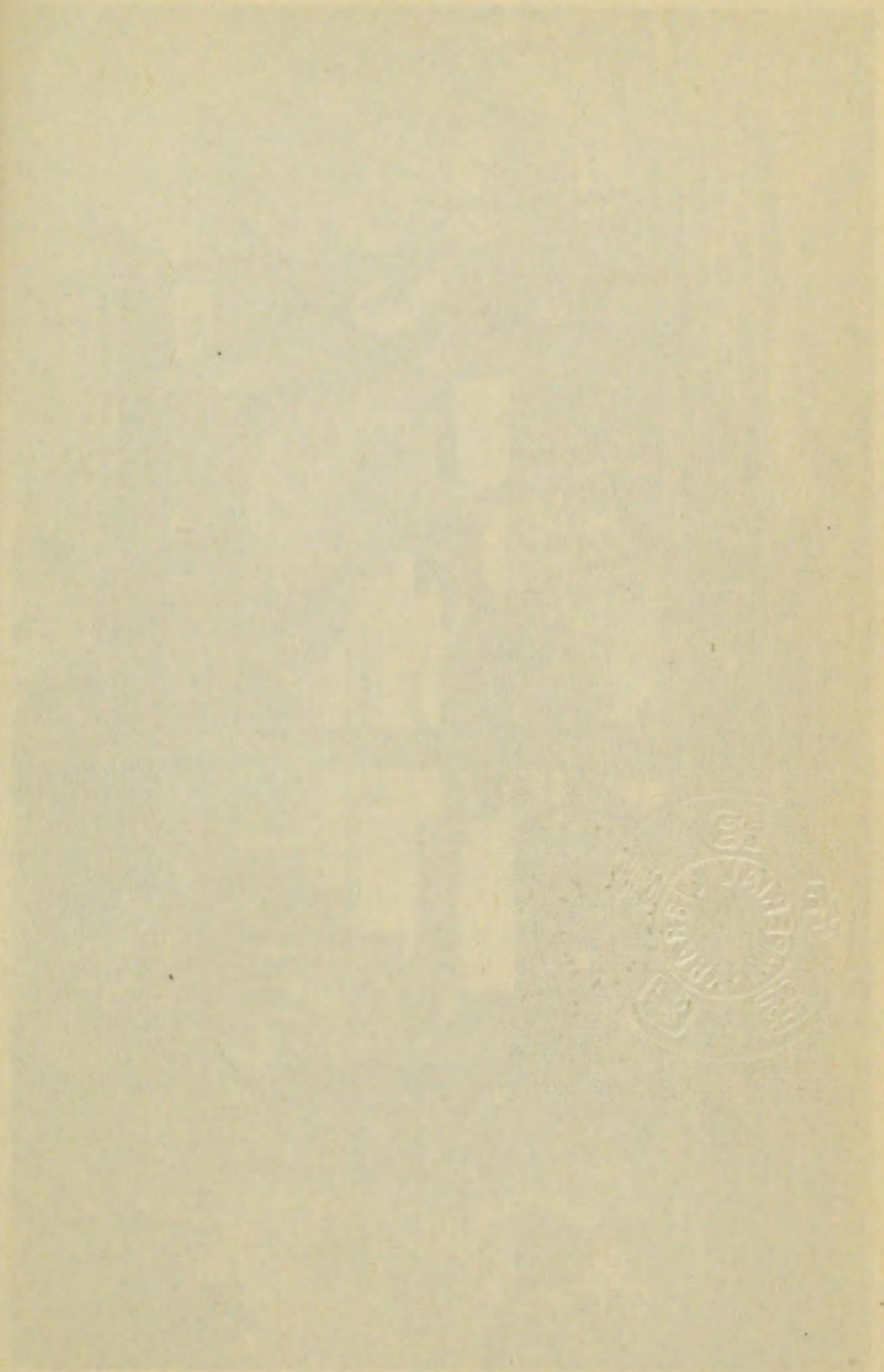
嶽



宮 神 島 嶽



鐵 墓 の 碑 井 都



和氣清麿配所の址があり、「忠烈和氣公之遺蹟」と題する碑が建てゝある。この碑の前方には犬飼瀧が懸つて居る。温泉は土類炭酸泉で飲用に適し、胃腸病、貧血症、リウマチス、腺病、皮膚病などに効くと云ふ。旅館 安樂館。

【犬飼瀧】（二八圖まり）安樂温泉附近にあり、夕紅の瀧とも云ひ、高さ約六〇米、附近に和氣清麿居の遺跡、和氣温泉等がある。

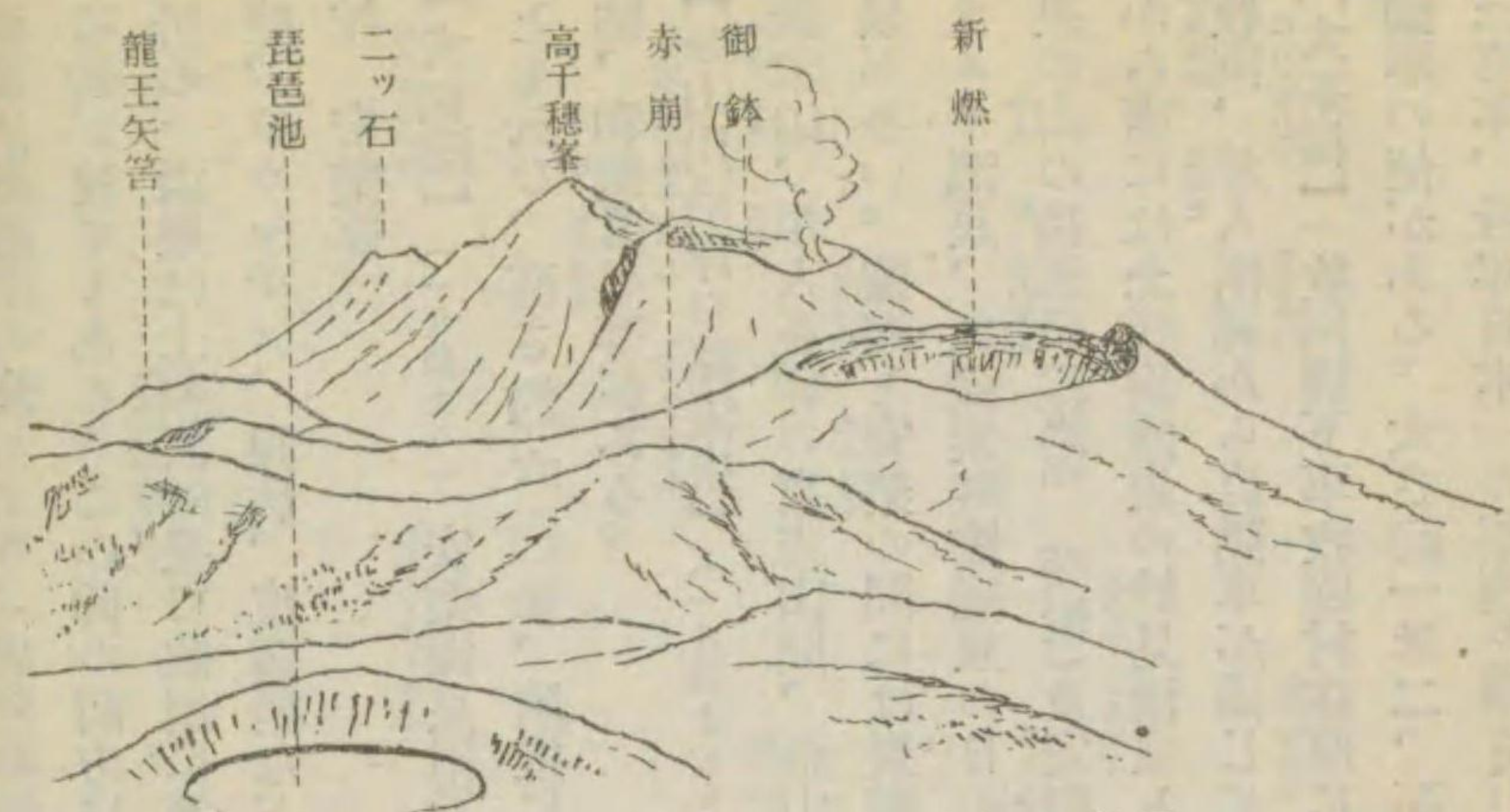
【金山川沿岸の諸温泉】（二八圖まろ）牧園、嘉例川、表木山、隼人各驛の東方山間、金山川沿岸地方には温泉が多い。鹽浸と安樂の間には炭酸泉で加熱して居るラムネ温泉、含鐵炭酸鹽類泉の日の出温泉、土類炭酸泉の山の湯温泉（旅館 菊屋）及安樂新湯があり、安樂から南には土類炭酸泉の妙見温泉と折橋温泉があり、牧園、隼人兩驛から自動車を通じて居る。

【大茶樹】牧園驛下車牧園村稼原にあり、途中まで自動車の便がある。太さ約一米二、高さ五米半弱、樹齡三百年、近年日本一の茶樹と稱される。



【霧島國立公園】（二八圖）鹿兒島、宮崎二縣に互り、鹿兒島縣側では吉松、栗野、牧園、東襲山の四町村、宮崎縣側では西岳、高原、小林、飯野、加久藤の五町に跨る約一六千の區域である。この内に二十二峯を算する霧島火山群があつて、完全な火口十五、火口湖八、爆裂火口八を數へ、豊富な温泉、森林美、霧島躑躅の美觀、神代の史蹟等幾多の特色がある。計畫中の登山道路完成の曉には、觀光が便利であらう。

【霧島温泉】（二八圖なろ）牧園驛の東一八軒、日豐本線霧島神宮驛からは北一八軒、共に自動車の便がある。温泉は霧島山西部の中腹海拔三〇〇米の高處にあり、硫黄谷、明礬、榮之尾、林田、丸尾、砒礶燃、栗川湯、關平、鉦投、太良、新湯、手洗湯、湯之野、殿湯、湯之子など十指にあまる温泉が散在して居るが、旅館の設備が整うて中心地となつて居るのは硫黄谷、明礬、林田、丸尾の諸泉である。東北西の三面は鬱然たる森林に圍まれ、溪流その間を奔下するところ、熱泉白煙をあげて物凄きまでに涌出し、湯の川、湯の瀧をなし



(一) (む望を峯穂千高に南らか岳國韓) 山島霧

て居る。硫黄泉あり、明礬泉あり、鹽類泉あり、含鐵泉あり、炭酸泉あり、温泉あり、湯泉あり、プール、湯瀧、蒸湯などの設備があり、硫黄泉は皮膚病、リウマチスに、明礬泉は眼病に、鹽類泉は胃腸病、リウマチスに、含鐵泉は胃腸病、貧血症に、炭酸泉

は呼吸器病、胃腸病に特効があると云はれて居る。

旅館は硫黄谷に霧島館、林田湯に林田旅館、明礬に高千穂館、丸尾湯に丸尾旅館、風景館。

【霧島山】(二八圖) 霧島山は鹿兒島、宮崎の二縣に互る霧島火山群の總稱で、高千穂峯(二、七〇四米)、韓國岳(二、七〇七米)、新燃(二、四三二米)、獅子戸岳(二、四三六米)などを主峯として幾多の群峯から成つて居る。概ねその山頂には火口址を有し、圓錐形の山容を聳えて居る。また大浪池、御池、大幡池等を初め數多の火口湖が散在し、優美な裾野と高原とを持ち、山腹一帯には樅、桐等の針葉樹林が茂り、山頂附近には到る處みやまきりしまの群落が多く、開花期の美觀は、この山の特色の一である。

南麓一帯の地域には所謂霧島温泉郷の多くの温泉があり、豊富な湧出量は我が國でも著名である。これ等の温泉を根據地としての登山は興味が多い。既に國立公園として指定され、交通は至便で、登山路の設備もよく、比較的容易に登ることが出来る。鹿兒島灣の展

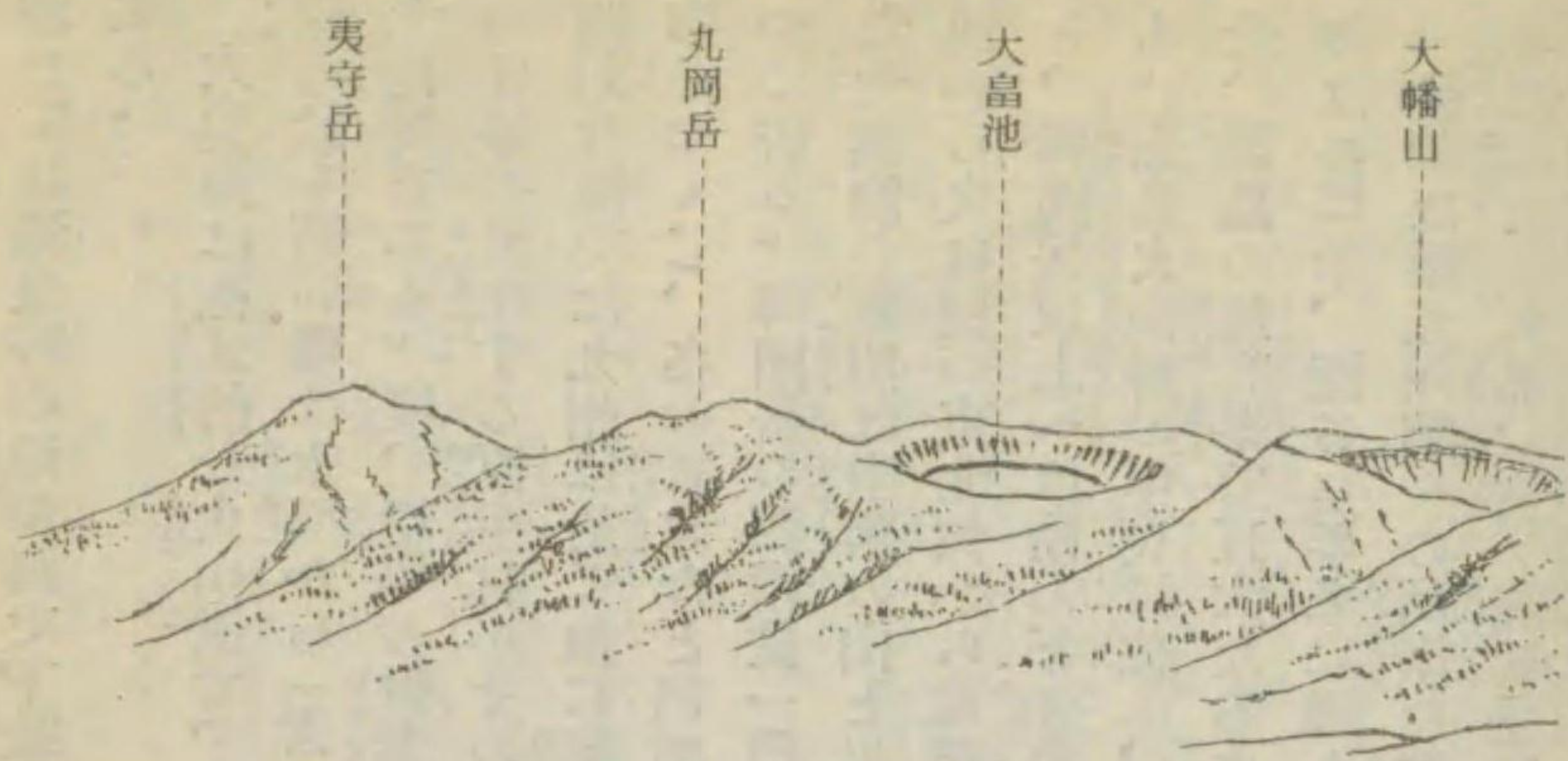
などである。

登山路としては肥薩線牧園驛から霧島温泉を経て登るもの、日豊本線霧島神宮驛から霧島神宮を経て登るもの、吉都線高原から登るものなど三方面あるが、普通霧島温泉を根據地とするが最も便利で、牧園驛からも霧島神宮驛からも霧島温泉まで自動車約四十分のドライブである。

霧島温泉から韓國岳までは約八軒、二時間半乃至三時間行程であり、高千穂峯へは一二軒で、四時間行程である。

韓國岳登山路は温泉から急坂を登ると登山路に出るこれを約十分程登ると、左大浪池、右新湯、高千穂峯への追分である。

左へ道をとり松林を行くと、新燃山が望まれる。新湯からの十字路に出て、左は大浪山腹を蝦野への道である。森林の中を大浪池火口壁までは約四十分である。この間は殆んど眺望がない。別に榮之尾温泉からの登山路がこの火口壁で合する。何れの登山路も大浪



(二) (む望を峯穂千高に南らか岳國韓) 山島霧

望を初めとして、山腹や山頂の展望は頗る雄大で、南國的情調に富んだ景觀をもつて居る。普通霧島登山は天孫降臨の靈域として知らるゝ高千穂峯に登るもので、その他霧島火山群中の最高峯韓國岳、または新燃山から高千穂峯への縦走

池までは温泉客の散歩路で下駄穿きでも登ることが出来る。

大浪池は標式的な火山湖で、直径約1,000米、火口壁の最も高い處は水面から一七米に達する。水深は十米程度である。樅、桐等の針葉樹とぶな、水楢、いぬつげ等の混生する原生林がその内壁の急崖を飾つて、幽幻な點では九州に於て他に類例がない。秋の紅葉、春のつじ、冬の霧氷など四季とりどりに、異彩を放つて居る。韓國岳の西南麓一帯に茂る針葉樹と、幽幻な大浪池の對照は南國の山と思へぬ景觀である。大浪池から火口壁の東北側から韓國岳との鞍部へ一旦降ると、韓國岳頂上へは殆んど迷路もなく約一時間で達する。霧島火山群の中央に位し、南壁の三角點は一七〇〇米、霧島の最高峯で巨大なる火口址がある。火口の直径は九〇〇米、深さ三〇〇米に達して居る。

眺望は南九州第一の高峯だけに頗る雄大で、遠く太平洋中の屋久島、宮ノ浦岳まで望まれ、間近に鹿兒島灣、櫻島、開聞岳、高隈連山を初め、北には遠く市房

間を馬の脊越と云ふ。火口の深さ約二四〇米、直径五〇〇米に及び、僅に底部に硫氣孔があり火山の名残をとめて居る。馬の脊越から急な草付の斜面を登ると高千穂峯山頂に達する。この附近は特につじが多い。

山頂には天の逆鋒が木柵の中に鑄びて立つて居る。山頂の展望は頗る雄大で、霧島火山群の全容から大隅、薩摩の兩半島、櫻島、開聞岳などを初め太平洋の際涯なき展望を満喫出来る。山頂から西へ霧島東神社に降り狭野を経て高原驛へ降るのも興味がある。高原まで一四軒であるが、霧島東神社から高原驛まで自動車がある。

また山頂から降つて河原の茶屋で道を左にとり霧島神宮へは約八軒約二時間行程である。この間の原生林の森林景觀は頗る原始的で、九州の山岳としては稀に見る幽濠味を持つて居る。

普通霧島神宮驛からの登山者は霧島神宮から登り、霧島温泉へ降るのが順路である。

【海棠自生地】

〔指定天然記念物〕 牧園驛下車、牧園村下

鹿兒島宮崎間

山方面が望まれる。

韓國岳から新燃、中岳を経て高千穂峯への縦走は足に自信ある人には興味あるコースである。

高千穂峯登山、普通霧島山登山は單に高千穂峯へ登るのが最も一般的である。

温泉から山頂まで約一二軒、登路極めて容易で、四時間行程である。温泉から杉林を登ると登山道に出る。左へ新湯、大浪池、韓國岳への道が岐れる。しばらく山腹をからんで進むと湯之野温泉へ一旦下つて霧島川の溪流を渡る、こゝから火防線状に森林を切開いた草地の間の登山道を登る。左に新燃山を仰ぎ次第に高原帯に出る。この高原帯で初めて高千穂の峯と御鉢が熔岩礫の灰褐色の山肌を表す。間もなく河原の茶屋に出る、こゝで霧島神宮からの道と合する。河原の茶屋には秩父宮殿下御登山記念碑がある。

河原の茶屋から高千穂峯頂上まで約一時間半行程である。灌木帯を二十分程登り、熔岩礫の急坂を登ると御鉢の火口壁に出る。この火口壁に沿うて進む、この

中津川萬膳にある。溪流に臨んで生じ、花は園藝種的美艷に比し清楚の趣がある。

栗野驛 鹿兒島縣始良郡栗野村木場

▽山野東線 栗野山野間 二二軒六

【栗野岳温泉】 (一八圖五) 栗野驛の東六軒、霧島火山群中最西方に突出せる栗野岳の中腹海拔四五米の高所にあり、自動車の便がある。硫化水素泉でラヂウム含量多く、皮膚病、リウマチス、婦人病、呼吸器病などに効くと云ふ。温泉には大地獄があつて盛に蒸氣を噴出し、それを利用して、天然の蒸湯が設けられて居る。

地に眺望の勝あり、川内川の流、錦江灣の波、只一目に見渡される。旅館 南洲館。

【湯之尾温泉】 山野東線湯之尾驛から七〇米。食鹽含有アルカリ泉で神経痛、リウマチス、腺病、婦人病などに効き、飲用すれば胃腸病、呼吸器病、貧血などに効くと云ふ。旅館 濱川、花屋、大湯。

【ちすじのり發生地】 〔指定天然記念物〕 同湯之尾驛の西

南六〇〇米、伊佐郡菱刈村川北にある。淡水産紅藻の一種で、暗紫色の長糸状を呈し、稀に本邦西南部に産するものである。

【大口町】 (二六圖な三) 山野東線薩摩大口驛所在地。

川内川の上流地方に位し、東西約一〇軒、南北一八軒弱、面積約六二方軒に及ぶ。産業は農業が主なもので、米の産が多い。人口一萬三千。

【彼岸櫻自生南限地】 (指定天然記念物) (一八圖な四) 吉松驛の東南四軒、始良郡吉松村川添字前目にある。瀾葉樹林中に多く生育し、花時驛方面より見れば、頗る美観である。

本線に戻つて隼人から東へ平野の間を走ればやがて國分二軒六、それより北に向つて山間に入り霧島神宮驛二軒七を過ぎ、左窓高千穂峯を仰ぎつゝ北永野田六軒、大隅大河原五軒三、北俣五軒一、財部三軒六を経て鹿兒島縣から宮崎縣に入り五十市四軒二を通り、西都城二

一部残存し、墓石の間に礎石一箇、石造の層塔、六觀音像、仁王像等が存して居る。層塔は凝灰岩製高さ約四米で六重であるが、もと七重塔であつたのを上層三重を失ひ、二重だけを補つたもので蓋石は軒の出少く彫刻を以て二軒を表はして居る。第二層の石面に康治元年壬戌十一月六日の銘文が刻されて居る。六觀音石像は小形で大願主淵脇安純 永祿五年壬戌中春彼岸云々の銘文がある。また仁王石像は上體部、同頭部を缺くもの、下體部等が墓地内に存在して居る。布目瓦が地中から出ることがあると云ふ。

【霧島神宮】 (官幣大社) (一八圖な七) 霧島神宮驛の東北約八軒、始良郡東襲山村田口字霧島にあり、自動車の便がある。

當神宮の社地は高千穂峯臺地森嚴幽邃の地を占め、南方廣く開け、遠く櫻島及開聞岳を望みて展望が廣い。本宮の創建は遠く欽明天皇の御代にありと傳へ、その社殿古くは山上にあつたが、後今の所に移建された。江戸時代には島津氏の崇敬厚く、現今の社殿は正徳年

料八を過ぎて都城二軒五に至る。西都城は志布志線の分岐點であり、都城は吉都線の分岐點である。

【國分町】 (二六圖な五) 國分驛所在地。東北から東南にかけて丘陵連り、西南は平地で、手籠川が流れて居る。往昔大隅の國府のあつたところで、國分寺の址を存する。この地方はいはゆる國分煙草を以て名高い。人口八千。

【國分煙草】 國分煙草は品質の優秀を以て知られ、産地の中、車田首位に立ち、伊勢が屋敷、龍王、砂走、武元を合せて五ヶ所と稱され、砂ヶ町、有下、常盤を加へて八ヶ所と呼び、川跡、園田、梅木、天神坊を加へて十二ヶ所と云ふ。梅木は慶長年間服部左近衛門が始めて煙草を栽培したところで、國分煙草の濫觴地である。當時の煙草は柳葉と稱して、長さ一五厘乃至一八厘、幅九厘乃至一二厘で、現時の煙草とは形状が頗る異なつて居る。

【大隅國分寺址】 (指定史蹟) 國分驛の東約一軒、始良郡國分町向花にある。舊寺域に共有墓地あり、土壇の間島津氏二十一代の國主吉貴の再建したもので、勅使殿、拜殿及本殿を具備して居る。

勅使殿 方一間、入母屋造、柿葺朱塗の建築で、正面に唐破風を附設し、極彩色の華麗な彫刻を嵌装して居る。

拜殿 長い登り廊下によつて、勅使殿と接続して居る。七間三面入母屋造、柿葺、正面に千鳥破風をかけて居る。柱蓐股等は朱塗であるが、葺片、枇杷板、床等は黒塗になつて居る。

本殿 七間六面、入母屋造、柿葺の建築である。柱は、圓柱にして朱塗、登階段は黒塗で高欄は朱塗になつて居る。階段下左右の大柱には極彩色を施した龍の彫刻を加へ、長押上小壁には極彩色の支那人物の圖を描き、頗る華麗な裝飾を施して居る。

例祭、九月十九日。

【神宮温泉】 (一八圖な八) 霧島神宮下にあり、霧島山中腹に湧出せる湯の野温泉から約四軒あまり引湯したもので鹽類泉である。

【母知丘神社】〔縣社〕 財部驛の北四軒、五十市村母知丘原にあり、豊受毘賣神及大年神を祀る。丘上雄石、雌石、稻荷石等巨大なる自然石あり、磁性を帯び、羅針が用をなさないと云ふ。土地高燥、景勝の地で、参道に櫻樹が多い。

例祭は舊曆四月八日。

西都城驛 都城市松本町

▽志布志線 西都城志布志間 三八軒六

志布志線

この線は西都城から南に岐れ、今町四軒三、末吉四軒、岩北六軒一、岩川二軒八、大隅松山四軒四、繩瀬四軒八、安樂七軒一を經、志布志五軒一に至る。【今町一里塚】〔指定史蹟〕今町驛の南一軒餘、北諸縣郡五十市村、中郷村にある。縣道の兩側約二米七を隔て、相對し、高さ二米七、基底徑七米三弱あり、殆ど完形を保つて居る。

【住吉神社】〔縣社〕 末吉驛の東南三軒、末吉町住吉に

その夫人阿南御前は島津忠良（日新）の息女で薩摩婦人の鑑と崇められた烈婦である。

【山宮神社】 志布志驛の西北四軒、贈嗚郡志布志町安樂にある。天智天皇崩御後和銅二年、天皇の寵姫玉依姫の創建と傳へる神社で、社寶の唐草鴛鴦鏡は藤原時代後期の製作に屬する優秀なる和鏡で、國寶に指定されて居る。

社頭には目通幹圍約一八米八、根廻り約二九米七の大樟がある。

【枇榔島熱帯性植物産地】〔指定天然記念物〕（一六圖か7）

志布志町の南方凡そ五軒半、有明灣の北邊に位し、海拔二〇〇米、周圍約四軒に過ぎない小島で、もと蒲葵島と記された。植物は百五十種餘或は九十七種と稱され、その中亞熱帯及熱帯的のものほびらう、はまびは、はまひさか等二十三種と稱される。蒲葵は全島に散在するが、北部に少く、南部に多く、海岸から漸次高所に及び、三〇米近いところにまで及んで居る。繁殖の最も濃厚なところは東南部である。莖の太さは目通七五

あり、自動車の便がある。秋季例祭は流鏑馬の神事あり賑ふ。社境は即ち住吉山で古松老杉鬱蒼として茂り、山頂は展望臺である。

山頂にある姥ヶ石は將棋形の巨石で二箇あり、竈形に並列し、古來日隅の境界石と稱されて居る。

【志布志町】（一六圖さ6） 夏井、志布志、安樂三驛所在地。有明灣即ち志布志灣に臨み、東西約一二軒、南北凡そ二四軒、面積約二五方軒、地勢北部に高く、前川、安樂川は南流して海に注ぎ、その下流地方には平野が開けて居る。藩政時代には海外貿易港として榮えたこともあり、今阪神への定期航路が開かれて居る。夏井の濱は風光明媚である。人口一萬九千。

【中山宗五郎宅址】 志布志町にあり、藩政時代の密貿易者中山宗五郎の宅址である。舊狀を存し地下室、三階、秘佛壇、拔道等がある。

【肝付兼續墓】 志布志町大慈寺海岸墓地の東側入口にあり、大きな五輪塔である。兼續は志布志の領主だったが、島津氏の勢におされて永祿八年十一月自刃した。

榎内外、高さは九米乃至一〇米のものが多し。

【都萬神社】 志布志驛の西南約一四軒、贈嗚郡大崎村假宿にあり、立速主命を祀る。創建年次は詳でないが、天文二十二年肝付兼續再建し、天正十六年島津義久が改築した。社寶の菊花雙雀鏡は優美な鎌倉時代後期の和鏡で、國寶に指定されて居る。

志布志から油津への鐵道工事は今進行中で、福島今町、福島中町、日向北方、日向大東を經て榎原まで近く延長開通の豫定である。

【幸島猿棲息地】〔指定天然記念物〕 福島驛の東約一八軒、油津の南約一八軒、市木村石波部落の沖合四〇〇米にあり、附近まで自動車の便がある。幸島は周圍四軒餘、常緑樹を以て蔽はれ、風光明媚の一仙境である。島内に棲息する野猿百餘頭、三三、五五樹から樹へと飛び廻り、或は海濱の岩頭に戯れ、時々數十頭一團となり、嬉々として群遊する。

【都井岬蘇鐵自生地】〔指定天然記念物〕（一六圖か7） 福島

驛の東南約二〇軒、南那珂郡都井村都井岬の南端の一角に位する御崎神社境内及附近原野である。境内は人の畏敬心によつて自ら保護せられ、蘇鐵の數百數十本を算する。概して小形であるが、周圍九〇裡に達するものも存し、高さは一米半乃至一米八に過ぎない。岬一帶の丘阜の半腹以上には放牧場があつて幾百頭の馬が群遊し、舊時藩主が馬追の時籠を下りた籠立の邊は眺望がよく、附近に彌生式土器の包含地もある。【榎原神社】〔縣社〕榎原驛附近、南那珂郡榎原村橋の口にある。萬治元年飢饉藩主伊東祐久が鶴戸神宮の神靈を勧請したもので、古來榎原參りと稱し、鶴戸神宮を経て來賽するものが多く、三月十六日の例祭は非常の賑ひを呈する。

大隅鐵道は今古江、串良間(三一軒五)開通して居るが、近き將來に省線に加へらるゝ筈である。

【唐仁古墳群】〔指定史蹟〕大隅鐵道串良驛の南四軒、肝屬郡東串良村唐仁町の大塚と呼ぶ前方後圓墳を中心

産業は農業が首位に立ち、蠶絲業がこれに次ぐ。笠野原には飛行場があり、また櫻の名所である。人口二萬三千。

【へご自生北限地帯】〔指定天然記念物〕大隅鐵道高須驛

の南二〇軒、肝屬郡小根占村にあり、東方の内之浦町と共にへごが自然に繁殖し、その指定地である。

【佐多舊薬園】〔指定史蹟〕大隅鐵道高須の南約四〇軒肝屬郡佐多村伊座敷部落の西南にある。貞享四年、新納時升が藩主に献上した龍眼樹を植ゑたのに始まり、寶曆明和の頃に更に薬草木を栽培した。堀切と上の園平と二箇所にあり、堀切薬園には龍眼樹は現在二十八株あり、他に荔枝、枳殼、あかてつ、印度護謨樹等がある。上の園平の薬園は堀切の分園で、共に熱帯植物を栽培した薬園として著名である。

【蘇鐵自生地】〔指定天然記念物〕同肝屬郡佐多村馬籠にあり、鹿兒島からは垂水まで汽船、そこから自動車の便がある。東北の内之浦町と共に蘇鐵自生北限地に當つて居る。

として大小百數十基の古墳群で、大塚古墳の上には大塚神社の社殿あり、拜殿と本殿との間の渡廊の下に割石積の石室存し、天井石が露出して居る。石室内部には剝抜石棺があり、棺外には發掘の際鐵甲が安置せられたと云ふ。附近に役所塚、福留塚、その他の圓墳、小形前方後圓墳が多數に存し、肝屬川を隔てた高山村塚崎には前方後圓墳、圓墳約三十基あり、方格丁字鏡、直刀等を出土して居る。宮崎附近の西都原古墳群と南北相對照して顯著な群集地をなし、且、上代古墳分布の略々南限をなして居る。

【吾平山上御陵】大隅鐵道始良驛の東南五軒、肝屬郡始良村上名吾平山の太嶽窟内にある。窟内に祀壇及御塚あり、これが彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊の日向の吾平山上御陵である。窟内の御塚の東にある小塚は妃玉依姬命御墓であると傳へて居る。

【鹿屋町】(二六圖た7) 大隅鐵道田崎、鹿屋、下田崎及川西四驛所在地。東西約一二軒、南北約一四軒、面積九三方軒弱に及ぶ盆地で、肝屬川が南流して東に向ふ。

都城驛

宮崎縣北諸縣郡沖水村川東

▽吉都線 都城吉松間 六一軒六

▽乗合自動車 飯肥行、霧島神宮前行

一日平均

乗車人員 五七一人 降車人員 六二六人

發送貨物噸數 六一噸 到著貨物噸數 八七噸

主要發送貨物 木材、米、鹽

主要到著貨物 石炭、丸太、活鮮魚、人造肥料、セメント

【都城市】(二六圖さ5) 大淀川の上流地方にあつて、

東西は約六軒半、南北は約八軒に及び、面積は一九方軒に近い。もと島津氏の治所となつて居たところで、大正十三年から市制が敷かれた。生産は未だ少なく、米、傘、醬油、蠶絲、茶等が主な産物である。最も繁華な通は上町一丁目から四丁目に至る間である。人口三萬六千。

▽官公廳その他 市役所(姫城町)、區裁判所(同)、歩兵第二十

三聯隊(市外五十市村)、聯隊區司令部(鷹尾町)、稅務署(姫城町)

營林署(八幡町)、商工會議所(上町)、圖書館(姫城町)

▽銀行 第四百七十七銀行支店(上町) 日向中央銀行支店

（上町）、日向興業銀行支店（同）

▽會社 工場 日東製糸工場（市外沖水村川東）、鐘紡乾繭工場（同）、球磨川水力電氣會社支店（牟田町）、江夏醸造場（西町）、都城製氷會社（宮丸町）

▽新聞社 三州日日新聞社（中原町）、南九州毎日新聞社（八幡町）

▽旅館 水間旅館（上町）、松の枝旅館（松元町）、丸一旅館（同）、持永旅館（中町）、水元旅館（東上町）、石井旅館（松元町）

▽料理店 竹葉本店（牟田町）、竹葉支店（同）、ひらこ（同）、末廣（前田町）

▽娛樂場 「映畫館」朝日館（上町）、電氣館（中町）
「劇場」都座（藏原町）

▽土産物 ハム、茶、大弓、ステッキ

廻覽順路 都城驛—神社—稻荷神社—早水神社—
一万城公園—姫城山—都島城址—母知丘神社—關の
尾瀧、龜甲岩（甌穴）—都城驛

【早水の池】 都城驛の東方約一軒一、市外沖水村早水、早水神社境内にある。周圍數百米清水滾々として湧出し、老杉影を映じて趣がある。近時池畔に櫻樹を植ゑ、一層の風致を加へた。

はL字形をなし、長さ七〇〇米、幅三〇〇米及長さ六〇〇米、幅三〇〇米、表面概ね平坦である。

【關の尾の甌穴】 「指定天然記念物」 都城驛の西北八軒餘、谷頭驛からは西六軒、市外庄内町關の尾を流れる庄内川にあり、自動車の便がある。長さ約五〇〇米、幅三〇〇米乃至四〇〇米に及ぶ安山岩の河床一面に現れて居る。河床をなす熔岩に粗大なる柱狀節理が發達して、断面龜甲狀を呈し、節理に當る弱所に河水に依つて運ばれた礫石が回轉して岩石を磨滅し、次第に圓狀の穴を穿ちたるものが甌穴で、龜甲岩の名がある。甌穴は直徑一米乃至一米三位、深さは底に礫石があるから明確でないが、二米以上に及ぶものもあらう。かくの如きものが河床一面に幾百個相並んで居るのは奇觀である。甌穴は岩面に壺を掘込んだやうなもののみではなない。流れの方向に浅い藥研狀の凹處をなすもの、更に浸蝕が進んで深い溝狀をなすもの、數個を連ねて連鎖狀になつたもの、二つ以上の穴が次第に成長して一つになつた不規則のもの等がある。

【神社神社】 「縣社」 都城驛の南約五〇〇米、市内小松原町年見川の畔にあり、自動車の便がある。天照皇大神、豐受大神を祀り、相殿に五柱の神を合祀してある。創建は萬壽三年と傳へ、もと中郷村梅北にあつたが、明治六年十月今の地に遷した。本社の西に小松原公園がある。

【攝護寺】 「眞宗本願寺派」 都城驛の西南二軒、市内牟田町にあり、自動車の便がある。西南の役後始めて設けられた一堂がその後移轉、改築されたものである。地域廣大、堂宇輪奐、本尊阿彌陀如來は行基の作と稱され高さ五尺ある。

【軍神山】 都城驛の西南二軒半、市内姫城町にあり、自動車の便がある。市の中央に近い小丘で、老樹天を摩し、丘上に旭丘神社鎮座し、伊邪那美命その他約十神を祀る。

【都城飛行場】 都城驛の西約四軒、北諸縣郡五十市村和田原にあり、自動車の便がある。市の經營する公共用陸上飛行場で、總面積約三〇萬方米、滑走區域

【關の尾瀧】 關の尾甌穴の下流、熔岩流の末端に懸り、高さ一五米、幅二二米弱、浸蝕作用が比較的容易に行はれ、瀑布は最初の位置から少くとも四〇米退却したものの如く、瀧壺の中には節理に沿うて崩壊した大小の岩石が横つて居る。崖壁に躑躅が多い。

吉都線

この線は 都城 から北に向ひ谷頭七軒一、高崎新田一〇軒七、高原九軒 を過ぎ小林町八軒から西轉し、西小林六軒二、飯野五軒六、加久藤五軒四、京町四軒六を經、吉松五軒に至つて肥薩線に會するもので、車窓から常に霧島山を望まれる。

【狭野神社】 「縣社」（一八圖から） 高原驛の西約三軒三、西諸縣郡高原村字蒲牟田にある。霧島山の登山口に當り、神武天皇外六神を祀り、官幣大社宮崎神宮の別宮である。境内は老杉多く、八三三米の參道巨杉槍立して天を摩す。また佛法僧の渡來地にしてその繁殖地である。附近に王子原、産婆石、祓川、血捨木等の遺跡が

ある。
【狭野の杉並木】〔指定天然記念物〕 狭野神社參道入口より本殿に至る數百米の間、轟々天を摩する老杉が連つて居る。征韓の役後、慶長四年島津義弘が戰勝報賽の爲、老臣新納忠元をして栽植奉納せしめたもので、樹齡三百三十餘年、明治以來風害の爲倒れたものも多いが、今尙二百七十餘株を存して、日光の杉並木と共に著名のものである。

【狭野神社佛法僧蕃殖地】〔指定天然記念物〕 狭野神社境内にある。佛法僧は毎年四月下旬から九月上中旬にかけて、南方から本邦へ渡來する候鳥であつて、約五十羽に及ぶことがある。一般に樹上高所に棲息し、地上一八米以下には滅多に下ることがない。佛法僧の鳴聲は遠くから聞くと、ポーポポーと聞える。

【蓮太郎温泉】（一八圖あ5） 高原驛の東四軒、自動車の便がある。アルカリ性食鹽泉で加熱して居る。胃腸病婦人病、腺病などに効くと云ふ。この方面からの霧島登山最捷路に當つて居る。旅館 蓮太郎旅館。

途中まで自動車の便がある。玉泉湧く溪流約七九ヘクタールの地は春線爛の花を開き、大隅の牧園村と共に、培養せる海棠の原種即ち野海棠または山海棠の本邦に於ける唯一の自生地である。

【狗留孫峽】 飯野驛の北四軒餘、西諸縣郡飯野村にあり、川内川の上流狗留孫川の峽谷、凡そ一二軒を稱する。主として中生層より成り、流水の侵蝕作用に依つて形成され、奇岩斷崖その形状の多様なること妙義、耶馬と同工にして異趣、特有の山水美を展開する。

【京町温泉】 京町驛附近にあり、京町、觀音、雷に分れて居る。含鐵食鹽泉で胃腸病、婦人病、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館 眞砂、川莊、玉泉、黒松。

【吉田温泉】 京町驛の北二軒半、自動車の便がある。矢岳の南麓にあり、附近に龜澤、大王の二泉があり、いづれも含鐵食鹽泉である。旅館 昭和館、大王館、伊藤、本郷、木山。

鹿兒島宮崎間

【御腰掛岩】 小林町驛の南二軒、小林町細野夷守岳の麓道路の東側にあり、自動車の便がある。景行天皇熊襲征討の途次御駐輦の址と傳へ、玉垣を繞してこれを保存して居る。

【軍馬の櫻】（一八圖さ4） 小林町驛の南約四軒、小林町字南細野の夷守岳の麓にある。陸軍々馬補充部の用地内、道路の兩側に沿うて、一千本餘の櫻樹が植ゑられ、春は美觀を呈する。

【夫婦石】 小林町驛の東北約四軒、小林町字東方にあり、自動車の便がある。大淀川の上流岩瀬川を隔て、南北に位し、南にある陽石は侵蝕を免れた一種の泥熔岩で、高さ約七米三、周圍一六米餘、北にある陰石は一の甌穴で、周圍五四米餘である。

【白鳥温泉】（一八圖は4） 飯野驛の南約八軒、白鳥岳にあり、韓國岳を経て霧島温泉へ出られる。鹽類性硫酸泉で熱湯の涌く地獄もあり、蒸湯の設もある。

【海棠自生地】〔指定天然記念物〕 飯野驛の南一五軒、西諸縣郡飯野村末永、同郡加久藤村西長港浦にあり、

を下り更に水平壙を進んだ奥に支室あり、短甲及衝角付兜を出土し、今東京帝室博物館に收藏せられて居る。

本線に戻つて都城から東に進めば三股 四軒三それから北に折れて山之口 六軒五に至り、青井岳山麓に入る。秋の頃は紅葉の錦が車窓に照り映ゆる。トンネルを潜れば青井岳驛 九軒八で直にまた長いトンネルに入る。田野一軒三を経て清武一〇軒二に至ればやゝ展げ、やがて大淀 五軒三を過ぎて大淀川を渡りて宮崎二軒六に著く。

【安井息軒舊宅】 清武驛の東北一軒、清武村にある。幕末の儒者安井息軒誕生の舊宅で、昭和四年多少舊位置を移動し、且多少の修理を経たが、なほ舊狀を遺存して居る。井戸、手植梅等も存する。附近には息軒の父滄州が飢肥藩に請うて建てた明教堂址がある。

【双石山】 清武驛の南八軒餘、木花村にある。遠く望めば虎豹の蹲るが如く、近づけば群嵐天を劈いて聳え、仙樓巖、姥神洞等の勝など正に一幅の山水畫である。

青島と同じく第三紀層が永年に互る浸蝕作用を受けたものであると云ふ。

【家一郷峽】 双石山の南から東を流れる加江田川約八料の間を云ふ。山假屋街道の黒坂から左折して竹内、丸野を南すれば傘淵、瓢箪淵、柴堰、蛇ヶ淵等の勝あり、鬱蒼たる樹林の間、溪流のせゝらぎ、紺碧の淀み、次から次へと溪谷美を展開し、やがて家一郷の一軒家に達する。こゝはトクソの山懐で、溪の奥に團左衛門、清之丞の二瀧があり、尚上流には清家の瀧、鮎返りの瀧、となせが淵等の勝がある。

大淀驛 宮崎縣宮崎郡赤江町恒久

▽宮崎鐵道 大淀内海間 二〇料一

▽乗合自動車 生目行、青島行、宮崎神宮行

宮崎驛 宮崎市廣島通一丁目

▽乗合自動車 小林町行(省營宮林線)、飲肥行、綾行

一日平均

乗車人員 七二九人

降車人員 七三一人

發送貨物噸數 三九噸

到着貨物噸數 九五噸

主要發送貨物 木材、野菜

主要到着貨物 石炭、鹽、人造肥料、石油、豆粕

【宮崎市】 (一六圖あ4) 宮崎、花ヶ島兩驛所在地。大淀川に跨り、日向灘に沿ひ、地勢平坦、東西は約八料であるが、南北は一四料に近く、面積は四六方料に近い。

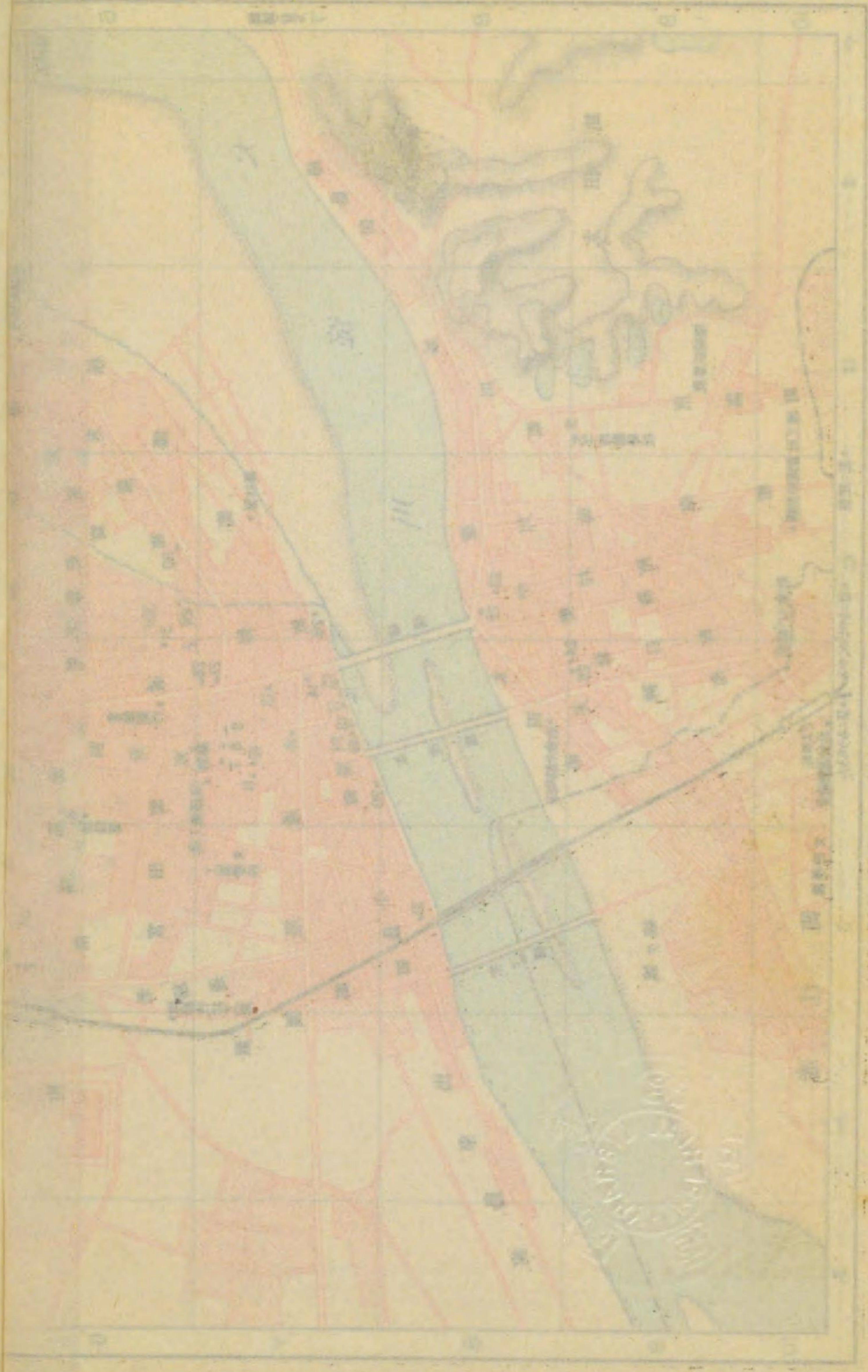
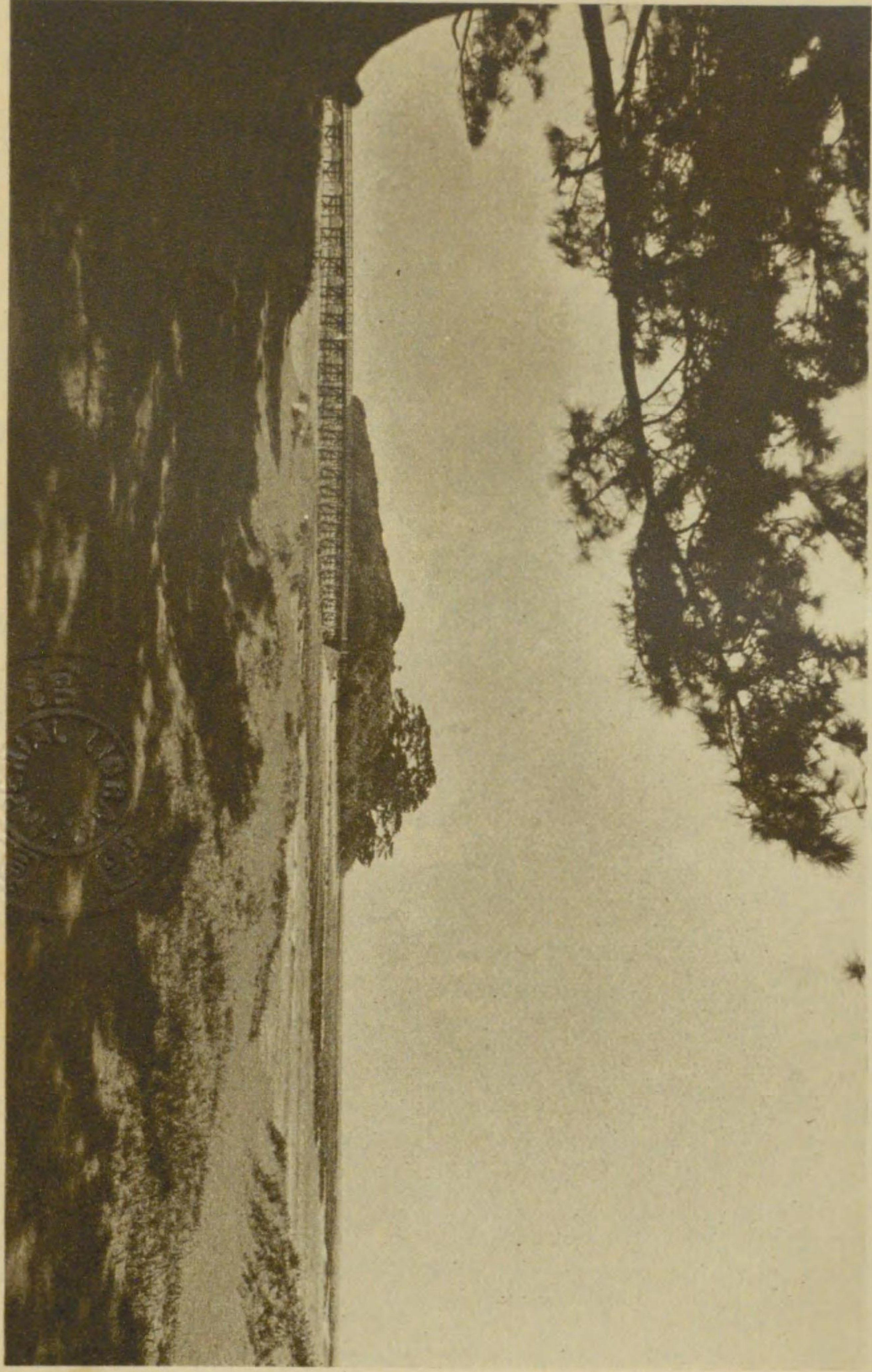
この地は近世までは一江村にして、延岡藩に屬したが、明治六年この地に縣廳を置かれるに及び市邑となり、大正十三年四月宮崎町、大淀町及大宮村の三箇町村を合併して市制を布き、昭和七年四月檉村を編入した。生産は昭和七年に六百二十萬圓許で、工産最も多く、農産これに次ぎ、生絲は工産の過半を占める。人口六萬三千。市内外の觀光には大淀驛を起點とする遊覽バスがあり、ガイドガールが名所の説明をする。

▽官公廳その他 市役所(橋通二丁目)、縣廳(別府町)、地方裁判所(宮田町一丁目)、内務省大淀川改修事務所(大工町)、稅務署(宮田町二丁目)、營林署(松橋町一丁目)、農事試驗場(京塚町)、水産試驗場(別府町)、高等農林學校(船塚町)、圖書館(本町)、商工會議所(別府町)、公會堂(橋通一丁目)

▽銀行 日向興業銀行(橋通二丁目)、日向中央銀行(中村町一丁目)、宮崎銀行(橋通二丁目)、百四十七銀行支店(橋通二丁目)、勸業銀行支店(本町)

島

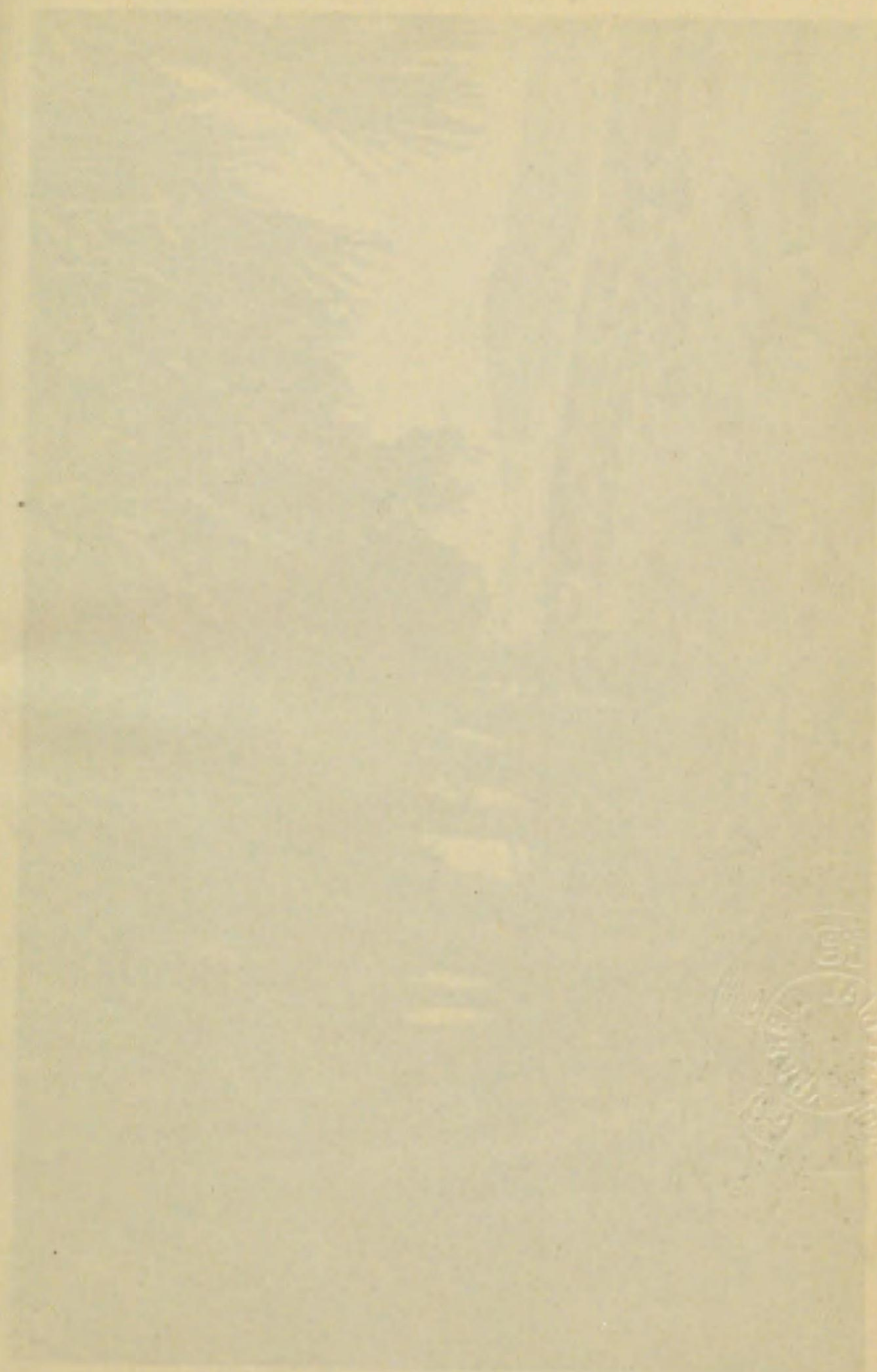
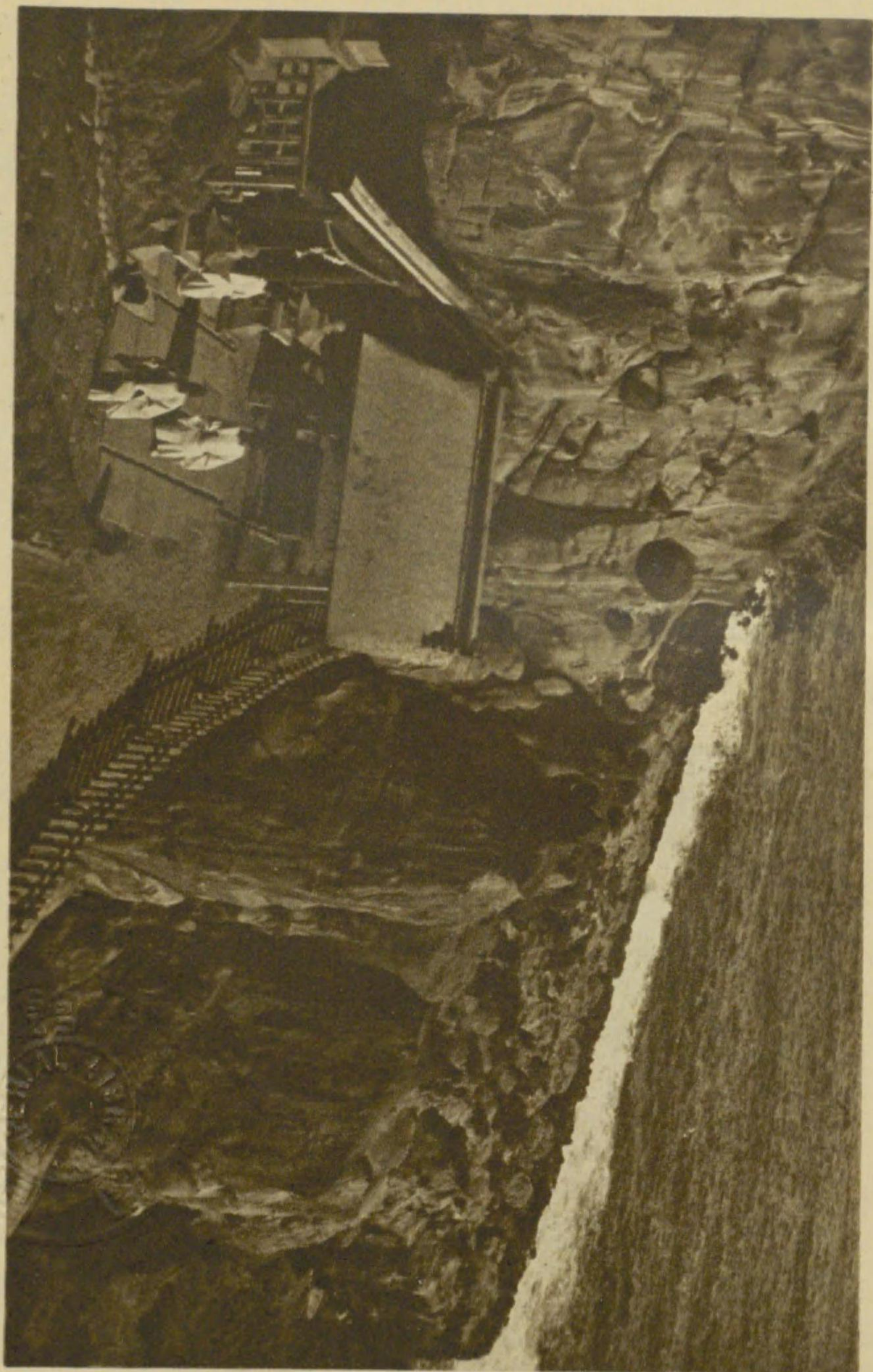
嶺



樹 姿 蒲 の 島 青



宮 神 戸 鶴





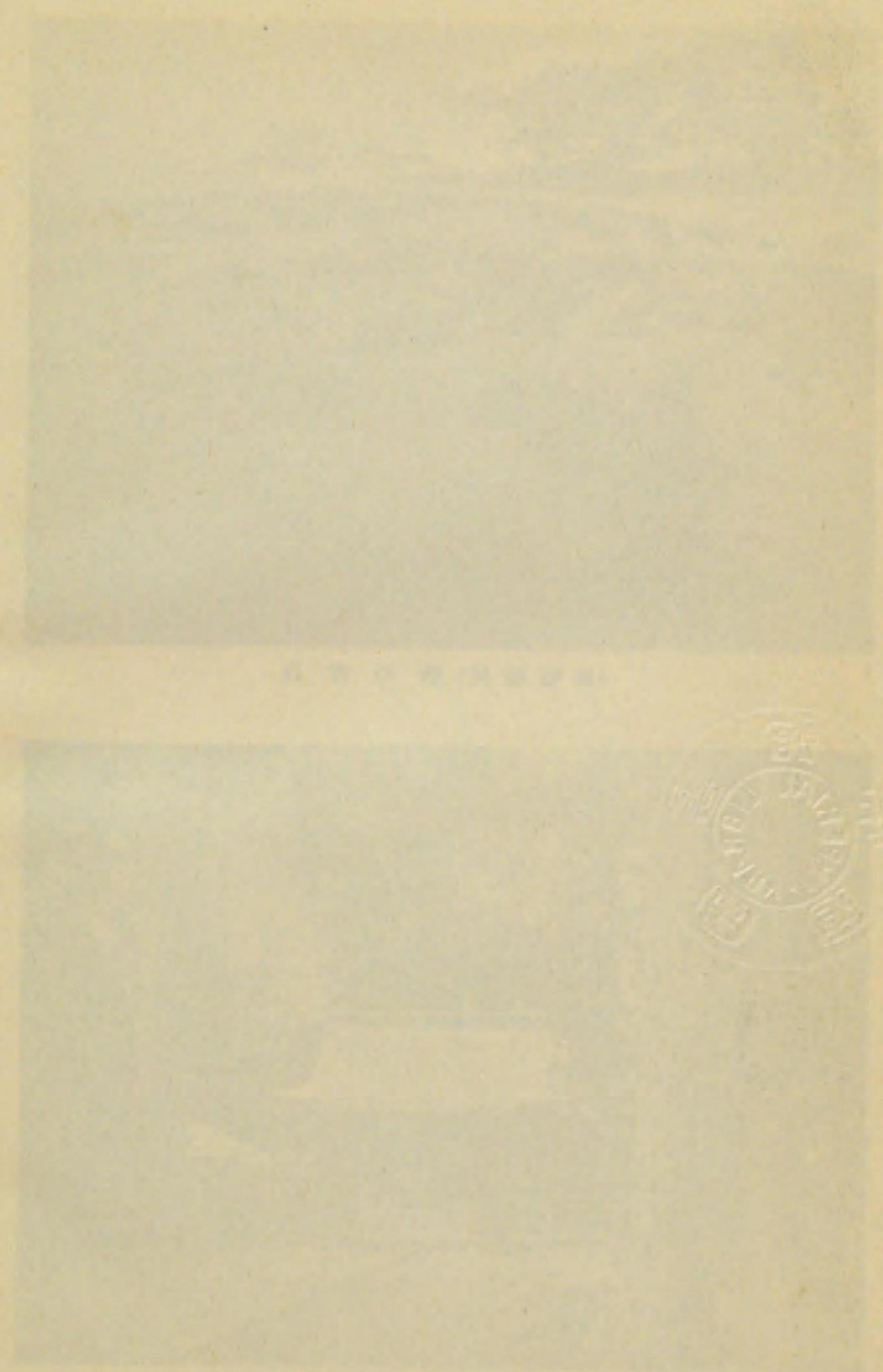
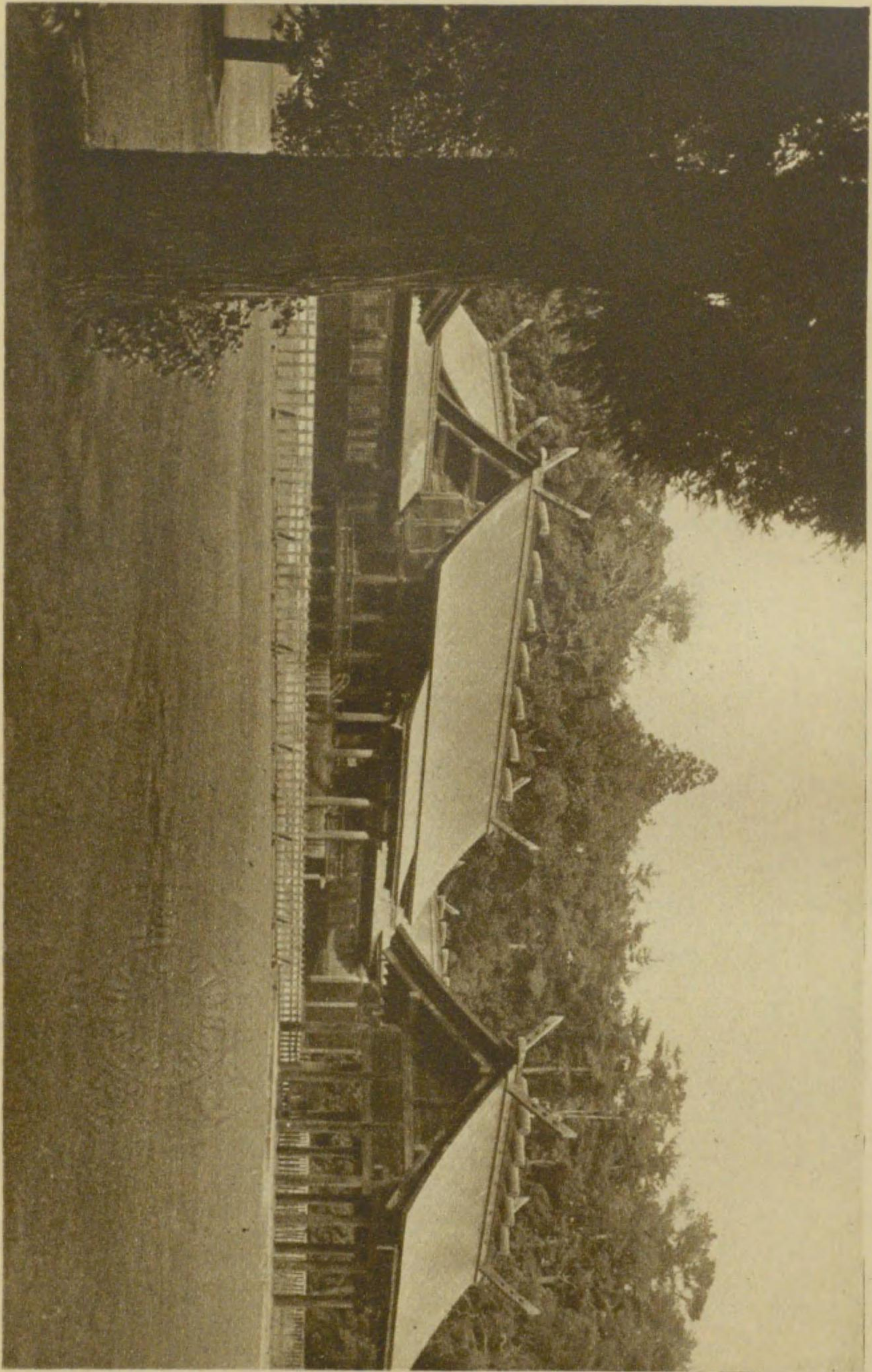
住吉の濱(阿波岐原)



狹野神社



宮 神 崎 宮



▽會社 工場

郡是製絲會社工場(權現町)、鐘紡製絲會社工場(南町)、宮崎製絲會社(年田町)、猪野竹材工場(鶴來町)、宮崎木材工藝會社(丸島町一丁目)、宮崎バス會社(市外大淀驛前)、宮崎ガス會社(下原町)、日向製氷會社(太田町)、宮崎鐵道會社(市外大淀驛前)、神都電氣興業會社(上野町)、日向中央倉庫會社(深坪)

▽新聞社

宮崎新聞社(南廣島通)、日州新聞社(旭通)

▽旅館

神田橋(川原町)、廣瀨(同)、神都(上野町)、藤の井(同)、日高(廣島通)、松崎(橋通)、新日州(高千穂通)

▽料理店

紫明館(小島町)、泉亭(川原町)

▽娛樂場

〔劇場〕高千穂劇場(丸島町)、喜樂座(末廣町)、春日座(春日町)、〔映畫館〕有真館(上野町)、帝國館(仲町)、大成座(上野町)、昭和館(春日町)

▽土産物

椎茸、竹細工、椎茸羊羹、日向夏羊羹、搦入れ餅、日向夏蜜柑、祖國漬

廻覽順路

宮崎驛—宮崎神宮—皇宮家—景清廟—天神山—生自神社—青島—鵜戸神宮—大淀驛。

【一ツ葉濱】

宮崎驛の東北約四料、花ヶ島驛からは東南約五料、市内新別府町にある。伊弉諾尊筑紫日向の小戸の橋の阿波岐原に禊し給うたと云ふ古傳説地である。日向の一名勝で、白砂青松の汀は南北約一二料

鹿兒島宮崎間

に及び、遙東方の海上に土佐の群山が望まれ、風光雄大である。夏期は盛に海水浴が行はれる。松林中に古社稻荷神社がある。松の孤葉が多いので、濱の名に負うて居る。

【宮崎神宮】〔官幣大社〕(一九〇一) 宮崎驛の北約三

料、花ヶ島驛からは西半料、市内神宮町にあり、宮崎及大淀驛から自動車の便がある。神日本磐余彦尊(神武天皇)を主神とし、鷦鷯草葺不合尊及玉依姬命を配祀して居る。古來、神武宮または神武天皇社と稱し、建久年間、地頭土持太郎信綱宮殿を造營し、文明八年伊東祐國社領を獻じ、寛永二十一年延岡城主有馬氏宮殿の重修あり、元祿二年有馬永純社領を寄せ、文化十年に延岡城主内藤氏によりて宮殿の修造があつた。明治六年五月縣社となり、宮崎神社と稱せられ、同年八月國幣中社に列し、同十一年宮崎宮と改め、同十八年官幣大社に昇格し、大正二年宮崎神宮と改稱した。境内廣大森嚴を極める。參道は一の鳥居より櫻樹道を挟み花時は美觀を呈する。例祭は十月二十六日。

神宮徴古館 木造、二階建、明治四十二年の竣成で同年五月より開館、傳來の寶物の他伊勢神宮式年祭の御調度品、明治天皇御寄進太刀を初め、縣内各所から發掘された石器時代並に古墳時代の刀劍、鏡、玉類、埴輪等の遺物が多數に陳列されて居る。

【大宮競馬場】 (二九圖か1) 花ヶ島驛前にある。公認競馬として春秋の二季に開催される。

【皇宮屋靈域】 宮崎驛の西北約四軒、花ヶ島驛からは西約二軒、市内下北町上水道水源附近にある。神武天皇の宮居し給うた舊蹟と傳へられ、宮崎神宮攝社皇宮神社鎮座し、前方後圓型の古墳、池、古刹帝釋寺がある。池の畔に神武天皇涼宮の傳説地がある。またこの地には皇宮家の外、内裏跡、古都、王路坂等の地名存し、到るところに古土器の破片を散布して居たものである。

【景清廟】 同市内下北町にある。日向に流された悪七兵衛景清居住の跡と傳へられ、生目神社と共に、眼疾に靈験があるとして、參詣者が絶えない。境内にある人

ち、遙に大洋の渺茫白帆の徂徠が望まれる。縣立農事試験場園藝部があり、果樹彩草四時美觀を呈する。東端に天満神社、西方に縣有模範竹林がある。

【生目神社】 (縣社) 宮崎驛の西方六軒、市外生目村字龜山にあり、自動車の便がある。品陀和氣尊、平景清を祀る。境域幽寂、古來眼疾に効験ありとして、縣外からの來賽者が絶えない。一月及九月の十五、六日の例祭には殊に賑ふ。

【月知梅】 宮崎驛の西約一二軒、市内高岡町高濱にある。往時は香積寺庭一株の梅に過ぎなかつたが、年と共に繁衍し、枝々地に入つて根をなし、根は出でて幹となり、起伏遊旋地を掩ふこと方三六米、頗る奇觀である。

【本庄古墳群】 (指定史蹟) 宮崎驛の西北約二〇軒、自動車の便がある。東諸縣郡本庄町の民家の間、及附近畑地に散在し、前方後圓墳あり、横穴、及地下墳あり總數五十七を算する。この地は上代に日向諸縣の中心地をなして居た事が認められ、高塚式のものには形状

丸塚は景清の娘人丸を祀つたものであると云ふ。

【宮崎城址】 宮崎驛の西北五軒、池内と上北方とに跨つた丘陵の一部を劃して築かれた城址で池内城とも云ひ、宮崎附近を一眸に收む勝地にある。建武二年、圖師隋圓及其の子慈圓この城に據りて、勤王の軍を援けたことがある。

【江田神社】 (縣社) 宮崎驛の東北約六軒、花ヶ島驛からは東北約五軒、市内山崎町にある。諸册二神を祀り、日向式内四座の一にして俗に産母神社とも云ふ。境内老樹蒼蒼幽靜である。

【小戸神社】 宮崎驛の西一軒餘、市内下水流町にある。景行天皇能襲御親征の時、勅願によつて創建されたと傳へ、諸册二神を祀る。往古は大淀河口、舊の檣村下別府にあつたが、後上野町に遷祀し、更に昭和八年現地に移建された。祭典は極めて壯嚴で、神輿の渡御がある。

【天神山】 (二九圖ま8) 宮崎驛の西約一軒半、市内太田町にある。丘上の展望開濶、宮崎市街悉く眸底に落

完全で且雄大である。地下墳は近年内部から短甲、直刀、齋瓮等出土し、日向に於ける古墳群のうち顯著なものに屬する。

【法華岳】 宮崎驛の西北約二五軒、東諸縣郡八代村にある。絶頂に藥師如來を安んじ、日本三藥師の一と稱される。眺望瀾達、東に日向灘を、西に霧島山を望み、風光雄秀、山中に和泉式部腰掛松、身投瀧等の傳説がある。名物玩具法華岳鶉は木製で、粗朴淡彩頗る雅趣がある。

【青島】 (六圖あ4) 宮崎驛の東南約一五軒、宮崎郡青島村折生迫の海岸にあり、大淀驛から自動車並に宮崎鐵道の便がある。古名を淡島、齒染の浮島と云ひ、周圍約九〇米の一小島で、満潮時には彌生橋と稱する橋によつて往來されるが、平時は半島である。熱帯植物鬱然として繁り、翠影滴々眞に青島である。中に彦火火出見尊、豐玉姬、鹽土翁を祀る青島神社がある。島の附近に於ける岩盤の景趣は驚異に値する。この島及對岸地附近は山幸海幸の傳説地である。

【青島村の隆起海床と奇形波蝕痕】〔指定天然記念物〕熱帯性植物を以て名高い青島の基盤は第三紀層で、砂岩と頁岩の互層から成り、その走向と傾斜は場所によって多少の差はあるが、走向大約北二四度東、傾斜は約二二度である。島の周囲には二三ヶ所の斷層を認める。傾斜せる砂岩と頁岩の互層に波蝕が加はり、龜甲狀の乾裂面多く、穿孔貝の穿つた小孔は水蝕に依つて蜂窩狀をなし、打寄する男波女波は岩礁に碎けて花と散り、海岸を隈取る緑濃き樹林海光と映じ、景觀云ふべからざるものがある。青島より南して内海時々の東側に出ると地層の斷面がその走向と同方向に整然と横はり、更に南して巾着島附近に至れば、小乾裂の奇態を目撃することが出来る。青島から巾着島までが指定の地域である。

【青島熱帯性植物産地】〔指定天然記念物〕青島は小島であるが、熱帯性の植物に富み、島内の植物は七十八科、百八十八屬、二百三十種を産する。その中熱帯性及亞熱帯的のものは、びらう、あをのくまたけらん、くは

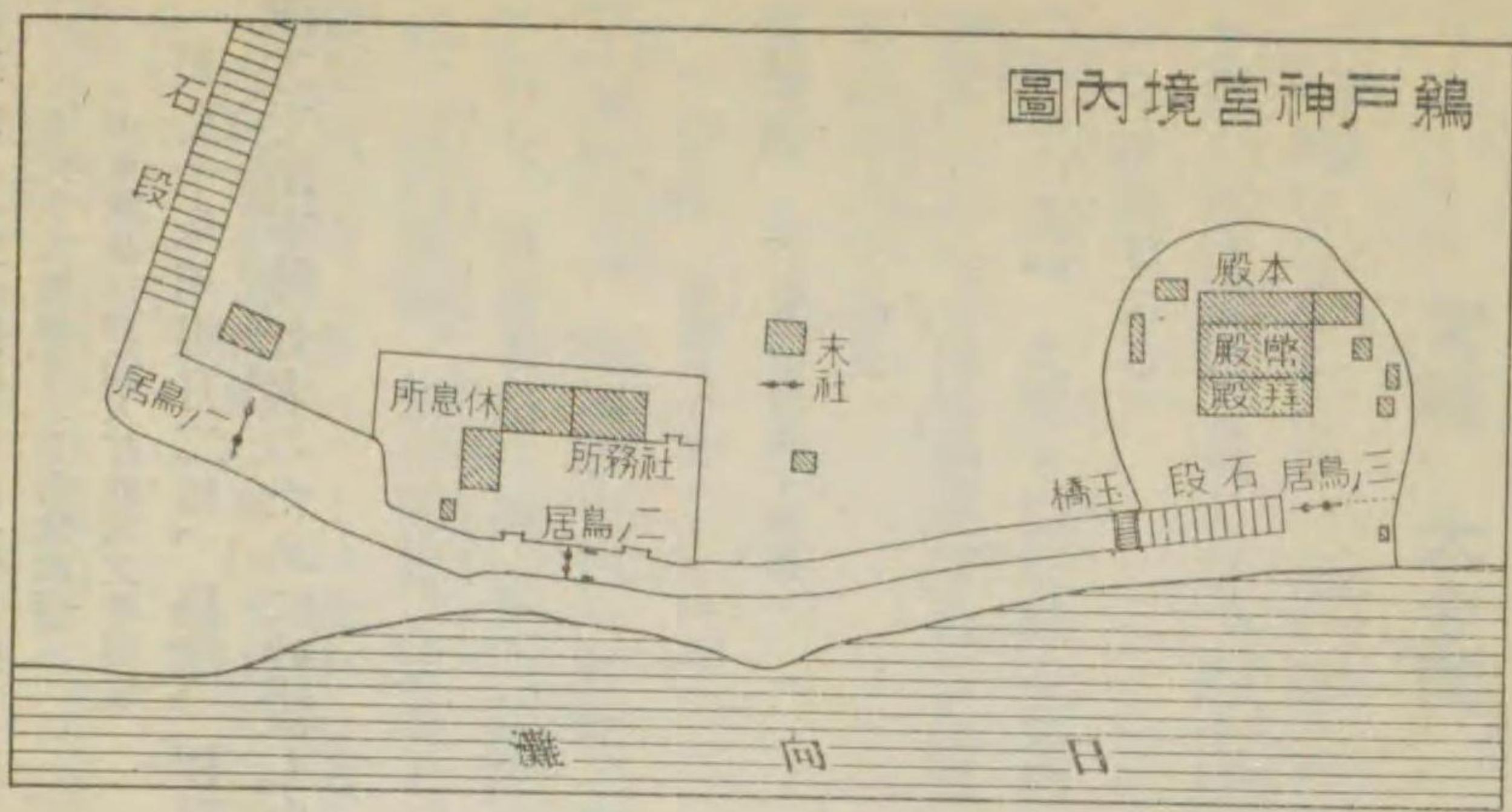
ずいも、はまなたまめ、もくたちばな、ひぎり、はまひさかき、しやりんばい、はまひば、やなぎいちご、むさしあぶみ、はまおもと、まるばぐみ、だんちく、いはだいげき、はかまかづら、おほたにわたり、たいわんさんきらい、きんぎんなすび等で、殊にびらうは盛に繁殖して、全島植物の九割を占めて居る。

【鶴戸神宮】〔官幣大社〕（一六圖あり）宮崎驛の南方約四八軒、南那珂郡鶴戸村宮浦にあり、海岸景勝の地を通ずる自動車の便がある。

本宮の社地は速日峯の山麓幽邃の地を占め、社殿はその東麓の巨大な岩窟内にありて、彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊を祀る。社前は渺茫たる滄海に臨み所謂奇巖怪石聳立し、晝夜怒濤巖を拍ち壯觀を極めて居る。山上は祭神の御陵墓參考地で宮内省の管轄に屬して居る。

本宮の創建は遠く崇神天皇の御代にありと傳へ、永祿年間には領主伊東義祐によつて再建された。その後社殿は屢々武家によつて造替され、鶴戸權現と稱して居たが、明治七年鶴戸神宮と改稱された。現今の社殿は

圖内境宮神戶鶴



明治年間の造營にかゝり拜殿、幣殿、本殿を具備し、何れも朱塗の建築にして華麗な彩色が施されて居る。

例祭 二月一日
 【梅ヶ濱】鶴戸神宮の西南約一〇軒、油津町の海岸にあり。翠松皎沙相連り、奇巖怪礁渚際に立ちて、白波奔騰雪山を崩し、龍洞、橋架巖、雀八重、かう礁

巖、石門、鬼窟等の勝景がある。右方は一望無涯、左方は鶴戸の岬より風田一帶の松林に至る長汀曲浦を望み、風趣頗る秀麗である。夏期は海水浴が行はれる。

【飢肥城址】油津から飢肥に至る宮崎縣營鐵道飢肥驛の西約一軒、南那珂郡飢肥町にある。山に倚り酒谷川に臨み、石壘、濠址等存し、小學校、女學校等がある。天正以來伊東氏この地を領有し維新に至つたが、城池は明治四年廢毀せられた。同地の女子小學校内に藩校振徳堂の遺構が存する。

【中の尾供養碑】〔指定史蹟〕同飢肥驛の東二軒半、南那珂郡東郷村殿所城ヶ平にある。中ノ尾古城址の丘陵の頂上に近い林叢の傍に建つて居る。舟形光背形で高さ約四尺、中央に地藏菩薩立像を半肉彫し、表面の左右兩側に左の銘文がある。

造作五逆罪 當念地藏尊
 遊戯諸地獄 大悲代受苦

天文己酉十八年十一月十六日
 本願朝暹一結衆敬白

鹿兒島宮崎間

また、左右兩側には左の銘文がある。

天文十八年卯月二日當陣攻落
山東軍兵三百餘人打死爲之尊容也

天文十八年四月二日、島津、伊東兩軍合戦の後、島津方で敵軍戦死者のために建設した供養碑である。

於是、海の神の御女豊玉毘賣命……産みまきむとする時に、その日子に自言したまはく、凡て他國の人は、産時に臨れば、本國の形になりてなも産生なる。故、妾も、今本の身になりて産みなんとす、妾を勿見たまひそとまをしまひき。於是、その言を奇しと思して、その方に産みたまふを竊伺みたまへば、八尋鯨に化りて旬旬委蛇ひき。即、見驚き畏みて遁退きたまひき。爾に豊玉毘賣命、その伺見たまひし事を知して、心耻しと以爲して、その御子を生置きて、妾、恒は海道を通して往來はむとこそ欲ひしを、あが形を伺見たまひしが甚作しき事と白して、即ち、海阪を塞きて返りましき。

(古事記)

宮崎 大分間

宮崎から北に向ひ、花ヶ島二軒五、次郎ヶ別府六軒五を過ぐれば廣瀬四軒二で、佐土原を経て妻に至る妻線の分岐點である。

【住吉の濱】次郎ヶ別府驛の東約二軒、宮崎郡住吉村鹽路にある。住吉神社附近の海濱で、日向灘に臨み風光が雄大である。

廣瀬驛 宮崎郡廣瀬村下田島

▽妻線 廣瀬杉安間 一九軒三

【久峰觀音】廣瀬驛の西一軒餘、宮崎郡廣瀬村の丘上にある。敏達天皇の御世に日羅が建立したと傳へられ、境内幽靜、眺望秀絶、宮崎七堂伽藍の一として、賽詣者が常に多い。この地方に産する久峰鶉は古簡素朴な玩具で、口碑によれば神武天皇御幼時に愛玩遊ばされたと云ふ。

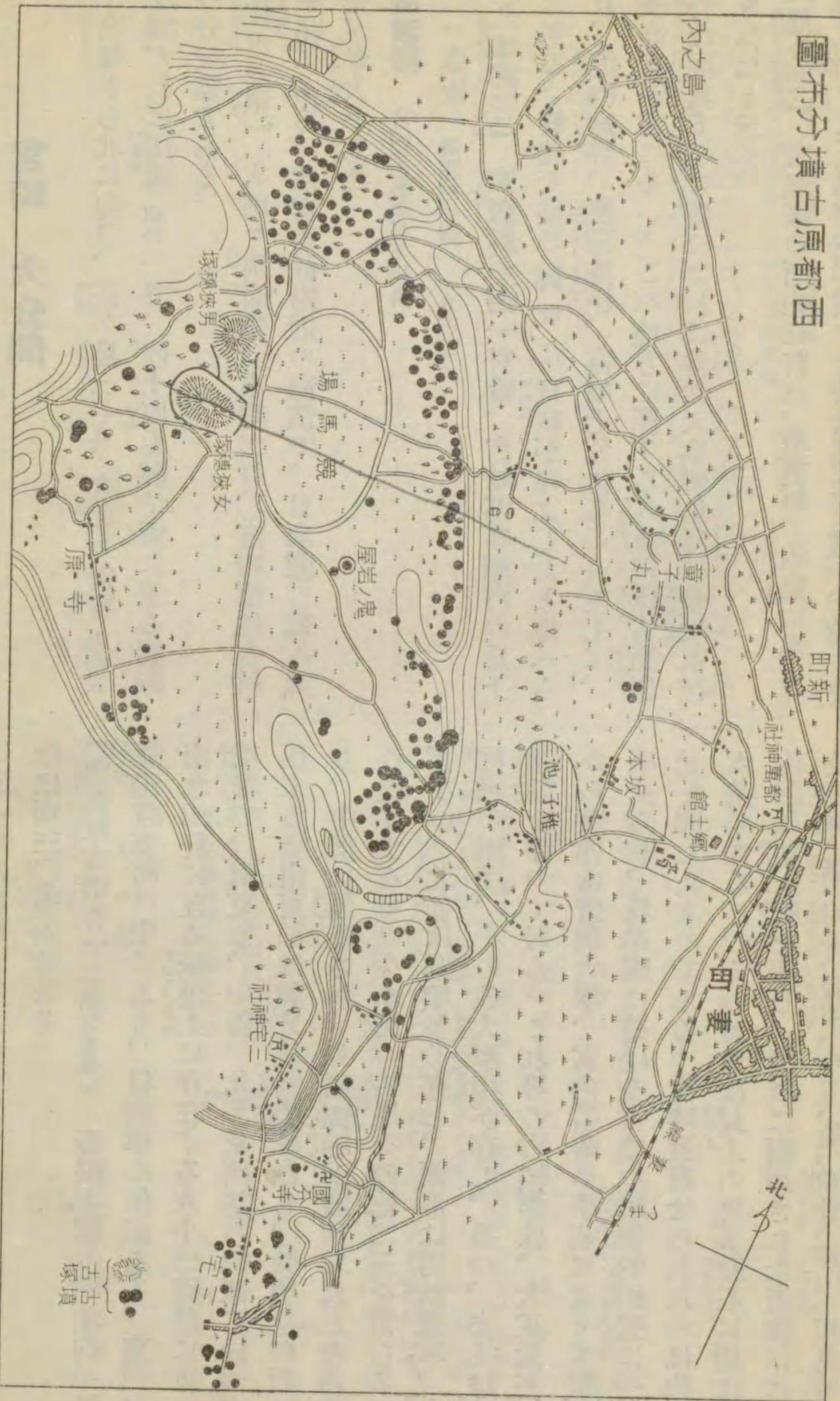
【節分櫻】廣瀬驛の西約三軒三、廣瀬村下田島にある。毎年節分には必ず花が咲くので名高い。數十年前まで

宮崎大分間

は徑一米八を超える大木であつたが、伐採されたため、今は周三〇厘許である。

【西都原古墳群】〔指定史蹟〕妻線妻驛の西北約一軒、兒湯郡妻町三宅にあり、自動車の便がある。東西二軒南北四軒に互る臺地上に存在する大小三百基に近い古墳群で、南東部、中部、北部及西部の四區に分つ事が出来る。南東部は前方後圓墳點在し、圓墳その間にあり、中部は開墾され、且競馬場が設けられたため古墳の現存するもの少く鬼の岩屋その他二三を留むるに過ぎない。北部は圓墳多く存し、西部は男狹穗塚、女狹穗塚の兩墳、その他大形墳が存し、且つ、多くは墳輪圓筒を伴つて居る。これ等の古墳群は、大正元年の頃から東西兩帝國大學、宮内省等の學者によりて發掘調査せられ、我が國に於ける古墳の學術的研究に一新紀元を劃したものである。當時發掘せられたのは約二十六基であるが、その多數は封土の外部葺石に覆はれて内部に粘土槨を藏し、遺骸に副葬された遺物には、刀及劍身、鏃、勾玉、管玉、小玉、鏡、齋瓮、鐵甲、馬具等があ

四 都原古墳分佈圖



つた。古墳の總數は男狹穗、女狹穗兩墳を除きて二百八十二基を算へ、圓墳は二百五十一基、前方後圓墳は二十一基、柄鏡型と呼ばれる前方部長く幅同一にして柄鏡の如き形狀を呈するもの八基、方形墳二基がある。今著しいものを説明すれば左の通りである。

男狹穗塚及女狹穗塚 瓊々杵尊及妃木花開耶姫の御陵と傳へ、共に御陵墓參考地である。男狹穗塚は圓墳と柄鏡墳との折衷形にして全長約二〇米、圓丘の高さ約二〇米、徑約二〇米あり、女狹穗塚は前方後圓墳で全長約一七米、二墳相接して築造せられるが、男狹穗塚の前方部の一部は女狹穗塚の中央隘部の邊に密接して築造せられて居る。前方部破壊せられ、後圓部には土壘及内外二重の濠が遺つて居る。女狹穗塚には幅廣き濠が環つて居る。

男狹穗塚の角にある二個の圓墳は會て百十號、百十一號塚と稱せられたもので、前者(飯盛塚)からは銅劍の外玉蟲の翅を置いた鏡及埴輪の船が発見され、後者からは鐵短甲及頸鐙が出土した。また女狹穗塚の角

なる方形墳は埴輪圓筒が正方形に二重に配列せられて発見せられたので知られる。

鬼の岩屋古墳 圓形墳で段を有し兜形をなし、横穴式石室が開口して、古墳群中にありて異彩を放つて居る。羨道長さ六米餘で幅約一米半、玄室長さ五米に近く、高幅共二米半、大なる割石で以て構築されて居るが、墳丘の周圍に高三米に近い土壘が環狀に繞つて居るのは、全國的にも類例が乏しい。

古墳群巡覽のために、妻驛から廻覽自動車の便もある。縣社都萬神社前を過ぎ、御舟塚、逢初川、八尋殿址、無戸室址、兒湯池等の神代傳説地を左右に見て、高取皇居址を経て、男狹穗、女狹穗兩塚に參拜し、鬼の岩屋に立寄り、王朝時代の古印「兒湯郡印」を所藏する河野家を右手に見て稚兒池畔を過ぎ、妻町郷土館を觀覽して驛に歸着する。妻町郷土館は舊史蹟研究所の建物で、古墳群から發掘の遺物及この地方發見にかかる石器時代遺物並に國分寺瓦等を陳列して居る。

【日向國分寺址】 同妻驛の西南一軒、三宅神社の東南、

妻町三宅の臺地で國分と呼ぶ地に金堂址及講堂址と推せられる土壇址が遺存し、礎石も殘存するが、奈良時代及それ以後の古瓦を出土して居る。附近の小堂内には寛政中木喰上人が巡錫の際この寺を再興して自ら刻んだと云ふ五智如來像を安置する。尼寺址は妻中學校敷地となりて、遺址は失はれた。また國分寺址から南半軒、三宅の大王馬場と呼ばれる畑地は國府址と傳へ布目瓦の出土がある。國府址から更に南に印鑰神社がある。

【都萬神社】〔縣社〕同妻驛の北約一軒、妻町妻にある。木花開耶姫命を祀り、式内四座の一で、巨樹鬱蒼、前面の小流は所謂櫻川の遺水である。

【千畑古墳】〔指定史蹟〕同妻驛の北約四軒、上穂北村穂北櫻田にある。西都原古墳群臺地の北方に當る一ツ瀬川の左岸なる丘陵を利用して築造した圓形墳で、直徑約二七米、石室は玄室及羨道から成り、日向に於けるこの種古墳の代表的なものの一である。

【新田原古墳群】西都原古墳群の東南三軒、新田村祇

木である。

【高城城址】高鍋驛の西北約二軒、兒湯郡木城村にあり、自動車の便がある。西南に小丸川を帯び、三面は崖壁をなし、西北は原野に連なり、空濠の址がある。天正五年以來島津氏の部將山田信介有信守將としてこの城に在り、同六年大友宗麟の來攻に際しよくこれを保ち、島津義久自ら後詰をなすに及んで大友軍遂に退却した。同十五年豊臣秀吉の九州征伐に、羽柴秀長の軍大舉して來攻したが、有信寡兵を以て能く防守し島津本軍が秀長に降るに及び始めて城を開いたと云ふ。

【宗麟原供養碑】〔指定史蹟〕川南驛の西約八軒、兒湯郡川南村川南湯迫の臺地の南端で宗麟原と呼ばれる原野中に建つて居る。カンカン佛と呼ばれ總高約九尺に近く六地藏燈籠形で南面する。方形の竿石の正面及三面に左の銘文が刻される。

于時天正十三年乙酉二月彼岸日
謹奉訓誦大乘妙典一千部爲戰亡各靈
大施主源有信山田新介
本來無東西 何處有南北

園原、曲り久保、東俣、古開等に互りて存する群集古墳で、彌五郎塚、百足虫塚と稱する前方後圓墳、霧島塚と稱する圓墳等あり、東俣から出た埴輪土偶は宮崎神宮徴古館に出陳さる。元牧神にある石舟塚と稱せられる前方後圓墳には、大なる彫拔石棺が存在する。尙この古墳群の一から埴製猪の頭部が発見されたことがある。

本線に戻つて廣瀬から北に向ひ三納代六軒七を通れば右窓日向灘の蒼波を望みつゝ杉林の中を北走して高鍋六軒四、川南八軒、都農六軒九、美々津九軒、岩脇六軒六を過ぎて富高六軒四に至る。富高からは細島まで三軒五の小支線が岐れる。門川六軒七、土々呂四軒三、南延岡六軒一を通り、五箇瀬川を渡れば延岡三軒四に著く。【座論梅】三納代驛の西方約六軒、兒湯郡新田村字湯ノ宮にある。幹枝四方に蟠屈起伏し、地を覆ふこと約一〇アール、その始まる所と終るところを知らぬ古梅である。月知梅と共に、宮崎縣に於ける梅の名

迷故三界域 悟故十方空
諸行無常 是生滅法 生滅々已 寂滅爲樂

六角火袋形の塔身各面には地藏尊像が浮彫されて居る。天正六年、島津義久、大友宗麟の大軍をこの地に邀撃ちてこれを敗り、敵味方共に戦死者多數あつたが、同十三年島津氏の部將で高城々主たりし山田信介有信が大乗妙典一千部を奉誦し建立したのがこの碑で、武士道仁慈の至情を表はしたものである。

【西別府古墳群】宗麟原供養碑に到る途中、川南村西別府と呼ばれる原野にある。破壊されたものも多いが、現存約二十基に近い古墳群あり、大塚或は御塚と稱せられる前方後圓墳は埴址殘存し葺石あり、形態完存し、規模は西都原の男狹穂、女狹穂兩塚に次いで雄大である。

【都農神社】〔國幣小社〕都農驛の西北二軒半、兒湯郡都農町にある。大己貴命を祭り、延喜式内の神社で、中古日向の一宮であつた。神武天皇御東遷の砌、宮崎宮を發向してこの地をよぎり給うた折、賊徒征伐を祈

願して祀り給うた神社である。明治四年國幣小社に加列した。今の社殿は安政年間の建築である。五穀豊穰害蟲祓除等に靈驗あらたかなため、農家の參拜者が多い。境内老樹鬱蒼として居る。拜殿の前に玉垣を繞らして楠及杉の老樹あるが、地上三米の所で杉の幹内に楠枝根をおろし兩樹互に枝を交へ、古來神木として崇敬されて居る。例祭十一月五日。

末社瀧神社は本社より一籽半、自動車の便がある。境内老樹多く岩壁に瀑がかゝり、前面に都農、川南の平野及海洋を望みて眺望が宜い。

【美々津町】(一五圖か4) 美々津驛所在地。美美津川に跨り海に沿ふ。神武天皇御東征の御發船地はこの地であると傳へられ、耳川畔立磐神社境内の御腰掛岩を始め、たぶとき峠、立縫の里などの古傳説地が多い。耳川の河畔は天正年間大友、島津兩雄の古戰場である。

【富高町】 細島線分岐點。汐見川の下流地方に位し、近時海軍の飛行場が設置され、年と共に發展の傾向がある。海岸の伊勢ヶ濱公園は白砂青松、夏期海水浴がある。

ろは鬱葱たる樹林に蔽はれ、東外洋に面するところは石英粗面岩の柱狀節理縦に排列して、高さ約五〇米の斷崖を成し、崖下に著しい隆起海岸がある。島上に椎、樟、松等の美林繁茂し、中に蒲葵等の暖地性植物を生ずる。外洋に面して南側に四箇、東側に三箇、北側に一箇の洞窟存し、龍宮硯最も著はれ、各洞窟と共に柱狀節理の景觀に富んで居る。

南延岡驛 延岡市恒富濱
▽乗合自動車 延岡町(新市街)行

延岡驛 延岡市岡富東高畑

▽日ノ影線 延岡日向岡元間 一籽六

▽乗合自動車 高千穂行

驛一日平均			
乗車人員	五〇七人	降車人員	五一五人
發送貨物噸數	三五噸	到着貨物噸數	二二二噸
主要發送貨物	木炭、鐵		
主要到着貨物	米、セメント、石炭、鐵及鋼製品		

【延岡市】(一五圖か3) 南延岡、延岡兩驛所在地。舟楫の便ある五箇瀨川の下流地方に開けて居る平地に位

宮崎大分間

行はれる。東隣の細島は宮崎縣北部唯一の良港で、鹿兒島、土佐及大阪への汽船發着地である。人口一萬二千。基石の製造がある。

【妙國寺庭園】(指定史蹟) 細島線細島驛の東半籽、細島町觀音寺の上にある。本堂南側に構築され、東南方は山を負ひ南方に小溪を控へ、庭の東部斜面に露出して居る花崗岩の岩盤を加工して數個の階段を作り、水を引いてその上を流れしめ、岩盤に接して小池を設け、庭中島あり、木橋を架し、處々に庭石を配して居る。庭の東から南に亘つて居る丘陵には椎の老樹繁茂し、赤松の巨樹を交へ、また西南に溪谷、後方に丘阜を望み、山景を取入れ、岩盤を利用し、小規模であるが特殊の想構に屬する。築造の年月は明でないが、恐らく寶曆年間本堂建設の際で、明治年間に修理を経たがよく舊態を保存して居る。東隣の觀音寺から見た細島灣の景觀がよい。

【乙島】 門川驛の沖合約一籽半、門川村門川尾末の海中にある。海拔七九米の小島で、西本陸に面するところ

し、東西一二籽に近く、南北略これに等しく、面積約四四方籽、日向灘に於ける海岸線約六籽六である。この地はもと土持氏の領有で永仁五年土持國綱、恒富の地に井上城を築き、永享元年土持全宣南方の地に西階城を、次いで文安元年土持宣綱南方松山に松尾城を築いたが、天正六年土持氏大友宗麟のために滅され、その後高橋元種豊前から來りて今の延岡城址の地に築き、有馬、三浦、牧野、内藤の諸城主の城下町として發達した。日豊本線の開通以後、日本窒素肥料會社、旭ベンベルグ絹絲會社の工場設置されてから戸口頓に増加し、昭和五年岡富、恒富の二村を編入し、昭和八年の紀元節を以て市に列した。昭和七年の生産總額約七百四十萬圓、その八割以上は化學工業品が占める。人口四萬。

▽官公廳その他 市役所(延岡本小路)、地方裁判所支部(同)、區裁判所(同)、稅務署(同)、營林署(岡富北高畑)
▽銀行 行 第四百七十七銀行支店(中町)、大分合同銀行支店(南町)、日向興業銀行支店(北町)
▽會社工場 日州製氷會社(濱御殿町)、延岡蠶絲會社(本小

宮崎大分間

路町)、延岡電気會社(同)、日豊水電會社(瀬之口町)、延岡酒造會社(新小路)、旭ペンベルグ絹絲會社ペンベルグ工場(下出口町)、旭ペンベルグ絹絲會社レーヨン工場(中川原町)、旭ペンベルグ絹絲會社藥品工場(下出口町)、日本窒素火藥會社工場(市外東海村川島)

▽新聞社 延岡新聞社(船倉)、延岡日日新聞社(高千穂通)

▽旅館 吉野屋旅館(南町)、菊池旅館(同)、日野屋旅館(本町通)、龜城館(博勞町)、富士梅(幸通)、長崎屋旅館(南町)

▽料理店 ましや(船倉)、喜壽亭(新町)、戸高亭(新町)、泉亭(紺屋町)、一ツ屋(同)

▽娯樂場 「劇場」延岡劇場(新市街)、「映畫館」祇園館(祇園町)、有樂館(新市街)、春日館(春日町)

▽土産物 紅溪石硯、登壇、燒鮎、鮎うるか、椎茸、椎茸砂糖漬、椎茸羊羹、破れ饅頭、ハンカチーフ

【延岡城址】延岡驛の西南二軒、高橋元種の築營で、慶長八年竣成、有馬氏、牧野氏を経て、延享四年内藤政樹奥州盤城平から移封して、維新に至つた。最初縣城と稱したのを明暦年間有馬康純の時延岡城と改めたと云ひ、龜井城とも稱せられた。本丸、二の丸、三の丸址の石壘が遺存する。今、城山公園となり、山上に

は櫻樹が多く植ゑられて居る。城主の居館址であつた西の丸址には舊藩主内藤氏邸あり、その後方に縣社龜井神社がある。
【愛宕山洞窟遺跡】南延岡驛の西北一軒、市内恒富町愛宕山の北側の麓にある。小さな自然洞窟で窟前から内部に掛けて貝塚があり、多數の貝殻に混じて石器時代土器破片あり、窟底に原始的石棺五個を發掘し、同時代人骨三體を發見した。愛宕山の南麓沖田川に臨んだ低地にも貝塚あり、石庖丁、勾玉の類が繩紋土器破片と共に出土して居る。

【愛宕公園】南延岡驛の西約一軒、市内恒富町にあり自動車の便がある。海拔二五二米に及ぶ愛宕山で、大正峰頭からは西に高千穂の峡谷、東に四國の岬角を望み、宮崎縣下隨一の公園と稱される。山上の林間には御手洗水神を祀り、溪間の紅葉、山麓の櫻花時に隨つて雅趣が多い。

【長濱】南延岡驛の東南二軒、市内恒富町字長濱にあり、五箇瀬川河口の方財島から、沖田川の河口に至る役の招魂碑、夜櫻等がある。今山神社北隣には延岡大師がある。

【安賀神社】「縣社」延岡驛の西南一軒四、市内岡富古川にあり、自動車の便がある。天照大神外七神を祀り、養老年間今山新宮に勸請、寛永年間領主有馬氏今の地に奉遷した。

【南方村天下古墳】延岡驛の西約六軒、南方村天下筒井の丘上にある。前方部極めて細長く且水平で、平面恰も柄鏡の如き形式を呈した所謂柄鏡型古墳で、全長約七〇米、西面し、封土三段をなし、河石を以て葺いて居る。大正二年、後圓部の頂上から約三米の深さに砂利を以て覆はれた粘土槨あり、内部に小砂利を敷き朱に塗れたうち頭に頭部の邊から碧玉の管玉二十二、勾玉三、竹製櫛十四枚を出土し、直刀二口、劔二口が存した。この竹櫛は考古學上の貴重な遺物で今、兒湯郡妻町の郷土館に出陳せられて居る。この古墳と相對して天下上ノ原吉野神社の西にも同型の古墳あり、全長約六五米で、葺石に覆はれ、墳上に大日堂が建つて居

青松白砂の海濱で風光よく、中央部の丸ヶ島に、海童神社がある。陰曆三月十六日の祭日には汐干狩のため子女が群集する。夏季は海水浴が行はれる。
【粟島神社】南延岡驛の北一軒、市内恒富町字古城光明寺の境内にあり、自動車の便がある。市内出北字別府の虎御前祠堂と共に、安産の守神として、婦人が多く參詣する。

【出北の觀音堂】延岡驛の南約二軒、市内出北にあり、俗に監物様と呼ばれる。岩能井堰開設の功勞者である藤江監物の靈を祀つて居る。監物は牧野氏の重臣で享保年間藩主に請ひて工事を起し銳意事に當つたが、軍資金流用の嫌疑を以て獄に下り、同十六年歿した。村民小堂を建て、郡奉行江尻喜多衛門(延勝)の靈を共に併せ祀つたものである。監物は大正年間從五位を贈られた。

【今山公園】延岡驛の西約半軒、市内岡富今山にある。五箇瀬川の左岸にある連丘で、自然の風光に富み、幽邃の地である。縣社今山神社、蓬萊館、明治十年西南

宮崎大分間

る。この他、圓形墳約七基が存し、石棺を藏するものもあり、玉類、直刀、鏃等を出土したものである。南方村には天下の外に吉野、下舞野、大貫、野田、野地等に互りて約三十基の古墳を算へ、この地方に於ける一中心地をなし、大貫の淨土寺と呼ぶ地にある圓墳は横穴式石室があり、野田には剝抜石棺が存して居る。尚、大貫淨土寺には石器時代の貝塚も存在する。

【行藤山】〔指定名勝〕(一五圖か2) 延岡市の西北約一二軒、東臼杵郡南方村にあり、日ノ影線行藤驛から近い景行天皇熊襲親征の時、山容の似たるによつて行藤と名づけ給うたと云ふ。海拔三三米、砂岩及粘板岩の互層を貫通する花崗斑岩より成り、雙岳ありて東西に連り、東のを雌岳或は東岳、西のを雄岳または西岳と云ひ、絶壁相迫つて凹字形をなすから矢筈岳の稱もある。岩脈にしてかくの如く規模の大なるものはその比類がないと稱されて居る。

東西兩岳の間に於ける凹處には瀑布が懸り、布引の瀧と云ふ。高さ約二九米、幅約二〇米、水量は華嚴に

如かず、高さは那智に及ばないが、絶壁の雄大なることは遙にこの兩者を凌ぎ、壯麗偉觀を呈して居る。瀑の下には瀑壺なく、方形の巨岩千疊敷の狀を呈し、崖と僅に一米距てたる一道の岩罅に溪流の凹處を成すのみである。流の左方稍々低きところに、山脚の柱狀節理を現せる露頭があり、以下は密林に蔽はれ、杉、栂、赤松、黒松、樅などの針葉樹や潤葉樹が參錯して居る。山麓に近い行藤神社は養老年間の創建と傳へ、附近に大日寺の址、爲朝腰掛岩、秘密窟等がある。

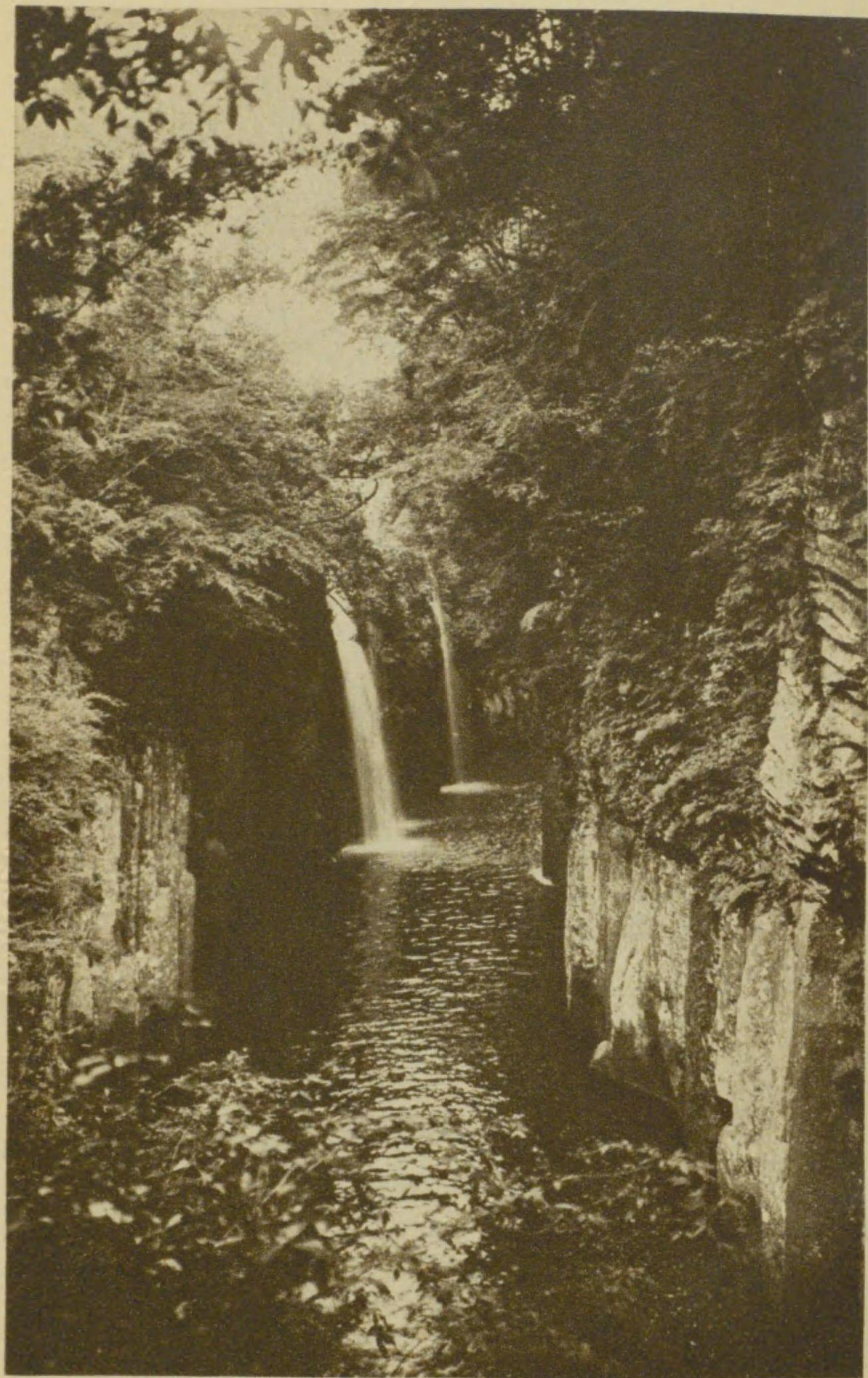
【七折鍾乳洞】〔指定天然記念物〕 延岡驛の西四三軒、七折村徳富にあり、自動車の便がある。徳富部落の南を西北から東南に走る山脈の中腹に位し、時代未詳の粘板岩、千枚岩、砂岩の累層中に挟まれる石灰岩中に開口し、本洞及支洞の二部に分れ、總延長一四〇米に及ぶ。數多の石鍾乳、石筍、石柱、石幕等の外、菊花狀をなせる方解石の針狀結晶の放射晶群を有すること、洞底に多量の粘土を堆積せることは、該洞窟の大部分が嘗て水を以て充填されたことを證するもの



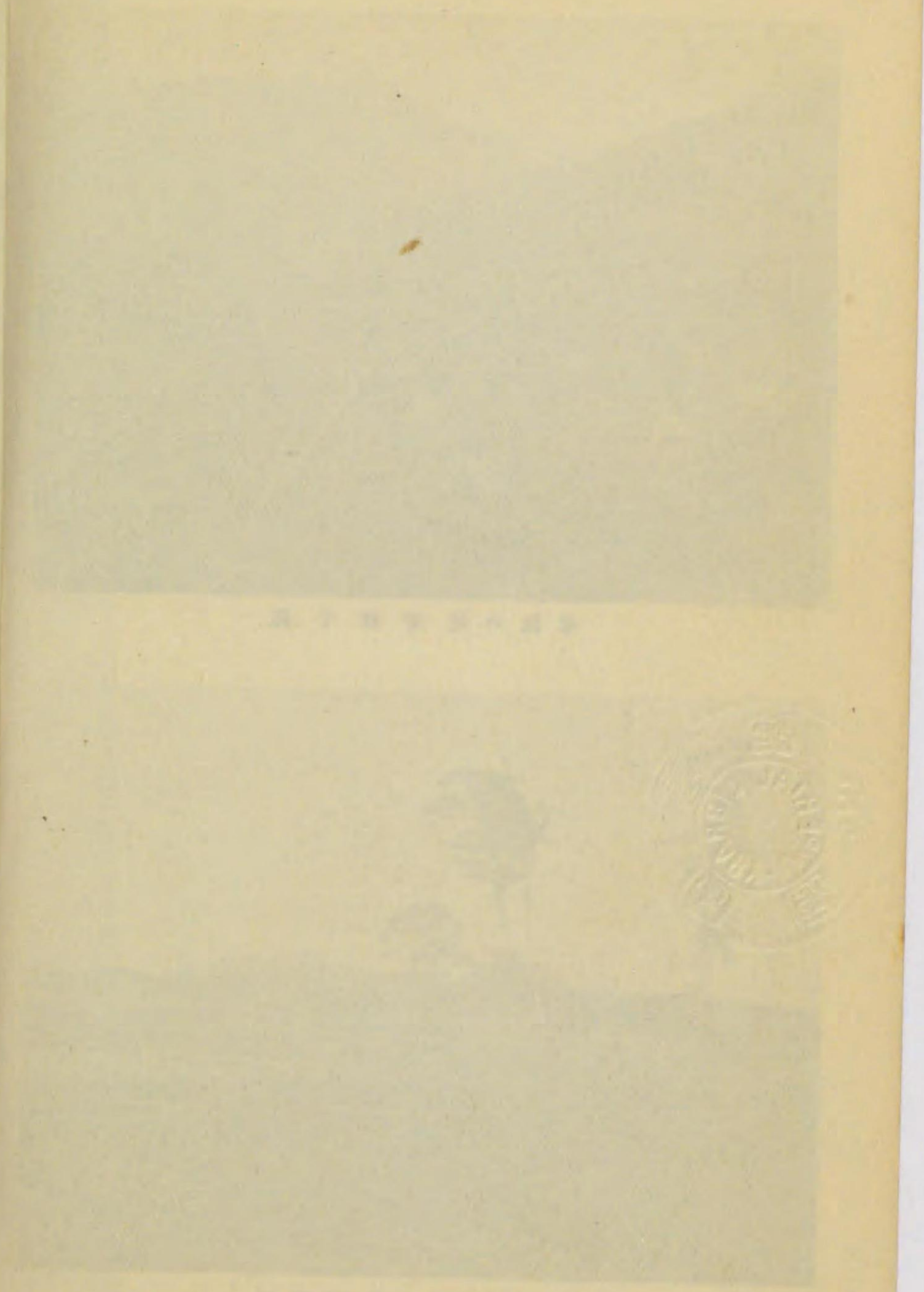
家民の近附穂千高



坑古屋岩の鬼原都西



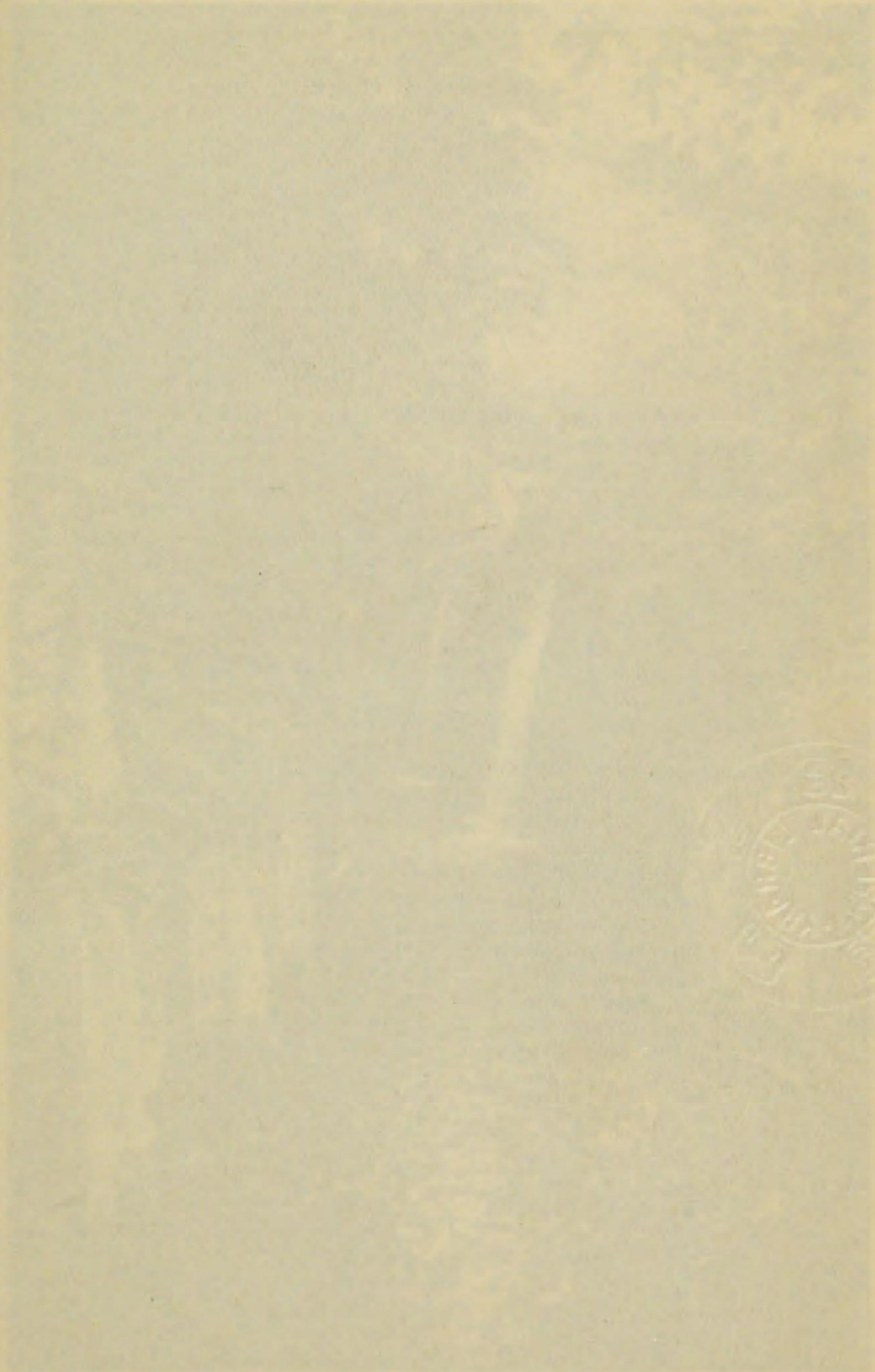
高 千 穗 峽



高 千 穗 峽



佛 石 杵 白



で、石灰洞として稀に見る現象である。

【柘の瀧鍾乳洞】〔指定天然記念物〕延岡驛の西五〇料、

高千穂町三田井の南約一〇料、高千穂町向山にある。

柘の瀧丘陵をなせる石灰岩中に存し、大小八箇を算し、小孔によつて互に相通じて居るらしい。最も大なるは最下位にある第八號窟にして、入口に近く池が湛へ、その水は洞口の下方十數米の地點から銀鏡水と名づける泉となつて湧出し、崖錐上を流れて小瀑布となる。洞内には石鍾乳、石筍、石柱等多く、嘗て洞底に堆積したる礫層が上に石筍、石柱を載せたまゝ下部を水蝕され、恰も棚を架けたやうになつて残つて居るものがある。これは地下水の流路の變遷を示せるものとして、學術上貴重資料である。

【高千穂町】（一五圖た）延岡驛の西北六〇料餘、豊肥

線支線高森驛からは東南約四三料、五箇瀨川の上流地方に位し、双方から自動車の便がある。

日向高千穂莊の中心都會でもと三田井と云ひ、峻巒層岳に繞らされた山間の町で、延岡より分岐し、日ノ

影を経てこの地に至る鐵道の開通も近い將來である。

皇孫降臨の古傳説地で、附近にはその傳説に關する史蹟が多く、また古風俗の遺存するもの多く、民家の屋根に千本を載せたのが多く見られる。人口一萬。旅館今國屋、田中屋、松島屋、大和屋。

【五箇瀨川峽谷（高千穂峽）】〔指定名勝・天然記念物〕高千

穂町三田井を中心とし、東西數里、更に岩戸の溪流を加へたる五箇瀨川の上流阿蘇熔岩の浸蝕谷で、狹義には窓の瀨以上約四料の間を稱する。三田井の町を向山街道へと進めば、忽ち壯大な谷へと這入つて行く。斷崖を蔽うて危巖舞はんとする所「く」の字曲りに崖壁の間を縫うて下れば、展開する風物は驚異の眼を瞠るのみである。壁下飛泉逆り積水池を湛へる所は忍穂井で、その漲り落つる所は眞名井の淵である。眞名井下流の深谷は向山臺地から俯瞰するか、下流岸に沿うて岸壁を見上げるにあるべく、丹崖綠壁そゝり立つ所葛蘿と綠葉とに覆はれ、下底は怪奇礁奔流に激する。眞名井から河に沿うて上れば奇巖怪石參差し、神橋附

近岩壁相逼りて急湍は雪と散り、深潭は藍と湛へる。蘭の瀨は橋上數百米の所翠松峯に高く、紅楓谷に低く、四境幽邃、更に河岸の小徑を攀づれば窓の瀨に至る。窓の瀨は今數仞の飛瀑をなすのみであるが、もと河水の岩腹を洞出して窓の間を行くに似たものであつたが、近時崩壊して奇景を失つた。しかし兩岸の風光は老樹緑を湛へて花影その間を彩り、松籟禽語太古の聲を聞き、尙勝境たるを失はない。高千穂峽觀賞の好期は新緑と紅葉の季節である。

【國見丘】高千穂町の西北にある高丘で、神橋から頂上まで四軒自動車を通ずる。西方には遙に阿蘇の噴煙を望み、東北には祖母岳を仰ぎ、東南には高千穂町、岩戸等の聚落を見、脚下に五箇瀨川の急瀨を瞰下する好箇の展望臺である。

【高千穂神社】高千穂町の西部にあり、もと十社大明神と云ひ、垂仁朝の創建と傳へ、三毛入野命外九神を祀る。神域幽邃老杉多く、中にも社側の秩父杉は高さ約四九米、目通り幹圍七米三弱に及ぶ大樹である。

【楳觸神社】〔縣社〕高千穂町楳觸峯の中腹にあり、天津日子播邇々杵命以下數神を祀る。境内幽靜老松古杉が茂つて居る。十月十六日の例祭には賑ふ。神社の西二〇〇米に天の眞名井がある。神代川の左岸の老櫟のもとにある清泉で、附近一帶の飲料水の源泉である。傳へて天孫降臨の際携へしめ給ひしものと云ひ、神水として尊ばる。

【御鹽井】忍穂井とも云ふ。高千穂神社より左折右曲して路を下ること約三〇米、斷崖空を蔽ふところに數十の飛泉がある。これが御鹽井の奇勝である。更に五箇瀨川の流に沿うて、七ツヶ池、稜威ヶ淵などの奇景がある。

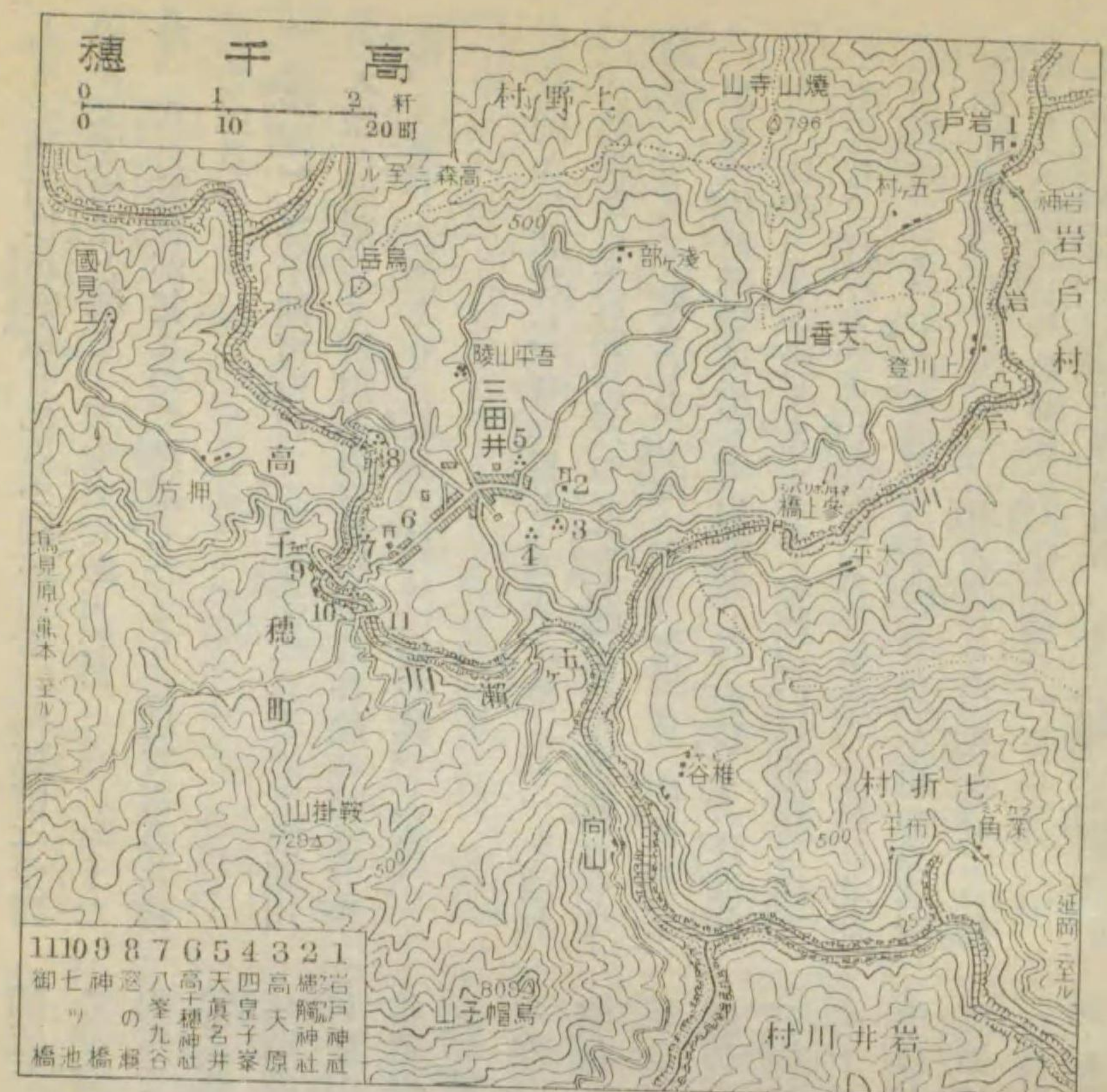
【天香久山】楳觸峯の北方に聳ゆる秀峰である。全山賢木を以て覆はれ、天上より携へ給うた眞榊をこの地に植ゑたものと傳へられる。

【高天原】高千穂町の東北數百米にある一高丘で、老杉が數株聳立して居る。皇孫こゝに宮居し、祖國の名を移して高天原と稱されたと傳へて居る。

【四皇子峰】高天原に連なる高丘で、鷓鴣草葺不合尊の御子五瀨命、稻氷命、御毛沼命、磐余彦尊四皇子の降誕地であると云ふ。

【天岩戸神社】高千穂町の東北八軒、岩戸村岩戸字阿蘇平の岩戸川の畔にあり、自動車の便がある。岩戸川の溪流を挟んで東、西兩宮があり、大日靈貴尊を祀り、西宮の拜殿から川を隔て、對岸の東宮即ち天岩戸の岩壁を拜する。

【仰慕ヶ窟】同岩戸村岩戸にあり、襤褸ヶ窟とも云ふ。五箇瀨川の一支流岩戸川の右岸に位し、同川の浸蝕作用と落磐作用によつて阿蘇熔岩地に生じた洞窟にして、入口の幅約三五米、奥行約二五米、高さは約一三米、奥に進むに従ひ次第に低下する。天井は岩石が柱狀節理を呈せる結果、龜甲形の割目を現はして居る。洞底は入口に近い部分に大小の岩塊が狼藉として横はつて居るが、内部は平坦で



ある。洞内に思兼命を祀る小祠がある。洞窟附近の河岸を天安河原と稱し、天照皇大師天岩戸に隠れ給うた時、八百萬神が集まつて神議したまうた地であると傳へて居る。

【蘇陽溪】 高千穂町の西、三ヶ所村にある。五箇瀬川の本流と支流三ヶ所川との會點以下八軒餘の間で、飛瀑、急湍、深淵あり、紅葉の秋は一段の眺である。

延岡から北走し、日向長井九軒五、市棚八軒二を通れば宮崎縣から大分縣に入つて宗太郎七軒五、重岡六軒八、神原一〇軒六、直見四軒八、上岡六軒四、を過ぎ、佐伯四軒六に至る。佐伯灣岸に沿うて尙北進し、海崎三軒、淺海井六軒六、日代三軒八、淺久見五軒五、を經、白杵灣岸に出で、西折し、白杵九軒七、上白杵一軒六、を通つて再び北進し、熊崎二軒九、下之江三軒六、幸崎九軒三、を通つて別府灣岸に出で、西に折れて、坂ノ市四軒四、大在三軒一、鶴崎三軒二、高城三軒を過ぎ、大分五軒一に著く。

國道から約半軒西に入つた所にあり、自動車の便がある。圓形封土をなし、瓊々杵尊の御陵墓參考地で、宮内省で管理して居る。

【可愛岳古戰場】 (二五圖か2) 日向長井驛の西南二軒、延岡驛の北約八軒、共に自動車の便がある。國道から可愛山陵に到る道傍に内藤政學の書にかゝる「明治十年激戦地」の碑が建つて居る。これより更に西に聳える可愛岳(海拔七六米)の山頂に掛けた一帯は西南役の際の古戰場である。明治十年八月、西郷隆盛肥後に敗れて延岡に入り、次いで長井に到つたが、官軍の追撃で、同月十七日夜半隆盛諸隊を率ゐて出發し、可愛岳の峭壁を攀ぢ激戦數合、遂に官軍の重圍を破りて三田井に奔り、推葉山中を經て鹿兒島に遁れた。隆盛が十五日より十七日夜半まで宿泊した兒玉熊四郎の故宅は、記念碑の傍に舊態を存し、茅葺平屋建の農家で、砲彈破片、愛用の硯、枕等を藏して居る。尙、こゝから三〇〇米を隔てた所にある桐野利秋の泊したと云ふ家には、利秋の佩刀がある。

【古江の金木犀】

〔指定天然記念物〕

市棚驛の東南約二

四軒、北浦村古江にあり、延岡の東北東海より汽船の便がある。海岸に於ける平坦地河野氏の宅地内にあり、目通周圍約一米六、高さ約一八米、發育尙旺盛、開花の候には芳香馥郁として附近數里に薫ると云ふ。

【高島の蒲葵自生地】

〔指定天然記念物〕

同北浦村宮の浦

から東約半軒にあり、周圍約四軒、高さ五〇米、全島雜樹鬱蒼として繁り、蒲葵その間に點在し、高さ四米以下の稚樹百數十株を數へる。本島の蒲葵は自生北限地帯として學術上有益なものである。

【小半鍾乳洞】

〔指定天然記念物〕

直見驛の西八軒、南海

部郡中野村小半にある。番匠川の上流因尾川の北岸に開口し、延長四六米、舊洞と新洞があつて洞内で通じ、鍾乳石、石筍の發達著しく殊に變化に富んで居り、舊洞に三十三景、新洞に十七景の奇勝がある。見物するには見料を拂つて新洞から入つてこゝに歸るが便利で、一時間半位を要する。

十七景は不老門、奥の細道、蓮華座、葡萄園、下り

藤、渡殿、舞殿、獅子、駒狗、垂乳根、天の岩戸、底

なし淵、源平の石、月宮殿、長生門、布引の瀧、玉の宮居、羊の岩を云ひ、三十三景は鐘鼓洞、入勝門、二見の關、龍頸の嶮、雲の峰、宮殿、羅漢堂、垂水の窟、龍宮、地獄谷、雌淵、雄淵、奥の院、音樂堂、狼谷、迷の門、入樂門、太鼓石、松竹岩、隠れ淵、五條の橋、天使の舞、七福岩、天の川、原人の館、龍宮の鐘、富士の下界、天の逆鋒、迷宮の淵、天の浮橋、千里ヶ濱、夫婦橋、發見當時の舊門を云ふ。

【佐伯町】

(一二圖か7)

佐伯驛所在地。番匠川に沿ひ

佐伯灣に臨み、東西約三軒三、南北約二軒八、面積は凡そ三一方軒ある。毛利氏の舊城下で、商港として年額三百萬圓以上の貨物を移出し、海軍の航空隊所在地である。舊城址は眺望がよく、城山公園と名づけられ、天主臺址に毛利神社がある。養賢寺は毛利氏の菩提寺である。

【狩生鍾乳洞】

〔指定天然記念物〕

淺海井驛の西南約四

軒、西上浦村狩生狸穴にある。古生層の石灰岩中に

生じたる石灰洞にして、洞の形は東北より西南に走る二條の斷層とこれに直交して西北より東南に走る五條の斷層に沿うて流れた地下水の作用によつて生じたことを示して居る。山の中腹と頂上に開口し、一方より入つて他方に出るを得。本洞は昭和七年の發見にかゝり、洞内沈澱物は尙よく保存され、發見當時洞窟の最低部より、狼族の完全な遺骨を採集した、獸骨を石灰洞中より發見することは本邦稀である。

【大友宗麟墓】津久見驛の南一軒半、津久見町中田區字身折にある。密柑畑の中に目立つて茂る杉森の中に位し、端峰院大友宗麟大居士と讀まれる。

【津久見の蜜柑】津久見驛附近は到るところ蜜柑の栽培が行はれ、汽車の窓から見られる。

白杵驛 大分縣北海部郡白杵町

▽乗合自動車 三重町行(省營自動車白三線)

【白杵町】(二圖さ6) 白杵驛所在地。豊後水道の一灣白杵灣に沿ひ、東西約一四軒、南北約六軒、面積は四三方軒である。鐵製品、醬油、清酒等を産し、白杵公

園には春季櫻雲が棚引く、人口二萬一千。

【白杵深田の石佛】〔指定史蹟〕 上白杵驛の西南約六軒、白杵町大字深田にあり、附近まで自動車の便がある。

豊後國は磨崖佛即ち自然の岩石に彫り出した佛像の多く存するを以て名高いが、この地に遺存する磨崖佛は數量に於ても、美術的價値に於てもその首位を占むるもので、數十の石佛が溪谷の平地を圍める丘陵の懸崖に羅列遺存し、その主要石佛群は大日山と堂ヶ迫の山腹に遺存して居る。この外大日山と相對する丘陵の麓に仁王像、眞野長者夫妻像、蓮城法師像及寶篋印塔がある。

大日山十三佛群像 日吉神社に登る高い石階の中段から左手に折れて進むと、山腹に露出した二十有餘尺の凝灰岩の壁面に大日如來の巨像を中心として佛菩薩や天部の像が刻出されて居る。何れも破損甚しく頗る慘澹たる光景を呈して居る。殊に中尊はその破損最も甚しいが、殘存せる輪廓によると高さ一丈にも及び、顔面部の長さは二尺二寸に達せる巨像で、その手法雄

